

# 大館市 地域公共交通網形成計画

平成30(2018)年3月  
大館市

## - 目 次 -

1	計画の概要	3
(1)	計画の背景と目的	4
(2)	地域公共交通網の定義	5
(3)	地域公共交通網の構成要素	5
(4)	計画の位置づけ	6
(5)	計画の区域	7
(6)	計画の期間	7
2	上位・関連計画の整理	9
(1)	各計画の概要	10
(2)	上位計画	11
(3)	関連計画	12
3	地域の現状等	17
(1)	地勢・歴史	18
(2)	人口	19
(3)	主要な施設立地状況	27
4	公共交通を取り巻く現状と課題	29
(1)	公共交通の現状	30
(2)	利用者実態と住民意向	47
(3)	大館市の地域公共交通を取り巻く課題	71
5	計画の基本方針及び目標	77
(1)	基本的な方針	78
(2)	前計画の目標達成状況	80
(3)	計画の目標	82
(4)	目標の達成度を評価する指標	83
6	目標達成に向けた施策の展開	89
(1)	施策体系	90
(2)	施策・事業	91
(3)	計画の進め方	98
	参考資料	101
(1)	法定協議会の構成員・開催状況	102
(2)	アンケート調査結果の詳細	104
(3)	公共交通不便地域実証実験の詳細	157
(4)	用語集	185

# 1

## 計画の概要

# 1

## 計画の概要

---

### (1) 計画の背景と目的

---

大館市では、平成 26（2014）年に望ましい公共交通のあり方や取り組み方針を示した「地域公共交通総合連携計画」を策定し、地域の実態に適した利用しやすい公共交通体系への再編、持続可能な公共交通の運営と仕組みづくりに向けて取り組んでまいりました。

その後、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が改正され、新たに「まちづくりとの連携」や「地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワーク再構築」、「計画達成状況の評価事項」を盛り込むこととした「地域公共交通網形成計画」が位置づけられたため、上記計画についても見直しを行う必要が出てきました。

また、大館市では、地方創生推進とまちの賑いを持続可能なものとするため、平成 29（2017）年度より「都市計画マスタープラン」の見直しと、「立地適正化計画」の策定に着手しております。

この計画は、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方で進める取り組みですが、この「ネットワーク」に当たるのが「公共交通」であり、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの構築が重要な柱となります。

以上のような背景から、市が目指す将来都市像を実現する上で地域公共交通の果たすべき役割を明らかにするとともに、持続可能な公共交通網のすがたを実現するため、そのビジョン、目標及び施策体系を示す「交通マスタープラン」として、「地域公共交通網形成計画」を策定します。

## (2) 地域公共交通網の定義

地域公共交通網を形成するとは、鉄道やバスなどの公共交通機関の個別の存在、ある拠点間が連絡された状態から、公共交通機関相互が連続して機能し、大館市（地域）が面的に、かつ機能的・効率的に結ばれたネットワークを整備し、その状態を維持していくことを意味します。

## (3) 地域公共交通網の構成要素

地域公共交通網の構成要素となる地域公共交通は、以下のとおりとします。

### ①鉄道（JR 奥羽本線・JR 花輪線）

鉄道は、市内の移動のみならず他都市との広域移動を担う公共交通機関であり、大量の移動需要にも対応できるものです。公共交通網の中では、基幹的な役割を果たします。

### ②バス

バスは、大館市内および周辺市町村との間の移動、各地域・地区内の移動まで幅広い需要に対応します。民間交通事業者（現在は秋北バス株式会社）が運行する路線バスのほか、盛岡や仙台などと結ぶ高速バスといった都市間交通も含まれます。

### ③タクシー

タクシーは、鉄道やバスの利用が困難な地域や少量で多様な移動需要に対し、よりきめ細かいサービスを提供する公共交通機関です。公共交通網全体の需要やニーズの隙間を補完する役割を果たします。

### ④その他（スクールバス・病院送迎バス・NPO法人等）

スクールバス、及び病院送迎バスは、市が運行し、鉄道やバスの利用が困難な地域において、通学・通院の移動手段を確保しています。

また、民間交通事業者（バス事業者やタクシー事業者）ではまかなうことが難しい地域住民の少量の移動需要や特定の利用者の移動需要への対応として、地域住民組織やNPO法人（非営利活動法人）等の運営主体が想定されます。

#### (4) 計画の位置づけ

本計画は、平成 26（2014）年 11 月に改正された地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に則した計画として、上位計画・関連計画である「第 2 次新大館市総合計画」や「大館市都市計画マスタープラン（見直し中）」、「大館市人口ビジョン・総合戦略」、「大館市立地適正化計画（策定中）」などとの整合を図り、それらの計画で定める将来都市像の実現に向けて、地域公共交通のマスタープランとしての位置づけとなります。

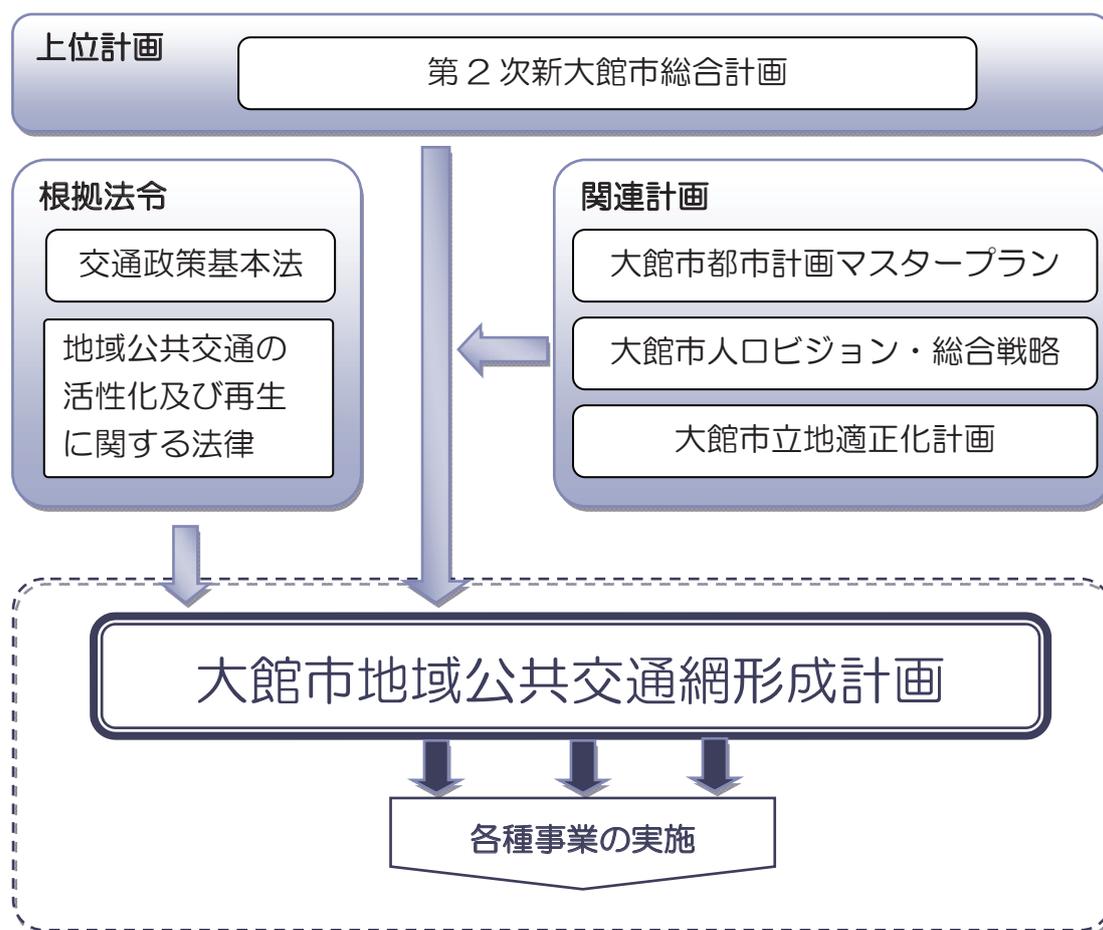


図 本計画の位置づけ

---

## (5) 計画の区域

---

本計画の区域は、大館市全域とします。

---

## (6) 計画の期間

---

市では、平成 29（2017）年度より「都市計画マスタープラン」の見直しと、「立地適正化計画」の策定に着手しており、各計画と連携した公共交通ネットワークの構築が重要な柱となっています。

「都市計画マスタープラン」と「立地適正化計画」の目標年次は、おおむね 20 年後であるため、本計画においては、両計画に合わせ、おおむね 10 年後に見直しを行うことを想定します。

以上により、計画期間は、平成 30（2018）年度～平成 39（2027）年度の 10 年間とします。

なお、上位計画である大館市総合計画や関連計画と整合を図るとともに、社会情勢等の変化等に応じて計画の進行管理を行うため、必要に応じて見直しを行います。



# 2

## 上位・関連計画の整理

# 2

## 上位・関連計画の整理

### (1) 各計画の概要

計画名	計画期間	ポイント
第2次 新大館市 総合計画	平成28(2016)年度 ～平成35(2023)年度	<p>&lt;施策目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■良好な交通・通信環境で地域と暮らしをつなぐまち</li> <li>・地域間交流を促す広域交通網の整備促進と合わせて、利便性の高い市内道路の整備を推進します。</li> <li>・公共交通機能を充実させ、誰もが移動しやすい交通基盤の整備を推進します。</li> <li>・冬期間の雪の影響を極力少なくし、効率的な除排雪体制を整備します。</li> </ul>
大館市 都市計画 マスター プラン	平成19(2007)年 ～平成37(2025)年	<p>&lt;交通施設整備の方針&gt;</p> <p>人々の交流を促す交通網づくり 歩行者の通行に配慮し、環境負荷の軽減、自然との共生へ結びつけていく交通体系への転換を図っていきます。</p>
大館市 総合戦略	平成27(2015)年度 ～平成31(2019)年度	<p>基本目標2 2-② (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落間や集落と中心市街地などを結ぶ幹線道路の整備・改良とともに、生活に密着した道路の計画的な整備を進めます。</li> <li>・市民のニーズや少子高齢化社会に対応した公共交通の維持・確保と利便性の向上に努めます。</li> </ul>
大館市 人口ビジョン	平成72(2060)年まで	<p>目指すべき将来人口 平成72(2060)年：45,498人</p>
大館 都市計画区域 マスター プラン (秋田県)	目標年次 平成42(2030)年	<p>①交通施設の都市計画の決定の方針</p> <p>ア) 基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>産業と交流を支える広域交通ネットワークの形成</li> <li>住民の都市生活を支える交通ネットワークの形成</li> <li>公共交通機能の充実</li> <li>安全・安心な歩行空間の形成</li> </ol>

## (2) 上位計画

計 画 名	第2次新大館市総合計画
計 画 期 間	平成 28（2016）年度～平成 35（2023）年度
位 置 づ け	総合計画は、市政の最上位計画に位置付けられ、本市の将来像や基本的な行政の取り組みを定める8年間の長期計画であり、市民と行政が互いに協力し、工夫しながら進めるまちづくりの指針となるものです。
計画の体系	<p>&lt;将来像&gt;</p> <p>匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく「未来創造都市」</p> <p>&lt;まちづくりの基本的な考え方（基本理念）&gt;</p> <p>大館の未来を紡ぐものがたりづくり</p> <p>&lt;都市像・行財政運営の指針（基本目標）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. まちや暮らしのなかで市民が活躍し、次代を育む“教育文化都市”</li> <li>2. 健康で、互いのつながりを大切に支え合う“健康福祉都市”</li> <li>3. 地域の特性を活かし、暮らしを支える活力を興す“産業創造都市”</li> <li>4. 暮らしやまちのなかに賑わいと交流を生む“多文化交流都市”</li> <li>5. 豊かな自然とともに快適に暮らせる“環境共生都市”</li> <li>6. 持続可能なまちづくりを支える“行財政運営”</li> </ol>
重点施策 （本計画と 関係性の高 いもの）	<p>5-3 道路・交通網・情報基盤</p> <p>&lt;施策目標&gt;</p> <p>■ 良好な交通・通信環境で地域と暮らしをつなぐまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域間交流を促す広域交通網の整備促進と合わせて、利便性の高い市内道路の整備を推進します。</li> <li>・公共交通機関を充実させ、誰もが移動しやすい交通基盤の整備を推進します。</li> <li>・冬期間の雪の影響を極力少なくし、効率的な除排雪体制を整備します。</li> </ul> <p>&lt;施策の構成と展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域道路網の整備</li> <li>・生活道路の整備</li> <li>・情報通信網の整備・活用</li> <li>・冬期における除排雪体制の充実</li> <li>・公共交通対策の推進</li> </ul>

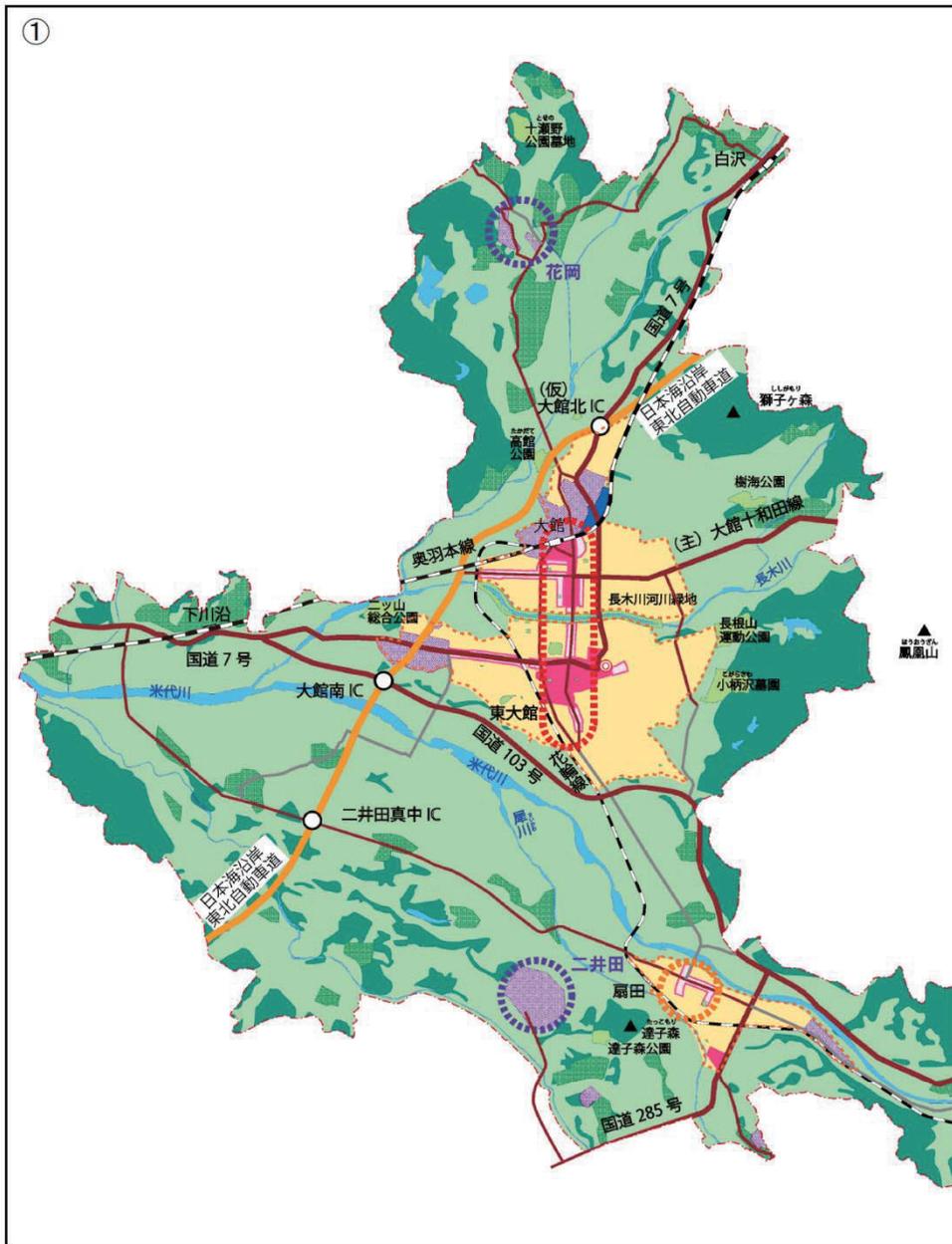
### (3) 関連計画

計 画 名	大館市都市計画マスタープラン
計 画 期 間	平成 19（2007）年～平成 37（2025）年
計画の体系	<p>&lt;基本理念&gt; 人・まち・自然が調和するまち育て 環境共生都市“おおだて”</p> <p>&lt;まちづくりの基本方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①人と人の力がまちを育てていく</li><li>②自然がまちをより魅力的に育てていく</li><li>③人と自然がともに育っていく</li></ul> <p>&lt;まちづくりの方針&gt;</p> <p>風土を活かす方針：人と風土がまちをより魅力的に育てる</p> <p>土地利用の方針：田園や山々を背景としたまち</p> <p>都市構造づくりの方針：人と人を結ぶまち</p> <p>都市環境整備の方針：人と自然がともに育つまち</p>
整備方針 （本計画と 関連性の高 いもの）	<p>&lt;交通施設整備の方針&gt; 人々の交流を促す交通網づくり</p> <p>大館市の交通体系は、JRと民間バスといった公共交通機関と、国道7号・国道103号をはじめとする幹線道路によって、生活や産業活動が支えられています。今後は、日本海沿岸東北自動車道の整備などにより、さらに交通利便性が高まります。</p> <p>交通施設整備の方針としては、この新たな整備の利点を活かしながら、市内においては歩行者の通行に配慮し、環境負荷の軽減、自然との共生へ結びつけていく交通体系への転換を図っていきます。また、高齢者・障害者等にも配慮したバリアフリーの道づくりを推進します。</p> <p>①道路</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■道路ネットワークの構築</li><li>■基幹都市軸（自動車専用道路）の整備</li><li>■地域交流連携軸（主要幹線道路）の整備</li><li>■地域骨格軸（都市幹線道路）の整備</li><li>■生活道路の整備</li><li>■バリアフリー整備の推進</li></ul> <p>②公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■公共交通ネットワークの形成</li><li>■駅周辺整備の充実</li></ul>

計画名	大館市総合戦略
計画期間	平成 27 (2015) 年度～平成 31 (2019) 年度
計画の体系	<p>&lt;基本的視点&gt;</p> <p>①「東京圏等への人口流出に歯止めをかける」</p> <p>②「東京圏等から大館への流れをつくる」</p> <p>③「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」</p> <p>④「時代に合った地域をつくり、くらしの安全を守る」</p> <p>&lt;基本目標&gt;</p> <p>①健やかに次代を育む施策の推進（ひとづくり）</p> <p>②支援連携と新たな地域社会の形成（暮らしづくり）</p> <p>③地域の特性を活かした産業振興（ものづくり）</p> <p>④交流人口の拡大とAターン・定住促進（物語づくり）</p>
重点プロジェクト	<p>1 安心できる子育て支援の推進</p> <p>2 特色ある教育・文化の推進</p> <p>3 互いのつながりを大切にする健康福祉の推進</p> <p>4 協働によるまちづくり・快適な住環境の推進</p> <p>5 暮らしを支える農林業の振興</p> <p>6 雇用対策と新たな産業の育成</p> <p>7 賑わいと交流を生む観光・物産の振興</p> <p>8 恵まれた環境を活かしたAターン・定住促進</p>
基本方向と具体的な施策 (本計画と関連性の高いもの)	<p>基本目標2：支援連携と新たな地域社会の形成</p> <p>&lt;基本方向&gt;</p> <p>〇世代を問わず多くの市民が快適に暮らせるよう、住環境をはじめ、生活環境、交通機関等の整備を図ります。</p> <p>2-②協働によるまちづくり・快適な住環境の推進</p> <p>(2)道路</p> <p>人と車が快適に行き交い、地域内連携の円滑化と市民生活の利便性向上を図るため、集落間や集落と中心市街地などを結ぶ幹線道路の整備・改良とともに、農道・林道を含む生活に密着した道路の計画的な整備を進めます。</p> <p>また、降雪・積雪に対応したきめ細かな除排雪体制など、快適で安全な交通環境を確保するとともに、市民のニーズや少子高齢化社会に対応した公共交通の維持・確保と利便性の向上に努めます。</p>

計 画 名	大館市人口ビジョン																												
対 象 期 間	平成 72（2060）年まで																												
目指すべき 将来の方向性	<p>（１） 自然減の抑制</p> <p>若者の出会い・結婚に関する支援から、妊娠や出産時期を経て、子育て支援まで切れ目のない施策の充実を図るとともに、特に多子世帯への支援に着眼しながら、官民一体となった少子化対策を強化する必要があります。</p> <p>（２） 社会減の抑制</p> <p>本市の人口減少の主な要因となっている進学や就職による若者の市外流出に歯止めをかけるためには、市内での雇用の確保が重要となります。そのためには、成長産業や本市の強みである農林業や製造業、交流人口の拡大を図る観光関連産業などの振興を支援することにより、雇用の受け皿づくりを進めるとともに、新規学卒者の市内就職率の向上や市外に就職した若者のＵターンを促進する必要があります。</p> <p>（３） 持続可能な地域づくり</p> <p>本市の高齢化率は、平成 52（2040）年には 40%近くに到達すると予測されるため、既に高齢化が進む農業・林業など、主要産業の担い手がより一層高齢化することで、産業基盤の存続が難しくなる事態も懸念されます。</p> <p>このため上述のように、人口の転入増加を図りつつ、新規産業だけでなく、現在の主要産業における人口構造の若返りを図る施策等が、持続可能な地域づくりに必要となると考えられます。</p>																												
目指すべき 将来人口	<p>平成 72（2060）年：45,498 人</p> <table border="1"> <caption>人口推計データ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>推計2: 総人口 (人)</th> <th>パターン2 (民間機関推計準拠): 総人口 (人)</th> <th>パターン1 (社人研推計準拠): 総人口 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成22年 (2010)</td> <td>78,000</td> <td>78,000</td> <td>78,000</td> </tr> <tr> <td>平成32年 (2020)</td> <td>72,000</td> <td>72,000</td> <td>72,000</td> </tr> <tr> <td>平成42年 (2030)</td> <td>66,000</td> <td>66,000</td> <td>66,000</td> </tr> <tr> <td>平成52年 (2040)</td> <td>60,000</td> <td>56,043</td> <td>60,000</td> </tr> <tr> <td>平成62年 (2050)</td> <td>54,000</td> <td>-</td> <td>54,000</td> </tr> <tr> <td>平成72年 (2060)</td> <td>45,498</td> <td>-</td> <td>35,237</td> </tr> </tbody> </table> <p>（人）</p> <p>90,000</p> <p>80,000</p> <p>70,000</p> <p>60,000</p> <p>50,000</p> <p>40,000</p> <p>30,000</p> <p>平成22年 平成32年 平成42年 平成52年 平成62年 平成72年 2010年 2020年 2030年 2040年 2050年 2060年</p> <p>推計2: 総人口</p> <p>56,043人</p> <p>パターン2 (民間機関推計準拠): 総人口</p> <p>パターン1 (社人研推計準拠): 総人口</p> <p>45,498人</p> <p>35,237人</p> <p>差分 10,261人</p>	年	推計2: 総人口 (人)	パターン2 (民間機関推計準拠): 総人口 (人)	パターン1 (社人研推計準拠): 総人口 (人)	平成22年 (2010)	78,000	78,000	78,000	平成32年 (2020)	72,000	72,000	72,000	平成42年 (2030)	66,000	66,000	66,000	平成52年 (2040)	60,000	56,043	60,000	平成62年 (2050)	54,000	-	54,000	平成72年 (2060)	45,498	-	35,237
年	推計2: 総人口 (人)	パターン2 (民間機関推計準拠): 総人口 (人)	パターン1 (社人研推計準拠): 総人口 (人)																										
平成22年 (2010)	78,000	78,000	78,000																										
平成32年 (2020)	72,000	72,000	72,000																										
平成42年 (2030)	66,000	66,000	66,000																										
平成52年 (2040)	60,000	56,043	60,000																										
平成62年 (2050)	54,000	-	54,000																										
平成72年 (2060)	45,498	-	35,237																										

計 画 名	大館都市計画区域マスタープラン（秋田県）
目 標 年 次	平成 42（2030）年 区域区分に関する事項：平成 32（2020）年
都市計画の目標	<p>&lt;大館広域都市圏の将来像&gt; 文化、産業を育み、自然環境と共生する県北部中心域の広域交流都市圏</p> <p>&lt;大館広域都市圏の目標&gt;</p> <p>ア) 米代川流域の東西地域をつなぐ交流拠点の形成 イ) 快適に暮らせる都市環境の形成 ウ) 産業活動や広域観光の発展を促す交通ネットワークの形成 エ) 自然とふれあう観光・レクリエーションゾーンの形成 オ) 循環型地域社会を実現するエコタウンづくり</p> <p>&lt;都市計画区域の将来像&gt; 伝統ある産業と文化で飛躍する 人にやさしい都市「おおだて」</p> <p>&lt;都市計画区域の目標と市街地像&gt;</p> <p>①コンパクトな都市づくり ②交通ネットワークが充実した都市づくり ③人が主役の都市づくり ④自然と文化を大切にする都市づくり</p> <p>&lt;社会的課題に対する都市計画としての取り組みの方針&gt;</p> <p>①少子高齢化に対応した都市づくりの推進 ②地域の魅力や個性を高める都市づくりの推進 ③災害に強い都市づくりの推進 ④多様な主体の連携による都市づくりの推進</p>
都市計画の決定の方針 （本計画と関連性の高いもの）	<p>①交通施設の都市計画の決定の方針</p> <p>ア) 基本方針</p> <p>a.産業と交流を支える広域交通ネットワークの形成 b.住民の都市生活を支える交通ネットワークの形成 c.公共交通機能の充実 d.安全・安心な歩行空間の形成</p>



コンパクトな都市づくり

- 効率的な市街地の形成
  - 中心市街地
  - 業務地
  - 商業地
- 地域を牽引する産業拠点の形成
  - 産業拠点
  - 工業地
- まともな地域拠点の形成
  - 地域拠点

交通ネットワークが充実した都市づくり

- 産業と交流を支える広域交通ネットワークの形成
  - 自動車専用道路
- 住民の都市生活を支える交通ネットワークの形成
  - 主要幹線道路
  - 都市幹線道路

人が主役の都市づくり

- 人にやさしい居住環境の形成  
安全・安心な生活環境の確保
  - 商業地
  - 住宅地

自然と文化を大切にする都市づくり

- 市街地と調和した交流空間の形成
  - 公園・緑地
  - 河川
- 集落環境・田園景観の維持・保全
  - 集落
  - 農地
- 地域を見まもる山々の維持・保全
  - 丘陵地・山地

凡例

- 都市計画区域
- 用途地域
- 鉄道
- 市役所

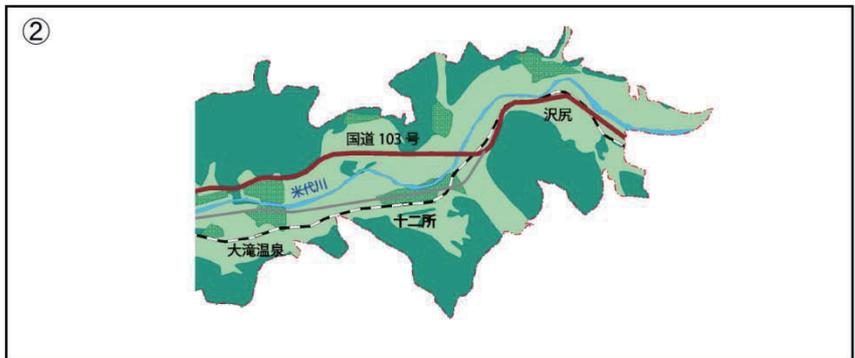


図 目標とする市街地像

# 3

## 地域の現状等

# 3

## 地域の現状等

---

### (1) 地勢・歴史

---

#### ① 位置・地勢

本市は、秋田県の北部を流れる米代川の中流域に位置する大館盆地を中心に、北西は白神山地の東側にある田代岳（標高 1,178m）から南は森吉山麓までまたがる場所に位置しています。

東側は鹿角市と小坂町、西側は北秋田市と藤里町、南側は北秋田市、北側は青森県と接し、秋田市まで約 100km、青森県弘前市までは約 50km、岩手県盛岡市まで約 110km と北東北のほぼ中心にあり、交通では、JR 奥羽本線、花輪線、国道 7 号、103 号、285 号が縦横に走り、平成 10（1998）年に開港した大館能代空港、日本海沿岸東北自動車道の延伸など、高速交通体系も整備されつつあります。

東西 35km、南北 49km、総面積は 913.22 ㎢で、県内の市では、由利本荘市、北秋田市、仙北市に次いで 4 番目の広さを持っています。

気候は、積雪寒冷地帯の内陸性盆地気候に属し、積雪期間は 12 月から翌年 3 月下旬までの長期間に及びます。県全体と比較しても 1 月、2 月の月平均気温が低く、また、夏季になるとやませの影響を受けて低温になりやすく、平成 26（2014）年の年平均気温は 10.1℃、最高気温 35.1℃、最低気温 -17.6℃であり、降水量は年間 2,004.5mm となっています。風力は、沿岸部と比較すると 1 年間を通じて弱く、強風や台風の影響が比較的少なくおだやかな地域です。

#### ② 歴史

大館地方は古の時代「ひない」と呼ばれ、平安後期は奥州藤原氏、鎌倉時代には浅利氏の支配する地でした。近世に入り大館佐竹氏により形成された城下町が、その後の大館市の発展の礎となり、今も城下町時代の道や地名が残っています。

明治 22（1889）年には町制を施行、昭和 26（1951）年には釈迦内村と合併、市制を施行しました。昭和 30（1955）年に長木村、上川沿村、下川沿村、二井田村、真中村、十二所町を、昭和 42（1967）年には花矢町を、そして平成 17（2005）年 6 月 20 日に比内町・田代町を編入し、合併後 12 年を迎え現在に至っています。

(2) 人口

③ 総人口の推移

国勢調査による本市の総人口（旧比内町、旧田代町を含む）の推移をみると、昭和35（1960）年以降では、昭和55（1980）年にわずかながら増加に転じたものの、それ以外は減少し続けており、平成27（2015）年の総人口は、74,175人となっています。

また、総人口に占める老年人口（65歳以上）と年少人口（15歳未満）の割合は、平成2（1990）年を境に逆転し、平成27（2015）年には、老年人口（65歳以上）の割合が35.9%、年少人口（15歳未満）の割合が10.3%となり、少子高齢化が進行しています。

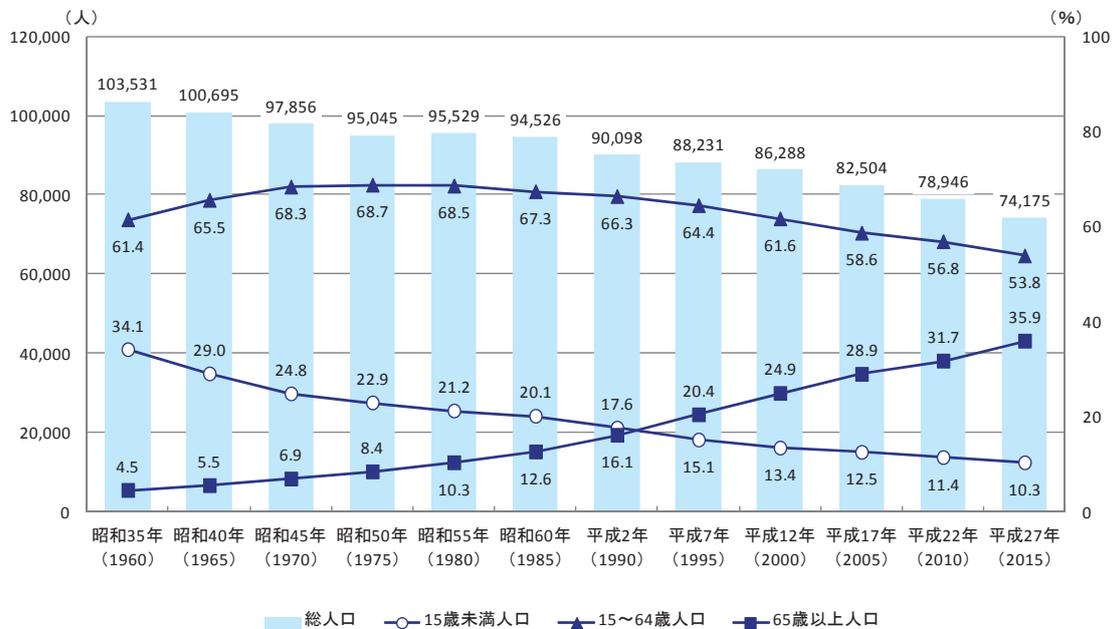


図 人口の推移

資料：国勢調査

#### ④ 世帯数の推移

国勢調査による本市の一般世帯数は、平成 17（2005）年に一時減少しましたが、平成 27（2015）年には 28,164 世帯となっています。

高齢化の進行とともに、65 歳以上の高齢者のいる世帯も増加しており、平成 27（2015）年の 65 歳以上の高齢者のいる核家族世帯は 7,838 世帯と、一般世帯総数の 27.8%を占めています。

また、高齢者のひとり暮らし世帯、高齢夫婦世帯についても年々増加しており、平成 27（2015）年の高齢者のひとり暮らし世帯は 3,893 世帯、高齢夫婦世帯は 3,769 世帯となっています。

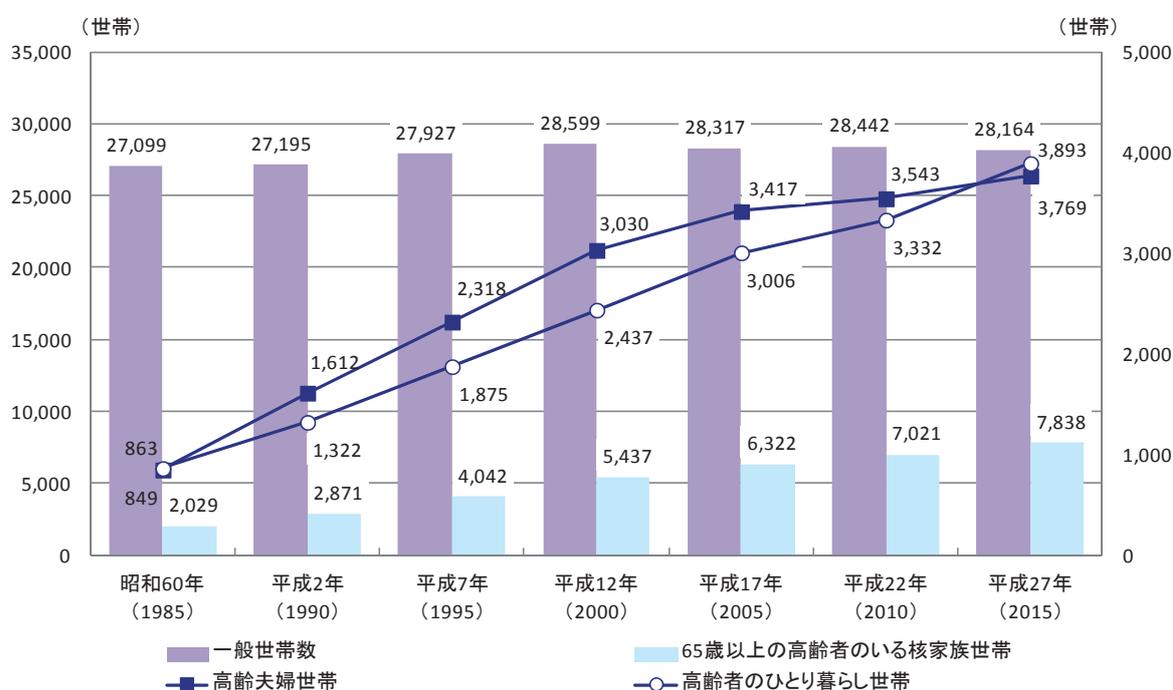


図 一般世帯及び高齢者世帯の推移

資料：国勢調査

⑤ 地区別人口の推移

総人口の推移を市街地区別にみると、市全体の減少に伴い都市計画区域及び用途地域人口はともに平成 2（1990）年～平成 22（2010）年にかけて約 10%減少し、平成 22（2010）年でそれぞれ 63,970 人、33,965 人となっています。

総人口は、平成 27（2015）年の 74,175 人から減少が継続し、概ね 20 年後の平成 47（2035）年には 25.1%減の 55,587 人と推計されています。

都市計画区域人口及び用途地域人口についても、総人口と同様に平成 22（2010）年より減少が継続し、平成 47（2035）年にはそれぞれ、46,634 人、26,181 人と推計されています。

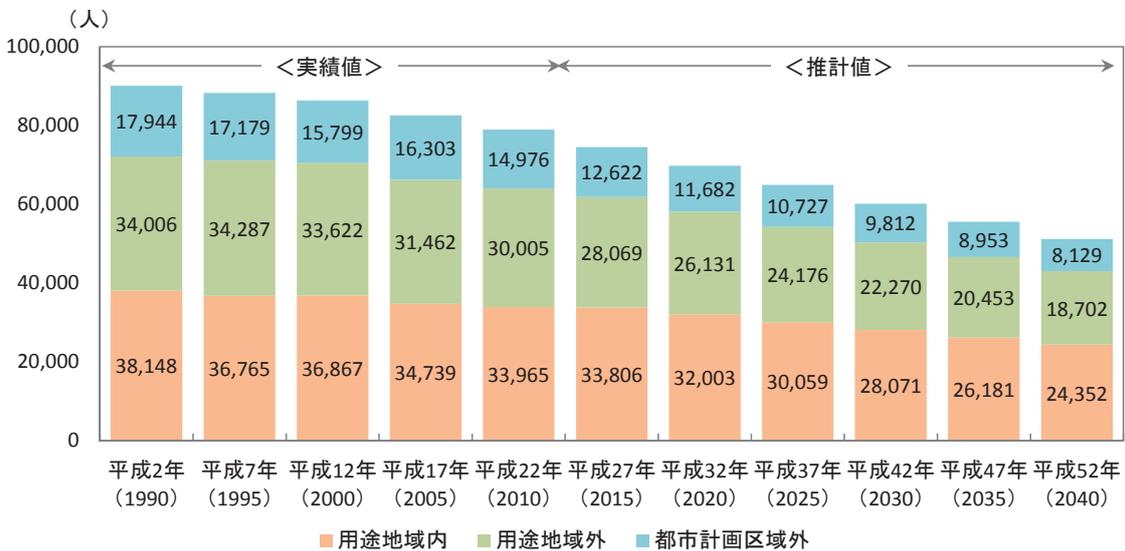


図 市街地区別総人口の推移

資料：平成 28（2016）年度秋田県立地適正化計画策定ガイドライン  
作成支援業務委託 報告書

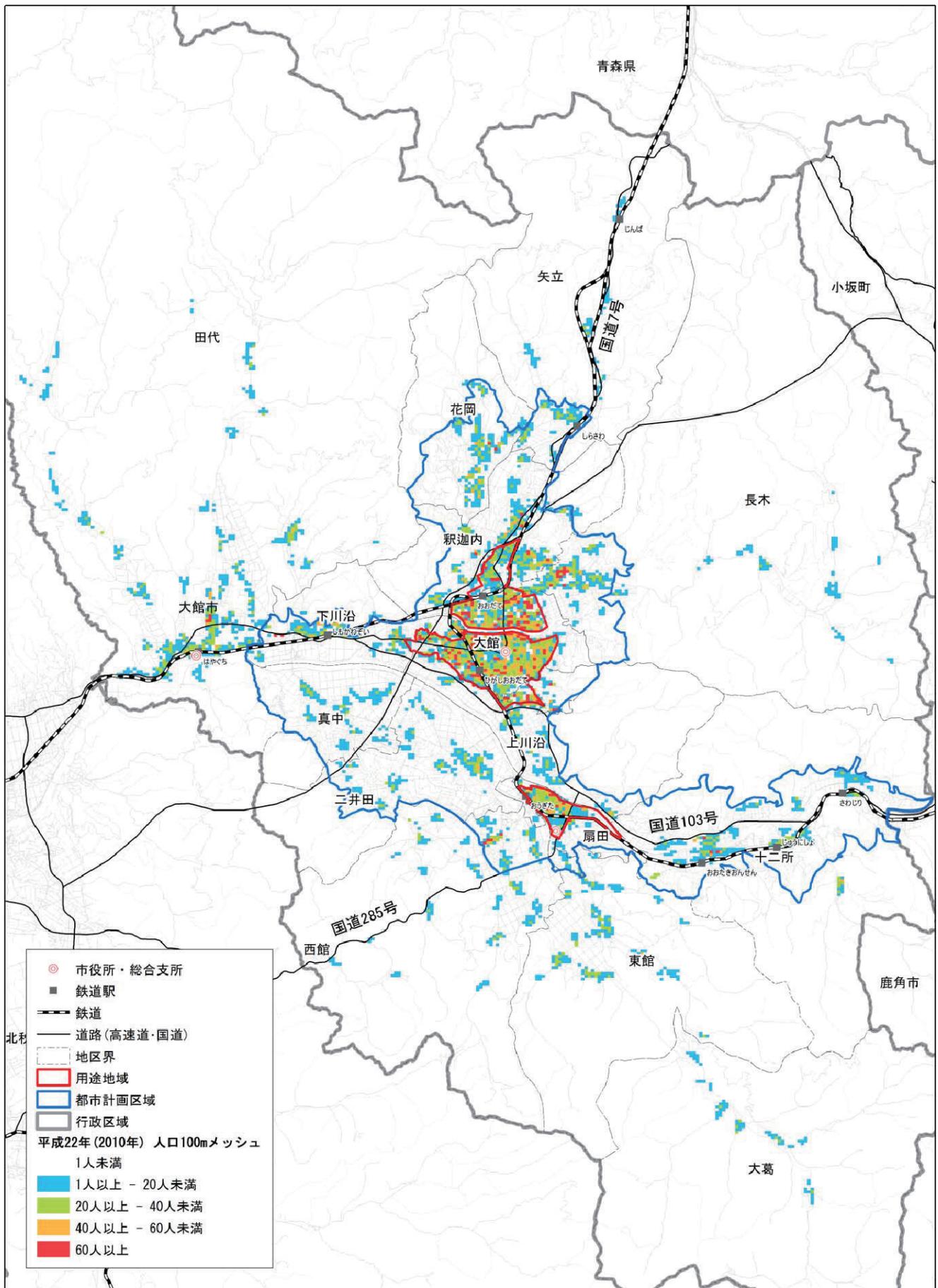


図 平成 22 (2010) 年総人口の分布状況

資料：国土数値情報

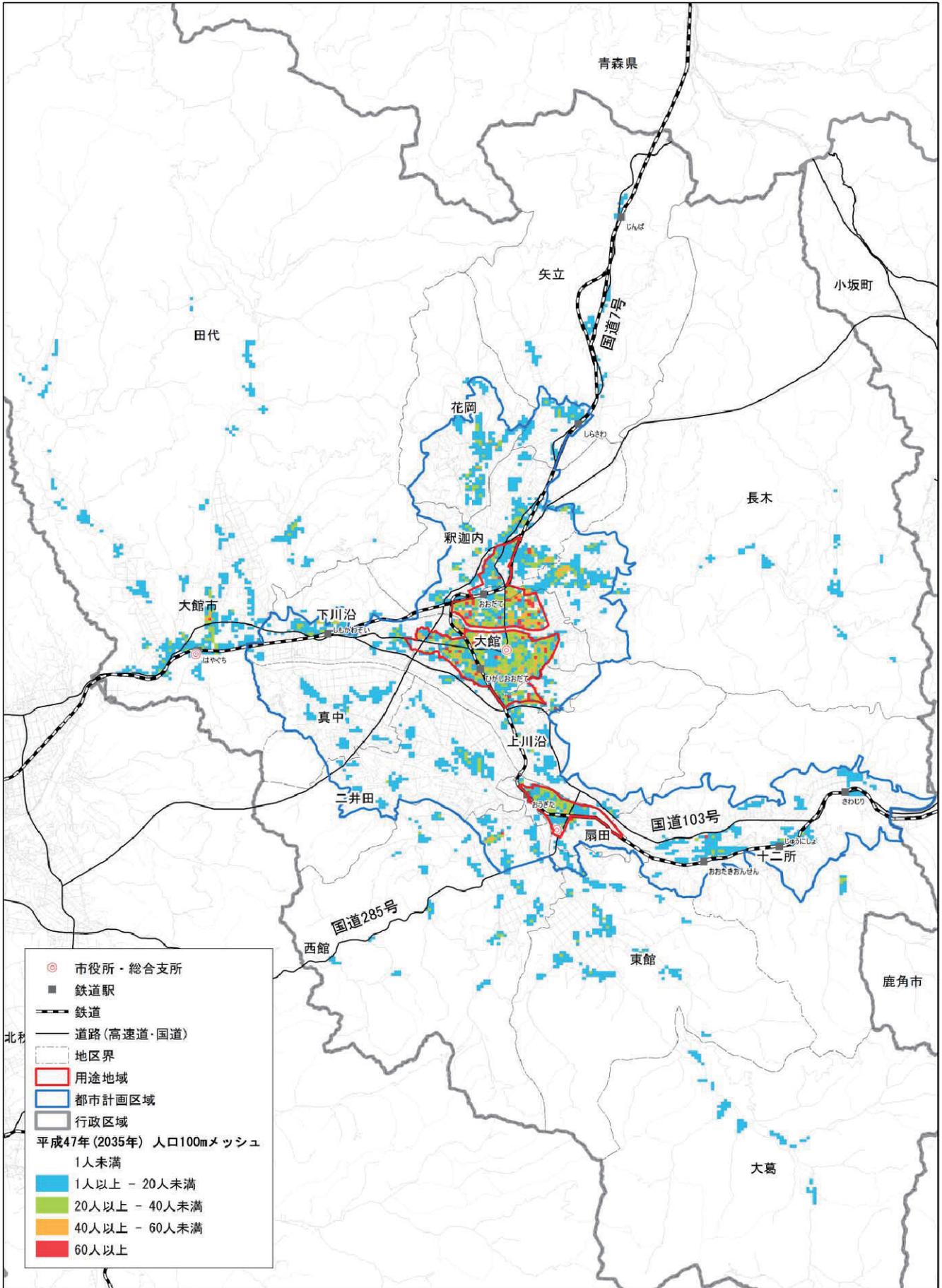


図 平成47(2035)年総人口の分布状況

資料：国土数値情報

## ⑥ 高齢者人口の推移

65歳以上人口は、平成2（1990）年以降継続して増加し、平成27（2015）年で26,549人となっており、高齢化率は35.9%となっています。

平成22（2010）年の高齢化率を市街地区別に見ると、用途地域内では市民サービスセンター周辺や東大館駅・大館市役所周辺など、旧来の市街地では30%を超えており、その周辺が低くなっています。

平成32（2020）年の26,767人をピークに減少に転じ、概ね20年後の平成47（2035）年には22,994人、高齢化率41.4%になると推計されています。

平成47（2035）年の高齢化率を市街地区別に見ると、大館地域の用途地域内を除き、ほぼ全域で30%を超えており、集落部を中心に50%を超える区域も発生すると推計されています。

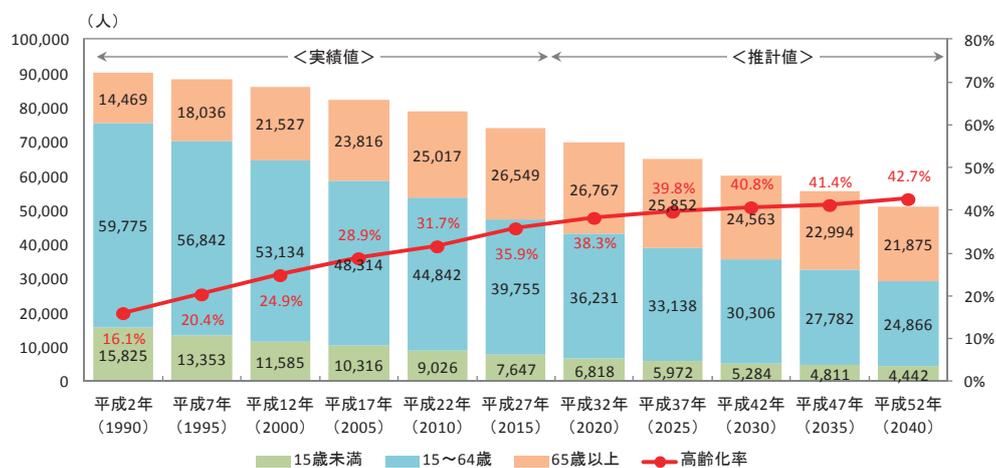


図 年齢3区分別人口及び高齢化率の推移

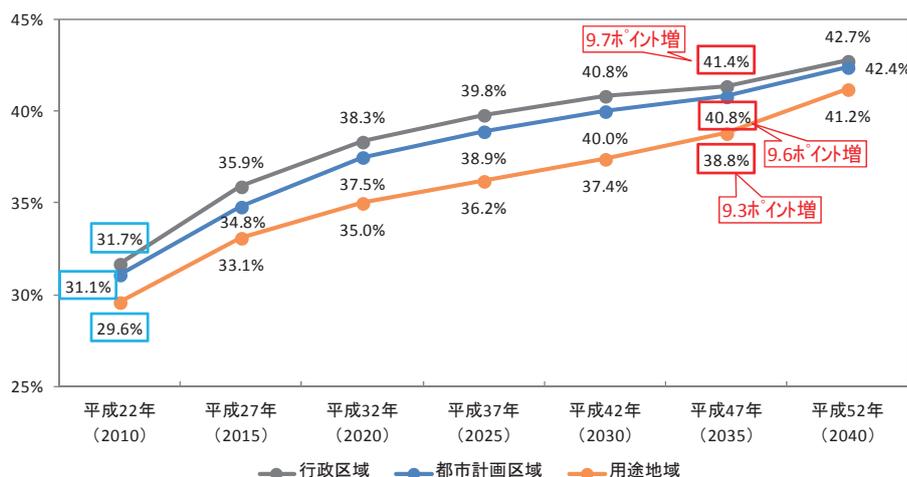


図 市街地区別高齢化率の推移

資料：平成28（2016）年度秋田県立地適正化計画策定ガイドライン  
作成支援業務委託 報告書

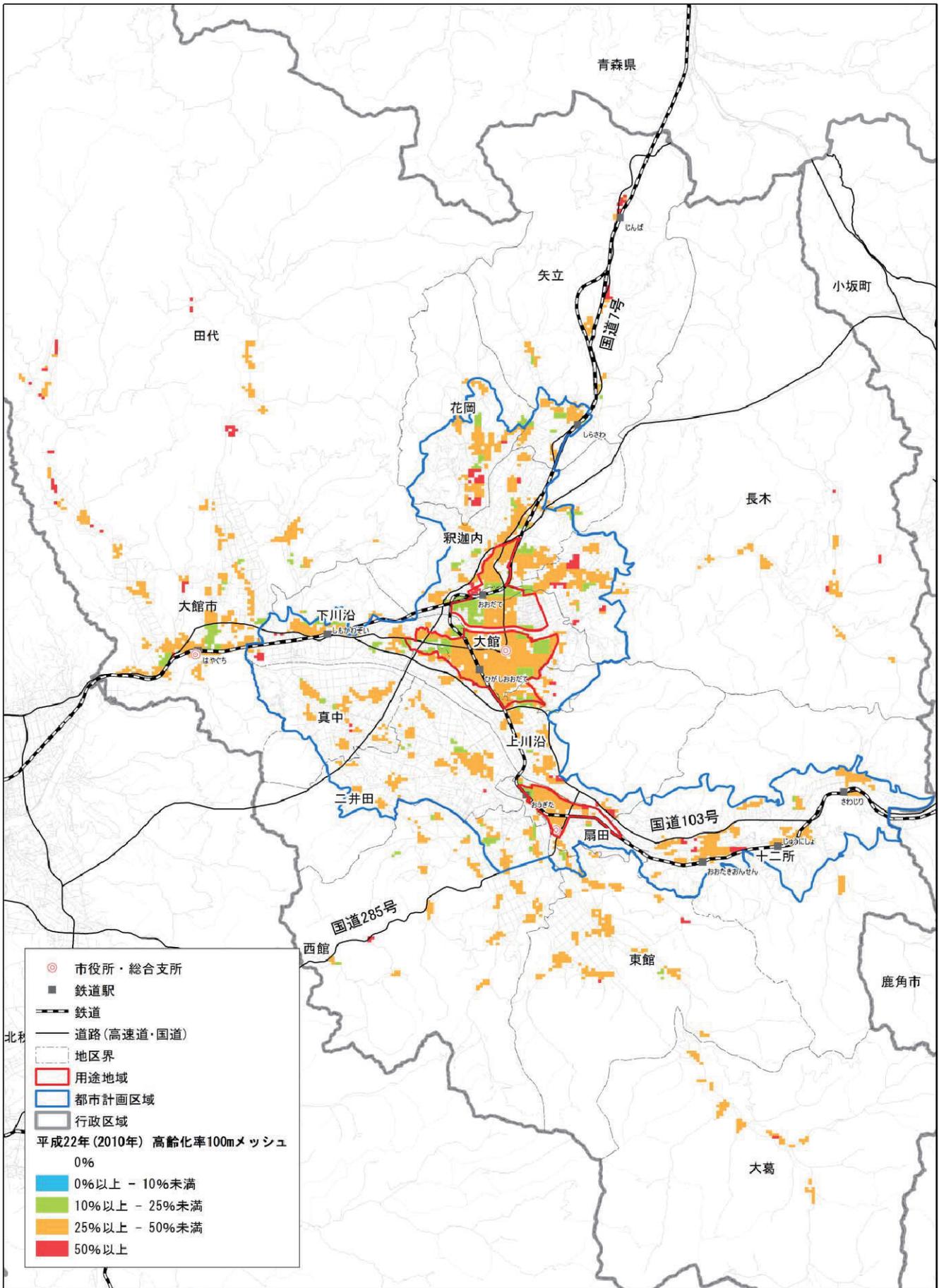


図 平成22(2010)年高齢化率の分布状況

資料：国土数値情報

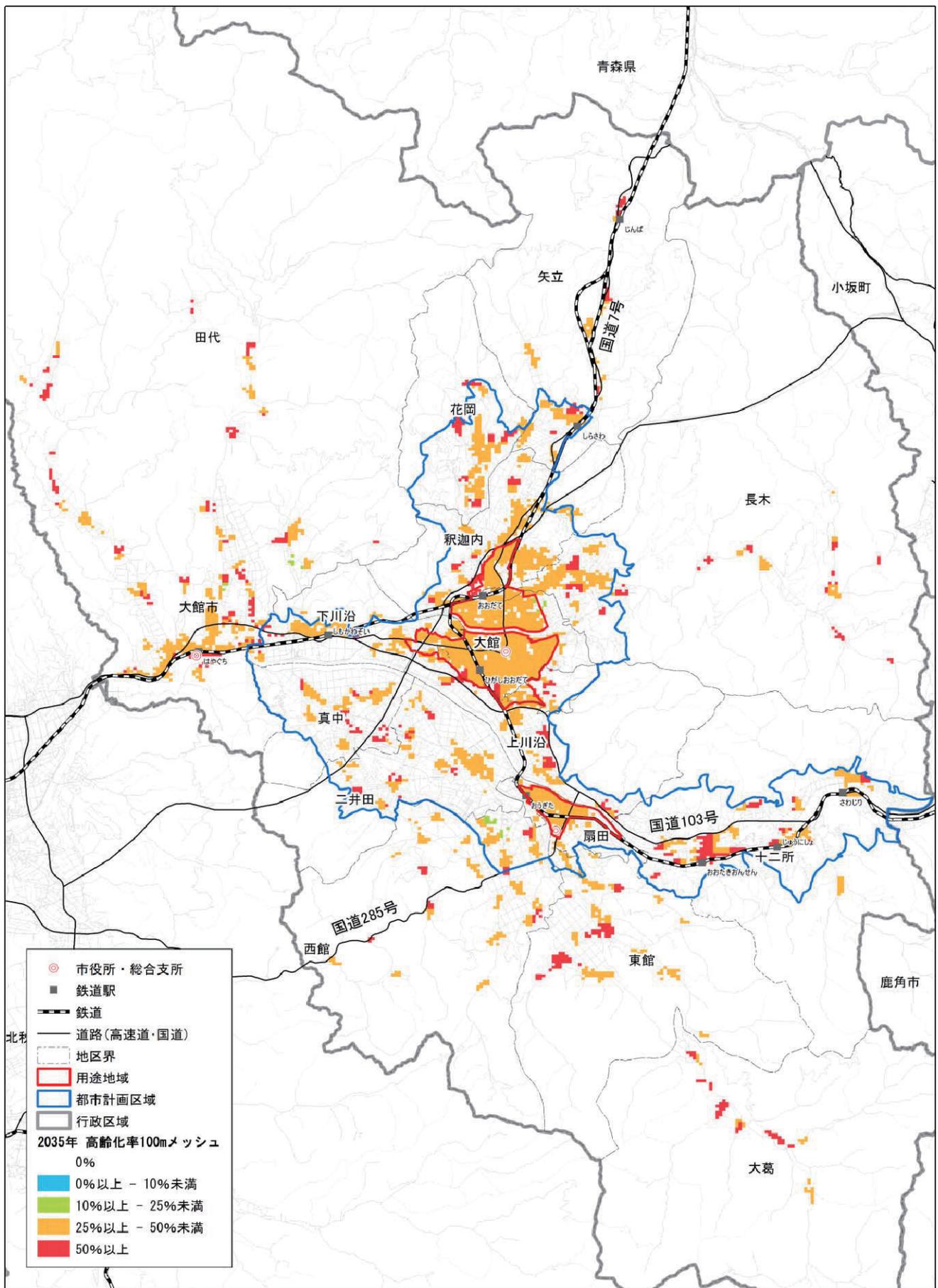


図 平成 47 (2035) 年高齢化率の分布状況

資料：国土数値情報

### (3) 主要な施設立地状況

① 学校

学校の立地状況をみると、小学校、中学校、高等学校が広く分布し、短期大学・大学は、秋田看護福祉大学と秋田職業能力開発短期大学校の2件のみとなっています。市街地区別にみると、用途地域外が最も多く全体の50.0%が立地しています。

② 医療施設

病院、診療所は、市内に52件所在し、用途地域内を中心に立地しています。

③ 高齢者福祉施設

高齢者福祉施設は、市内に55件所在し、通所系高齢者福祉施設、その他高齢者福祉施設のいずれも、用途地域内に概ね50%が立地しています。

④ 子育て支援施設

子育て支援施設は、市内に8件所在し、全て用途地域内に立地しています。

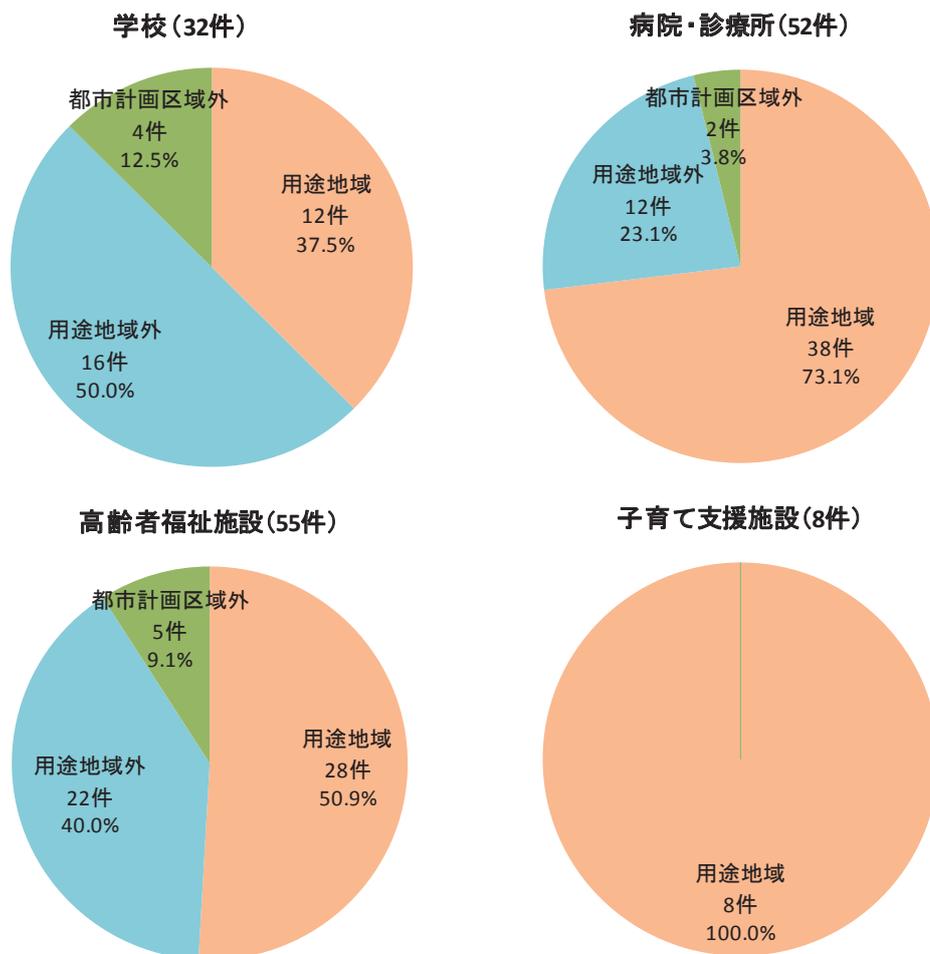


図 市街地区別各施設立地状況

資料：国土数値情報、大館市資料

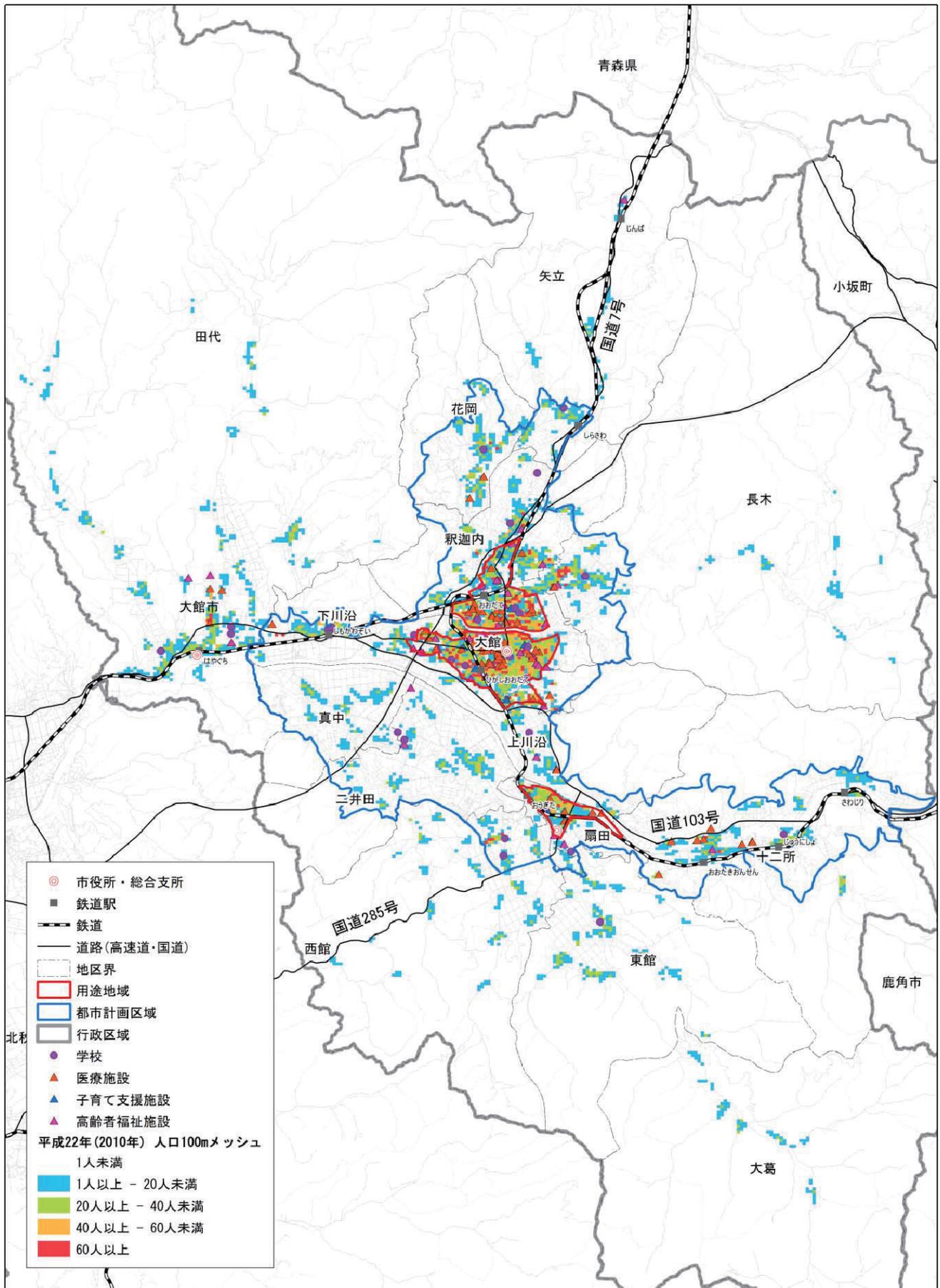


図 平成 22 (2010) 年各施設立地状況及び総人口分布状況

資料：国土数値情報

# 4

## 公共交通をとりまく 現状と課題

# 4

## 公共交通をとりまく現状と課題

### (1) 公共交通の現状

#### ① 公共交通の動向・公共交通網・サービス水準

平成 29 (2017) 年時点で、路線バスは 17 路線、コミュニティバスは 2 路線が運行されています。

鉄道駅及びバス停の利用圏カバー率（総人口ベース）は、用途地域内で 82.9%、都市計画区域内で 79.8%を占めています。

また、平成 47 (2035) 年の公共交通利用圏内人口は、平成 22 (2010) 年の 7割程度に減少すると推計されます。

表 路線バスの平均運行本数

	路線名	平均運行頻度(本/日)	
		平日	休日
1	大野線	7.0	4.0
2	大館・鷹巣線	19.0	11.0
3	大石渡(2)線	9.0	5.0
4	大石渡(3)線	10.0	8.0
5	矢立(1)線	6.0	6.0
6	矢立(2)線	12.0	6.0
7	大森(1)線	1.0	1.0
8	繫沢(2)線	3.0	3.0
9	二井山線	6.0	5.0
10	花矢(2)線	9.0	7.0
11	大館・小坂線	10.0	8.0
12	獅子ヶ森環状線	12.0	12.0
13	大谷(2)線	8.0	5.0
14	中野線	7.0	5.0
15	羽立(3)線	6.0	4.0
16	市内循環(2)線	9.0	7.0
17	花輪・大館線	11.0	8.0

表 コミュニティバスの平均運行本数

	路線名	平均運行頻度(本/日)	
		平日	休日
1	さわやかみなみ号(真中線)	7.0	3.0
2	さわやかみなみ号(二井田線)	7.5	3.0

表 公共交通利用圏（駅:800m、バス停:300m）人口・カバー率

	平成22年(2010)年		平成47年(2035)年		
	総人口	カバー率	総人口	カバー率	平成22年(2010)年 利用圏内人口比
行政区域	78,006		55,587		
うち、利用圏内	60,907	78.1%	43,271	77.8%	71.0%
都市計画区域	64,733		46,550		
うち、利用圏内	51,627	79.8%	36,985	79.5%	71.6%
用途地域	35,054		25,883		
うち、利用圏内	29,068	82.9%	21,407	82.7%	73.6%

資料：秋北バス時刻表、国土数値情報

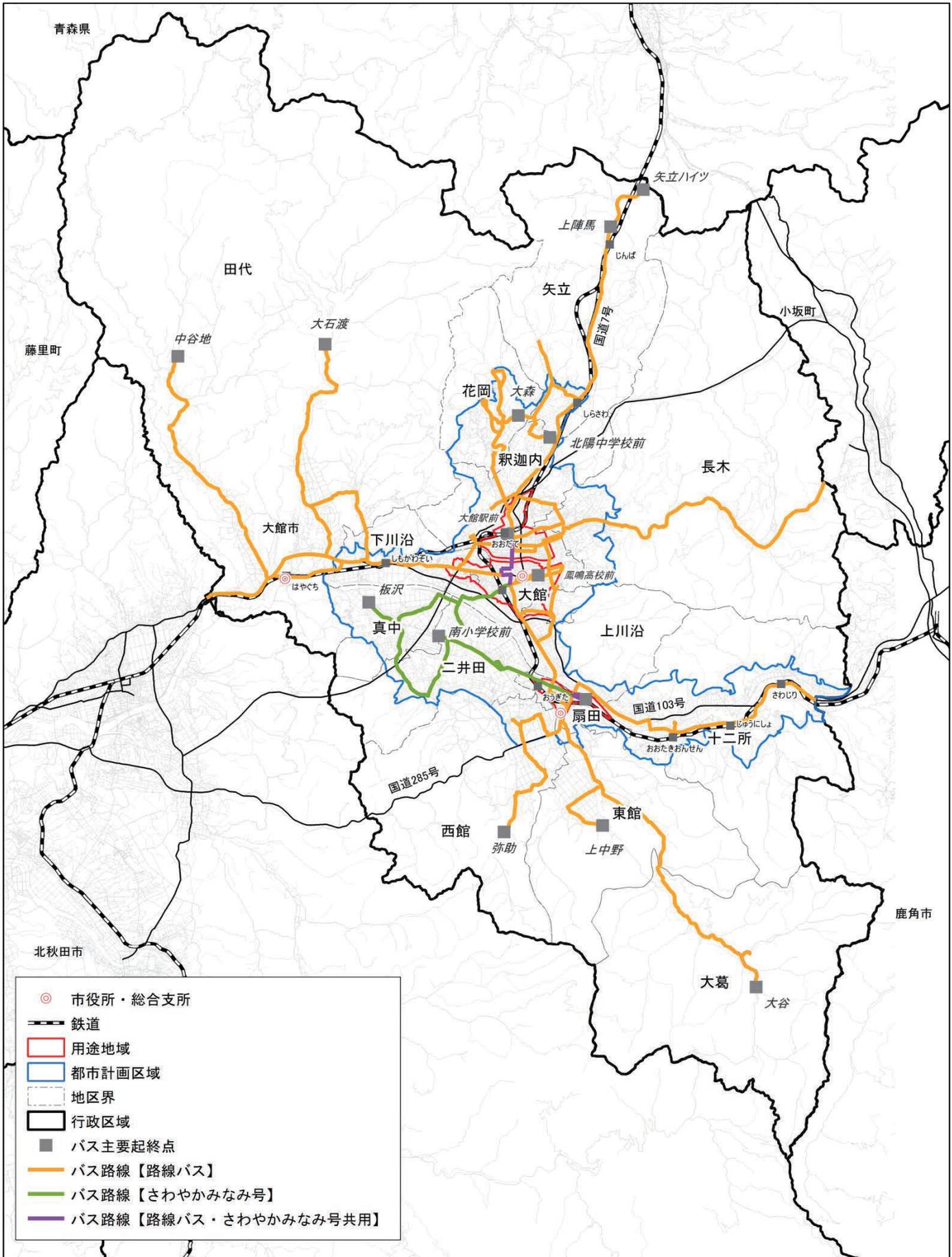


図 バス路線図

資料：大館市資料

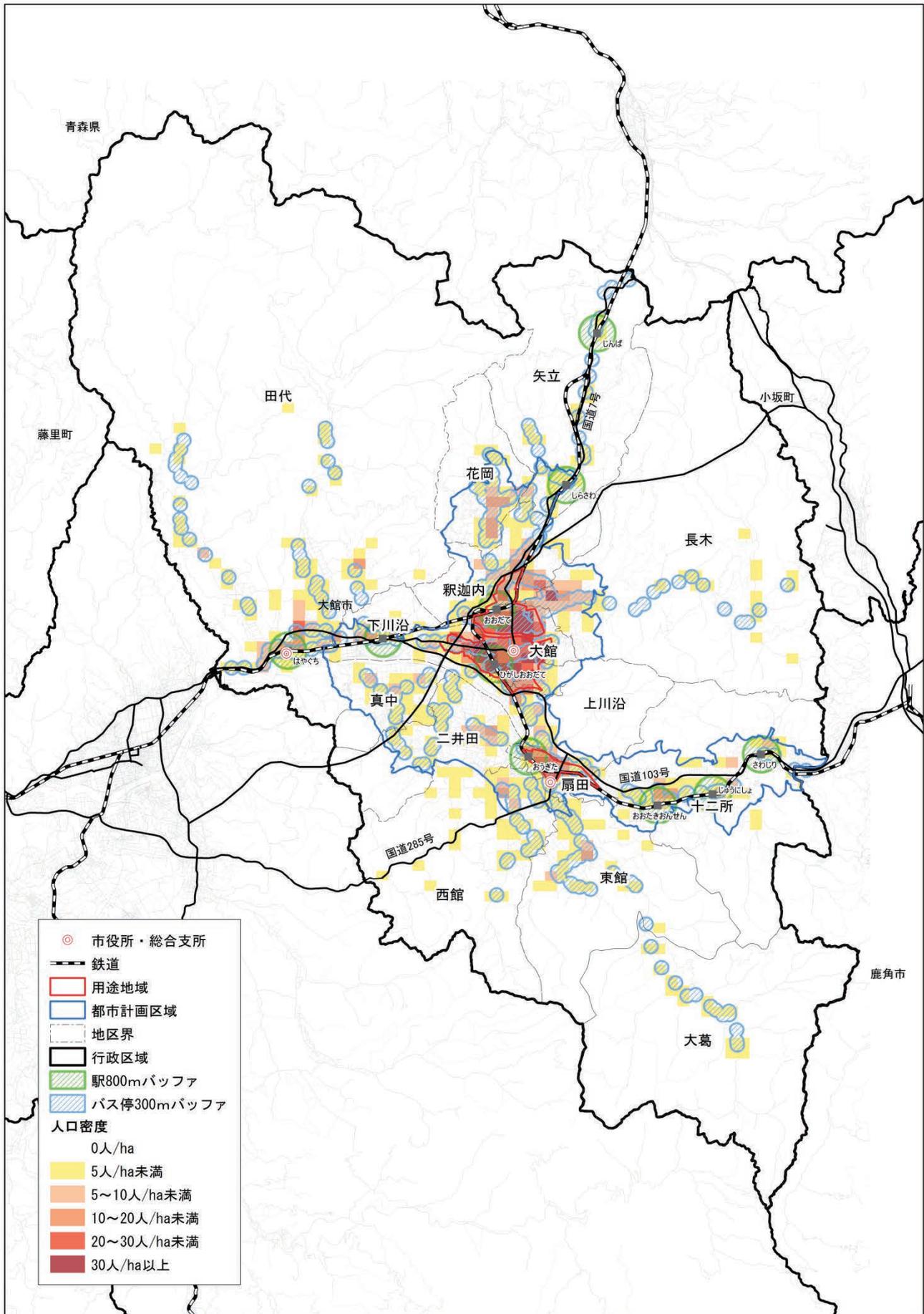


図 平成 22 (2010) 年公共交通及び総人口の分布状況

資料：大館市資料、国土数値情報

表 鉄道・路線バスカバー率及びカバー人口（字別）※駅:800m、バス停:300m

平成17年 合併前	明治22年 合併前	字名	2012年(平成22年)国勢調査結果(100mメッシュ)				
			総人口	カバー人口	カバー率%	空白人口	空白%
		御坂町	217	217	100.0%	0	0.0%
		御成町	1,338	1,327	99.2%	11	0.8%
		幸町	390	390	100.0%	0	0.0%
		字一心院南	560	560	100.0%	0	0.0%
		字一本杉	18	16	91.2%	2	8.8%
		字観音堂	1,652	1,280	77.4%	373	22.6%
		字館下	389	18	4.5%	371	95.5%
		字金坂後	152	152	100.0%	0	0.0%
		字桂城	190	190	100.0%	0	0.0%
		字桜町	130	74	56.8%	56	43.2%
		字桜町南	298	124	41.6%	174	58.4%
		字三の丸	199	173	86.8%	26	13.2%
		字七曲岱	70	70	100.0%	0	0.0%
		字象ヶ鼻	196	38	19.6%	158	80.4%
		字新町	71	71	100.0%	0	0.0%
		字水門前	439	303	68.9%	136	31.1%
		字赤館	99	99	100.0%	0	0.0%
		字相染沢中岱	820	56	6.8%	764	93.2%
		字代野	384	384	100.0%	0	0.0%
		字大館	108	108	100.0%	0	0.0%
		字大町	110	110	100.0%	0	0.0%
		字大田面	718	576	80.2%	142	19.8%
		字谷地町	261	199	76.2%	62	23.8%
		字谷地町後	169	120	71.1%	49	28.9%
		字池内道下	134	2	1.6%	132	98.4%
		字池内道上	218	209	95.5%	10	4.5%
		字中城	121	116	96.0%	5	4.0%
		字中町	159	159	100.0%	0	0.0%
		字長根山下	45	41	92.3%	3	7.7%
		字長倉	110	110	100.0%	0	0.0%
		字長木川南	891	268	30.1%	623	69.9%
		字鉄砲場	716	83	11.6%	633	88.4%
		字東台	74	72	97.1%	2	2.9%
		字八幡	78	59	74.9%	20	25.1%
		字八幡沢岱	330	190	57.7%	139	42.3%
		字板子石境	178	178	100.0%	0	0.0%
		字部垂町	212	212	100.0%	0	0.0%
		住吉町	249	249	100.0%	0	0.0%
		小館町	333	333	100.0%	0	0.0%
		城西町	435	268	61.5%	168	38.5%
		常盤木町	461	461	100.0%	0	0.0%
		水門町	463	287	61.9%	177	38.1%
		清水	2,176	1,706	78.4%	470	21.6%
		青葉町	42	41	99.3%	0	0.7%
		赤館町	324	324	100.0%	0	0.0%
		泉町	604	604	100.0%	0	0.0%
		中神明町	378	378	100.0%	0	0.0%
		中道	635	565	89.0%	70	11.0%
		東台	3,418	2,496	73.0%	922	27.0%
		南神明町	444	444	100.0%	0	0.0%
		美園町	634	520	82.0%	114	18.0%
		豊町	551	551	100.0%	0	0.0%
		北神明町	578	577	99.8%	1	0.2%
		有浦	2,575	2,475	96.1%	100	3.9%
		小計	26,546	20,633	77.7%	5,913	22.3%

表 鉄道・路線バスカバー率及びカバー人口（字別）※駅:800m、バス停:300m

平成17年 合併前	明治22年 合併前	字名	2012年(平成22年)国勢調査結果(100mメッシュ)				
			総人口	カバー人口	カバー率%	空白人口	空白%
大館市	旧矢立村	橋桁	104	104	100.0%	0	0.0%
		長走	234	219	93.8%	15	6.2%
		白沢	973	871	89.5%	102	10.5%
		粕田	568	563	99.1%	5	0.9%
		<b>小計</b>	<b>1,879</b>	<b>1,757</b>	<b>93.5%</b>	<b>122</b>	<b>6.5%</b>
	旧花岡村	花岡町	2,916	2,712	93.0%	205	7.0%
		<b>小計</b>	<b>2,916</b>	<b>2,712</b>	<b>93.0%</b>	<b>205</b>	<b>7.0%</b>
	旧釈迦内村	釈迦内	5,727	4,738	82.7%	990	17.3%
		商人留	277	27	9.9%	250	90.1%
		松峰	279	215	76.9%	64	23.1%
		松木	389	211	54.4%	177	45.6%
		沼館	530	467	88.0%	64	12.0%
		<b>小計</b>	<b>7,203</b>	<b>5,658</b>	<b>78.6%</b>	<b>1,545</b>	<b>21.4%</b>
	旧長木村	芦田子	777	34	4.4%	743	95.6%
		下代野	1,884	1,822	96.7%	61	3.3%
		上代野	665	479	71.9%	187	28.1%
		雪沢	518	311	60.0%	207	40.0%
		大茂内	619	591	95.4%	29	4.6%
		東	101	5	5.2%	95	94.8%
		柄沢	1,852	1,459	78.8%	393	21.2%
		<b>小計</b>	<b>6,518</b>	<b>4,703</b>	<b>72.1%</b>	<b>1,815</b>	<b>27.9%</b>
	旧十二所町	猿間	172	0	0.0%	172	100.0%
		葛原	321	291	90.6%	30	9.4%
		曲田	200	187	93.5%	13	6.5%
		軽井沢	750	432	57.6%	318	42.4%
		十二所	1,881	1,620	86.1%	261	13.9%
		道目木	284	156	54.8%	128	45.2%
		<b>小計</b>	<b>3,608</b>	<b>2,685</b>	<b>74.4%</b>	<b>923</b>	<b>25.6%</b>
	旧下川沿村	川口	2,094	1,767	84.4%	327	15.6%
		片山	730	13	1.7%	717	98.3%
		片山町	1,405	1,318	93.8%	87	6.2%
		餅田	581	479	82.4%	102	17.6%
		餅田	128	22	17.0%	106	83.0%
		立花	371	264	71.1%	107	28.9%
		<b>小計</b>	<b>5,309</b>	<b>3,862</b>	<b>72.7%</b>	<b>1,447</b>	<b>27.3%</b>
	旧上川沿村	餌釣	360	268	74.2%	93	25.8%
		根下戸	206	201	97.6%	5	2.4%
		根下戸新町	240	140	58.3%	100	41.7%
		根下戸町	446	111	24.8%	335	75.2%
		山館	433	304	70.3%	129	29.7%
		小館花	409	397	97.2%	11	2.8%
		池内	945	825	87.3%	120	12.7%
<b>小計</b>		<b>3,287</b>	<b>2,492</b>	<b>75.8%</b>	<b>795</b>	<b>24.2%</b>	

表 鉄道・路線バスカバー率及びカバー人口（字別）※駅:800m、バス停:300m

平成17年 合併前	明治22年 合併前	字名	2012年(平成22年)国勢調査結果(100mメッシュ)				
			総人口	カバー人口	カバー率%	空白人口	空白%
大館市	旧真中村	小袴	97	0	0.0%	97	100.0%
		出川	177	80	45.3%	97	54.7%
		赤石	237	204	86.0%	33	14.0%
		大披	104	104	99.7%	0	0.3%
		板沢	318	313	98.6%	4	1.4%
		櫃崎	435	298	68.5%	137	31.5%
		<b>小計</b>	<b>1,367</b>	<b>999</b>	<b>73.0%</b>	<b>369</b>	<b>27.0%</b>
	旧二井田村	下川原	95	92	96.6%	3	3.4%
		大子内	120	85	71.0%	35	29.0%
		二井田	1,590	1,201	75.6%	388	24.4%
		比内前田	105	105	100.0%	0	0.0%
		本宮	205	195	95.2%	10	4.8%
		杉沢	63	63	100.0%	0	0.0%
		<b>小計</b>	<b>2,178</b>	<b>1,742</b>	<b>80.0%</b>	<b>436</b>	<b>20.0%</b>
田代町	旧早口村	外川原	159	132	83.2%	27	16.8%
		早口	2,626	2,261	86.1%	364	13.9%
		長坂	638	607	95.2%	31	4.8%
		<b>小計</b>	<b>3,423</b>	<b>3,001</b>	<b>87.7%</b>	<b>422</b>	<b>12.3%</b>
	旧山瀬村	岩瀬	2,523	1,702	67.5%	821	32.5%
		山田	866	374	43.2%	492	56.8%
<b>小計</b>	<b>3,390</b>	<b>2,077</b>	<b>61.3%</b>	<b>1,313</b>	<b>38.7%</b>		
比内町	旧西館村	小坪沢	56	0	0.0%	56	100.0%
		白沢水沢	46	0	0.0%	46	100.0%
		八木橋	473	0	0.0%	473	100.0%
		笹館	830	721	86.9%	109	13.1%
		達子	461	430	93.3%	31	6.7%
		谷地中	302	242	80.0%	61	20.0%
		片貝	780	480	61.5%	300	38.5%
	<b>小計</b>	<b>2,948</b>	<b>1,873</b>	<b>63.5%</b>	<b>1,076</b>	<b>36.5%</b>	
	旧扇田町	字扇田道下	11	0	0.0%	11	100.0%
		扇田	4,235	4,121	97.3%	114	2.7%
		<b>小計</b>	<b>4,246</b>	<b>4,121</b>	<b>97.0%</b>	<b>126</b>	<b>3.0%</b>
	旧東館村	新館	388	301	77.5%	87	22.5%
		中野	847	673	79.4%	174	20.6%
		独鈷	940	886	94.2%	55	5.8%
		味噌内	363	178	48.9%	185	51.1%
		<b>小計</b>	<b>2,538</b>	<b>2,037</b>	<b>80.3%</b>	<b>501</b>	<b>19.7%</b>
	旧大葛村	大葛	650	557	85.7%	93	14.3%
		<b>小計</b>	<b>650</b>	<b>557</b>	<b>85.7%</b>	<b>93</b>	<b>14.3%</b>
	<b>市全体</b>			<b>78,006</b>	<b>60,907</b>	<b>78.1%</b>	<b>17,099</b>

※カバー圏は、駅：800m、バス停：300m

※薄黄着色セルは、空白（カバーされていない）人口300人以上または空白率30%以上の字、薄赤着色セルは300人以上かつ30%以上の字を示す。

資料：大館市資料、国土数値情報

② 利用者数の推移・現状

主要駅の日平均乗車人員は、いずれの駅も減少傾向にあります。

路線バス利用者総数は、平成28(2016)年までのここ5年の間では、平成25(2013)年の125.2万人を境に減少に転じ、平成28(2016)年には、100万人を下回りました。

また、路線別では、地域間幹線系統である大館・鷹巣線、大館・小坂線、花輪・大館線では10万人以上となっていますが、地域内フィーダー系統の利用者数はもっとも少ない大森(1)線では1.5万人以下となっています。

表 主要駅の日平均乗車人員

	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
大館(人/日)	1,066	1,062	1,110	1,029
早口(人/日)	161	131	144	115
東大館(人/日)	405	224	211	191

資料：JR東日本ホームページ

(路線バス利用者総数：千人)

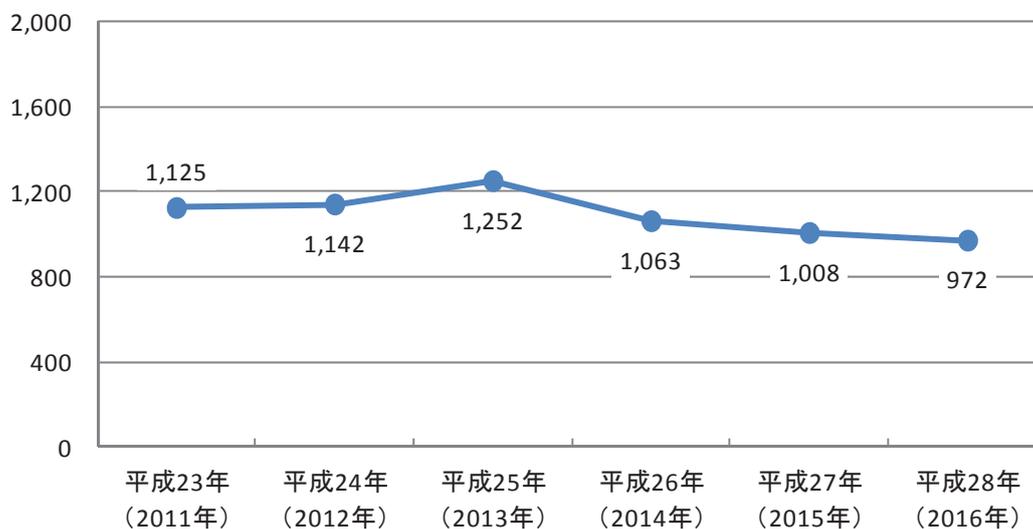


図 路線バス利用者総数

資料：大館市資料

表 路線バス利用者数（路線別）

（単位：人）

		平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)
利用者数 (総数)	1 山田線	26,805	-	-	-	-	-	-
	2 大野線	59,126	51,266	58,304	53,989	58,070	64,849	54,003
	3 大石渡(2)線	41,155	24,616	24,011	26,783	24,527	22,375	26,631
	4 大石渡(3)線	10,672	15,853	22,021	29,234	25,318	21,111	21,637
	5 大館・鷹巣線	116,533	58,665	83,109	107,485	87,134	79,637	125,050
	6 大館・鷹巣(2)線	26,749	38,603	-	-	-	-	-
	7 矢立(1)線	19,017	59,894	65,824	68,795	60,700	55,795	24,222
	8 矢立(2)線	74,957	-	-	-	-	-	34,990
	9 大森(1)線	11,371	43,174	48,231	44,126	43,295	40,870	11,398
	10 大森(2)線	84,458	-	-	-	-	-	-
	11 繋沢線	56,753	55,524	56,113	63,864	57,055	35,213	16,034
	12 繋沢(2)線	-	-	-	-	-	2,665	15,772
	13 二井山線	11,353	-	-	-	-	9,577	18,719
	14 花矢(1)線	43,454	85,767	88,453	86,871	86,807	61,222	21,044
	15 花矢(2)線	-	-	-	-	-	14,829	35,821
	16 花矢(3)線	18,080	-	-	-	-	-	-
	17 大館・小坂線	129,488	118,396	110,503	144,948	110,918	104,849	108,320
	18 小茂内線	35,252	-	-	-	-	-	-
	19 獅子ヶ森環状線	31,778	71,396	67,731	73,982	57,725	60,157	74,067
	20 獅子ヶ森(1)線	40,359	-	-	-	-	-	-
	21 十二所線	61,695	-	-	-	-	-	-
	22 中山線	2,312	-	-	-	-	-	-
	23 大谷(2)線	102,779	70,657	68,939	75,966	80,960	72,540	72,279
	24 中野線	70,166	61,323	74,248	69,840	65,953	57,955	61,986
	25 羽立(3)線	72,662	58,903	63,542	67,075	59,014	58,759	58,194
	26 南ヶ丘線	21,370	-	-	-	-	-	-
	27 市内循環線	67,935	21,326	23,091	22,287	7,162	4,204	-
	28 市内循環(2)線	-	46,225	51,970	49,512	40,265	40,311	41,106
	29 (普)米内沢・大館線	67,822	77,418	72,524	61,575	56,231	46,709	-
	30 (普)米内沢・大館(2)線	3,217	-	-	-	-	-	-
	31 花輪・大館線	168,995	129,948	127,165	168,599	102,143	110,391	106,419
	32 二井田線	11,810	14,834	13,048	14,812	17,684	20,268	20,802
	33 真中線	19,494	21,650	23,091	21,852	22,306	23,599	23,584
	計	1,507,617	1,125,438	1,141,918	1,251,595	1,063,267	1,007,885	972,078

資料：大館市資料

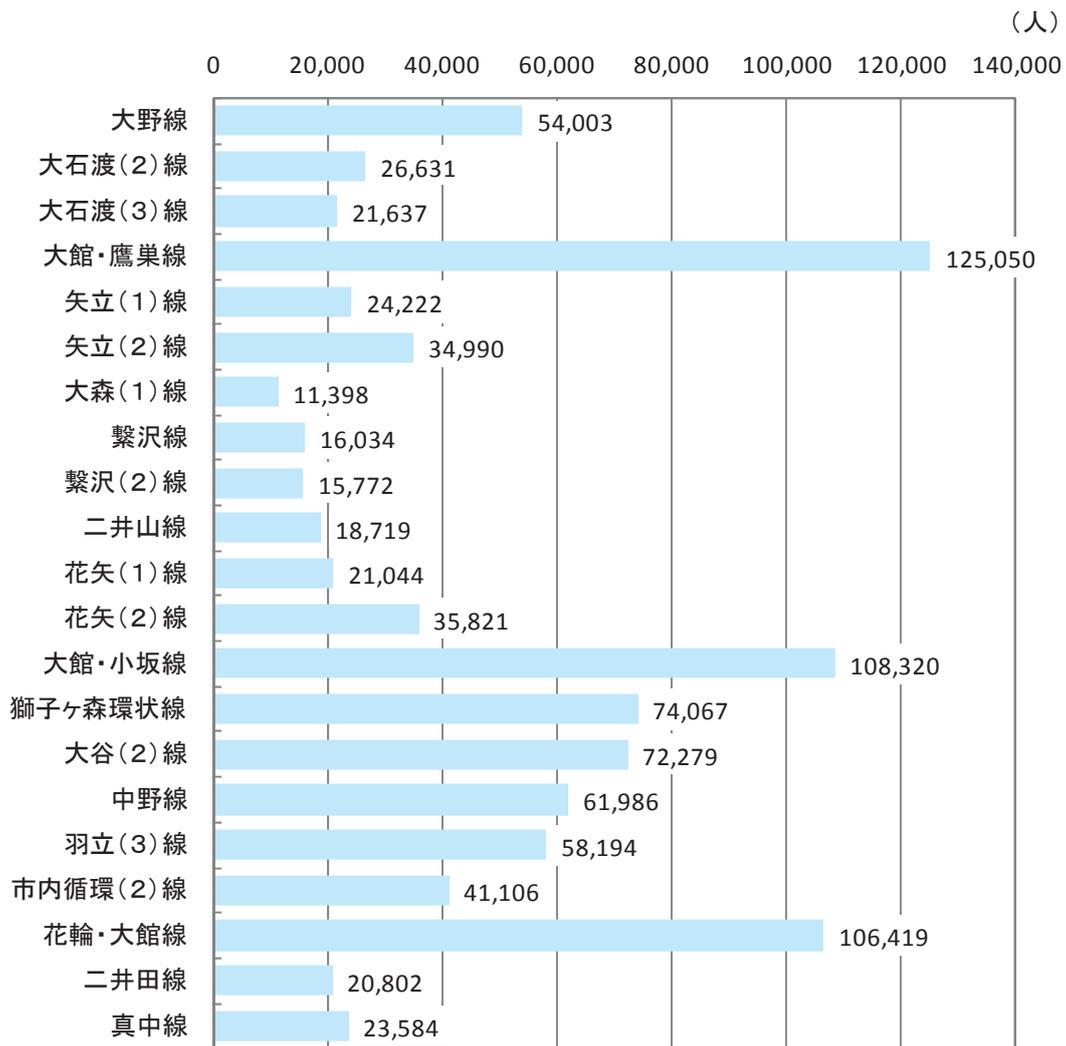


図 平成 28 (2016) 年路線バス利用者数 (路線別)

資料：大館市資料

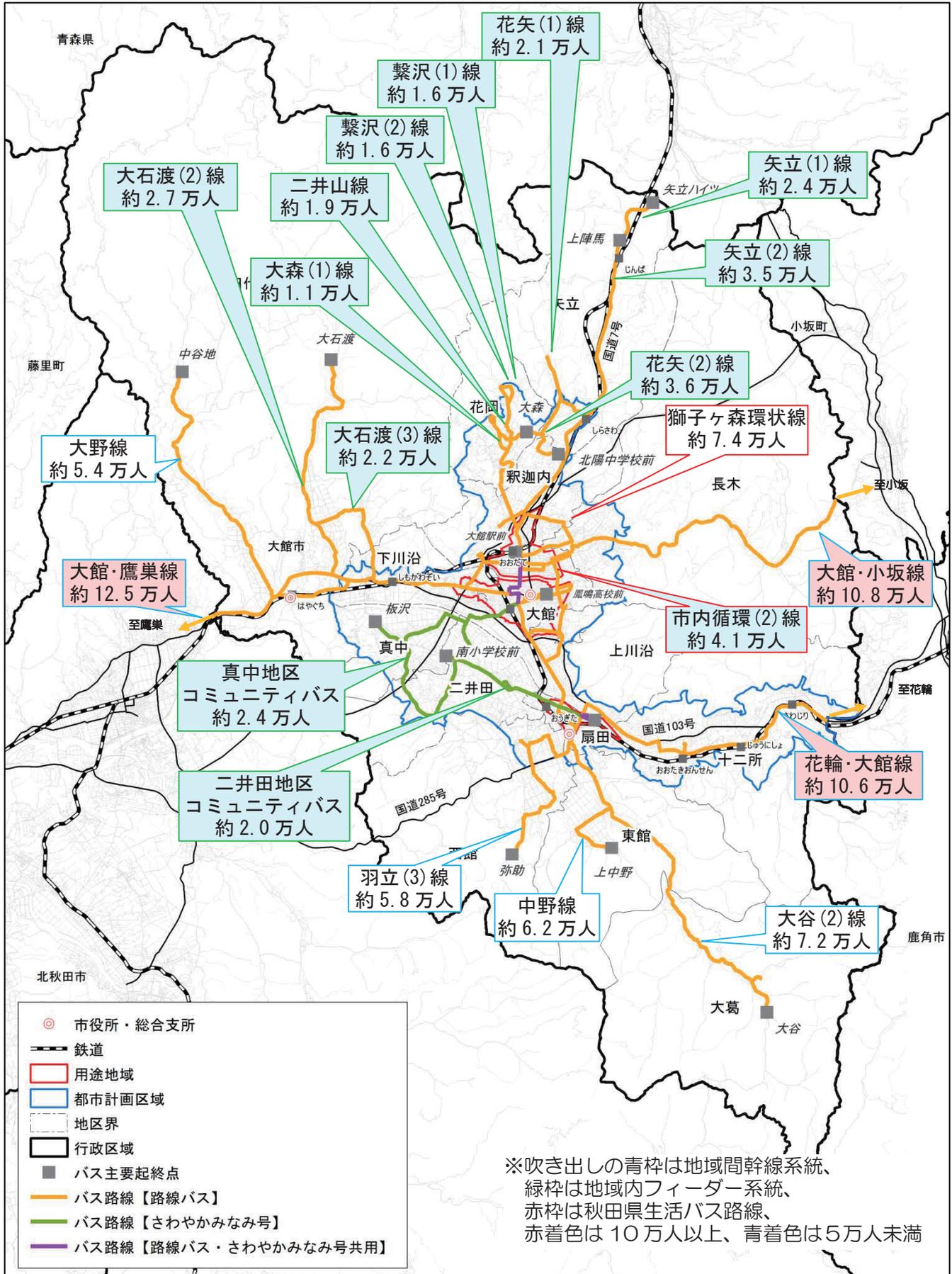


図 各バス路線の年間利用者数（平成 28（2016）年）

資料：大館市資料

### ③ 生活路線バス補助金の推移

当市では、赤字拡大路線の見直しや利用者の増加を図る継続的施策(安全運行遂行、サービス向上、ニーズへの対応)を推進してきましたが、市の補助金が大きく改善されるところまでは至っていない現状です。

平成28(2016)年度より、地域内フィーダー系統に対する県の補助制度が新設されたため、補助申請を移行しましたが、国庫補助金の上限額が漸減しており、将来にわたって地域の移動手段を維持・確保することがますます難しくなっています。

引き続き、国・県補助支援制度の活用を図っていきますが、補助採択基準を満たさなくなった場合、市の財政をさらに圧迫することが予想されます。

表 大館市が負担する生活路線補助金の推移

(単位: 路線数、千円)

年度	地域間幹線系統 (市補助)		地域内フィーダー系統 (県・市補助)		県単独補助路線 (県・市補助)		市単独補助路線 (市補助)		合計	
	路線数	千円	路線数	千円	路線数	千円	路線数	千円	路線数	千円
平成22年度 (2010年度)	8	58,540	-	-	12	55,272	0	0	20	113,812
平成23年度 (2011年度)	8	63,670	-	-	9	46,472	1	13,219	18	123,361
平成24年度 (2012年度)	8	63,294	-	-	8	38,776	1	11,537	17	113,607
平成25年度 (2013年度)	8	77,084	-	-	8	46,756	1	13,493	17	137,333
平成26年度 (2014年度)	8	85,356	-	-	8	47,711	1	12,926	17	145,993
平成27年度 (2015年度)	8	82,575	3	17,314	5	20,697	4	9,819	20	130,405
平成28年度 (2016年度)	7	92,949	10	49,060	2	9,529	0	0	19	151,538

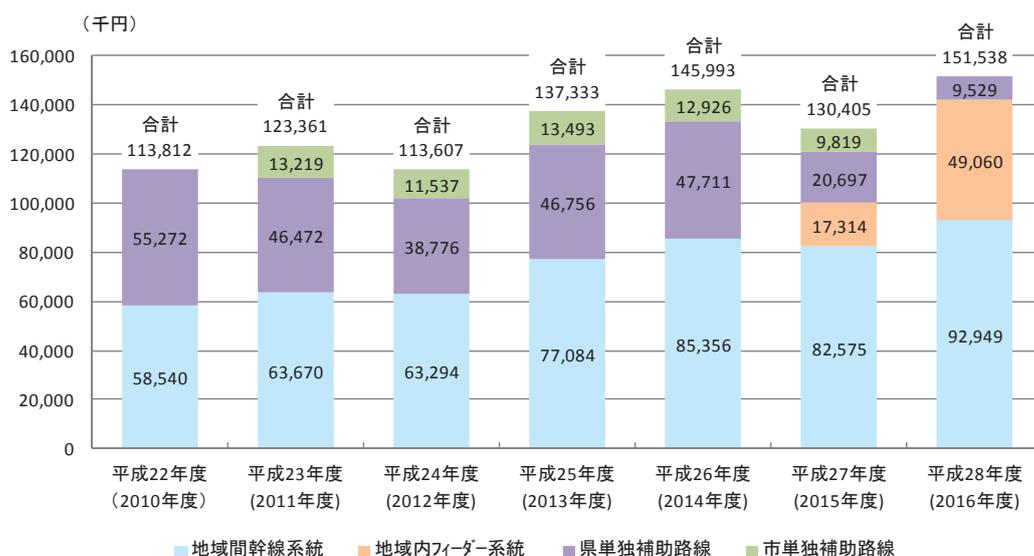


図 大館市が負担する生活路線補助金の推移

資料：大館市資料

## ④ その他バスなど

前項までで整理した路線バス以外のバスなどについて以下に整理します。

スクールバスは、小学校6校、中学校4校の計10校で運行しています。

病院送迎バスは、扇田病院、田代診療所で運行しています。

また、その他に、福祉タクシー・介護タクシー・福祉有償運送サービスとして、12事業者がタクシーを運行しています。

表 スクールバス運行概要

区分	学校名	備考
小学校	長木小	
	矢立小	
	東館小	
	山瀬小	田代中も乗車対象
	西館小	
	南小	秋北バス(株)委託
中学校	東中	
	田代中	秋北バス(株)委託、早口小、山瀬小も乗車対象
	比内中	秋北バス(株)委託
	北陽中	秋北バス(株)委託

資料：大館市資料

表 福祉タクシー等一覧（大館市移送サービス利用券の利用対象）

名称	住所
かつらタクシー	幸町13-16
花岡タクシー	幸町13-16
秋北タクシー	有浦三丁目4-18
新花矢タクシー	常盤木町12-22
比内タクシー	比内町扇田字下扇田45
さくら観光	釈迦内字山神台15-1
(株)ユニオン交通大館タクシー	字新町23-3
富士タクシー	字大町12
福祉タクシー菜の花	芦田子字賽神南12-2
旭タクシー	池内字上野153-34
シースマイル株式会社	字館下12-2
大館市社会福祉事業団	十二所字大水口4-5

資料：大館市資料

表 扇田病院送迎バス時刻表

扇田病院患者送迎バス時刻表

平成21年10月1日改正

中野(月・水)	
中野上バス停	8:45
中野中バス停	8:46
中野下バス停	8:47
長内沢児童館	8:51
五日市上島山商店	8:52
五日市下高橋商店	8:53
田尻バス停	8:54
大向田バス停	8:55
向田バス停	8:56
病院	9:05
◎帰り 病院発12:00	

羽立・前田野(水・金)	
羽立バス停	7:50
小新田菅原商店	7:51
笹館上バス停	7:52
笹館下堀口商店	7:53
水無農協前	7:55
前田野バス停	7:56
養護学校バス停	7:57
病院	8:07
◎帰り 病院発12:00	

弥助(月・木)	
弥助高橋良春	7:50
大巻吉田商店	7:52
谷地中バス停	7:54
大原木バス停	7:55
釣田菅久鉄工	8:00
達子仲谷商店	8:01
病院	8:08
◎帰り 病院発12:00	

扇田巡回(月～金)				
病院	8:30	9:30	10:30	11:30
朝日町宿内交差点	8:33	9:33	10:33	11:33
笹測福祉保健センター	8:34	9:34	10:34	11:34
八幡町役場バス停	8:35	9:35	10:35	11:35
八幡町神成スミ子氏宅前	8:36	9:36	10:36	11:36
新丁日通プロパン	8:37	9:37	10:37	11:37
比内丁メリスあきた北	8:38	9:38	10:38	11:38
比内丁仙台末治氏宅前	8:38	9:38	10:38	11:38
馬喰町	8:39	9:39	10:39	11:39
大町乳安商事	8:39	9:39	10:39	11:39
中町佐々木畳店	8:40	9:40	10:40	11:40
新町大和商店	8:40	9:40	10:40	11:40
市川市川療院	8:41	9:41	10:41	11:41
市川寛商店	8:41	9:41	10:41	11:41
病院	8:44	9:44	10:44	11:44

炭谷(火・金)	
炭谷横瀬晴蔵	8:45
日誌バス停	8:48
向日誌バス停	8:49
沢バス停	8:51
独鉢上小松ストア	8:54
独鉢中保育所	8:55
独鉢下小松鉄工	8:56
駒橋消防倉庫	8:58
野開バス停	9:00
病院	9:05
◎帰り 病院発12:00	

八木橋(水・金)	
一 通長谷部正志	8:45
八木橋一通入口	8:47
五輪台高橋勇悦	8:48
寺崎バス停	8:49
二ツ森バス停	8:52
片貝バス停	8:54
釣田下仲谷多市	8:55
病院	9:05
◎帰り 病院発12:00	

小泉(火・木)	
白沢会館	7:50
小坪沢高橋喜一郎	7:55
水沢消防倉庫	7:58
板戸松江商店	8:02
畑沢消防倉庫	8:04
下沼田入口	8:08
沼田吉原鉄工	8:09
病院	8:19
◎帰り 病院発12:00	

味噌内(月・木)	
二又スクールバス停	8:45
竹原スクールバス停	8:47
中味噌内柴田商店	8:49
下味噌内宿内入口	8:50
新館バス停	8:51
真館バス停	8:52
病院	8:57
◎帰り 病院発12:00	

大葛(火・木)	
金山加賀谷繁美	8:35
温泉バス停	8:37
大谷長内商店	8:40
大葛上バス停	8:43
大葛中下バス停	8:44
森越佐藤商店	8:45
長部バス停	8:47
大渡バス停	8:50
夏焼バス停	8:51
森合島山商店	8:54
病院	9:20
◎帰り 病院発12:00	

十二所(月・水)	
小清水阿部一氏宅前	7:40
浦山佐々木洋一氏宅前	7:43
猿間土地改良記念碑前	7:49
葛原葛原会館前	7:57
沢尻玉形工務店前	8:02
別所温泉前	8:09
上新町モードレット前	8:15
中町佐藤時江商店前	8:18
田町農協スーパー前	8:20
十二所長興寺前	8:22
平内平内バス停前	8:24
大滝大滝神社前	8:26
軽井沢労災病院前	8:28
扇田病院	8:37
◎帰り 病院発12:00	

二井田(火・金)	
赤石バス停	7:45
出川バス停	7:47
大抜バス停	7:49
大子内羽立バス停	7:52
〃バス停	7:55
杉沢バス停	7:58
前田消防倉庫	8:01
本宮秋本酒店前	8:03
三浦南駐在所前	8:08
高村仲澤勇市宅前	8:11
〃泉酒店前	8:13
〃虹川商店前	8:15
二井田農協マーケット前	8:17
〃入口バス停	8:19
病院	8:27
◎帰り 病院発12:00	

※ 毎日13:30病院発(外来診療が延びた場合) 扇田地区および曜日別各地区

表 田代診療所送迎バス時刻表

送迎者巡回日程表(2016年12月4日)

(月曜日)	1	2	3	4	5	6	7	8		
(月曜日)	山田	赤川	上岩瀬	早口駅	駐在所	赤沼	岩瀬	軽石岱		
	8時30分	8時35分	8時40分	9時15分	9時20分	9時25分	9時30分	9時35分		
(火曜日)	山田	赤川	上岩瀬	坂地	大巻	駐在所	赤沼	岩瀬	軽石岱	
	8時30分	8時35分	8時40分	9時10分	9時15分	9時20分	9時25分	9時30分	9時35分	
(水曜日)	山田	赤川	上岩瀬	早口駅	駐在所	赤沼	岩瀬	軽石岱		
	8時30分	8時35分	8時40分	9時15分	9時20分	9時25分	9時30分	9時35分		
(木曜日)	9	10	11	12	早口駅	駐在所	赤沼	岩瀬	軽石岱	
	高岨	大野	岩野目	中仕田	9時15分	9時20分	9時25分	9時30分	9時35分	
(金曜日)	山田	赤川	早口駅	駐在所	赤沼	岩瀬	軽石岱	13	14	15
	8時30分	8時35分	9時15分	9時20分	9時25分	9時30分	9時35分	10時00分	10時05分	10時10分

☆ 比立内本郷 については連絡あった時に対応する

資料：大館市資料

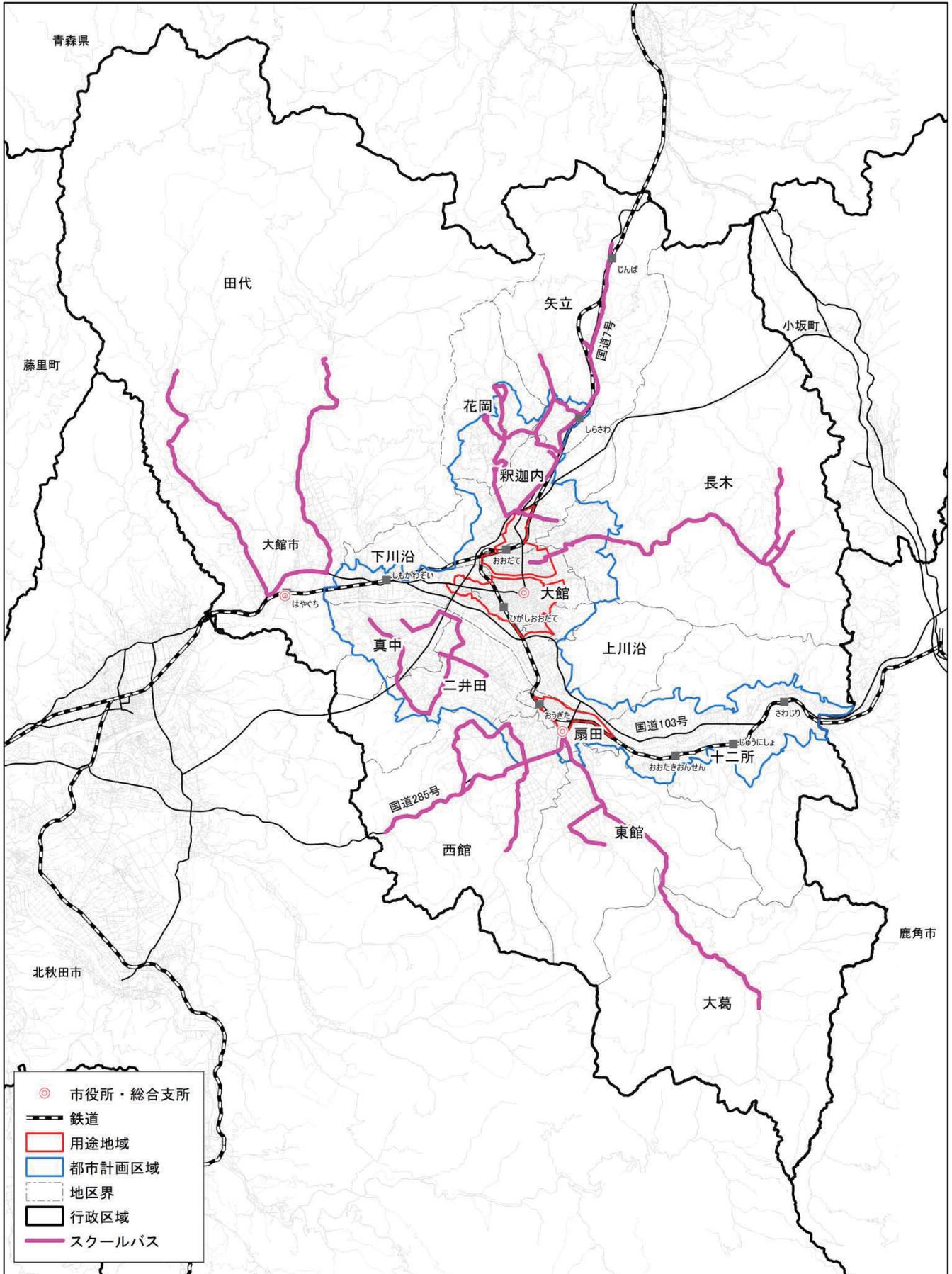


図 スクールバス路線図

資料：大館市資料

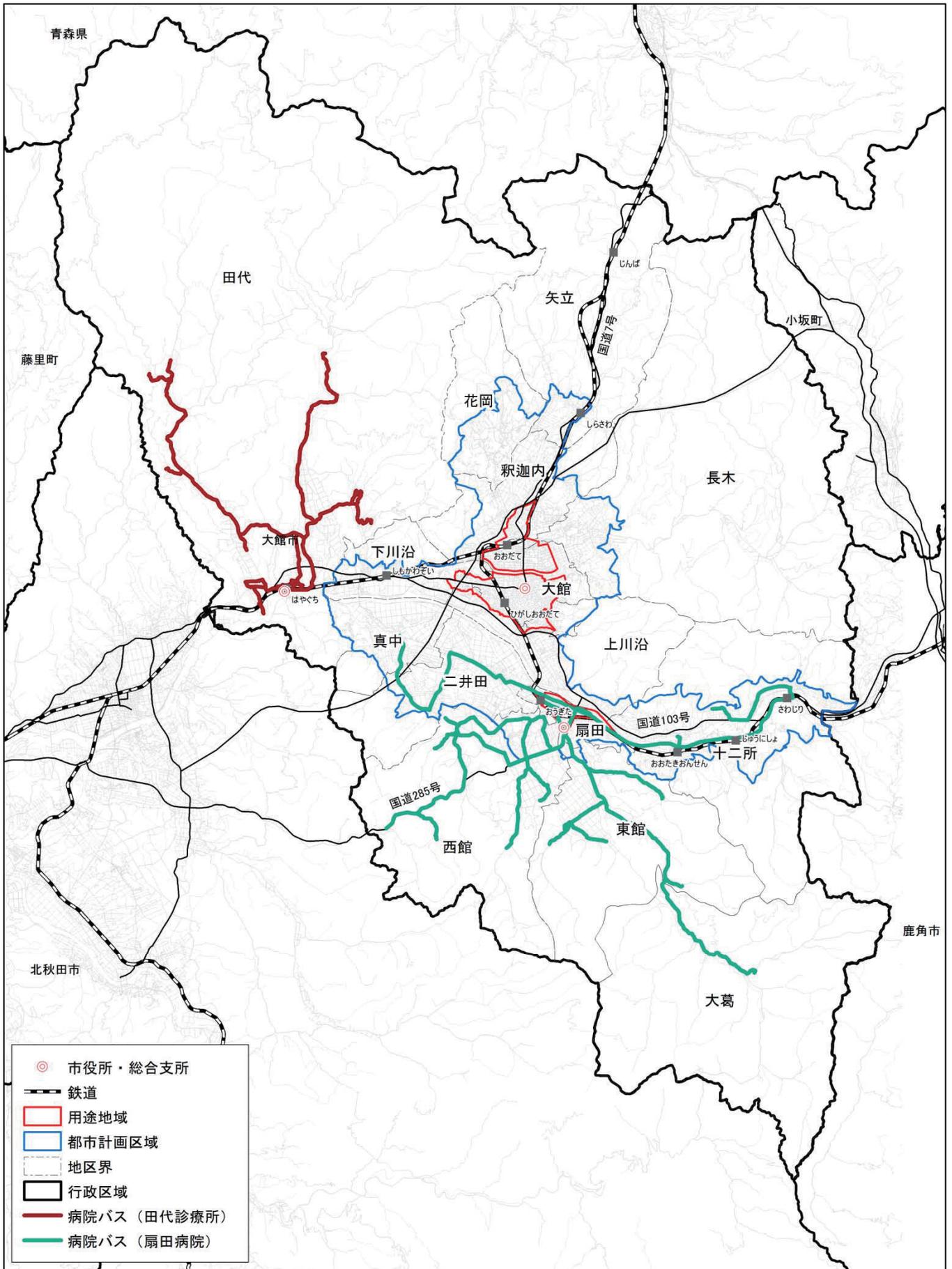


図 病院送迎バス路線図

資料：大館市資料

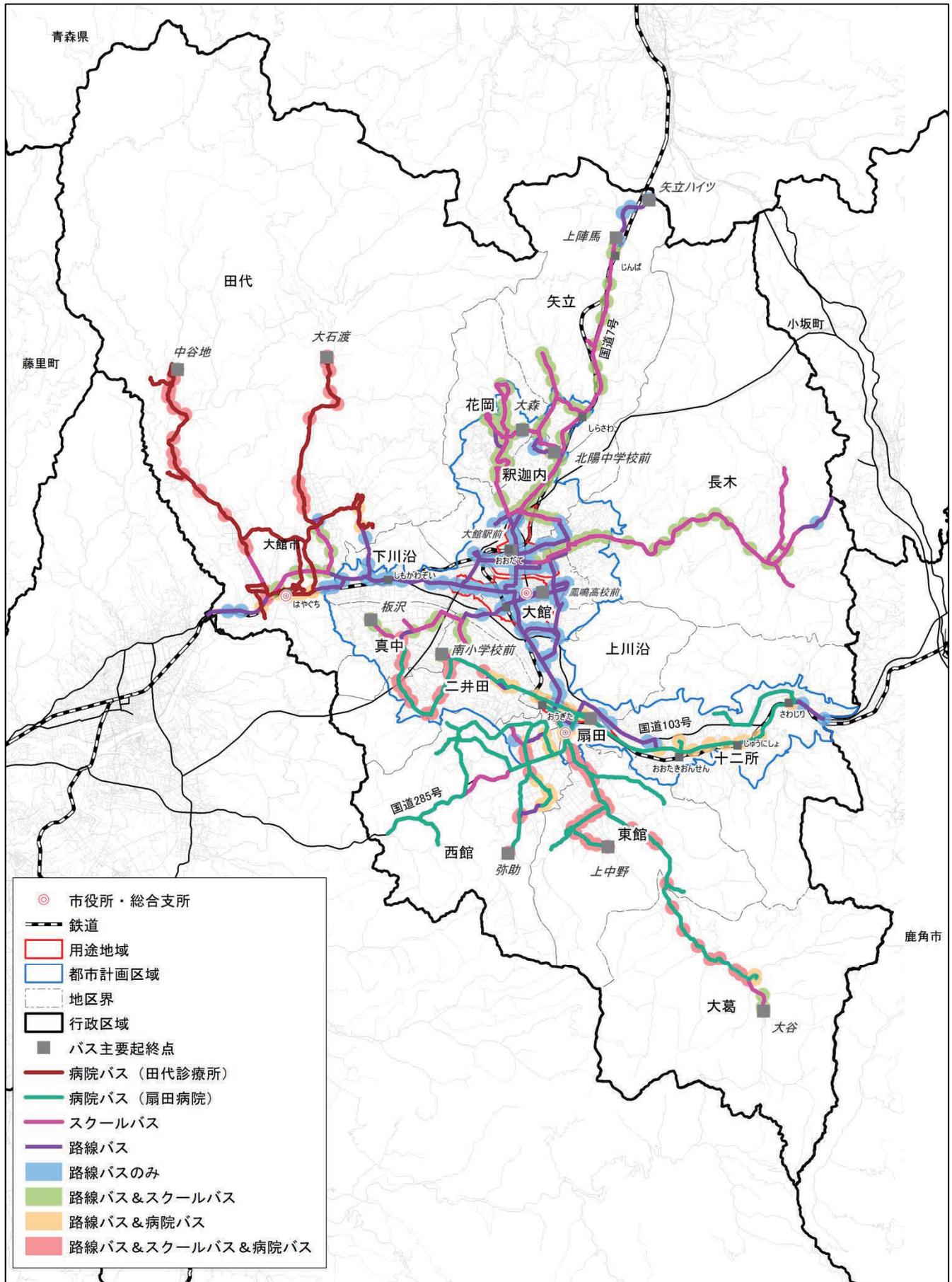


図 各バスの利用圏域

資料：大館市資料

## ⑤ その他サービスなど

### ア 移送サービス利用券

通院したり福祉制度の利用や申請をしたりする際に、一般の交通機関を利用することが困難な高齢者や障害者（満65歳以上）を対象として、福祉タクシー（リフト付車両及びストレッチャー装着ワゴン）を利用する場合、月あたり2枚の移送サービス利用券を交付しています。

対象は、市民税非課税世帯に属する要介護4または要介護5の認定を受けている方、市民税非課税世帯に属する車イスを常時利用している方です。

片道の移送所要時間により、次のとおり給付となります。

- ・ 30分以内 1,500円
- ・ 1時間以内 2,000円
- ・ 1時間を超える 2,500円

### イ 高齢者バス券

遠隔地の医療機関へ通院のため定期的にバスを利用し、その運賃が高額となっている65歳以上の市民を対象に、1年度あたり5,000円分のバス回数券を交付しています。（以下は対象外）

- (1) 医療機関までのバス運賃が片道400円未満  
（身体障害者手帳の交付を受けている場合は、バス運賃割引制度を適用後の額が片道400円未満）
- (2) 寝たきりや認知症のため、一人でバスを利用できない
- (3) 移送サービス利用券の交付を受けている
- (4) 重度心身障害者（児）移送費給付を受けている
- (5) 市民税課税世帯に属する

資料：大館市ホームページ

## (2) 利用者実態と住民意向

### ① 平成 28（2016）年度「公共交通に関するアンケート」

【調査期間】平成 28（2016）年 9 月 22 日及び 10 月 1 日～31 日

【調査対象】平成 28（2016）年 9 月 22 日実施「バス&ウォーク」参加者及び中央公民館及び地区公民館利用者（高齢者学級、サークル）のアンケート協力者

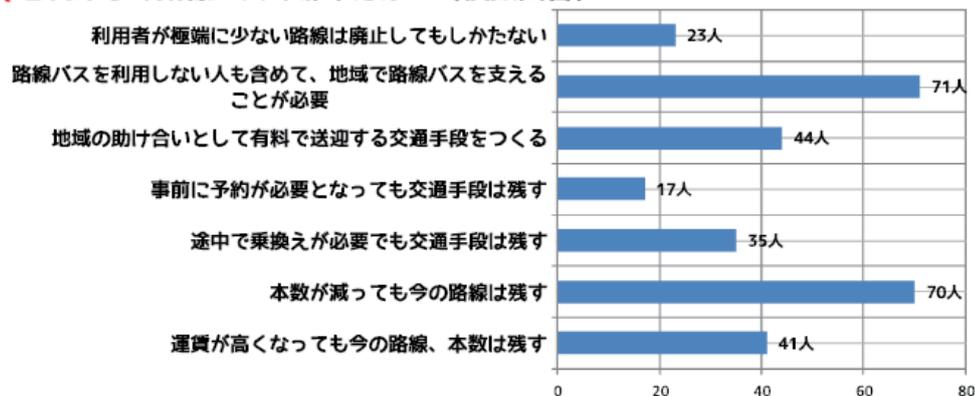
【調査方法】バス&ウォーク参加者には当日休憩時間に、公民館利用者には来館時配布・回収した。

【回答状況】合計 212 枚（バス&ウォーク 21 枚、公民館利用者 191 枚）

【アンケート結果（概要）】

- ・今回は例年の設問に加えて、得とく定期券の認知度、利用度についても調査した。得とく定期券は開始から 4 年が経過しているが、認知度は 52%（知らなかった 24%、無回答 24%）だった。また、このうち利用者は 17 人だった。
- ・バスを利用しているかどうかの問いに対しては、（ほとんど）利用していない割合が 65%と最も多く、その理由としては自家用車の利用が多かった。これについては、今後自家用車を利用できなくなった際は、自由回答として 6 人が記載していることからしても、バス等公共交通への需要が増えると思込まれる。
- ・バス利用者は主に、通院と買い物で利用しているとの結果が出た（全 106 件の複数回答のうち通院 43 件、買い物 40 件）。
- ・運転免許保有者（145 人）のうち、約半数の 70 人が 75 歳以上になっても運転を続けたいと答えた。
- ・これからの路線バスのあり方についての問い（複数選択式）に対し、「路線バスを利用しない人も含めて地域で路線バスを支える事が必要」「本数が減っても今の路線は残す」が 71 人、70 人と多く、次いで「地域の助け合いとして有料で送迎する交通手段を作る」が 44 人、「運賃が高くなっても今の路線、本数は残す」が 40 人だった。やはり路線バスの必要性については十分認識しているものの、実際の利用には結びつかないのが現状のようである。

### Q これからの路線バスのあり方は？（複数回答）



② 平成 28（2016）年度座談会での意見

【塞の神地区】（平成 28（2016）年 12 月 9 日）

- ・ 運転免許の返上が進まないのは、返上後の代替手段がないからだ。
- ・ 町内のひとはバスは使わない。必要なときは樹海モールやイオンまで車に乗せていってもらったり、歩いたりしている。
- ・ 今まで（前回の座談会で出されたバス運行の）報告に来ないし、もう諦めていた。
- ・ 子どもたちは冬は皆、親の送迎で通学している。
- ・ 地元の福祉タクシーは車いす用で乗車可能人数は 3 人程度ではないか。
- ・ 今後は福祉の立場で公共交通を走らせてほしい。そのために教育委員会、福祉部との連携が必要。

※町内会が主体となったデマンド型タクシー試験運行の事例紹介（小坂町）に対して

- ・ 町内に福祉タクシーの事業者がいるので、そのタクシーを利用できればいいのではないか。週 1 回からのスタートでもよい。
- ・ デマンド型タクシーが運行した場合の利用意向は、現時点では低い。

【八木橋地区】（平成 29（2017）年 3 月 28 日）

- ・ 地元にはバスが走っておらず、高齢者が買い物に行くときには扇田病院の送迎サービスを利用しているが、車内が混んで狭くなるので、肩身が狭く利用しづらい。
- ・ 近くには弥助行のバスが走っているが、こちらにも午前中 1 本でいいからバスを走らせてもらいたい。
- ・ 教育委員会のスクールバスは、いつも 2 人か 3 人しか乗ってないのにあんな大きいバスは、無駄でしかない。
- ・ 自分は運転できないので、乗せてあげると言われるけど、毎回は気が引けるので、遠慮してしまう。なので、今は食材の宅配を利用している。でも急に何か欲しいものがでた時に困っている。
- ・ 移動の足がないから水無のバス停まで（2,3 キロ）歩いている人もいる。
- ・ 大谷行のバスなど、いつも誰も乗っていない。なぜ走らせているのか。
- ・ 県南では、スーパーが運行するバスの事例がある。このような活動を大館でも働きかけてもらいたい。
- ・ 免許を返納したいけど、足が無くなると困るから返せない。また、近所の人を乗せたいけど、どんどん自分も年を取って危険な目にあわせるかもしれないから、簡単に乗せるとは言いづらい。
- ・ 以前、扇田病院バスの病院利用者以外（買い物での）利用を認めてくれていた経緯がある。その後だいぶ時間が経ったこともあって、状況が変化してしまった。今では通院以外の利用を制限しているが、これを認めてもらえるのが一番いい。

## ③ 公共交通不便地域住民アンケート

## a) 調査概要

■調査対象 ※平成 28（2016）年度座談会を開催した2地区を対象

長木地区：塞さいのなみの神

西館地区：寺崎てらさき、八木橋やきはし、五輪台ごりんたい、一通いっとおり、畑沢はたけさわ、板戸いたど、水沢みずさわ、白沢しらさわ、小坪沢おつぼさわ

## ■調査方法

【配布方法】市より各行政区長へ配布、区長から各世帯へ手渡しにて配布

【回収方法】記入後、各行政区長へ渡して頂く。

## ■調査期間

平成 29（2017）年9月 7日（木）～9月24日（日）

## ■配布数・回収数・回収率

地区名称	配布数	回収数	回収率	
長木地区	①塞の神	195	98	50.3%
西館地区	②寺崎	87	48	55.2%
	③八木橋	156	69	44.2%
	④畑沢	45	31	68.9%
	⑤板戸	120	50	41.7%
	⑥水沢	33	9	27.3%
	⑦白沢	30	13	43.3%
	⑧小坪沢	45	23	51.1%
地区不明		5	-	
合計	711	346	48.7%	

※「五輪台」と「一通」は、「八木橋」より配布しているため、回収数も「八木橋」に含む

## ■調査項目

大項目	設問内容
回答者属性	居住地域、性別、年齢、職業
免許や車の保有について	運転免許・自動車の保有有無、免許返納予定
日常生活の交通手段について	送迎、付き添いや介助、困っているか
日ごろの外出について	目的、頻度、目的地、時間帯
公共交通利用意向について	外出機会が増えるか、乗合タクシー利用意向
日ごろの移動手段	手段と、移動に困っている経路、その理由

b) 調査結果

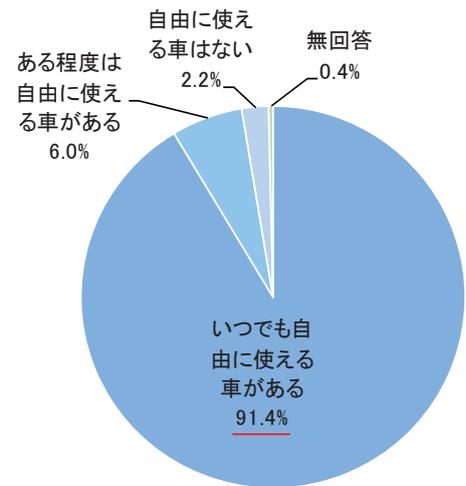
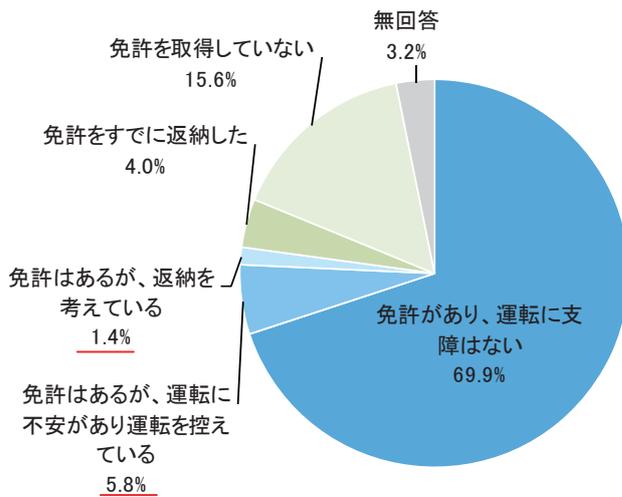
調査結果から、主要な設問を抜粋して以下に示します。

■自動車免許の有無について

- ・約7%の方は運転に不安を抱えていたり、返納を考えている。

■自動車の保有状況について

- ・免許を持っている方のうち、約97%の方は自由に使える車がある。

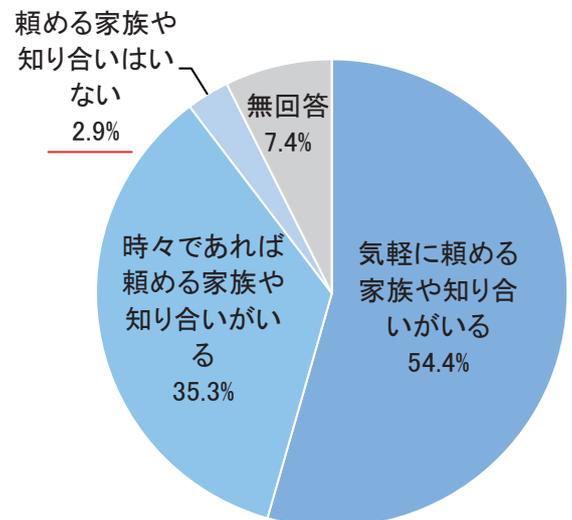
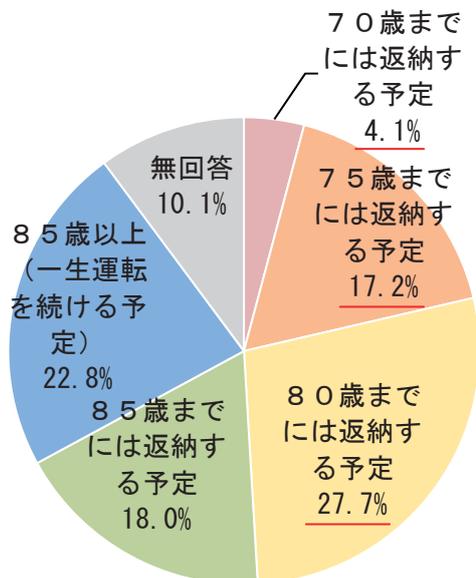


■自動車免許の返納予定

- ・約49%の方が80歳までに返納する予定である。

■免許を保有していない方の移動手段

- ・約3%の方は送迎を頼める方がいない状況である。



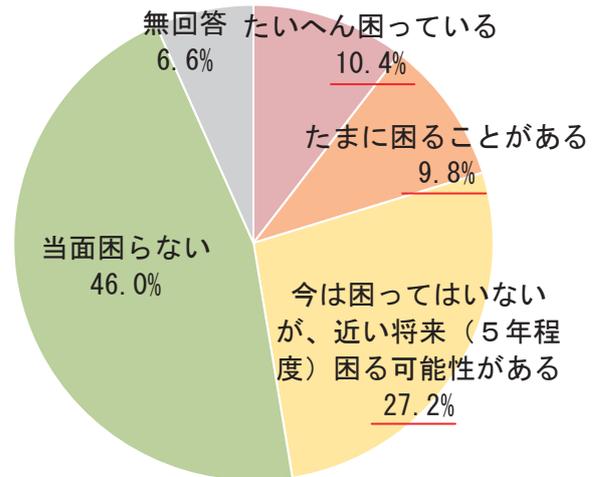
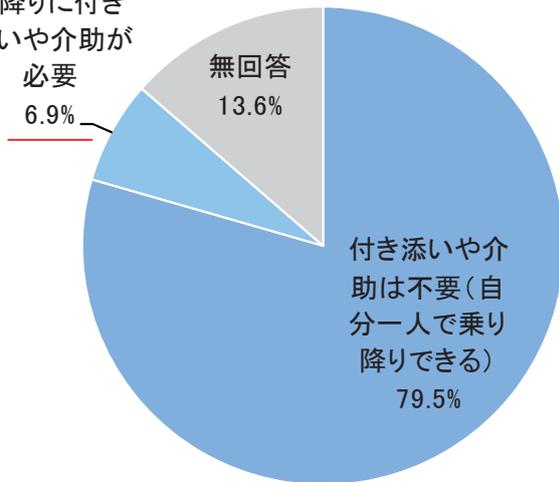
■付き添いや介助の必要性

・ 7%の方は、公共交通の乗降に付き添いや介助を必要としている状況である。

■交通手段がなくて困ること

・ 約20%の方が交通手段がなく困っている。近い将来、困る方は約47%となる。

公共交通の乗り降りに付き添いや介助が必要

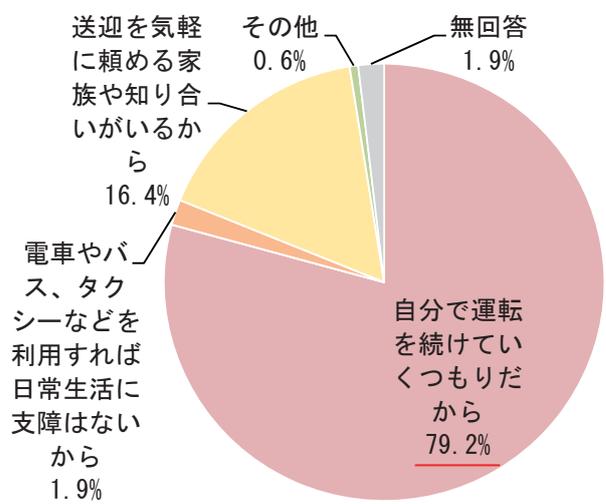
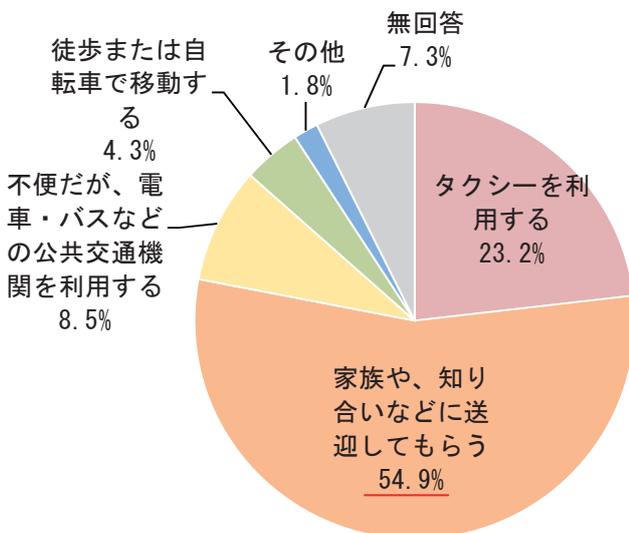


■交通手段がなくて困った時の対処法

・ 約55%の方は、誰かに依頼して送迎してもらっている状況である。

■交通手段がなくても当面困らない理由

・ 約79%の方が自分で運転を続けて生活を維持していく予定である。

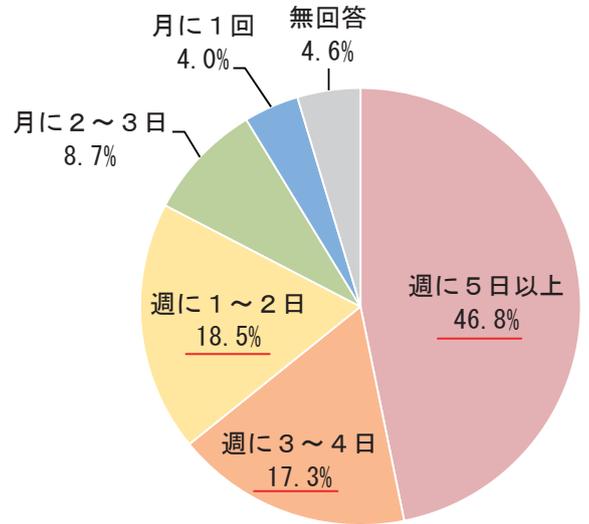
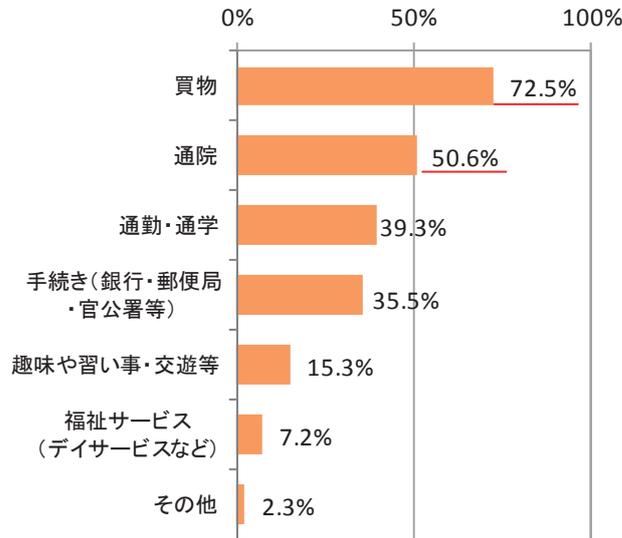


■ 日ごろの外出の目的

・ 買い物が約73%、通院が約51%と半数を超えている。

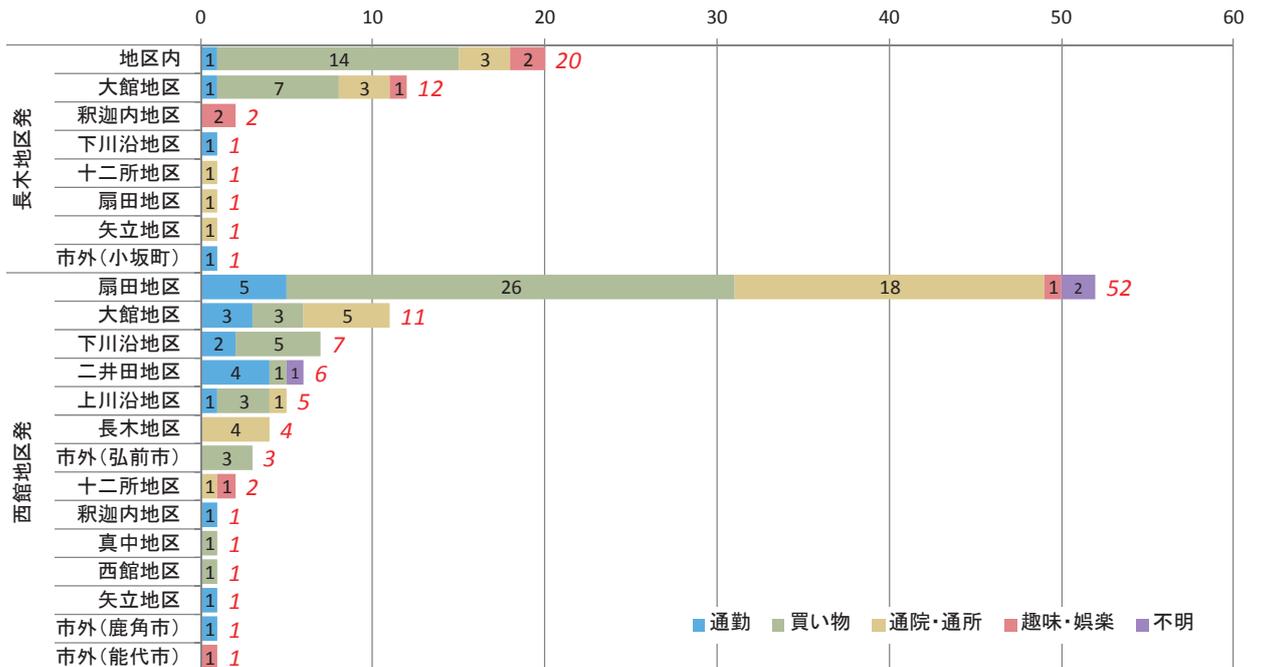
■ 日ごろの外出の頻度

・ 約83%の方は、週に1回以上外出されている。



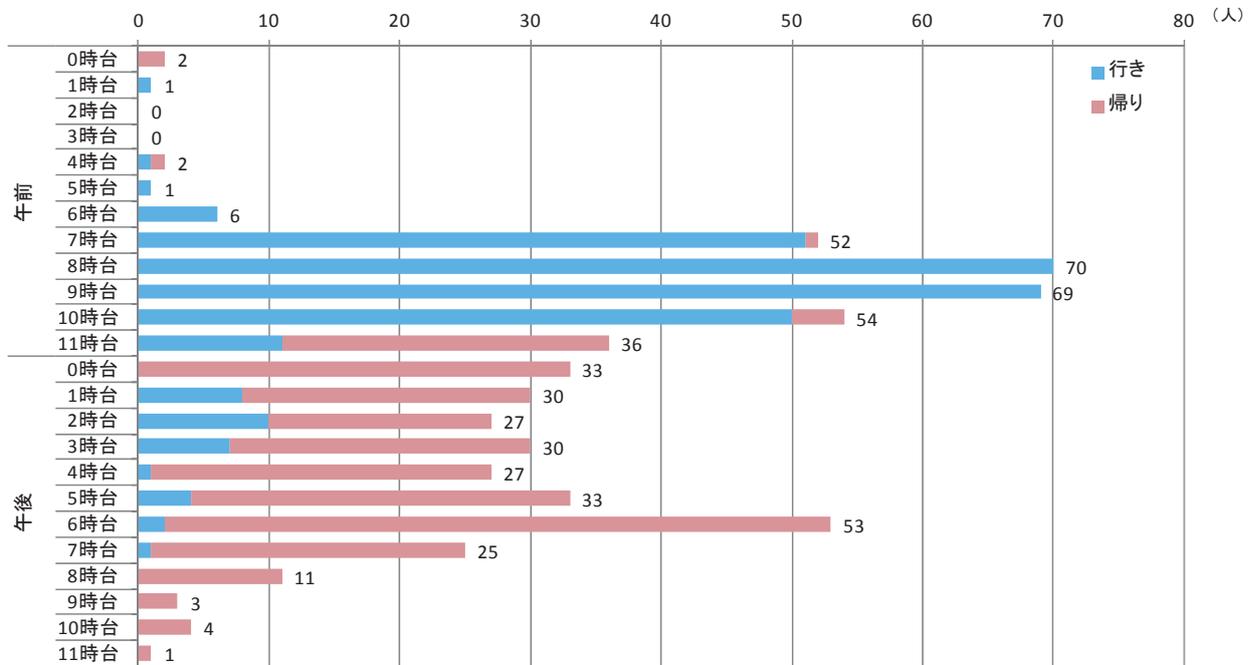
■ 日ごろよく外出する地区

・ 日ごろの外出先について、地区別・目的別に見ると、長木地区は、「地区内での買い物」、西館地区は、「扇田地区での買い物」が最も多くなっている。



■日ごろよく外出する時間

・外出する時間帯は、「行き」では「午前7時台から午前10時台」、「帰り」は「午前11時台から午後5時台」までほぼ一定数であり、「午後6時台」が帰宅のピークである。

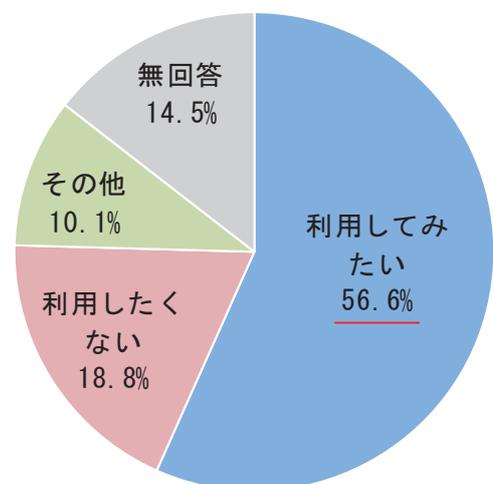
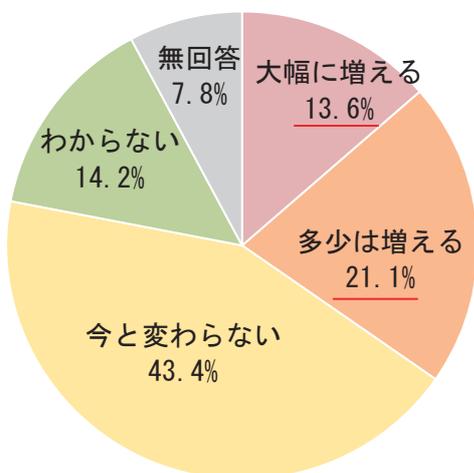


■公共交通の改善による外出機会

・約35%の方が、公共交通が改善された場合、「外出の機会が増える」と回答。

■乗合いタクシーの利用意向

・約57%の方が乗合いタクシーが導入された際の利用に積極的である。



#### ④ 一般市民・高校生アンケート

##### a) 調査概要

###### ■調査対象

一般市民：市内在住 18 歳以上 2,000 人

高校生：大館桂桜高校・大館国際情報学院高校・大館鳳鳴高校 1,926 人

###### ■調査方法

一般市民：郵送配布・郵送回収

高校生：高校に配布・回収

###### ■調査期間

平成 29 (2017) 年 9 月～10 月

###### ■配布数・回収数・回収率

	A：配布数	B：回収数	C：回収率 (B/A)
一般市民	2,000 票	883 票	44.1%
高校生	1,926 票	1,871 票	97.1%

###### ■調査項目

調査対象	主な設問
一般市民	■あなたの生活・行動について ■大館市での暮らしについて ■移動のしやすさ・公共交通について ■今後のまちづくりについて
高校生	■大館市の暮らしやすさ・過ごしやすさについて ■将来について ■今後のまちづくりについて

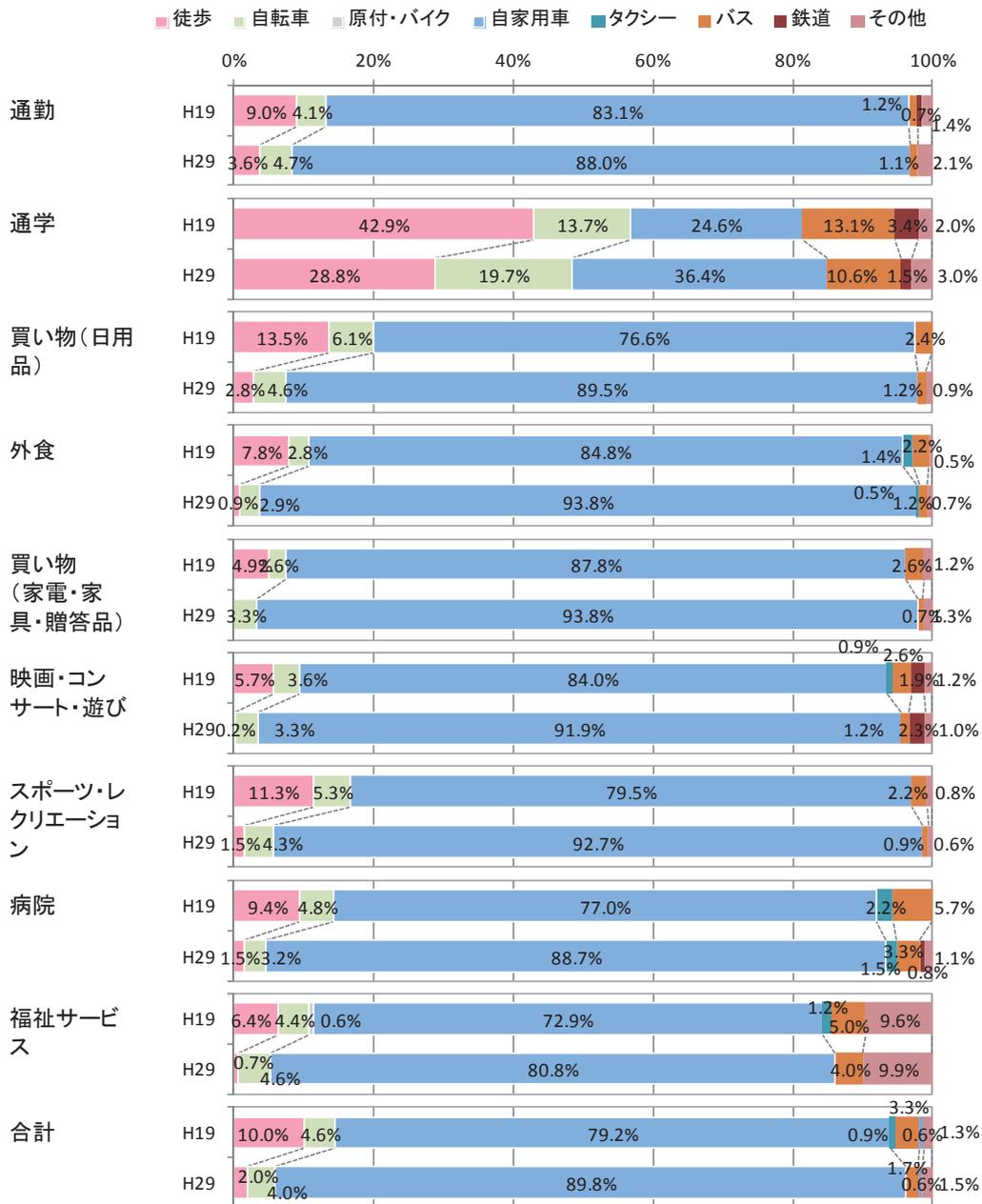
b) 調査結果

調査項目のうち、公共交通に関連のある項目を抜粋して、以下に結果を示します。

■主な交通手段

最もよく使われる交通手段は、「通学」を除き、すべての項目でほぼ8割以上が「自家用車」を使用するとの回答になっています。

10年前と比較すると、全ての目的で「バス」の利用が減少し、全ての目的合計では、「自家用車」を使用するとの回答が10.6%増加しています。一方、「徒歩」「自転車」「バス」は約半数以下に低下しています。

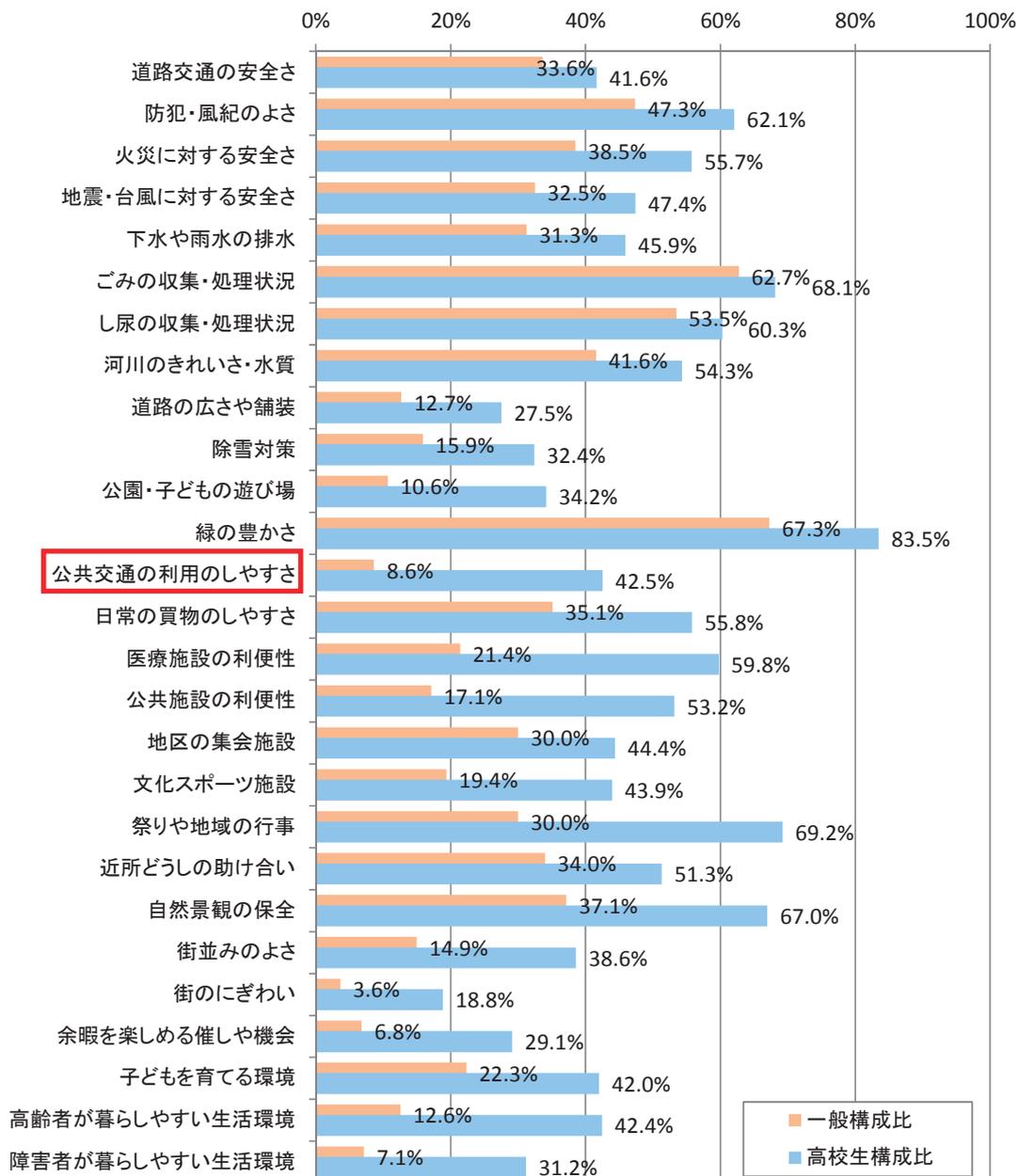


※無回答を除いた割合※単一回答

## ■大館市の暮らしやすさについての満足度

「公共交通の利用のしやすさ」について、一般では「満足」が 8.6%と少なく、「不満」が 42.5%と多く、全項目の中でも低い満足度となっており、過年度（平成 19（2007）年）実施アンケート結果と比較しても満足度が大きく下がっています。

高校生は、「満足」が 42.5%と高くなっていますが、全項目の中では 17 番目であり、全体では低くなっています。

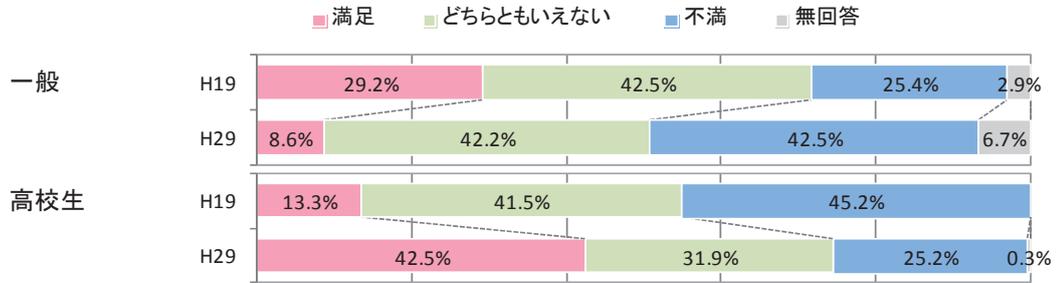


※複数回答 一般 n=883・高校生 n=1,871

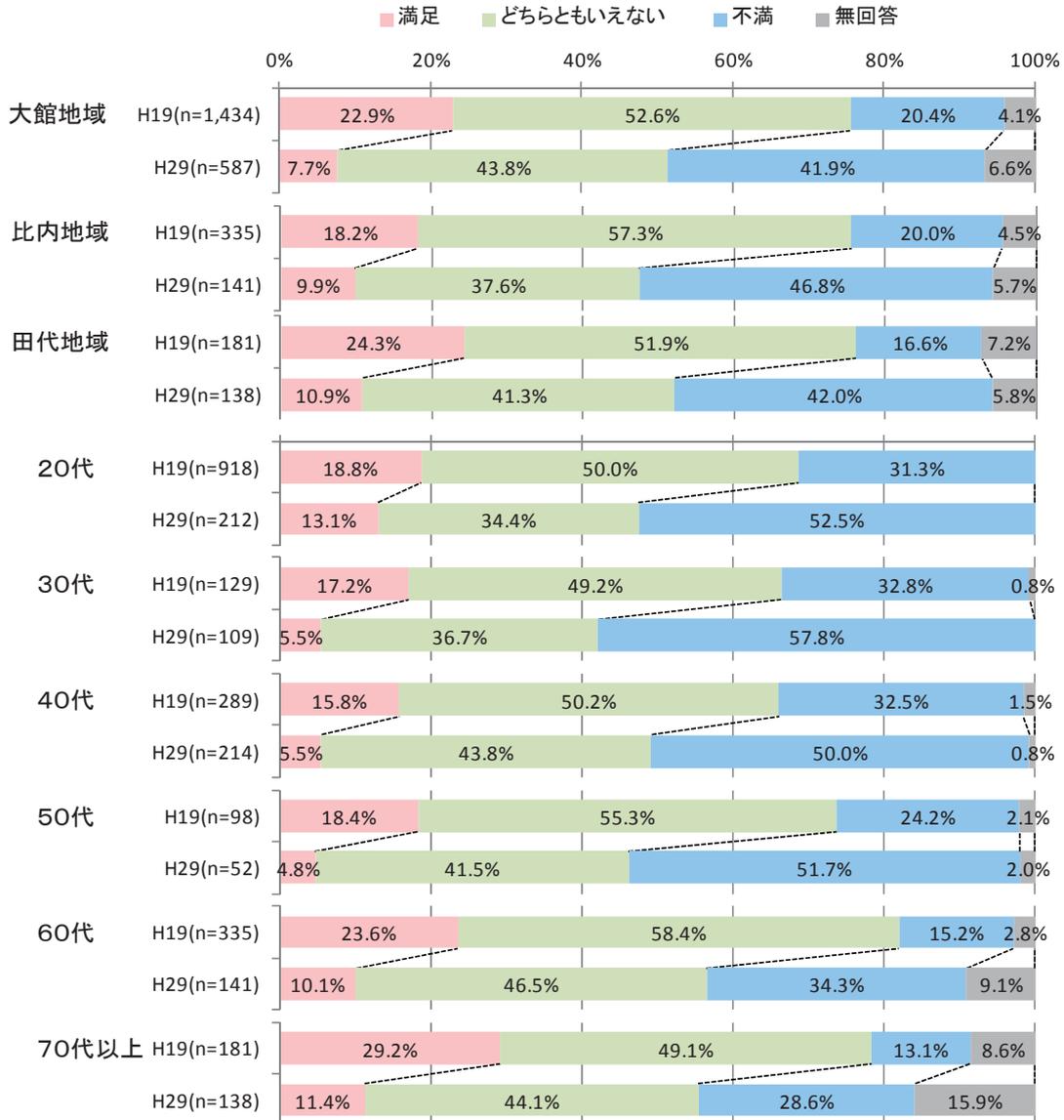
■「公共交通の利用のしやすさ」満足度の過年度との比較、地域別・年齢別の比較

過年度と比較すると、満足度が一般では低下、高校生では上昇しています。

一方、地域別では大館地域で、年齢別では30代~50代で満足度が低くなっており、子育て世代で不満を感じている方が多いと推測されます。

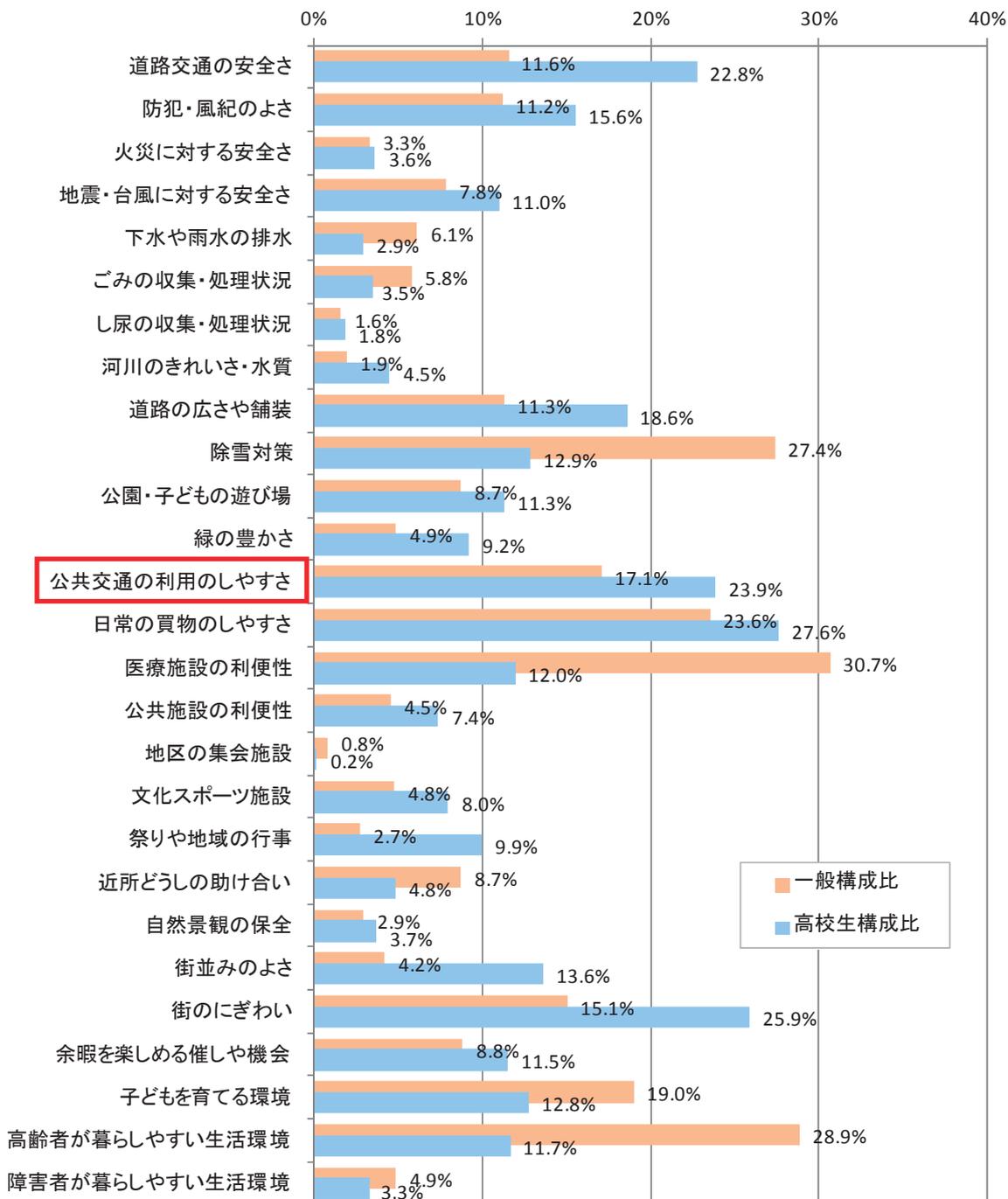


(一般の地域別・年齢別)



## ■重要視する暮らしやすさの項目

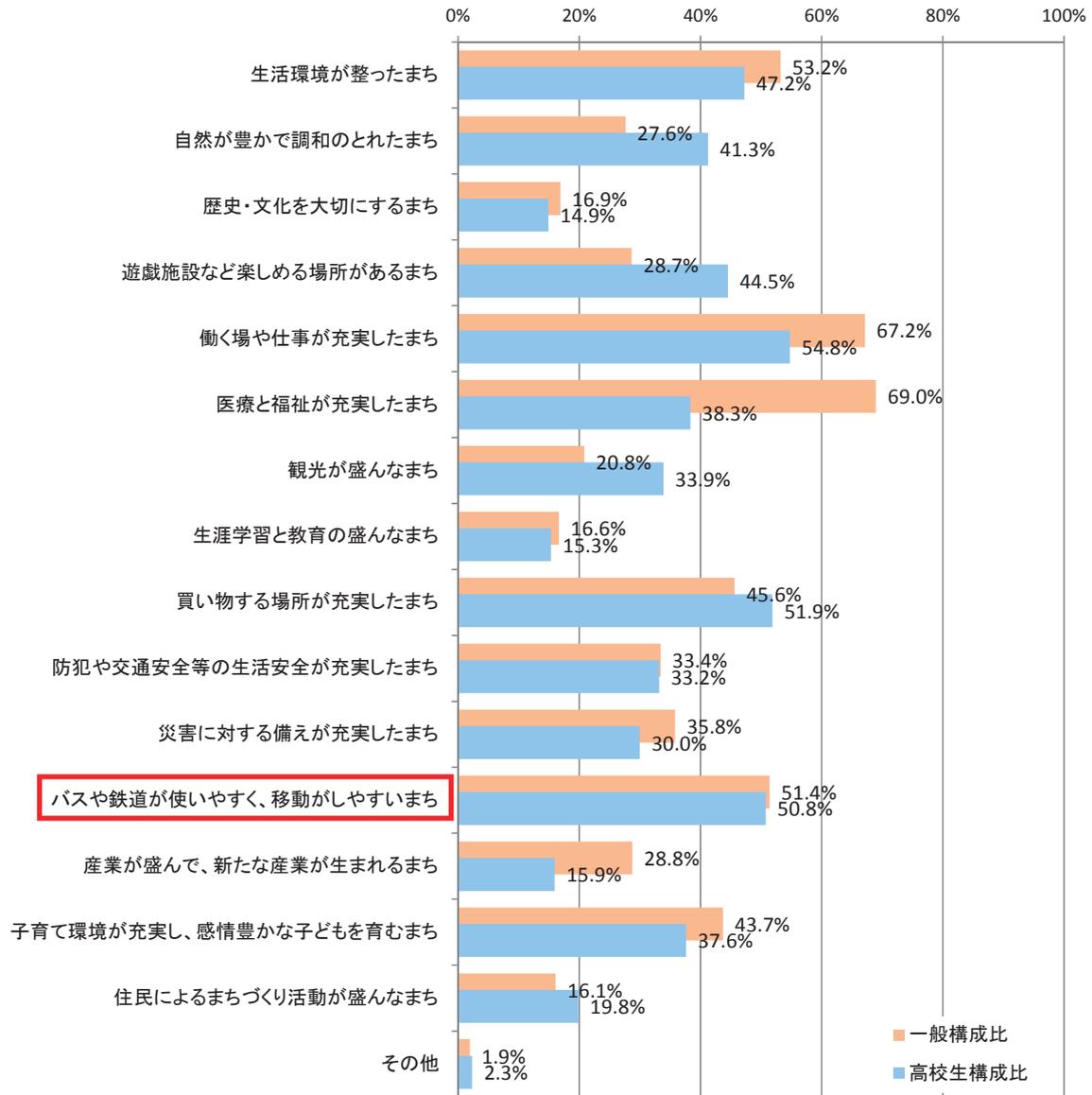
一方、重要視する暮らしやすさの項目では、「公共交通の利用のしやすさ」が一般では17.1%と全項目の中で6番目、高校生では23.9%と全項目の中で3番目であり、満足度が低い一方で重要と考えられていることがわかります。



※複数回答 一般 n=883・高校生 n=1,871

■大館市に期待する重点的な取り組みや、まちづくりに期待すること

「バスや鉄道が使いやすく、移動がしやすいまち」が一般は 51.4%、高校生は 50.8%と、それぞれ約半数の方が公共交通に関する取り組みをあげています。



※複数回答 一般 n=883・高校生 n=1,871

## ⑤ 市民ワークショップ

### a) 開催概要

#### ■日時

平成 29 (2017) 年 11 月 3 日(金・祝) 13:00~16:00

#### ■場所

大館市中央公民館

#### ■テーマ

##### 「まちづくりについて知ろう！」

目的) ・まちづくりの背景を知り、市が目指す姿を共有し意識を高める。  
・交通の現状と課題を整理し、移動の問題点を洗い出す。

到達点) ・地域公共交通網形成計画に反映できるよう、交通に関する課題、市内の移動に関する問題点を共有する。

#### ■次第

##### 【第1部 講演】

13:00~13:10 事務局あいさつ

大館市役所建設部都市計画課 課長

13:10~14:15 講演「まち育てに必要な覚悟とは」

講師 北原啓司 教授(弘前大学大学院地域社会研究科 研究科長)

14:15~14:30 会場レイアウト変更

##### 【第2部 ワークショップ】

14:30~14:45 事務局紹介、概要説明

14:45~16:00 ワークショップ

・参加者総数 36名

・事務局 大館市役所:8名

協和コンサルタンツ:4名

b) 開催結果

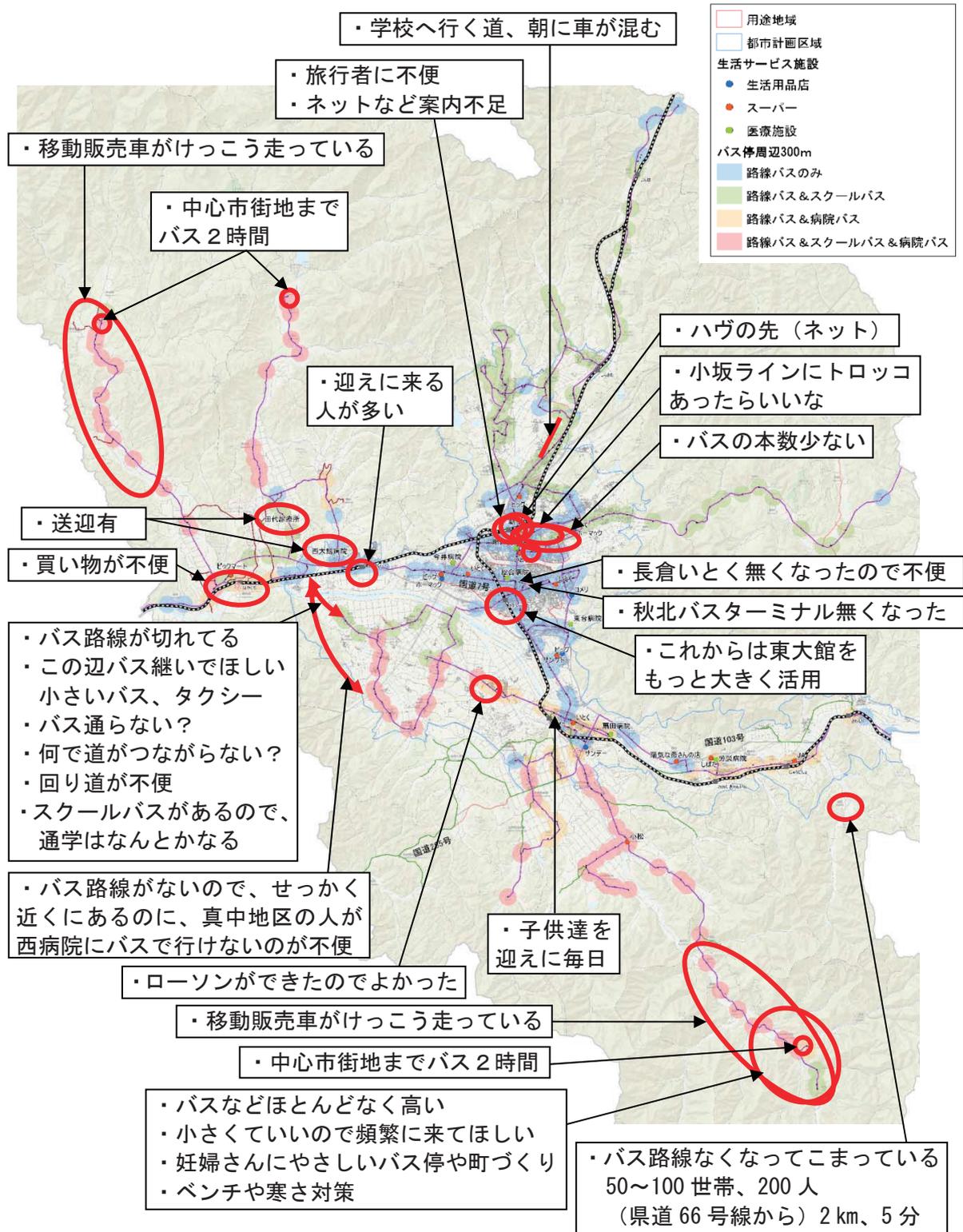
ワークショップで出された意見のうち、公共交通に関連のある項目を抜粋して、以下に結果を示します。

分野	現況・課題	今後の対策・アイデア
バス料金	バスって高い バス料金、距離によるが高い	前払いバス（ハチ公バス） バス料金が乗る前に分かれば。 バス無料 バス料金が、乗る前にわかると便利
バス停・駅など	バス停寒くないかな 駅の駐車場が不便 小坂駅、大館駅のこれからがわからない。→どう変わる。 ハウに時間つぶす所がない バス停に囲いが無い。雨・風つらい。 →地域で建ててるところもある。 バスターミナルが無くなった。	バス待ちに、駅に図書館があったらいいかも バス待合中心ターミナルで、冬場にも暖をとれる場所 駐車スペースほしい。→バス停に商店がついてたらよい。
バス車両	バスの乗り降りの段差が、老人につらい	ちっちゃいマイクロバスがあったらいい 20年後にバス会社が存続しているか。 バス、大型→小型へ（10～15人） 大型バスよりも中・小型で、よりニーズにあった形を！
運行時間	終バスが早い。夜のバスもあれば。（短距離夜行バス？） タリーズで時間つぶし勉強→もったいない人材 終バスが早い（土日はなおさら早い） バスと電車のタイミングが合わない（子供は自転車を活用） 生活リズムに、公共交通がかみあっていないのでは？ 田代、タクシーなし。バスダイヤ不便。 桂桜高校の生徒が不便。（バスが少ない） バスの本数が極端に減っているわけではない。	週末深夜バスほしい リズムを合わせる（よく使われる時間帯）←仕事、生活のリズムとバスが合わない バスは、必要な時間にあわせて運行しては。飲み会の帰り、代行が混んでてなかなか帰れない。 朝晩にバスのダイヤを集中させたいのか？（目的に合わせたデマンドバスの利用） 飲み屋帰りの人のために、12時過ぎ頃の各方面行きのバスや電車がほしい。 生活のリズム。飲んだときの帰り
情報提供・PR	バス路線が分かりにくい バスの発着時間がわからなくて不便（HPに記載がない） 秋北バスのHP見づらい 中心ターミナルの廃止→情報収集しづらい バスが使い難い、分かる人にしか分からない	走る情報をもっとこまめに発信する。 今、バスの情報はない。←オール大館でやらないと。 地域の家はいっぱいある（観光） 盛岡へ帰ってもよかったが、大館に…人、仕事、PRしたい 観光PRの受け皿がない ブログ、PR発信「どだすか大館」→ストーリーの発信、説明の上に行く。人が財産。

分野	現況・課題	今後の対策・アイデア
情報提供 ・PR	大館駅おりたら、バスルートの地図がない。前は便利だったが、全体的に不便。大館駅前バスターミナルわからない。 バス路線がわかりにくい 時間が分からない。(分かりづらい)	
バス その他	バスにあまり人が乗ってない 盛岡はイオン自前のバスがある バスで市内を観光するのは難しい バス停が遠い 病院・いとく等にバスが入ってくれているので、便利にはなったと思う 時代が変わってニーズが変わったのに、昔と同じやり方でバスが走っている。	自転車といっしょに市内に運べる電車。 自転車を一緒に持って(バス、電車にもちこんで)移動 市内に循環バスがあれば良いよね。 100円バスみたいなのがあればいい 乗合バスの株主になって、無料又は100円でのれるようにする(NPO?) 高齢者の歩行者への気配りが必要。
通院・ 買い物等	長倉いとく閉店で買い物難民増加。 移動販売車でまわっている 移動販売車(以前より)品ぞろえが良くなった 中心部の人は、近くに店がないことに慣れていない 店がどんどんなくなっていく コンビニでお年寄りが買い物している。利用しないとお店なくなる。 (田代)お年寄り・一人暮らし、買物難民 買い物に行くにも車がなければ毎日食べていけない 有浦地区では買物を不便と感じた事はない 病院通いは病院で迎えに来る。	バスを利用するのは高齢者がほとんど。行きたいのは病院やスーパー。 日にちを決め乗合バス(予約制?)を出す→病院、買い物 買い物等に不便にならないシステムを考えなければならない(田舎) 移動販売車等に市で補助金を出してもらおう 買い物バスツアー等を作る 病院と買い物する場所一緒→予約制メンバー制バス 買物代行
移動手段 全般	子供の送迎等(振休)の時、親が送迎しなきゃならず、親が犠牲になる(親が休みもらう) 電車に乗らずに生活してきた(親の送り迎え、自転車) 子供が少なくなったので、送迎できるようになった 自転車、行きはよいよい(下り)帰り(上り) 歩いていると目立つ。不自然に見える。 子供の送迎(自家用車) 電車(高校生多め) 電車は本数がすくない。バスは遠まわりになる。	10年、20年後人口減少→ウーバー(UBER:配車サービス) 多少なりお金を掛ける。 気持ちを割り切る 自分で出来る事は自分でする 不便になると人が減る、悪循環 ←地域で送迎をしようとするといろいろむずかしい。 (夜に)乗り合いタクシー 町内カー 便利なところ引っ越す越す。 必要な施設をまとめて、そこへ行くインフラを整備する

分野	現況・課題	今後の対策・アイデア
移動手段全般	中心地に住んでいた時は、公共交通機関が多くて便利だった。郊外住宅地だと、店やバス停まで遠くて不便。働かなくなったら、歩きでもOK。 西地区、下川沿は自家用車とバス・JRで本数は少ないがなんとかなっている。	
車・道路など	年々、運転の判断能力が落ちてくる 18年前、問題は一層深刻に 車優先で、まちなかでも歩行者が利用しにくい 除雪も車優先、融雪設備もごく一部 国道以外にぬける道路がない 車を所有するより、バス・タクシーを利用している方が年間経費が少ない 街中ではバス歩きでもOKだった。嫁いでは車。 車の維持費がけっこう高い 車がないと仕事できない。子育てできない。買い物できない。 今の時代、交通事故が多いので自転車も心配	20年後の交通手段、バス・電車・タクシー（地域の会社はなくなった）。店も少なくなった。→車がないと、生活・子育て出来ない。
意識・利用促進など	市民→モラルが低いのでは？ゴミのポイ捨て	電車になじみがない。バスに乗ってみよう。 市民と行政のコミュニケーション。 利用者が安心して免許を返納できる市のサポート。 市役所職員は率先して公共交通機関を使うべき。 免許返納の後、どうなるか考えないと →事故をおこさない安全な町をつくる →歩きやすい町をつくる。楽しく生活する。 出資した人が証明書をもらえる 地域資源＝人。PTA、自治会への参加 →つながる→ここに住む意味 イベントを作る→見に来る人のために まちをキレイにしなきゃ 各地区で爆発（起爆剤）していく 色んな集まりに積極的に参加 コミュニケーション 見るだけでなく知ること 市民参加型、魅力ある町作り 町内から始まるムーブメント→人が集まる→楽しい・カッコいい 先立つリーダー。マイナー意見をふき飛ばす強い力。 ボランティア精神を育てる。素直に表せるように！子供達の教育。

■市内全域マップ（ワークショップで出された意見）



## ■ワークショップ全体のとりまとめ

## ＜大館市で暮らすなかで、移動について感じる事＞

- 車がないと、仕事・子育て・買い物が難しく、生活できない。
- 車による子供の送迎が、親の負担になっている。
- 地域によって買い物難民が発生している。店舗もどんどん減っており、車を運転しない高齢者等が歩いて買い物に行けるお店が少ない。
- まちを歩く人が少なく、歩いていると目立ってしまう。
- 移動販売車や、病院・いとく等をまわるバスに助けられている。

●車社会の現状をうけ、公共交通の利用についてみると…

## ＜公共交通について感じる事＞

- そもそも電車・バスを利用している人が少ない。
- バスの運行時間が生活に合わない。飲み会帰りに利用できる便があると助かる。
- バスの料金や発着時刻、路線、ホームページがわかりにくい。バスターミナルがなくなり、情報収集がしづらい。
- 乗る前にバスの料金がわかる・前払いシステム等があれば便利。
- バス停が寒い、遠い。地域でバス停に囲いをつくる案もある。
- バスが細やかに各エリア、お店に寄ってくれると助かる。ただし時間はかかる。

●公共交通の課題をうけ、自分にできる【覚悟】を考えると…

## ＜今後の方向性、みなさんの覚悟＞

- いつまでも自分で運転し続けることは難しい。「75歳になったら」等、免許を返納することを具体的に考える。
- 免許返納後も安全に暮らしていくために、市とともに、歩きやすく楽しく生活できるまちづくりを進めていく。
- まず、意識してバスに乗ってみることから始める。
- 現代のニーズを把握し、小・中型バス等、求められている形で運行することが重要。
- バスの運行情報をこまめに発信し、バックアップの体制も整えることが必要。
- 買い物バスツアーの運行・乗り合いバスの株主になる・NPO化等、「誰がやるのか？」の課題はあるが、様々なアイデアを検討する。

## ＜これからの暮らして意識すること＞

地域を支える公共交通・大館市の次の世代を守る覚悟を決め、  
人任せにせず、自分でできることは自分で実践していく。  
交通に限らず、地域から始まるイベント・情報発信を推進することで  
人を呼び込み、まちを元気にする仕組みをつくる。

⑥ 公共交通不便地域実証実験

鉄道駅やバス停から離れた公共交通不便地域の住民を対象に、路線バス以外の交通手段の導入や新たな移動手段の可能性について検討するため、『タクシー利用補助券』による実証実験を実施し、効果の検証を行いました。

実施概要と実施結果を以下に示します。

a) 実施概要

■実施期間

平成 29 (2017) 年 12 月 20 日(水)～平成 30 (2018) 年 1 月 19 日(金)  
(午前 7 時～午後 5 時)

■対象地区 ※公共交通不便地域アンケートを実施した 2 地区を対象

長木地区：塞さいのかみの神

西館地区：寺崎てらざき、八木橋やきはし、五輪台ごりんたい、一通いっとおり、畑沢はたけさわ、板戸いたど、水沢みずさわ、白沢しらさわ、小坪沢おつぼざわ

■対象世帯数

	地区名称	世帯数
長木地区	塞の神	60
西館地区	寺崎	28
	八木橋(五輪台含む)	43
	一通	8
	畑沢	15
	板戸	40
	水沢	8
	白沢	8
	小坪沢	14
合計		224

■実施方法

- ・ 1 世帯につき『得とくタクシー券 (1 枚 300 円相当) 4 枚つづり』を交付
- ・ 利用希望者は、前日の午後 5 時までに各タクシー会社へ電話で予約
- ・ 利用者は、利用時に券に必要事項 (年齢、乗車人数、乗車場所、居住地区、移動目的) を記入し、タクシー運転手へ手渡し
- ・ 利用期間終了後、同封のアンケートへ記入、郵送により回収

## b) 実証実験実施結果

## ■配布枚数（1世帯あたり4枚配布）・利用枚数

配布枚数は合計 896 枚で、実施期間中の 1 ヶ月間で計 65 人の方が利用され、利用率は長木地区の方が高くなっていました。

	配布枚数	利用枚数	利用率
長木地区	240	41	17.1%
西館地区	656	24	3.7%
合計	896	65	7.3%

## ■利用者の特性

年代としては、両地区とも全利用者が 60 代以上と高齢の方に利用していただいた結果となりました。

乗車人数は地区によって大きく異なり、長木地区では「4人利用」がもっとも多く約 4 割、乗合率が約 7 割であったのに対し、西館地区では「1人利用」がもっとも多く約 8 割、乗合率は約 1 割でした。

利用目的は、両地区とも「買物」がもっとも多く、長木地区ではこれに次いで「趣味や習い事・交遊」が、西館地区では「通院」が多くなっていました。

利用料金は、両地区とも「2,000 円以上」がもっとも多く、長木地区ではこれに次いで「1,000 円以上～1500 円未満」が、西館地区では「1,500 円以上～2,000 円未満」が多くなっていました。

項目	長木地区	西館地区
年代	「70代」・「80歳以上」がもっとも多い。すべて60代以上。	「70代」がもっとも多い。すべて60代以上。
乗車人数	「4人利用」がもっとも多く約4割。乗合率（乗車人数2人以上の割合）は約7割と高い。	「1人利用」がもっとも多く約8割。乗合率（同左）は約1割と低い。
利用目的	「買物」がもっとも多く約6割。次いで「趣味や習い事・交遊等」が約2割。	「買物」がもっとも多く約5割。次いで「通院」が約3割。
利用料金	「2,000円以上」がもっとも多く約4割。次いで「1,000円以上～1500円未満」が約3割。	「2,000円以上」がもっとも多く約5割。次いで「1,500円以上～2,000円未満」が約2割。

c) 実証実験に関するアンケート結果

■回収状況（1世帯あたり2枚配布。普段から移動に困られている方優先で回答）

アンケート配布枚数は計448枚、回収率は両地区とも約2割で、長木地区の方が若干高くなっていました。

	配布枚数	回収枚数	回収率
長木地区	120	27	22.5%
西館地区	328	65	19.8%
合計	448	92	20.5%

■回答者の属性

年齢は、利用者の傾向と同様に、60代以上の方の回答が多くなっていました。

免許の所有状況は地区によって大きく異なり、長木地区では「未取得」がもっとも多く約4割であったのに対し、西館地区では「免許あり」がもっとも多く約7割でした。

普段の移動手段も地区によって異なっており、長木地区では「家族や知り合いの車に同乗」がもっとも多く約4割であったのに対し、西館地区では「自家用車」がもっとも多く約7割でした。

項目	長木地区	西館地区
年齢	「70代」、次いで「80歳以上」が多く、それぞれ約3割。	「60代」がもっとも多く、約5割。次いで「80歳以上」が約2割。
免許の所有状況	「未取得」がもっとも多く約4割。次いで「免許あり」が約3割。	「免許あり」がもっとも多く約7割。次いで「未取得」が約2割。
普段の移動手段	「家族や知り合いの車に同乗」がもっとも多く約4割。次いで「自家用車」が約3割。	「自家用車」がもっとも多く約7割。次いで「家族や知り合いの車に同乗」が約2割。

### ■タクシー券の利用状況や評価

今回の実証実験におけるタクシー券利用状況や評価は、地区によって大きく異なっていました。それぞれの設問の回答概要を以下に示します。

利用状況としては、長木地区では約半数の方が利用されていたのに対し、西館地区では約1割でした。

「利用しなかった」・「利用できなかった」理由としては、両地区ともに、「自家用車があるから」・「家族や知り合いが送迎してくれるから」が多くなっています。西館地区では、「自家用車があるから」が特に多いほか、「自己負担額が大きいから」も多い傾向にあります。

乗合いの状況は、長木地区では約半数の方が「近所の方や友人と同乗」されていましたが、西館地区では「1人で乗車した」方が半数でした。

自己負担額は、長木地区では「500円未満」の方が約半数なのに対し、西館地区では「1,500円以上」の方が約3割と、自己負担額が大きくなっています。

タクシー券を利用して満足した点としては、長木地区では、「家族・友人に頼まずに移動ができた」、西館地区では「都合の良い時間に移動ができた」・「普段の移動手段より早く目的地に到着できた」といった点が挙げられています。

また、不満に感じた点としては、長木地区では「降りるまで料金がわからない」、西館地区では「自己負担額が大きい」といった点が挙げられています。

項目	長木地区	西館地区
タクシー券 利用状況	「利用した」方が約半数。	「利用した」方は約1割。
未利用理由	「自家用車があるから」・「家族や知り合いが送迎してくれるから」がもっとも多い。	「自家用車があるから」がもっとも多い。長木地区と比較して「自己負担額が大きいから」も多くなっている。
乗合いの 状況	「近所の方や友人と同乗した」方が約半数。	「1人で乗車した」方が半数。 「近所の方や友人との同乗」はみられない。
自己負担額	「500円未満」の方が多く約半数。	「1,500円以上」の方が多く約3割。
満足した点	「家族・友人に頼まずに移動ができた」がもっとも多く約3割。	「都合の良い時間に移動ができた」・「普段の移動手段より早く目的地に到着できた」がもっとも多く約3割。
不満な点	「降りるまで料金がわからない」がもっとも多く約3割。	「自己負担額が大きい」がもっとも多く約3割。

■今後、市に期待する取り組み

『得とくタクシー券』のような補助制度が導入された場合の利用意向としては、両地区とも、約 4 割の方が「利用したい」と回答しており、「利用しない」は 1 割未満と、利用意向は高くなっていました。

あれば便利だと思う制度や仕組みとしては、長木地区では、「今回のようなタクシー利用補助制度」ももっとも多く、次いで、「近所の方と気軽に同乗し、タクシーを利用できる仕組み」になっており、タクシーの活用を求める意見が多くなっています。

一方、西館地区では、「病院送迎バスの活用」ももっとも多くなっているほか、「スクールバスの活用」という意見も多く、既存バスの活用が期待されています。

新たな制度や仕組みが導入された場合の運行頻度の希望としては、両地区ともに、「週 1～2 回程度」がもっとも多く、高齢者の方が、買物、趣味、通院などに通う頻度に対応した運行が求められていることがわかります。

項目	長木地区	西館地区
利用意向	「利用したい」がもっとも多く約 4 割、「どちらともいえない」が約 3 割。	「利用したい」・「どちらともいえない」がそれぞれ約 4 割だが、「利用したい」が若干多い。
あれば便利だと思う制度や仕組み	「今回のようなタクシー利用補助制度」がもっとも多く、次いで「近所の方と気軽に同乗し、タクシーを利用できる仕組み」。	「病院送迎バスの活用」がもっとも多く、次いで、「決まった時間に運行する乗合タクシー」。
運行頻度の希望	「週 1～2 回程度」がもっとも多い。	「週 1～2 回程度」がもっとも多く約 6 割、次いで「週 3～4 回程度」が約 3 割。

### (3) 大館市の地域公共交通を取り巻く課題

大館市の目指す方向性や地域及び公共交通の現状を踏まえると、持続可能な公共交通網を実現する上で、以下の3つの公共交通を取り巻く課題が挙げられます。

#### ① 公共交通不便地域の増大やサービス低下への対応

- ・歩いて鉄道駅またはバス停までアクセスできない集落などの公共交通不便地域が存在しており、今後、高齢化により徒歩圏域が狭まることで、公共交通不便地域がさらに増大することが懸念されます。
- ・利用者の減少を受け、便数の減少、路線の経路変更・統廃合などによるサービス低下も懸念されるため、公共交通の利用実態を踏まえた対応が課題です。

【鉄道・路線バスカバー圏域】

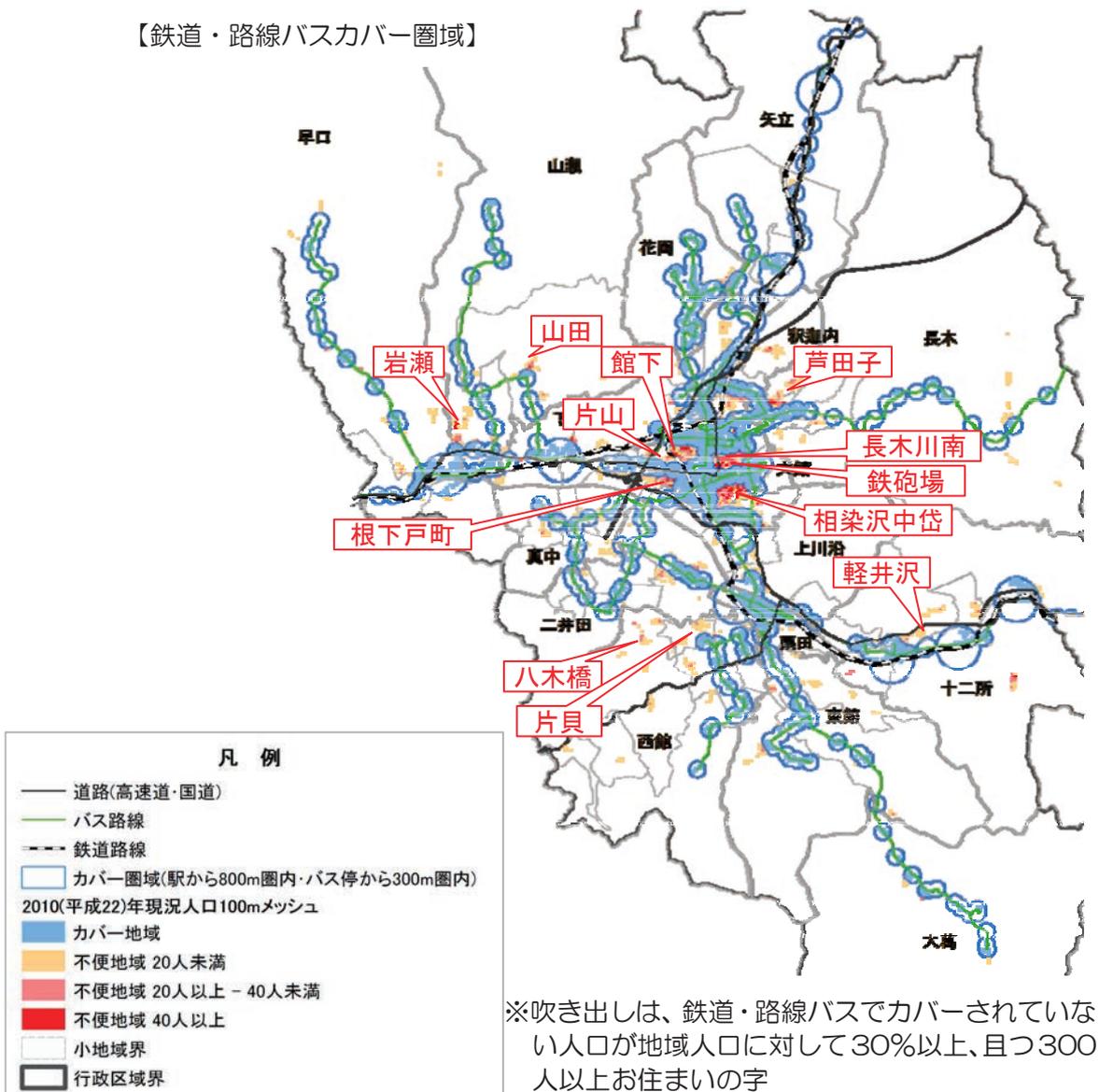


表 公共交通不便地域（鉄道・路線バスカバー率の低い字を抽出）

平成17年 合併前	明治22年 合併前	字名	2012年(平成22年)国勢調査結果(100mメッシュ)					
			総人口	カバー 人口	カバー率 %	空白 人口	空白率 %	
大館市	旧大館町	字観音堂	1,652	1,280	77.4%	373	22.6%	
		字館下	389	18	4.5%	371	95.5%	
		字桜町	130	74	56.8%	56	43.2%	
		字桜町南	298	124	41.6%	174	58.4%	
		字象ヶ鼻	196	38	19.6%	158	80.4%	
		字水門前	439	303	68.9%	136	31.1%	
		字相染沢中岱	820	56	6.8%	764	93.2%	
		字池内道下	134	2	1.6%	132	98.4%	
		字長木川南	891	268	30.1%	623	69.9%	
		字鉄砲場	716	83	11.6%	633	88.4%	
		字八幡沢岱	330	190	57.7%	139	42.3%	
		城西町	435	268	61.5%	168	38.5%	
		水門町	463	287	61.9%	177	38.1%	
		清水	2,176	1,706	78.4%	470	21.6%	
		東台	3,418	2,496	73.0%	922	27.0%	
		旧釈迦内村	釈迦内	5,727	4,738	82.7%	990	17.3%
			商人留	277	27	9.9%	250	90.1%
	松木		389	211	54.4%	177	45.6%	
	旧長木村	芦田子	777	34	4.4%	743	95.6%	
		雪沢	518	311	60.0%	207	40.0%	
		東	101	5	5.2%	95	94.8%	
		柄沢	1,852	1,459	78.8%	393	21.2%	
	旧十二所町	茂内	102	3	2.7%	99	97.3%	
		猿間	172	0	0.0%	172	100.0%	
		軽井沢	750	432	57.6%	318	42.4%	
	旧下川沿村	道目木	284	156	54.8%	128	45.2%	
		川口	2,094	1,767	84.4%	327	15.6%	
		片山	730	13	1.7%	717	98.3%	
	旧上川沿村	餅田	128	22	17.0%	106	83.0%	
		根下戸新町	240	140	58.3%	100	41.7%	
		根下戸町	446	111	24.8%	335	75.2%	
	旧真中村	小袴	97	0	0.0%	97	100.0%	
		出川	177	80	45.3%	97	54.7%	
	旧二井田村	櫃崎	435	298	68.5%	137	31.5%	
		二井田	1,590	1,201	75.6%	388	24.4%	
	田代町	旧早口村	早口	2,626	2,261	86.1%	364	13.9%
		旧山瀬村	岩瀬	2,523	1,702	67.5%	821	32.5%
			山田	866	374	43.2%	492	56.8%
	比内町	旧西館村	小坪沢	56	0	0.0%	56	100.0%
			白沢水沢	46	0	0.0%	46	100.0%
			八木橋	473	0	0.0%	473	100.0%
			片貝	780	480	61.5%	300	38.5%
		旧扇田町	字扇田道下	11	0	0.0%	11	100.0%
		旧東館村	味噌内	363	178	48.9%	185	51.1%

※空白（カバーされていない）人口 300 人以上または空白率 30%以上の字を抽出。  
うち、網かけは 300 人以上かつ 30%以上を示す。

② ニーズに応じた公共交通の効率化・維持

- ・大館市内の路線バスは、集落と中心市街地を結ぶ路線などで特に乗車密度が低下し、バス事業者が継続して路線を維持することが困難となっています。
- ・今後、利用者数の減少により、市の経済的負担の増加、財政圧迫が懸念されるため、利用者ニーズに応じた公共交通の効率化・維持が課題です。

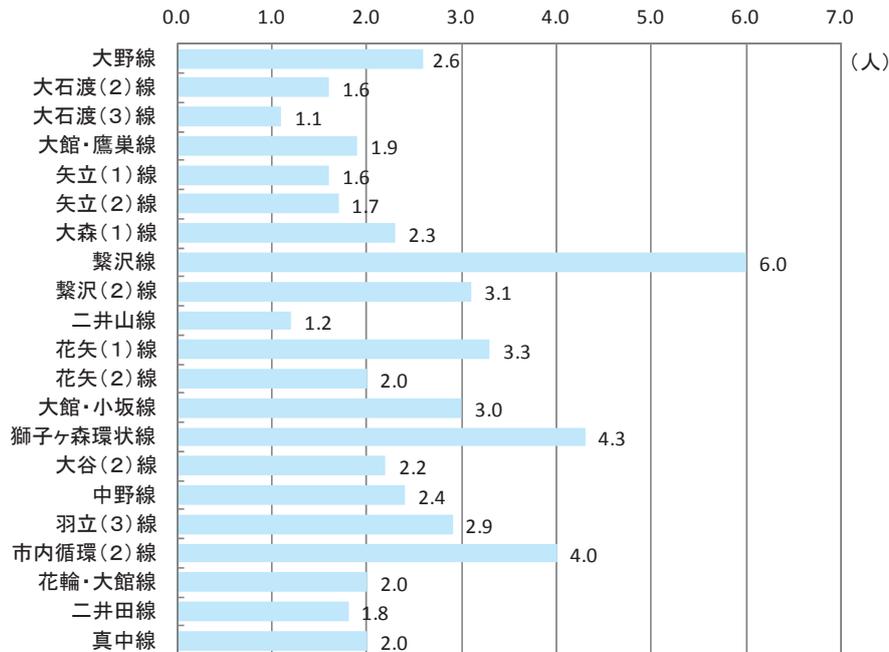


図 路線バス系統別平均乗車密度 (平成 28 (2016) 年度)

※平均乗車密度：バスの利用状況を表す理論値で、バス路線の起点から終点までの1運行の1台当たりの平均乗客数を示す算定値。

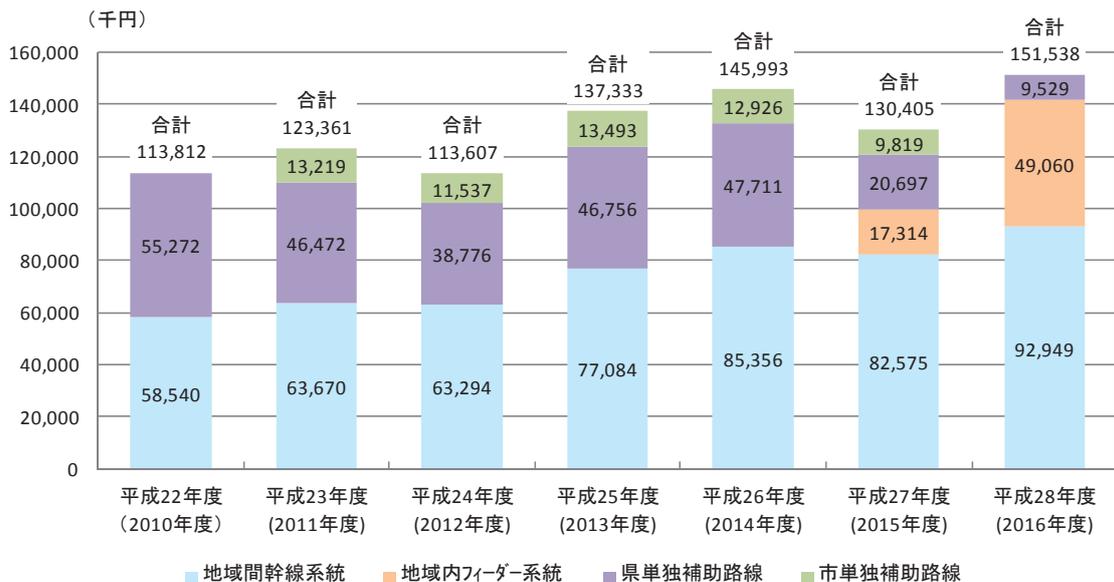
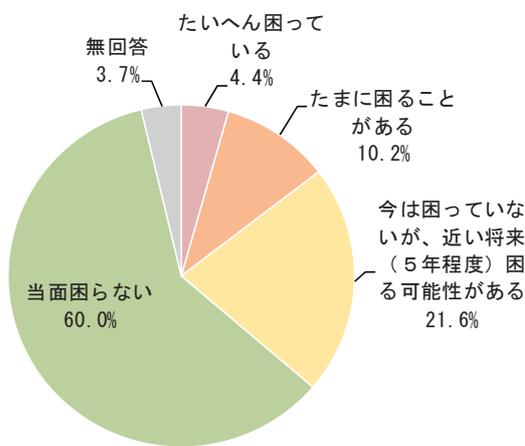


図 大館市が負担する生活路線補助金の推移

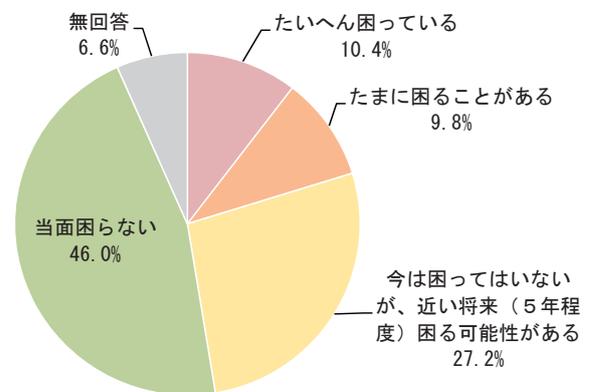
### ③ 交通弱者増加への対応、交通手段の確保

- ・アンケート結果では、一般市民では約4割、公共交通不便地域住民では約5割が、「移動手段に困っている・近い将来困る可能性がある」と回答しており、交通手段の確保への不安を抱いています。
- ・今後、高齢化の進行とあわせて免許返納者も増加すると予測され、返納後の移動手段の確保・交通サービスの提供が課題となります。

#### <外出時の移動手段で困ることがあるか>

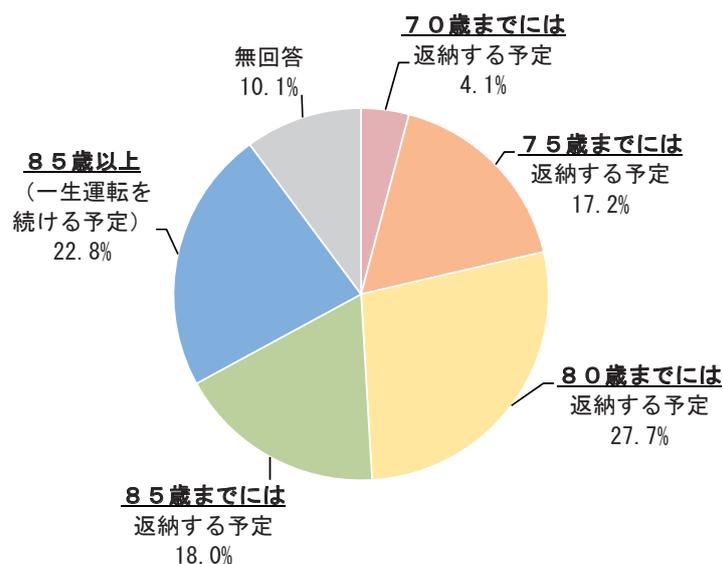


(一般市民アンケート)



(公共交通不便地域住民アンケート)

#### <今後の免許の返納予定について>



(公共交通不便地域住民アンケート)

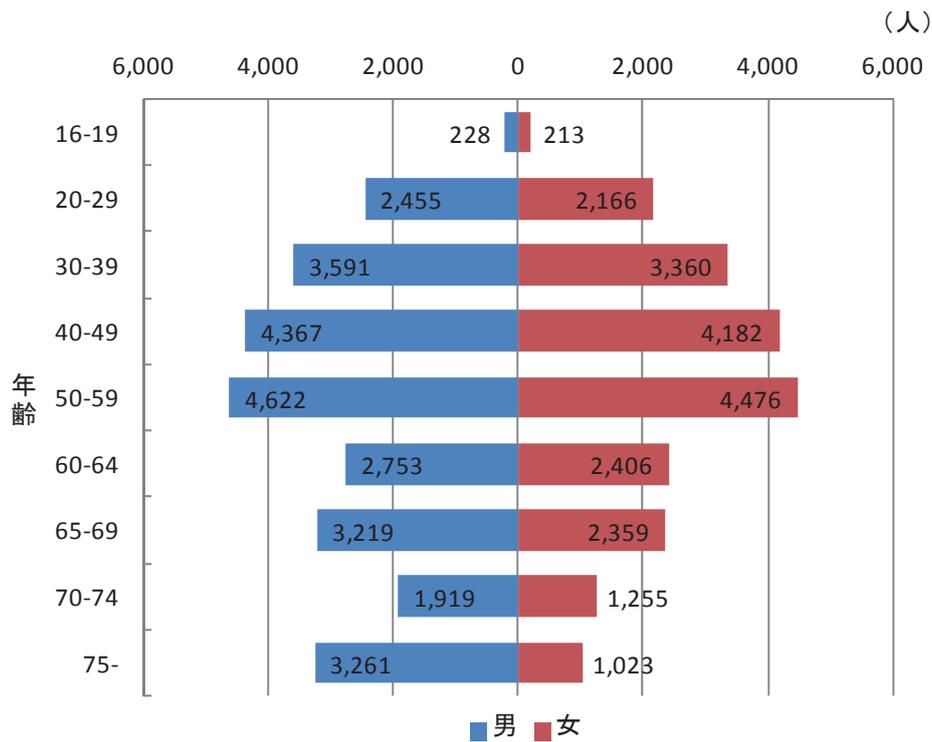


図 大館署管内免許人口（男女別・年齢別）平成 29（2017）年 3 月 31 日時点

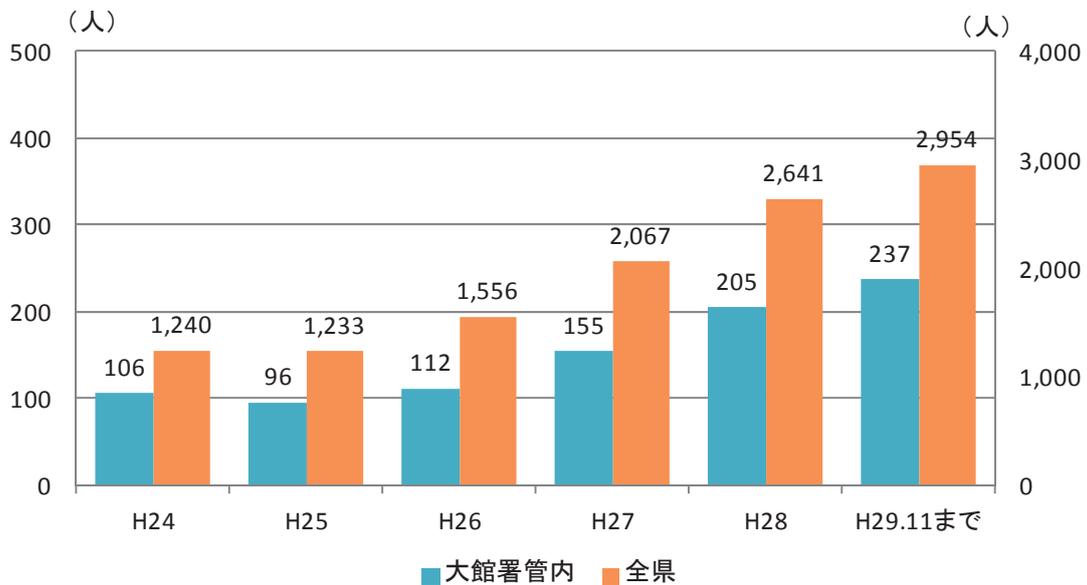


図 大館署管内・県内免許返納者数の推移



# 5

## 計画の基本方針 及び目標

# 5

## 計画の基本方針及び目標

### (1) 基本的な方針

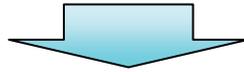
大館市がめざす将来都市像として総合計画に掲げる『匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく「未来創造都市」』を実現するためには、市民がいきいきと暮らすための社会基盤が不可欠になります。

こうした社会基盤の一つである公共交通には、市民の日常生活に関する身近な移動や、観光交流など他県・他市町村との広域的な移動、産官学の連携による地域活性化など、様々な「つながり」を支える重要な役割が求められています。

また、大館市では、現在、「都市計画マスタープラン」の見直し及び「立地適正化計画」の策定を進めており、これらまちづくりの計画と連携しながら、市民・交通事業者・行政など、様々な主体と取り組む持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指します。

#### ■大館市総合計画における将来都市像

匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく「未来創造都市」



#### ■大館市地域公共交通網形成計画で目指す将来像

「もっと活用し、もっとつながる暮らし」を支える  
公共交通ネットワークの形成

#### ■大館市地域公共交通網形成計画における基本的な方針

(1) 利用実態・ニーズを踏まえた市民の日常生活を支える移動手段の確保

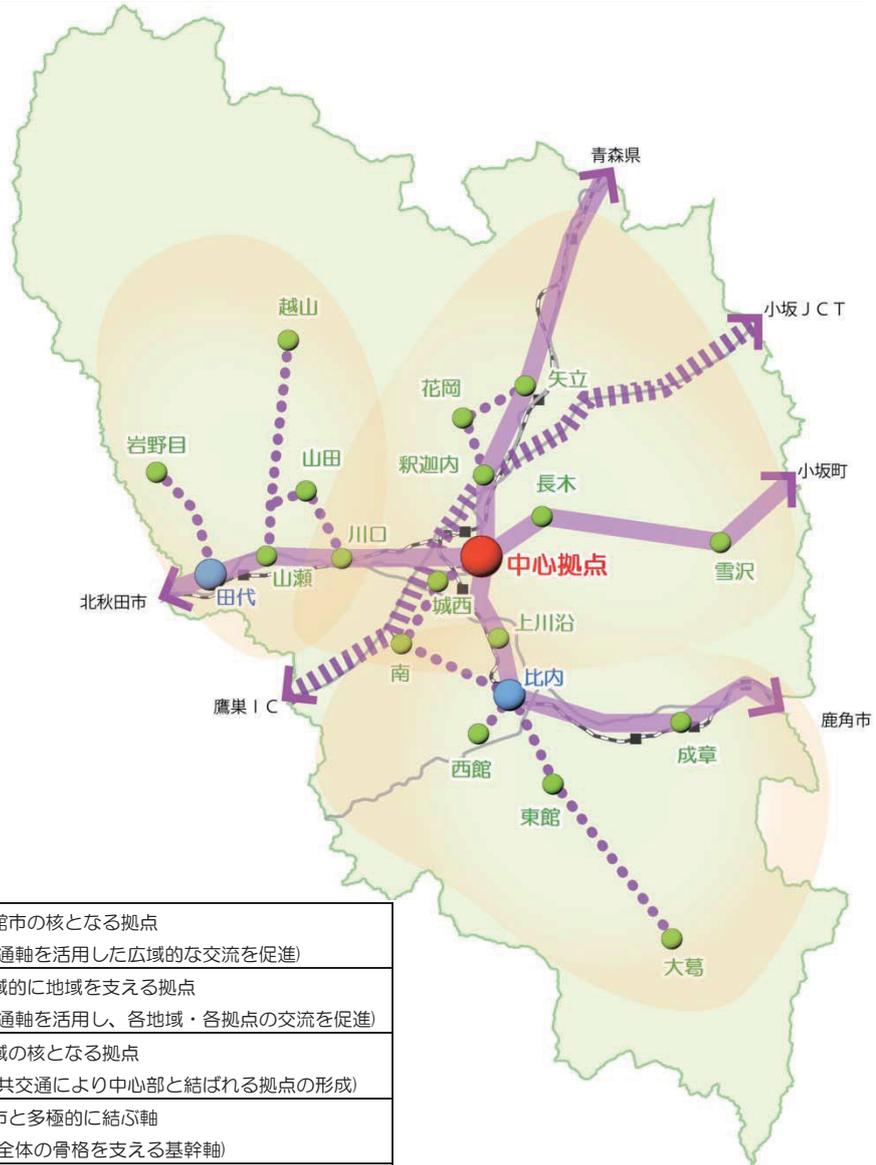
(2) まちづくりと連携し、交流を促進する公共交通ネットワークの形成

(3) 様々な主体と協働・連携し、みんなで育てる持続可能な公共交通の構築

■大館市が目指す将来都市構造

- 「中心拠点・中核拠点」内の鉄道駅については、乗換・乗継結節点として、利用者の移動ニーズに対応した結節機能の形成を図ります。
- 特に、にぎわいの要となる大館駅については、広域的・拠点的な結節点として、バス路線との乗換・乗継機能を確保するとともに、利用者の利便性向上や情報発信力の強化を図ります。
- 「地域拠点」については、「中心拠点・中核拠点」とのネットワーク化を図ります。

凡例	
■	鉄道駅
—	鉄道路線
—	道路(高速道・国道)
□	行政界



拠点		中心拠点	大館市の核となる拠点 (交通軸を活用した広域的な交流を促進)
		中核拠点	広域的に地域を支える拠点 (交通軸を活用し、各地域・各拠点の交流を促進)
		地域拠点	地域の核となる拠点 (公共交通により中心部と結ばれる拠点の形成)
軸		高規格 広域連携軸	他市と多極的に結ぶ軸 (市全体の骨格を支える基幹軸)
		広域連携軸	中核や地域と多極的に結ぶ軸 (鉄道や幹線バスにより骨格を支える基幹軸)
		地域連携軸	地域同士を結ぶ軸 (地域交通等(支線バス・地域主体の交通)による移動手段の確保に向けた取組み)
圏域		生活圏域	地域特性を踏まえ、生活を維持していく圏域 (各地域における経済活動や居住、地域づくり)

図 地域公共交通網形成計画将来都市構造図

## (2) 前計画の目標達成状況

平成 26（2014）年度に策定した「大館市地域公共交通総合連携計画」で掲げていた目標値の達成状況について検証した結果を以下に示します。

### 目標 1 路線バスの乗車率向上と既存路線堅持による公共交通確保を図ります。

#### 【達成状況】

- ・以下の取り組みについて、平成 26（2014）年から継続して実施しました。
- ・大館市得とく定期券への支援、バス&ウォーク事業による脱マイカー、公共交通利用促進のためPRチラシを配布しました（得とく定期券チラシ、バス&ウォークパンフレット）。
- ・バス利用者へ、タイムリーでわかりやすい情報を周知できるよう地図を作成し配布しました（バスマップ）。

### 目標 2 大館市得とく定期券を継続し、高齢者や障害者の利用支援を図ります。

#### 【達成状況】

- ・平成 23（2011）年度の実証実験から支援を開始した得とく定期券は、販売実績にあるとおり市民に周知され利用者枚数も定着しています。今後も事業を継続して実施します。

#### 大館市得とく定期券の販売状況

##### 年度別販売状況

##### 平成 25（2013）年度～平成 28（2016）年度

種類	平成 25 年度 (2013 年度)		平成 26 年度 (2014 年度)		平成 27 年度 (2015 年度)		平成 28 年度 (2016 年度)	
	枚数	補助金額	枚数	補助金額	枚数	補助金額	枚数	補助金額
1 か月定期	243	1,701,000	176	1,232,000	173	1,211,000	161	1,127,000
3 か月定期	435	4,785,000	362	3,982,000	316	3,476,000	282	3,102,000
6 か月定期	780	9,360,000	934	11,208,000	974	11,688,000	1,009	12,108,000
計	1,458	15,846,000	1,472	16,422,000	1,483	16,375,000	1,452	16,337,000

**目標3** 利用者ニーズを踏まえて、住宅密集地などへの新たな路線バスの運行を目指します。

**【達成状況】**

- ・新たな路線バスの運行の実施には至りませんでした。利用者のニーズを踏まえた下記取り組みを実施しました。
- 二井田・真中地区コミュニティバス運行経路変更（平成26（2014）年10月1日～）  
地域住民からの要望を受け、運行経路を大町を経由するルートに変更することで、大町・鍛冶町周辺病院への通院などの利便性向上を図りました。
- 平成27（2015）年3月からは、高速バス路線「盛岡行き」と「仙台行き」で、バス停留所「高速大館（鍛冶町）」を新設し、併せて待合所やトイレを有した施設も「ハチ公プラザ」1階に設置。長木川以南での市街地停留所を確保しました。
- 平成27（2015）年4月、一部路線を東大館駅経由とすることで、通学時間帯において花輪線を利用する生徒の利便性向上を図りました。また、市内循環バスハチ公号の運行経路を統一し、分かりやすくしました。

**目標4** バス利用者数（補助対象路線19路線の合計年間利用者数）の増加を以下のとおり目指します。

平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
1,263,000人以上	1,288,000人以上	1,314,000人以上

※目標数値は、平成25（2013）年度の輸送人員を基に、人口減少の影響を考慮した指数を乗じ、協働推進事業により3%の増加を目指すことを目標とします。

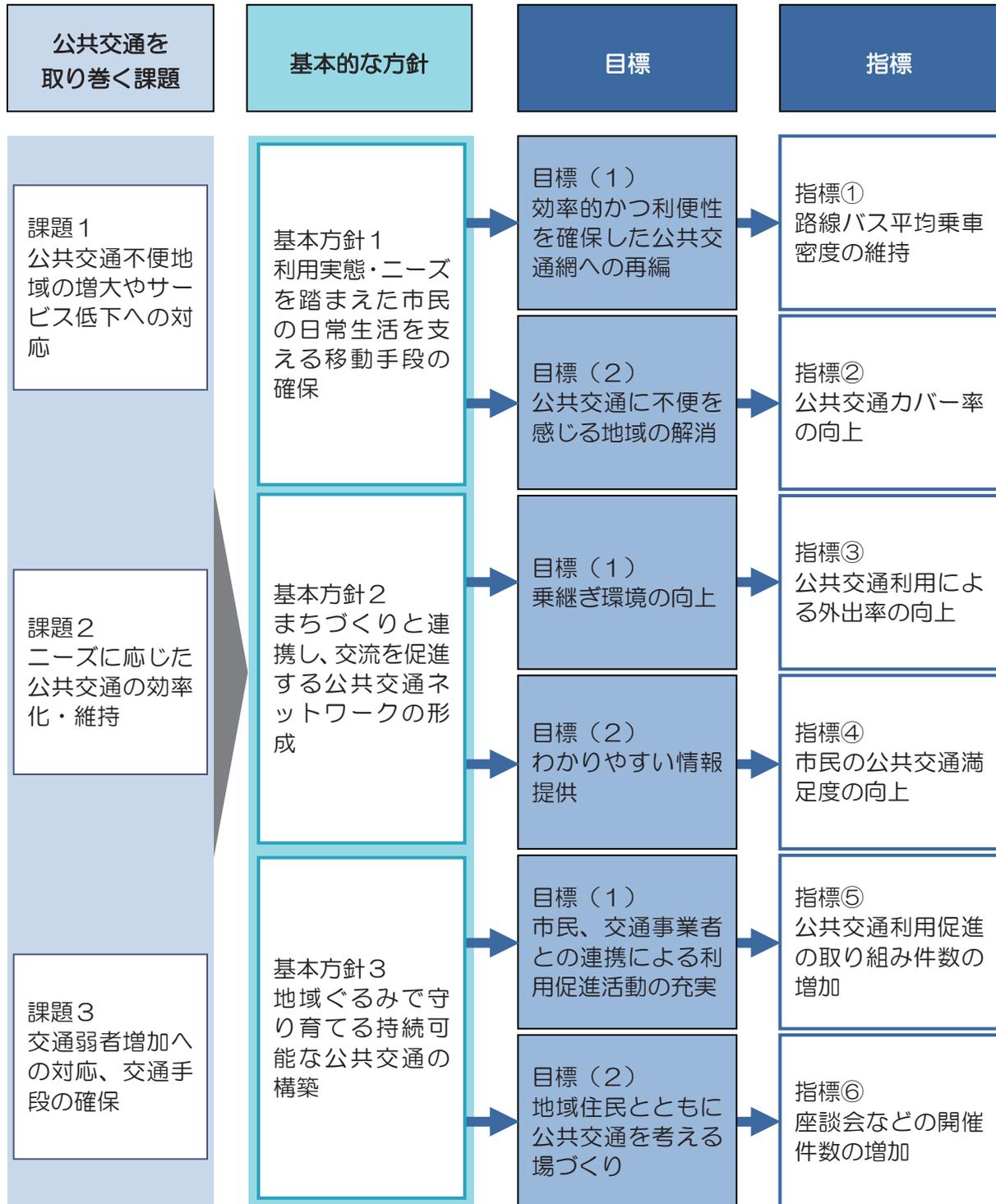
**【達成状況】**

平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
1,063,267人	1,007,885人	972,028人

- ・目標を大幅に下回る結果となりました。
- ・人口減少要因のほか、高校統廃合に関連し2路線が廃止されたことも挙げられ、その統合校の位置も中心市街地に近く、バスで通学する生徒数が減少したものとされます。
- ・利用促進対策として、各種チラシの配布や、夏休み限定小学生50円・中学生100円の定額運賃事業、バスの乗り方教室やバス車両展示などのイベント活動を実施したものの、新たな利用者の獲得までには至りませんでした。

### (3) 計画の目標

大館市の公共交通を取り巻く課題の解決に向けて、基本的な方針に基づき、計画期間における目標と指標を以下のように設定します。



(4) 目標の達成度を評価する指標

① 路線バス平均乗車密度の維持

市内を運行する路線バスの平均乗車密度（バスの利用状況を表す理論値で、バス路線の起点から終点までの1運行の1台当たりの平均乗客数を示す算定値）を平成 39（2027）年度は、全系統平均で 2.4 人を維持することを目標とします。

現況値 (平成 28 (2016) 年度)	目標値 (平成 39 (2027) 年度)	出典データ
2.4 人	2.4 人	路線バス運行実績

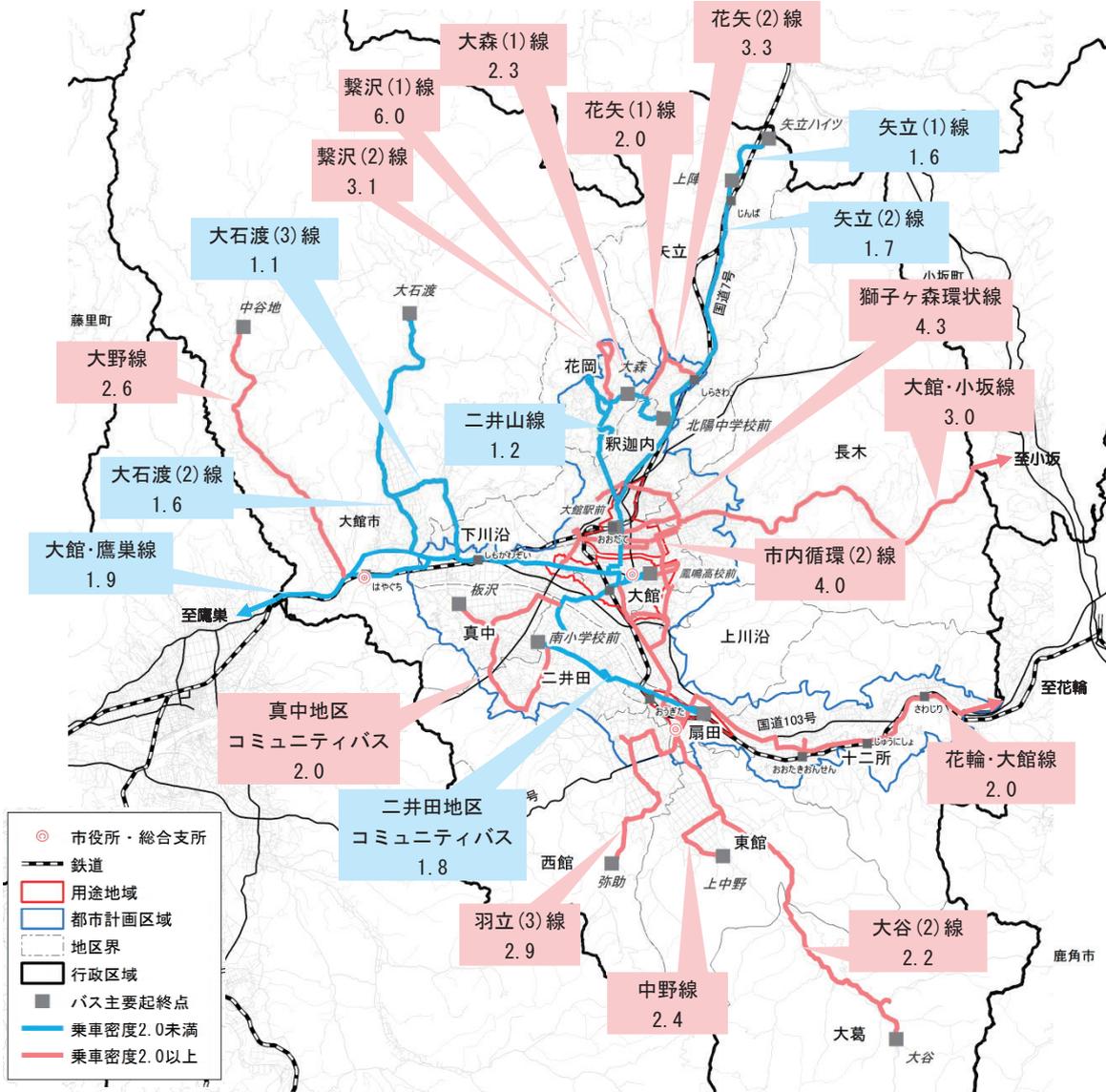


図 路線バス系統別平均乗車密度 (平成 28 (2016) 年度)

## ②公共交通カバー率の向上

公共交通の利用圏カバー率（行政区域内・総人口ベース）を向上させることを目標とします。

カバー率は、現状のままの公共交通網で将来推計人口をベースにした場合、予測では平成47（2035）年で約78%と、現状からほぼ横ばいとなりますが、多様な運行形態による交通手段の確保などにより、利用圏を拡大することを目指します。

現況値 （平成22（2010）年度）	目標値 （平成39（2027）年度）	出典データ
78.1%	80.0%	バス路線図 国土数値情報

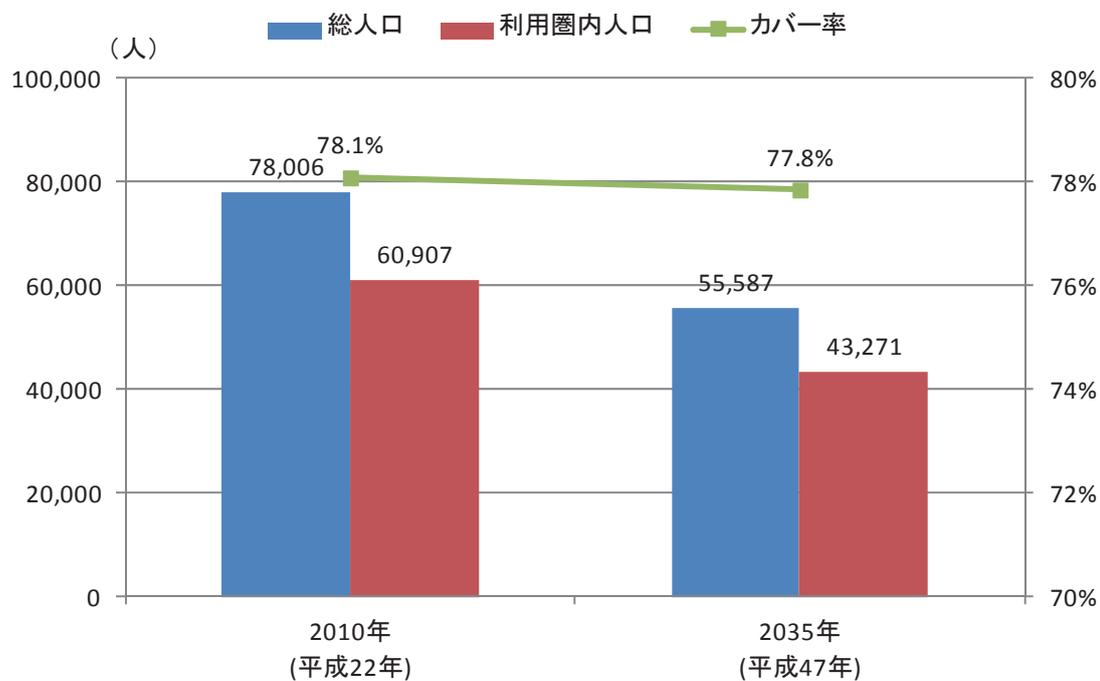


図 公共交通（駅、バス停）利用圏内人口とカバー率推計値

③公共交通利用による外出率の向上

路線バス等の公共交通の利用率が高い年代である、60歳以上のかたの日常生活における公共交通利用率の向上を目指します。

買い物・通院などの日常生活における路線バス等の公共交通利用率（平成29（2017）年度市民アンケートで、「鉄道」「バス」「タクシー」利用と回答した人の割合）は、「病院への通院」「福祉サービス」などで多くなっており、全目的では5.3%と、平成19（2007）年度の7.6%と比較して約2%減少しています。

今後は、運転免許を返納した後も、それまでと変わらない生活スタイルを維持できるように、公共交通で外出しやすい環境を作ることで、日常生活の移動における公共交通利用率を平成39（2027）年度は、約1%増の6.0%を目指します。

現況値 (平成29(2017)年度)	目標値 (平成39(2027)年度)	出典データ
5.3%	6.0%	市民アンケート調査

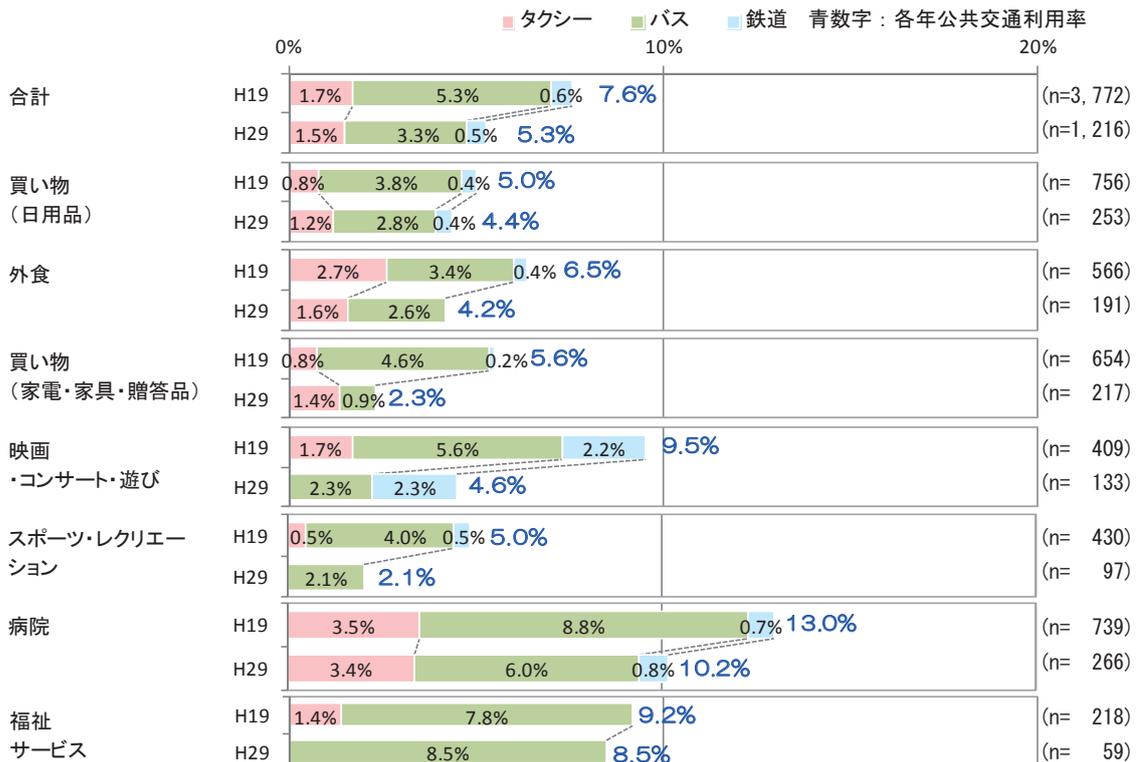


図 高齢者（60歳以上）の各生活行動における公共交通利用率（市民アンケートより）



図 公共交通の利用しやすさが改善された場合の外出（公共交通不便地域アンケートより）

#### ④市民の公共交通満足度の向上

暮らしやすさの満足度のうち、「公共交通の利用のしやすさ」に関する満足度（アンケートで「満足」と回答した人の割合）を向上させることを目標とします。

平成 29（2017）年度の市民アンケート調査では、「満足」と回答した人が 8.6%で、平成 19（2007）年度の 29.2%と比較して著しく満足度が下がっている結果となりました。

このため、施策・事業等の実施により、満足度を向上させ、現在の倍程度の 18%とすることを目指します。

現況値 （平成 29（2017）年度）	目標値 （平成 39（2027）年度）	出典データ
9%	18%	市民アンケート調査

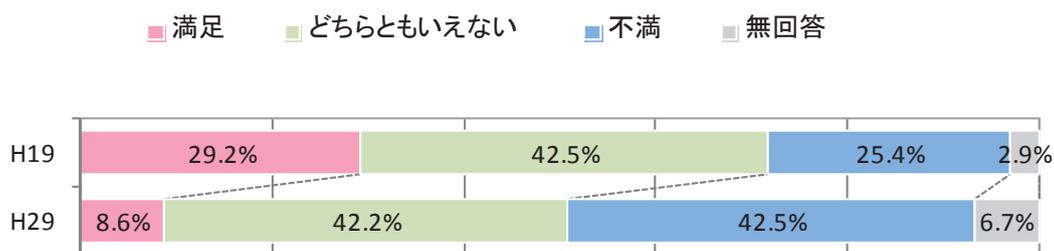


図 公共交通満足度（市民アンケートより）

## ⑤公共交通利用促進の取り組み件数の増加

「バス&ウォーク事業」や「大館市得とく定期券」等、公共交通利用促進を目指したイベント開催などの取り組み件数の増加を目標とします。

2017（平成 29）年度は、バスに関する取り組みのほか、JRを利用した日帰りパックやイベント時のシャトルバス運行など、5件の取り組みが行われています。

今後は、普段バスを利用していない市民や観光客、高齢者など、ターゲットやコンセプトを明確にし、利用促進に向けた取り組みを、目標年次までに年 10 件実施することを目指します。

現況値 （平成 29（2017）年度）	目標値 （平成 39（2027）年度）	出典データ
5件/年	10件/年	大館市資料

表 取り組み一覧

取り組み名	概要
バス&ウォーク事業	バス停へのプレート表示（CO <sub>2</sub> 排出量とカロリー消費量）、おらほのバス停 MAP や「バス&ウォーク」コースの制作、啓蒙・推進活動（産業祭・教育展）、小学生向け環境学習（エコライフゲームの出前事業）などを 2011（平成 23）年度から実施。 2017（平成 29）年度は、「長木溪流と小坂鉄道レールバイク&ゆったり温泉ツアー」を開催し、18人が参加。
大館市得とく定期券	「大館市高齢者低額フリーパス券支援事業」で、定額のフリーパス券の購入費の一部を市が支援し、1月あたり3千円で何度でも乗り降り自由にご利用いただける制度。 ＜対象者＞ ①満65歳以上の大館市民 ②身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者手帳を持つ大館市民
大館市内バスマップ	高齢者の要望に応え文字を大きくし、今までバラバラに作っていたMAPを各モード共通のものに再編し、乗継情報をよりわかりやすく、イラスト化した路線バスの公共交通マップを作成・配布。
きりたんぼまつり日帰りパック	まつり開催日に臨時のきりたんぼ号を運行、往復のJR券と大館きりたんぼまつり食事券をセットにして日帰りパックとして発売。
イベント時のシャトルバス運行	アメッコ市、肉の博覧会 in おおだて、きりたんぼまつりなどのイベント開催時に、JR大館駅などと会場を結びシャトルバスを運行。

⑥座談会などの開催件数の増加

地域住民や関係団体とともに公共交通を考える場として、各地域の自治組織等との座談会などの開催件数の増加を目標とします。

2015（平成27）年度～2016（平成28）年度に累計で3回開催しました。今後も継続して年2回程度は開催することを目標とし、目標年次においても2回開催を目指します。

現況値 （平成27・28 （2015・2016）年度）	目標値 （平成39（2027）年度）	出典データ
3回	年2回	大館市資料

表 開催地区一覧

開催日	地区名	概要
平成28（2016）年 1月19日 ～2月1日で開催	花岡地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中羽立、本郷上、繁沢・土目内、長森団地、粕田・花岡団地の各町内会を対象に5回、町内会長を対象に1回、北陽中学校を対象に1回の計7回開催。</li> <li>・大館桂桜高校統合に伴う花岡地区運行便の廃止・変更について説明、減便にご理解をいただいた上で、残してほしい運行時間帯等についてのご意見をお聞きした。</li> </ul>
平成28（2016）年 12月9日開催	長木地区 （塞の神）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塞の神町内会長、町内会員13人参加</li> <li>・路線バス不便地帯であり、福祉など他分野と連携した公共交通の可能性検討についてご意見をお聞きした。</li> </ul>
平成29（2017）年 3月28日開催	西館地区 （八木橋他）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺崎、八木橋、一通、畑沢、板戸、水沢地域住民32人参加</li> <li>・路線バス不便地帯であり、扇田病院の送迎サービスの活用、商業施設によるバス運行の可能性検討などについてご意見をお聞きした。</li> </ul>

# 6

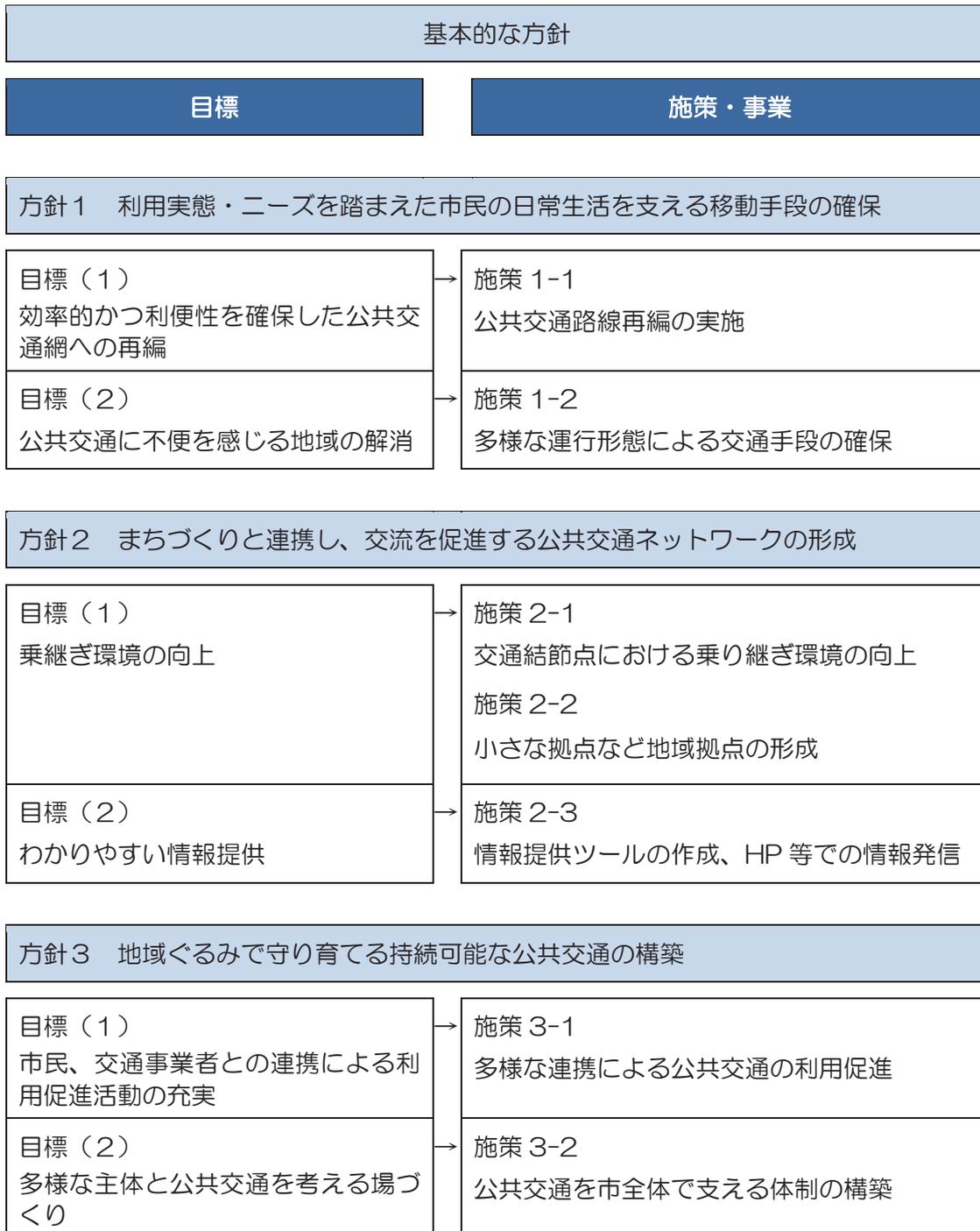
## 目標達成に向けた 施策の展開

# 6

## 目標達成に向けた施策の展開

計画の目標を達成するため、以下の施策を実施します。

### (1) 施策体系



(2) 施策・事業

各施策の事業内容、実施主体について以下に示します。

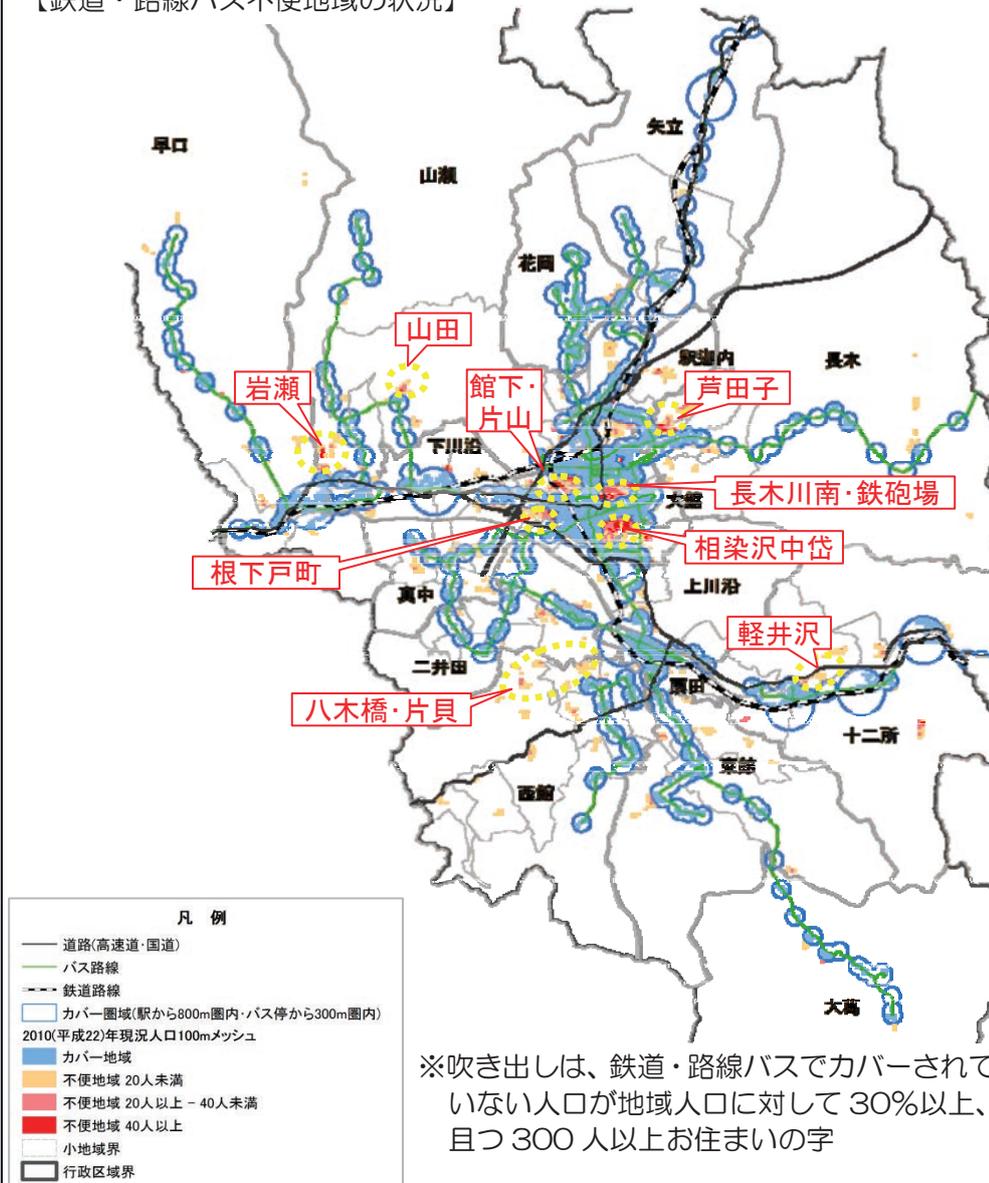
施策 1-1 公共交通路線再編の実施	
事業内容	<p>○拠点間連携や隣接都市への移動を確保するため、大館・鷹巣線、大館・小坂線、花輪・大館線などの基幹軸について、一定の運行水準を確保しつつ、運行の効率化などによる採算性の向上を目指します。</p> <p>○上記以外の路線については、地域ぐるみによるさらなる利用促進を図りながら、利用者が少ない不採算路線については、利用実態に応じた路線再編を進めます。</p> <p>【大館市バス路線図】</p> <p>※吹き出しの青枠は国庫補助（地域間幹線系統） 赤枠は国庫補助（地域内フィーダー系統） または県補助（秋田県生活バス路線）</p>
実施主体	大館市、バス事業者

## 施策 1-2 多様な運行形態による交通手段の確保

### 事業内容

- 鉄道・路線バスを利用しにくい公共交通不便地域について、地域のニーズ・需要に見合った多様な運行形態による交通手段を検討することで、誰もが安心して外出できる環境を整備します。
- この際には、今ある地域公共交通の有効活用として、タクシー券の配布やスクールバス・病院バスの活用、また、小需要に対応したデマンド型交通の導入などについて検討を行います。

【鉄道・路線バス不便地域の状況】



### 実施主体

大館市、バス事業者、タクシー事業者、NPO法人

施策 2-1 交通結節点における乗り継ぎ環境の向上

事業内容

- 主要な鉄道駅や多くの系統のバスが発着するバス停など、拠点エリア内の交通結節点周辺に都市機能や居住を誘導し、公共交通利用の選択可能性を高めるとともに、乗継ぎ環境を向上させます。
- 大館駅前地区では、都市再生整備計画に基づいた整備が進められていることを踏まえ、バス事業者と鉄道事業者の連携を強化し、交通結節点としての利便性の向上を図ります。
- 市民アンケート調査やワークショップにおいて、バス停などにおける待合環境の整備を求める声が多くありました。このため、待合スペースの確保や充実、快適に使える待合環境への改善を図ります。
- 市の施設や民地の空きスペース、バス停周辺施設、店舗等の協力によるバス停待合所の整備に取り組むとともに、冬季には、地域ボランティアとの協力関係を構築し、バス待合所付近の除排雪体制を強化します。

【北海道運輸局：店舗を待合施設に活用する実証実験（旭川市）】



バス待ちOKステッカー

資料：北海道運輸局HP

【ハチ公プラザの待合スペース（大館市）】



資料：大館市

【バス停などにおける「おもいやりのひとかき運動」（新潟市）】



バス停等にスコップと看板を設置



バスを待つちょっとの時間でひとかき

資料：新潟市社会福祉協議会HP

実施主体

大館市、バス事業者、鉄道事業者、商業事業者

## 施策 2-2 小さな拠点など地域拠点の形成

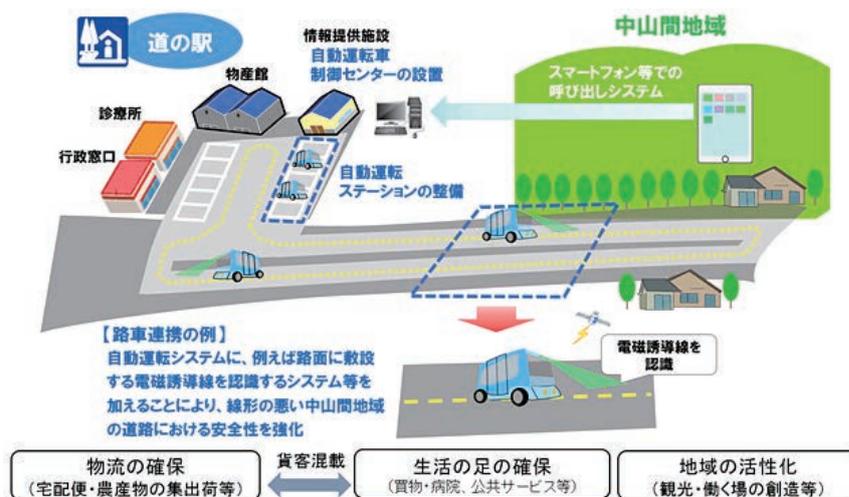
### 事業内容

- 小学校区など複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、支所等の公共施設や「道の駅」、診療所、福祉施設、小学校の廃校舎などを活用し、交流の中心となる「小さな拠点」などの地域拠点を整備することを検討します。
- 周辺集落と地域拠点を結び、地域拠点から都市部の拠点へのアクセスとなるバス路線などに接続させることで、生活の足に困る高齢者なども暮らし続けられる生活圏の形成が期待されます。
- 自宅から地域拠点までの交通手段として、コミュニティバスやデマンドバスなどの導入のほか、自動運転車両の導入など、新しい移動手段のあり方についても検討を行います。

### 【小さな拠点形成イメージ（国交省「小さな拠点」づくりガイドブック）】



### 【道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験（国交省）】



※平成 29 (2017) 年度 上小阿仁村「道の駅 かみこあに」で実施  
資料：国土交通省HP

### 実施主体

大館市、バス事業者、タクシー事業者、地域住民

施策 2-3 情報提供ツールの作成、HP 等での情報発信

- 事業内容
- 「大館市得とく定期券」をバス事業者と協力して引き続き発行し、路線バスを利用していない方を対象に、周知するためのチラシを作成、配布し利用促進を図ります。
  - 路線バスの公共交通マップや時刻表、運賃、乗降方法などに関する情報と、地域公共交通機関の利用に関するパンフレットを引き続き作成し、利用者に配布・周知します。
  - また、インターネット上で提供されている乗換案内サービスの周知を図ります。
  - 市民アンケート調査やワークショップにおいて、バスに関する情報提供の充実などを求める声が多くありました。このため、バス等の公共交通に係る情報を、よりわかりやすい形で提供できるよう、情報提供媒体・設備等の改善に向けて取り組みます。
  - 市のHPやSNS、「広報おおだて」等を活用した広報・情報発信を行うとともに、バス停や待合所においては、見やすく・わかりやすい運行経路・運賃表示等の情報提供を進めます。
  - QRコード等を活用し、シームレスに情報を収集できる仕組みや、バス・鉄道運行情報をリアルタイムに提供できる仕組みの導入に向けた検討及び実施可能性の評価を行います。

【公共交通の情報を総合的に提供するポータルサイトの事例（八戸市）】



資料：八戸市HP

実施主体 大館市、バス事業者、鉄道事業者

### 施策 3-1 多様な連携による公共交通の利用促進

#### 事業内容

- 普段バスを利用していない市民を対象に、バスの利用促進や楽しく歩くことで環境保全と健康増進に寄与することを目的とした「バス&ウォーク事業」を今後も継続して実施します。
- 商業施設・商店街・企業と連携したサービスの展開として、市民・観光客を対象とした公共交通利用による特典制度や各種イベントとの連携、バス乗車券と温泉入浴やランチ等をセットにした「バスパック」等を検討します。
- 運転免許の自主返納の促進、公共交通の利用促進のため、運転免許証を自主返納した高齢者を対象に、協賛店での割引やタクシー利用料金の割引などの優遇措置を継続するとともに、周知、拡大に努めます。
- 観光客を対象とした臨時観光周遊バスの導入検討や、観光施設と交通事業者が連携した企画乗車券の開発・販売など、観光振興との連携・協働による公共交通の利用促進を図ります。
- 地域連携DMO「秋田犬ツーリズム」など、観光振興に取り組んでいる組織・団体と協力・連携し、観光客などの来訪者をターゲットとした公共交通利便性向上など、外部からの需要取り込みを推進します。
- 「シェアリングエコノミー」など、既存資源とITを活用した新たな取り組みについて、スマートフォンなどのIT利用への抵抗が少ない観光客・学生を対象に、行政が関与できる可能性について検討を行います。

【観光施設・商業施設などと連携したバスパックの事例（八戸市）】



資料：八戸市HP

#### 実施主体

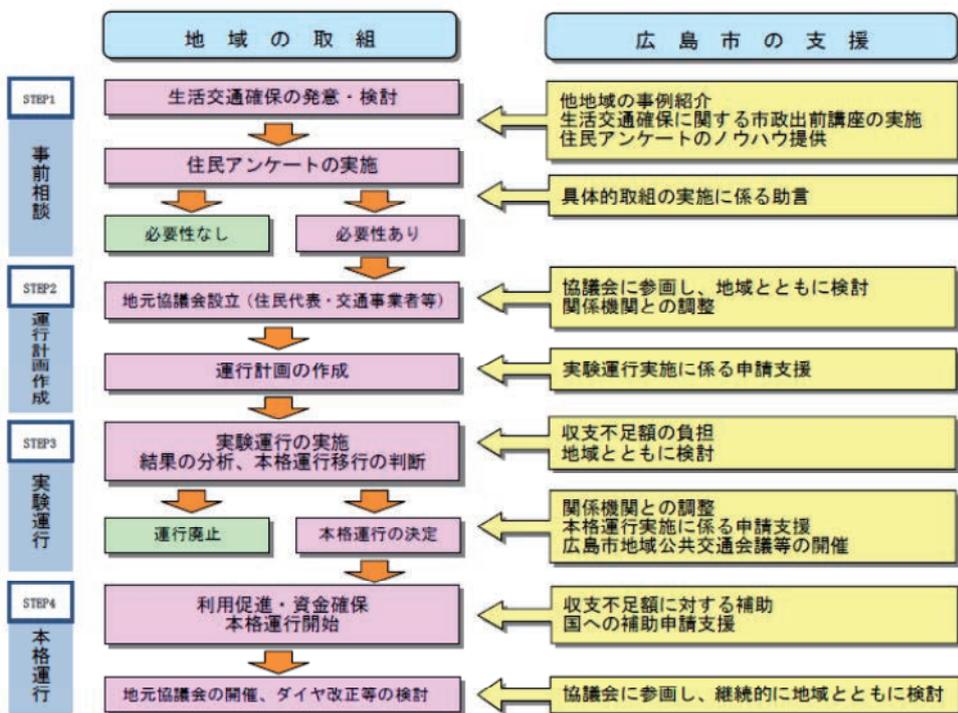
大館市、バス事業者、商工・観光事業者、商工会、観光協会、地域住民

施策 3-2 公共交通を市全体で支える体制の構築

事業内容

- 公共交通の利用促進や再編を図るため、路線バスなどの現状を説明することや、利用者の意見を今後の公共交通に反映させることを目的に、市内各地域で座談会を開催します。
- 商業施設や病院と連携したバス運行や、スクールバスの活用、学校と連携した利用促進策の実施など、産学官が連携した交通サービスの提供や公共交通利用促進策等に向けて取り組みます。
- 今後、行政だけで公共交通を維持・運営することは困難と想定されることから、地域主体での交通サービス導入に向けた検討会の立ち上げなど、公共交通を市全体で支える体制の確保を目指します。
- 今後増加すると考えられる免許返納者への対応なども念頭に、地域住民やNPO、社会福祉協議会が主体となった送迎ボランティアなど、地域助け合い型の移動サービスの導入に向けて取り組みます。

【地域主体による生活交通の導入・確保への支援事例（広島市）】



資料：広島市HP

実施主体

大館市、地域住民、商業事業者、病院、学校

### (3) 計画の進め方

#### ①実施主体と役割

本計画を進めるにあたって、「行政」「交通事業者」だけでなく、「民間事業者」「住民」「関係機関」が連携し、一体となって、計画目標の達成に向けて対応します。

以下のように、それぞれの役割分担を明確にし、新たな交通体系の構築を目指します。

区分	役割	具体的な対応イメージ
行政	全体コーディネート 及び最低限の 交通サービスの保証	○バス路線の再編計画策定 ○地域交通の再構築支援 ○公共交通に関する情報提供 等
交通事業者	幹線・主要路線の 運行を担い、市民の 移動を確保	○バス路線再編計画の運営面からの支援 ○地域交通の運営面の検討協力 ○公共交通に関する情報提供 等
民間事業者 住民 関係機関	サービスを受けるだけ ではなく、公共交通の 意義を考える、支える、 主体的に取り組む	○バス路線の再編に対する意見・要望 ○公共交通維持確保に向けた利用促進・協力 ○企業・住民による運行支援体制の構築 ○スポンサー協力

#### ②マネジメント機能・体制構築

本計画に基づく施策・事業実施の推進・管理体制は以下の通りです。

推進・管理体制	構成員	役割
大館市地域公共交通 活性化協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者代表</li> <li>・学識経験者</li> <li>・交通事業者</li> <li>・道路管理者</li> <li>・交通管理者 等</li> </ul>	市民のニーズ変化に合わせた地域公共交通の見直し・改善（短期）や、持続可能な交通体系の構築に向けたプロジェクトの検討（中・長期）などを継続的に協議できる「場」として位置づける。

③PDCAサイクルに基づく施策の推進

本計画で掲げた目標を達成するために、PDCAサイクルの考え方に基づき、的確に検証を行います。

PDCAサイクルは、計画全体（10年間）を通じた中長期的なものに加えて、毎年の取り組みや社会情勢の変化などを踏まえ、事業単位の短期的なものも実施します。

また、毎年開催する大館市地域公共交通活性化協議会において、各事業の実施状況及び達成状況を報告するとともに、多方面で活躍する有識者・事業者から広く意見・提案等を収集し、よりよい地域公共交通網の形成に役立てていきます。

評価結果などは適宜HP等を通じて公表を行うとともに、自治体、交通事業者、および地域住民から広く意見を収集するための仕組みを構築します。

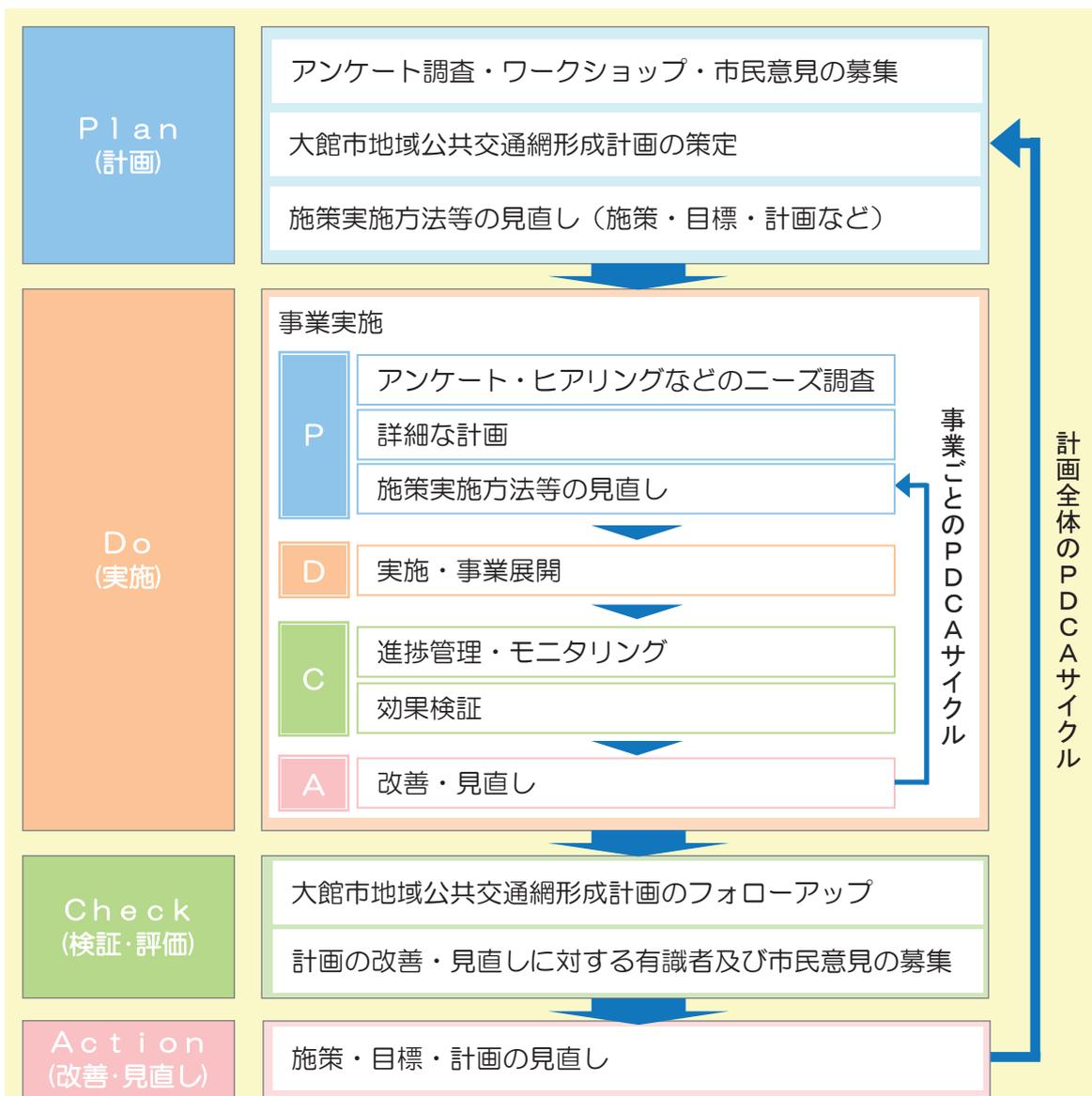
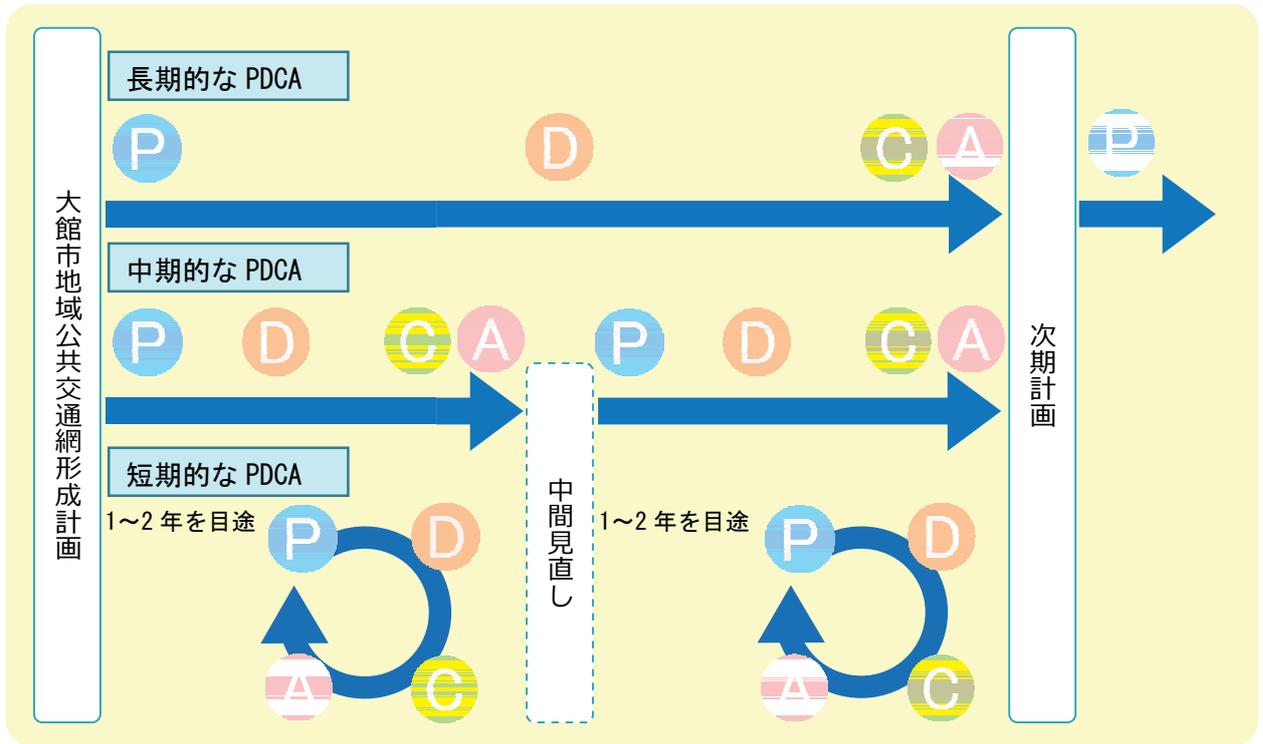


図 PDCA サイクルイメージ



		計画策定年 平成29年度 (2017年度)	1年目 平成30年度 (2018年度)	2年目 平成31年度 (2019年度)	3年目 平成32年度 (2020年度)	4年目 平成33年度 (2021年度)	5年目 平成34年度 (2022年度)	6年目 平成35年度 (2023年度)	7年目 平成36年度 (2024年度)	8年目 平成37年度 (2025年度)	9年目 平成38年度 (2026年度)	10年目 平成39年度 (2027年度)	
中期・長期的 (PDCA)	Plan (計画)	アンケート調査・ワークショップ・市民意見の募集	←										
		大館市地域公共交通網形成計画の策定	←										
	Do (実施)	施策実施方法等の見直し (施策・目標・計画など)						↔					↔
		事業実施		→									
	Check (検証・評価)	大館市地域公共交通網形成計画のフォローアップ						↔					↔
計画の改善・見直しに対する有識者及び市民意見の募集							↔					↔	
Action (改善・見直し)	施策・目標・計画の見直し						↔					↔	
短期的 (PDCA)	Plan (計画)	アンケート・ヒアリングなどのニーズ調査	←										
		詳細な計画	←										
		施策実施方法等の見直し		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	
	Do (実施)	実施・事業展開		→									
		Check (検証・評価)	進捗管理・モニタリング		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
効果検証			↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔		
Action (改善・見直し)	改善・見直し		↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔		

図 PDCA の実行イメージ

# 參考資料

# 参考資料

## (1) 法定協議会の構成員・開催状況

### ① 大館市地域公共交通活性化協議会 名簿

任期：平成31年3月31日まで  
平成29年4月17日現在

No.	団体名	職名	氏名	備考
1	東北運輸局秋田運輸支局	首席運輸企画専門官	岩淵 正宏	
2	東北地方整備局 能代河川国道事務所	調査第二課長	加納 尚史	
3	東北職業能力開発大学校附属 秋田職業能力開発短期大学校	主幹・教授	小笠原 吉張	
4	秋田県観光文化スポーツ部 交通政策課	地域交通対策監	藤原 亨	4.17新任
5	北秋田地域振興局建設部	企画・建設課長	近藤 雅	4.17新任
6	秋田県大館警察署	交通課長	佐藤 慎也	
7	大館商工会議所	専務理事	木村 勝広	
8	大館北秋商工会	事務局長	竹田 信行	
9	秋北バス株式会社 事業管理部	取締役部長	棚谷 貞一	
10	秋田県ハイヤー協会	大館支部長	高橋 紀博	
11	秋田県交通運輸 産業労働組合協議会	秋北バス労働組合書記長	田中 靖夫	
12	利用者代表及び住民代表	大館地域	関口 慎一	
13	利用者代表及び住民代表	比内地域	米澤 正悦	
14	利用者代表及び住民代表	田代地域	辰 瑞康	
15	大館市教育委員会	学校教育課長補佐	小松原 功秀	
16	大館市	建設部長	嶋田 均	会長

### ○事務局

所属名	職名	氏名
建設部 都市計画課	課長	五十嵐 悟
	主幹	斉藤 浩悦
	課長補佐	日景 浩一
	係長	本多 利明
	主査	藤島 由美子
	主査	渡部 智士

## ② 開催状況

開催日時	会議名	内容
平成29(2017)年 8月21日(月)	第2回 協議会	(1)生活交通確保維持改善計画について (2)大館・小坂線の運行経路変更について報告事項 (3)大館市地域公共交通網形成計画について
平成29(2017)年 12月18日(月)	第4回 協議会	(1)公共交通不便地域アンケート結果の報告について (2)タクシーの活用による実証実験の実施について (3)大館市地域公共交通網形成計画について
平成30(2018)年 2月16日(金)	第5回 協議会	大館市地域公共交通網形成計画素案について
平成30(2018)年 3月16日(金)	第6回 協議会	(1)パブリックコメントからの意見について (2)大館市地域公共交通網形成計画最終案について

※開催状況は、「大館市地域公共交通網形成計画」について協議したものを記載しています。

## (2) アンケート調査結果の詳細

### ① 公共交通不便地域住民アンケート

#### 【依頼文】

平成29年9月7日

各 位

大館市長 福原 淳 嗣  
(公 印 省 略)

### 公共交通や日常の移動手段に関する市民アンケート調査

#### ご協力をお願い

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

市では、公共交通の維持確保を図るため、「地域公共交通活性化協議会」を設置し、公共交通のあり方や路線バス等の利用増進策等を検討し、本市の地域公共交通に関する基本的な方針を定めた「大館市地域公共交通網形成計画」の策定を進めております。

この計画策定にあたり、市民の皆様の公共交通に対するニーズや交通行動の実態に対するお考え等を把握するため、昨年度公共交通に関する座談会を開催した地域の方などを中心にアンケート調査を実施することとしました。

調査は無記名で、ご回答は統計的に処理しますので、ご協力いただきました皆様には、ご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ誠にお手数とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

#### ★ 調査票の記入・返送方法

1. この調査票は、平成29年4月1日現在で18歳以上の方がお答えください。また、改善策を検討する際の貴重な資料とするため、ご家族の中で日ごろから交通手段の確保に特に困られている方が優先してお答えください。
2. お答えは、あてはまる番号を○で囲んでください。  
なお、各問で「その他」にあてはまる場合は、お手数でも（ ）内に具体的に記入してください。
3. ご記入いただいた調査票は、この調査票が入っていた封筒に入れて、平成29年9月24日（日）までに町内会長さんへ渡してください。

★この調査に関するお問合せやご不明な点は、担当までお気軽にご連絡ください。

#### 【担当】

大館市 都市計画課 都市整備係 藤島・渡部  
TEL：0186-43-7082  
FAX：0186-55-1018

## 【調査票】

**1 あなたについてお聞きします。**

問1. あなたがお住まいの地域を教えてください。

- |   |         |
|---|---------|
| 1. 塞の神                                  | 6. 畑 沢  |
| 2. 寺 崎                                  | 7. 板 戸  |
| 3. 八木橋                                  | 8. 水 沢  |
| 4. 五輪台                                  | 9. 白 沢  |
| 5. 一 通                                  | 10. 小坪沢 |
| 11. 上記にない場合は字名をご記入ください ※番地は不要です。<br>( ) |         |

問2. あなたの性別を教えてください（○はひとつ）。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3. あなたの年齢はおいくつですか（○はひとつ）。 平成29年4月1日現在

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. 18・19歳 | 5. 50～59歳 |
| 2. 20～29歳 | 6. 60～69歳 |
| 3. 30～39歳 | 7. 70～79歳 |
| 4. 40～49歳 | 8. 80歳以上  |

問4. あなたの職業を教えてください（○はひとつ）。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 会社員・公務員   | 5. 家事専業        |
| 2. 農家        | 6. 学生          |
| 3. 自営業       | 7. 無職・年金       |
| 4. パート・アルバイト | 8. その他（具体的に： ) |

問5. あなたは、自動車免許を持っていますか（○はひとつ）。

- |                                |
|--------------------------------|
| 1. 免許があり、運転に支障はない⇒問6へ          |
| 2. 免許はあるが、運転に不安があり運転を控えている⇒問6へ |
| 3. 免許はあるが、返納を考えている⇒問6へ         |
| 4. 免許をすでに返納した⇒問8へ              |
| 5. 免許を取得していない⇒問8へ              |

問6. 問5で、「1」～「3」を選んだ方にお聞きします。  
あなたは、自動車を持っていますか（○はひとつ）。

- |                    |
|--------------------|
| 1. いつでも自由に使える車がある  |
| 2. ある程度は自由に使える車がある |
| 3. 自由に使える車はない      |

→次は問7へ

問7. 今後免許を返納する予定はありますか（○はひとつ）。

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1. 70歳までには返納する予定 | 4. 85歳までには返納する予定     |
| 2. 75歳までには返納する予定 | 5. 85歳以上（一生運転を続ける予定） |
| 3. 80歳までには返納する予定 |                      |

→次は問9へ

問8. 問5で、「4」または「5」を選んだ方にお聞きします。

あなたが外出したい時に、送迎してくれる身近な方はいますか（○はひとつ）。

- |                        |
|------------------------|
| 1. 気軽に頼める家族や知り合いがいる    |
| 2. 時々であれば頼める家族や知り合いがいる |
| 3. 頼める家族や知り合いはいない      |

→次は問9へ

問9. 公共交通（電車・バス・タクシーなど）利用時に付き添いや介助を必要としていますか（○はひとつ）。

- |                             |
|-----------------------------|
| 1. 付き添いや介助は不要（自分一人で乗り降りできる） |
| 2. 公共交通の乗り降りに付き添いや介助が必要     |

問10. 日常生活の交通手段（電車・バス・タクシーなど）がなくて困ることがありますか（○はひとつ）。

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1. たいへん困っている⇒問11へ                     |
| 2. たまに困ることがある⇒問11へ                    |
| 3. 今は困ってはいないが、近い将来（5年程度）困る可能性がある⇒問11へ |
| 4. 当面困らない⇒問12へ                        |

問11. 問10で、「1」「2」「3」を選んだ方にお聞きします。

困った時には、どのように対処しますか（○はひとつ）

- |                             |
|-----------------------------|
| 1. タクシーを利用する                |
| 2. 家族や、知り合いなどに送迎してもらう       |
| 3. 不便だが、電車・バスなどの公共交通機関を利用する |
| 4. 徒歩または自転車で移動する            |
| 5. その他（具体的に： _____）         |

→次は問13へ

問12. 問10で「4」を選んだ方にお聞きします。

当面困らない理由について教えてください（○はひとつ）。

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 自分で運転を続けていくつもりだから              |
| 2. 電車やバス、タクシーなどを利用すれば日常生活に支障はないから |
| 3. 送迎を気軽に頼める家族や知り合いがいるから          |
| 4. その他（具体的に： _____）               |

→次は問13へ

**2 あなたの日ごろの外出についてお伺いします。**

問13. 日ごろどのような目的で外出することが多いですか（多いものを3つまで○）。

- |               |                     |
|---------------|---------------------|
| 1. 通勤・通学      | 5. 手続き（銀行・郵便局・官公署等） |
| 2. 買物         | 6. 福祉サービス（デイサービスなど） |
| 3. 通院         | 7. その他（具体的に： _____） |
| 4. 趣味や習い事・交遊等 |                     |

問14. どのくらいの頻度で外出していますか（○はひとつ）

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. 週に5日以上 | 4. 月に2～3日 |
| 2. 週に3～4日 | 5. 月に1回   |
| 3. 週に1～2日 |           |

問15. 日ごろよく行く目的地はどこですか（差し支えない範囲で詳細を教えてください）

施設の名称（ \_\_\_\_\_ ）

住 所（ \_\_\_\_\_ ）

問16. 主にどの時間帯に外出していますか。

行 き : 午前 ・ 午後 ( \_\_\_\_\_ ) 時頃

帰 り : 午前 ・ 午後 ( \_\_\_\_\_ ) 時頃

※記入例 (午前) ・ 午後 ( 8 ) 時頃

問17. 公共交通（電車、バス、タクシーなど）が利用しやすく改善されれば、外出する機会などは増えると思えますか（○はひとつ）。

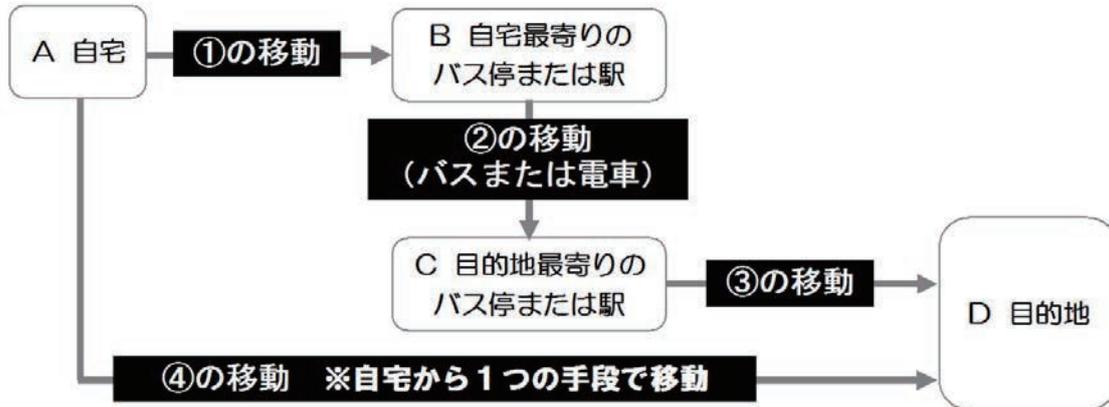
- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 大幅に増える | 3. 今と変わらない |
| 2. 多少は増える | 4. わからない   |

問18. 地域内を移動するために、乗合い（他の方と同乗）タクシーなどが導入された場合、利用してみたいと思えますか（○はひとつ）。

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 1. 利用してみたい            |  |
| 2. 利用したくない（理由： _____） |  |
| 3. その他（具体的に： _____）   |  |

→次は問19へ

問 19. 日ごろの移動手段についてお伺いします。下記の①～④の移動について、それぞれよく利用されている手段を教えてください。



①の移動 (A 自宅～B 最寄りのバス停・駅) は、主に何を利用していますか (〇はひとつ)。

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1. この経路は普段利用しない | 6. 家族や知り合いの車に同乗      |
| 2. 徒歩           | 7. 施設等の送迎バス          |
| 3. 自転車          | 8. タクシー              |
| 4. オートバイ・原付     | 9. その他 (具体的に: _____) |
| 5. 自家用車         |                      |

②の移動 (B 最寄りのバス停・駅～C 目的地最寄りのバス停・駅) は、主に何を利用していますか (〇はひとつ)。

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1. この経路は普段利用しない | 3. 電車                |
| 2. バス           | 4. その他 (具体的に: _____) |

③の移動 (C 目的地最寄りのバス停・駅～D 目的地) は、主に何を利用していますか (〇はひとつ)。

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1. この経路は普段利用しない | 6. 家族や知り合いの車に同乗      |
| 2. 徒歩           | 7. 施設等の送迎バス          |
| 3. 自転車          | 8. タクシー              |
| 4. オートバイ・原付     | 9. その他 (具体的に: _____) |
| 5. 自家用車         |                      |

④の移動 (A 自宅～D 目的地へ直接移動) は、主に何を利用していますか (〇はひとつ)。

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1. この経路は普段利用しない | 6. 家族や知り合いの車に同乗      |
| 2. 徒歩           | 7. 施設等の送迎バス          |
| 3. 自転車          | 8. タクシー              |
| 4. オートバイ・原付     | 9. その他 (具体的に: _____) |
| 5. 自家用車         |                      |

→次は問 20へ

問20. 問19の移動のうち、もっとも移動に困っている経路を教えてください  
(○はひとつ)。

1. ①の移動 (A 自宅～B 最寄りのバス停・駅)
2. ②の移動 (B 最寄りのバス停・駅～C 目的地最寄りのバス停・駅)
3. ③の移動 (C 目的地最寄りのバス停・駅～D 目的地)
4. ④の移動 (A 自宅～D 目的地へ直接移動)

問21. どのような理由で移動に困っていますか(特に困っている理由を3つまで○)。

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 便が少ない          | 15. 他の手段(自動車・タクシー等)の方が便利   |
| 2. 料金が高い          | 16. 複数の目的(買物と通院等)を達成するのに不便 |
| 3. 始発が遅い          | 17. その他                    |
| 4. 最終便が早い         | 困っている理由を具体的に教えてください        |
| 5. 所要時間が長い        |                            |
| 6. 混雑で座れない        |                            |
| 7. 乗り継ぎが不便        |                            |
| 8. 待合施設が無い        |                            |
| 9. 徒歩での移動が困難      |                            |
| 10. 駐車場・駐輪場がない    |                            |
| 11. タクシーが利用出来ない   |                            |
| 12. 自宅からバス停や駅が遠い  |                            |
| 13. 公共交通での行き方が複雑  |                            |
| 14. 目的地まで運行されていない |                            |

### 3 今後の公共交通のあり方についてご意見を伺います。

問22. 公共交通や日常の移動手段に関してのご意見・ご要望がありましたら、何でも結構ですのでご自由にお書きください。

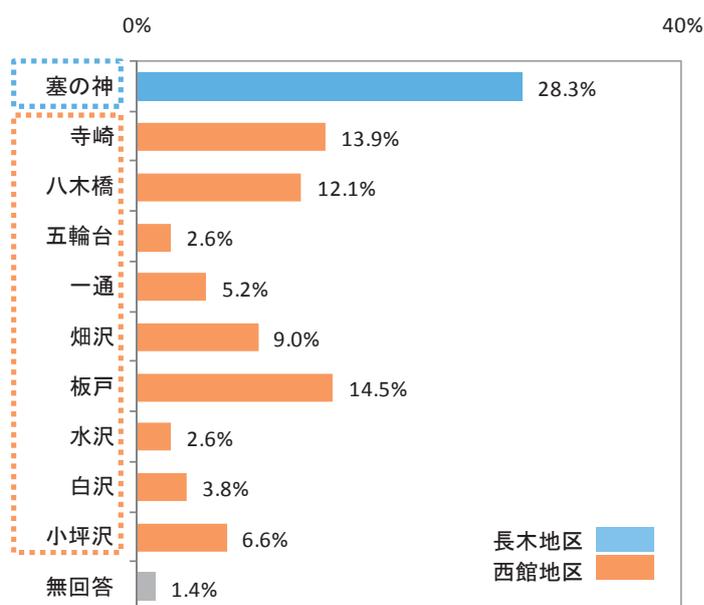
ご記入いただいた調査票は、この調査票が入っていた封筒に入れて、9月24日(日)までに町内会長さんへお渡しください。ご協力ありがとうございました。

【調査結果】

1 あなたについてお聞きします。

問1. あなたがお住まいの地域を教えてください。

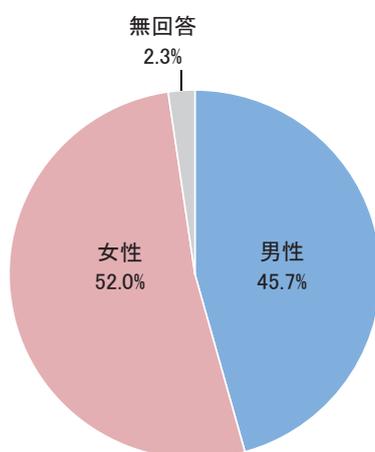
回答者のお住まいの地域は長木地区の「塞の神」が28.3%と最も多く、ついで西館地区の「板戸」が14.5%、「寺崎」が13.9%、「八木橋」が12.1%となっています。



※単一回答 n=346

問2. あなたの性別を教えてください（〇はひとつ）。

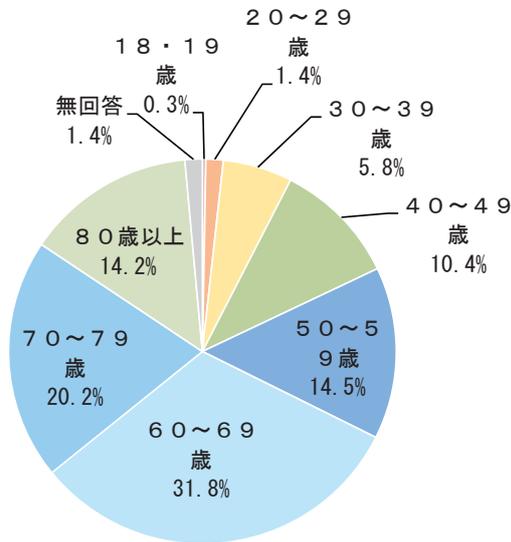
回答者の性別は「女性」のほうが若干多くなっています。



※単一回答 n=346

問3. あなたの年齢はおいくつですか (〇はひとつ)。

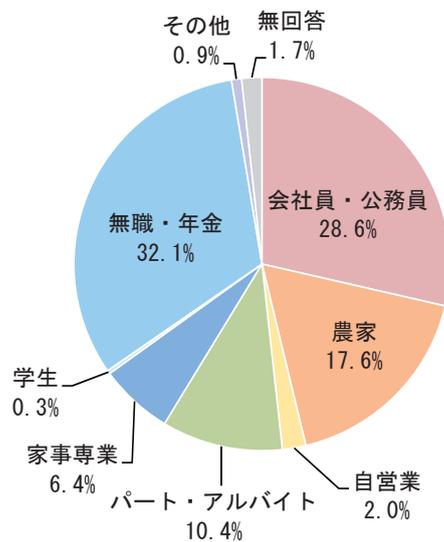
回答者の66.2%は60歳以上、34.4%は70歳以上です。



※単一回答 n=346

問4. あなたの職業を教えてください (〇はひとつ)。

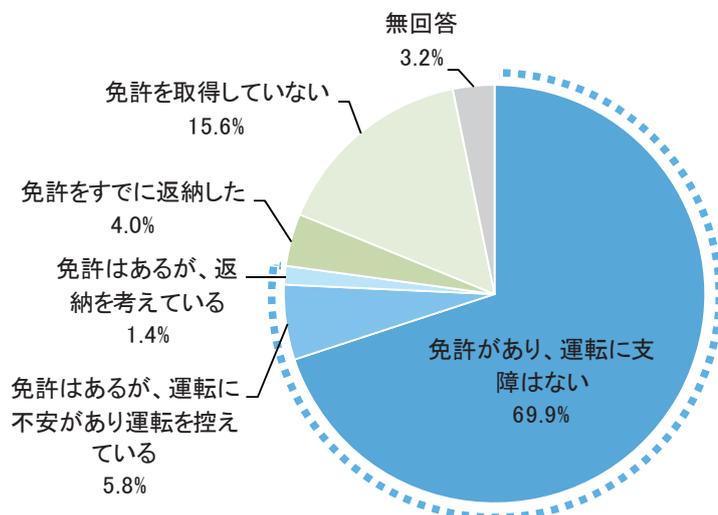
職業で最も多いのは「無職・年金」で32.1%となっています。ついで「会社員・公務員」が28.6%、「農家」が17.6%とつづいています。



※単一回答 n=346

問5. あなたは、自動車免許を持っていますか（〇はひとつ）。

「自動車免許がある」と回答した方は 77.1%で、69.9%の方は「運転に支障はない」と回答しています。

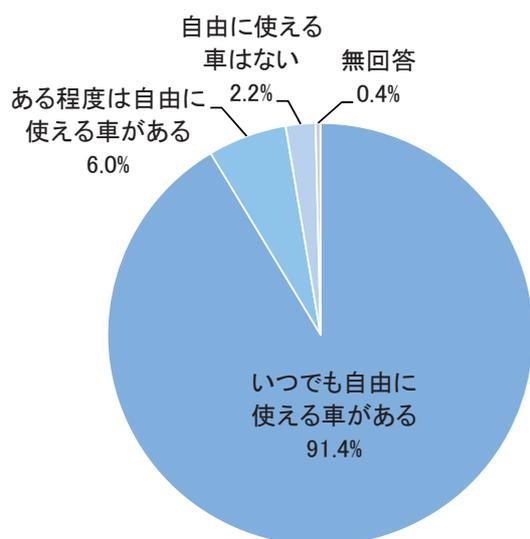


※単一回答 n=346

問6. 問5で、「1」～「3」を選んだ方にお聞きします。

あなたは、自動車を持っていますか（〇はひとつ）。

自動車免許を保有している方のうち、「いつでも」、あるいは「ある程度は」「自由に使える車がある」と回答した方は 97.4%とほとんどを占めています。

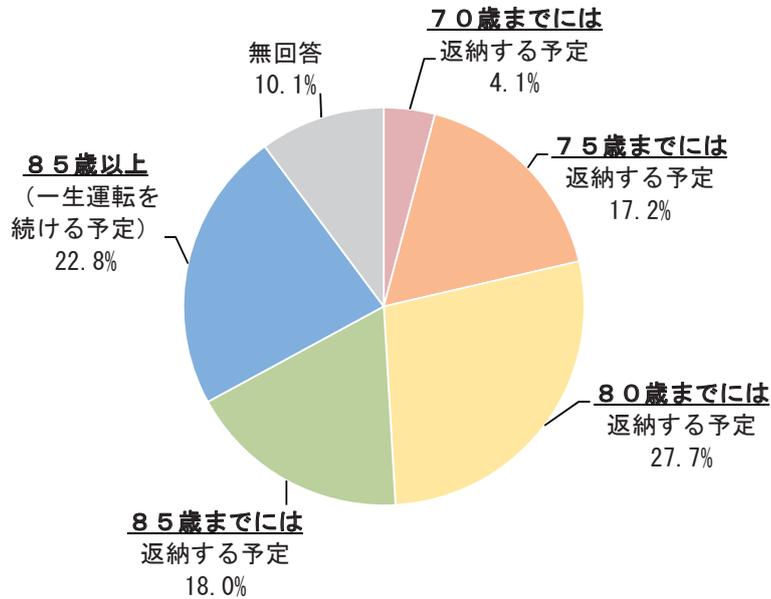


※単一回答 n=267

### 問7. 今後免許を返納する予定はありますか（〇はひとつ）。

最も多かった回答は「80歳までには返納する予定」で27.7%となっており、約半数の方は80歳未満での免許の返納を考えています。

一方、22.8%の方は「85歳以上（一生運転を続ける予定）」と回答しています。

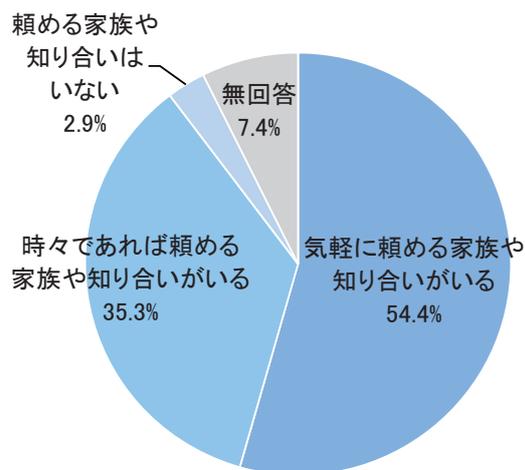


※単一回答 n=267

### 問8. 問5で、「4」または「5」を選んだ方にお聞きします。

あなたが外出したい時に、送迎してくれる身近な方はいますか（〇はひとつ）。

「気軽に頼める家族や知り合いがいる」と回答した方が54.4%となっており、「時々であれば頼める家族や知り合いがいる」と回答した方35.3%をあわせると、約9割の方は外出したいときに、身近に送迎してくれる人がいることがわかります。

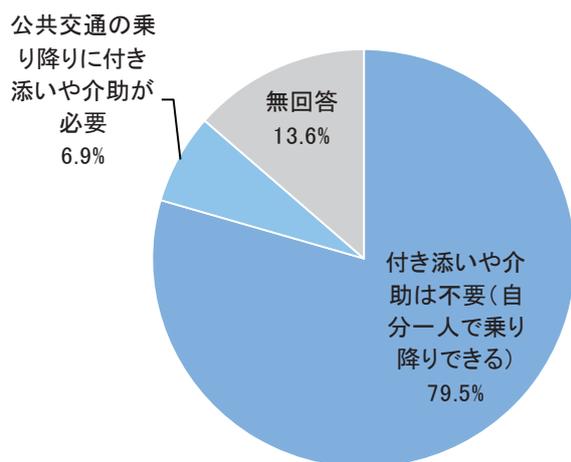


※単一回答 n=68

問9. 公共交通（電車・バス・タクシーなど）利用時に付き添いや介助を必要としていますか（〇はひとつ）。

約 8 割の方は公共交通を利用する際に、自分一人で乗り降りできるため付き添いや介助は不要であると回答しています。

6.9%の方が公共交通利用の際に付き添いや介助を必要としています。

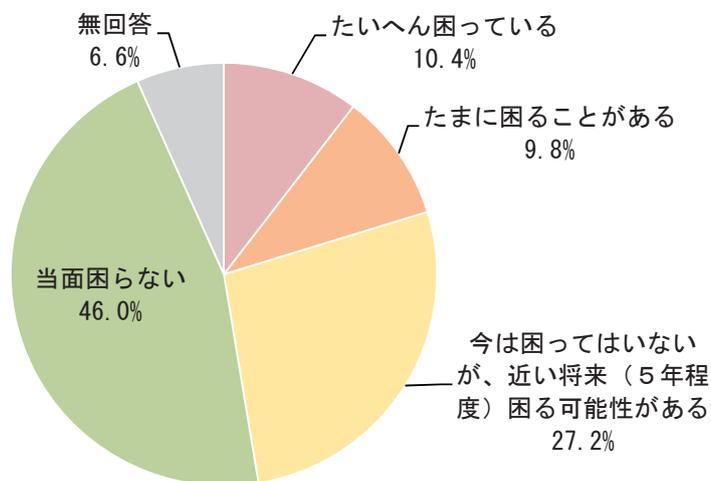


※単一回答 n=346

問10. 日常生活の交通手段(電車・バス・タクシーなど)がなくて困ることがありますか（〇はひとつ）。

「たいへん困っている」「たまに困ることがある」を合わせると、20.2%となり、約 2 割の方は交通手段がなくて困っている状況です。

「今は困っていないが、近い将来（5年程度）困る可能性がある」方が 27.2%おり、今後、交通手段がなくて困る方は増加することが推測されます。



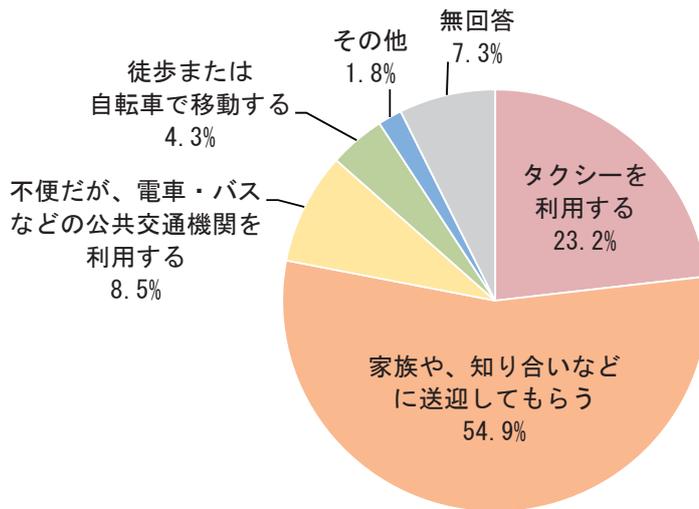
※単一回答 n=346

**問11. 問10で、「1」「2」「3」を選んだ方にお聞きします。**

**困った時には、どのように対処しますか（〇はひとつ）**

「家族や、知り合いなどに送迎してもらう」が54.9%となっており、半数以上の方は困ったときは誰かに依頼して送迎してもらっていると回答しています。

その他の手段としては「タクシーを利用する」が23.2%となっています。

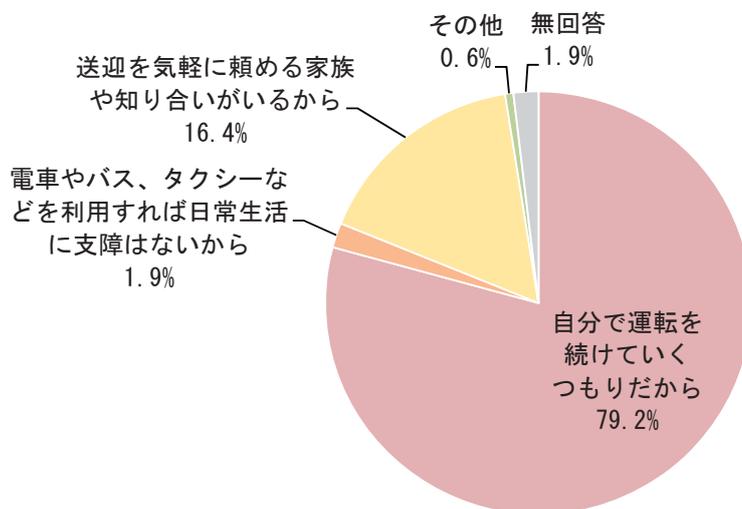


※単一回答 n=164

**問12. 問10で「4」を選んだ方にお聞きします。**

**当面困らない理由について教えてください（〇はひとつ）。**

「自分で運転を続けて行くつもりだから」が最も多い回答となっており、交通手段に困っていない方の約8割は、当面自分で自動車の運転が可能な方となっています。

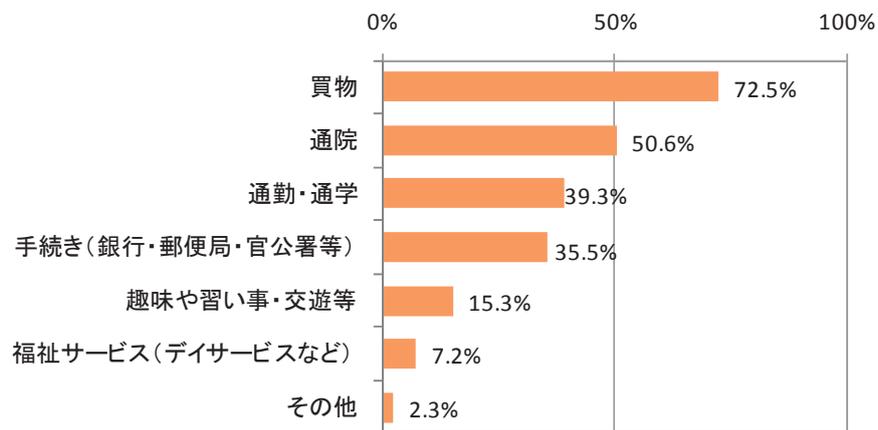


※単一回答 n=159

2 あなたの日ごろの外出についてお伺いします。

問13. 日ごろどのような目的で外出することが多いですか（多いものを3つまで○）。

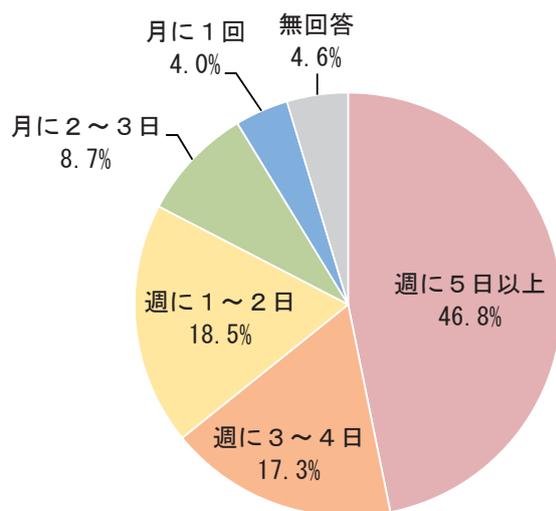
「買物」が72.5%、「通院」が50.6%、「通勤・通学」が39.3%となっています。



※複数回答 n=346

問14. どのくらいの頻度で外出していますか（○はひとつ）

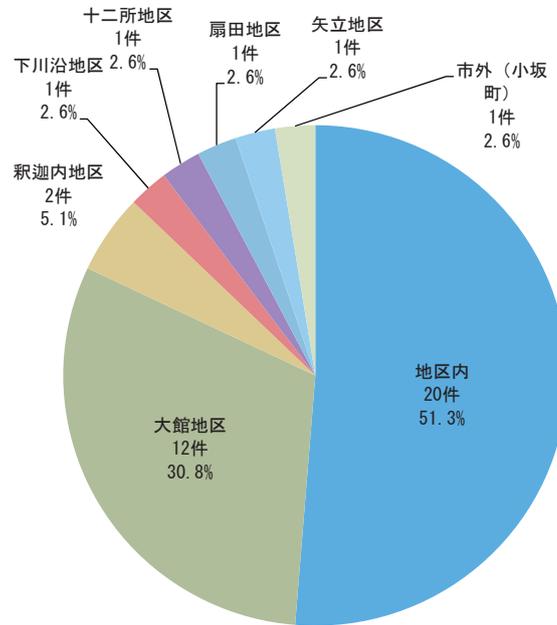
「週に5日以上」が46.8%となっており、ついで「週に3~4日」が17.3%となっています。



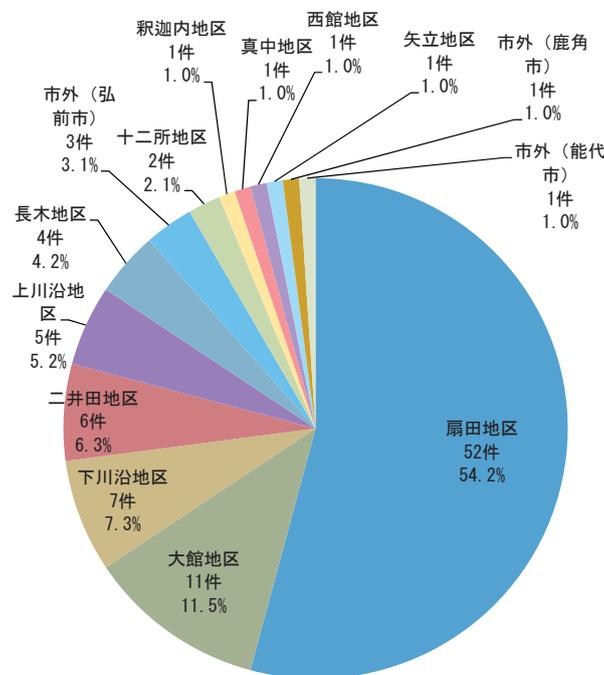
※単一回答 n=346

問15. 日ごろよく行く目的地はどこですか(差し支えない範囲で詳細を教えてください)

日ごろの外出先について、地区別にみると、長木地区は「地区内」、西館地区は「扇田地区」が、それぞれ約半数を占めています。

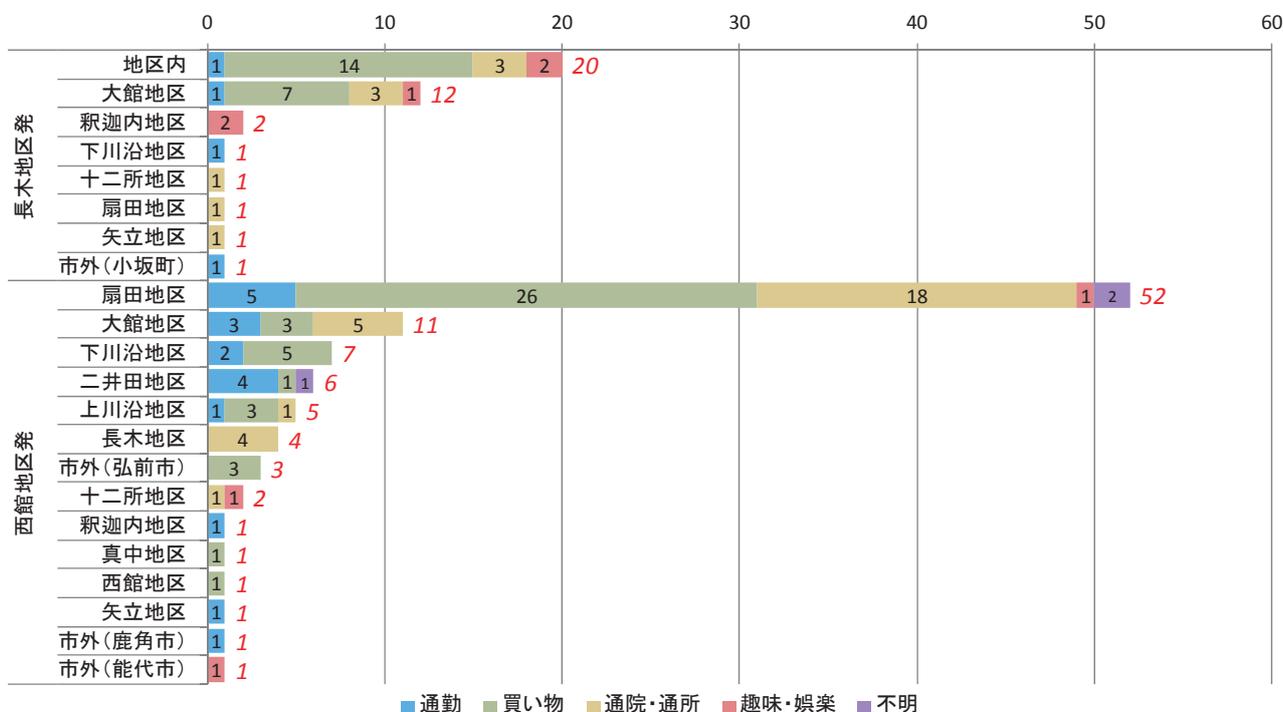


<長木地区から日ごろよく行く地区>



<西館地区から日ごろよく行く地区>

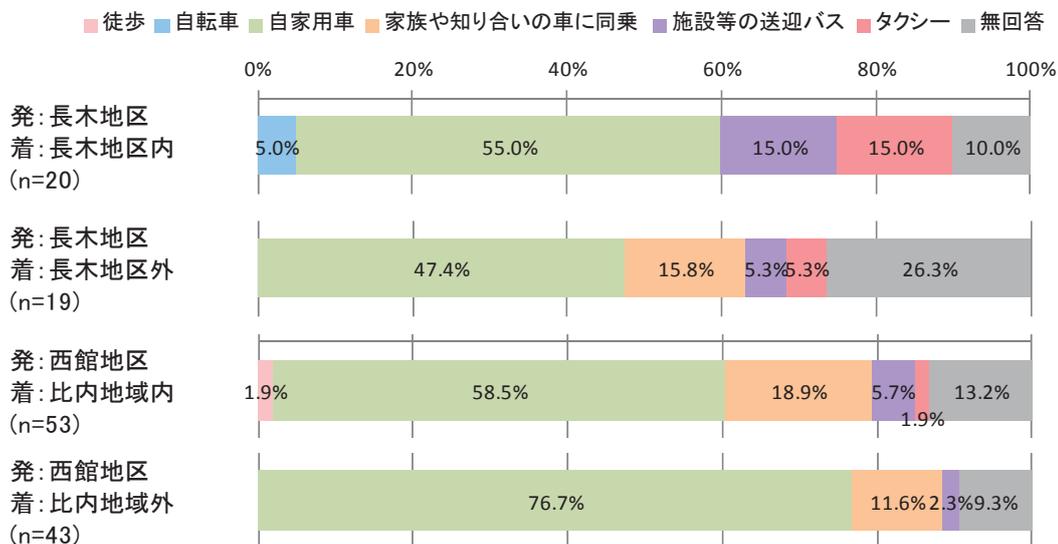
日ごろの外出先について、地区別・目的別に見ると、長木地区は、「地区内での買い物（いとく樹海店など）」、西館地区は、「扇田地区での買い物（いとく比内店など）」が最も多くなっています。



### 問15（日頃よく行く目的地）と利用交通手段のクロス集計

長木地区居住者については、地区内の移動において、施設等の送迎バス・タクシーがそれぞれ15%と比較的多くなっています。

西館地区においても、比内地域内の移動ではタクシーを利用する割合が比較的高くなっていますが、自家用車や家族や知り合いの車に同乗などが多い状況です。

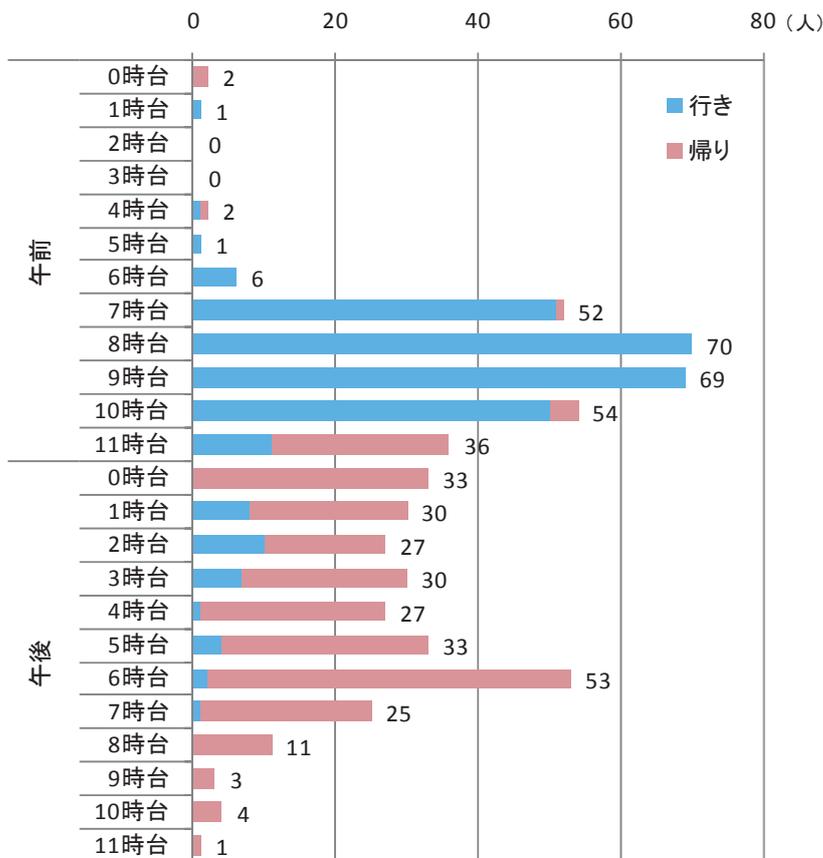


問16. 主にどの時間帯に外出していますか。

主に外出する時間帯は、「行き」では「午前7時台」から「午前10時台」に集中していることがわかります。

「帰り」の時間帯については、「午前11時台」から「午後5時台」までほぼ一定数で推移し、「午後6時台」が帰宅のピークとなっています。

主に外出する時間帯は「午前7時台」から「午後8時台」までの間であり、その他の時間帯の外出人数は10人未満と少なくなっています。

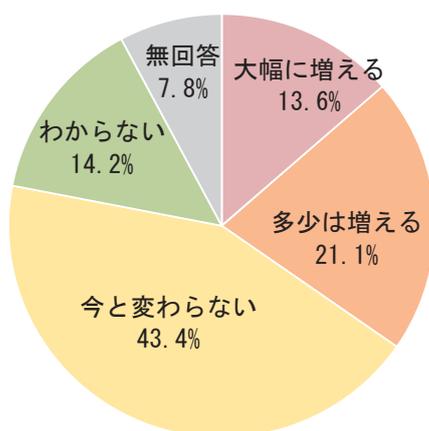


※単一回答 n=346

問17. 公共交通（電車、バス、タクシーなど）が利用しやすく改善されれば、外出する機会などは増えると思いますか（〇はひとつ）。

「今と変わらない」が43.4%で最も多い回答となっています。

一方、「大幅に増える」「多少は増える」を合わせて、外出の機会が増えると思われた方は34.7%となっています。



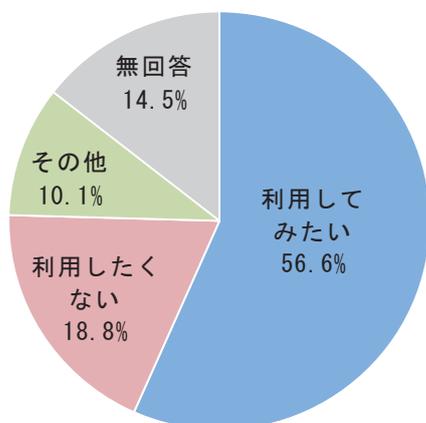
※単一回答 n=346

問18. 地域内を移動するために、乗合い（他の方と同乗）タクシーなどが導入された場合、利用してみたいと思いますか（〇はひとつ）。

「利用してみたい」と回答した方は56.6%で、半数以上の方が利用に積極的であることがわかります。

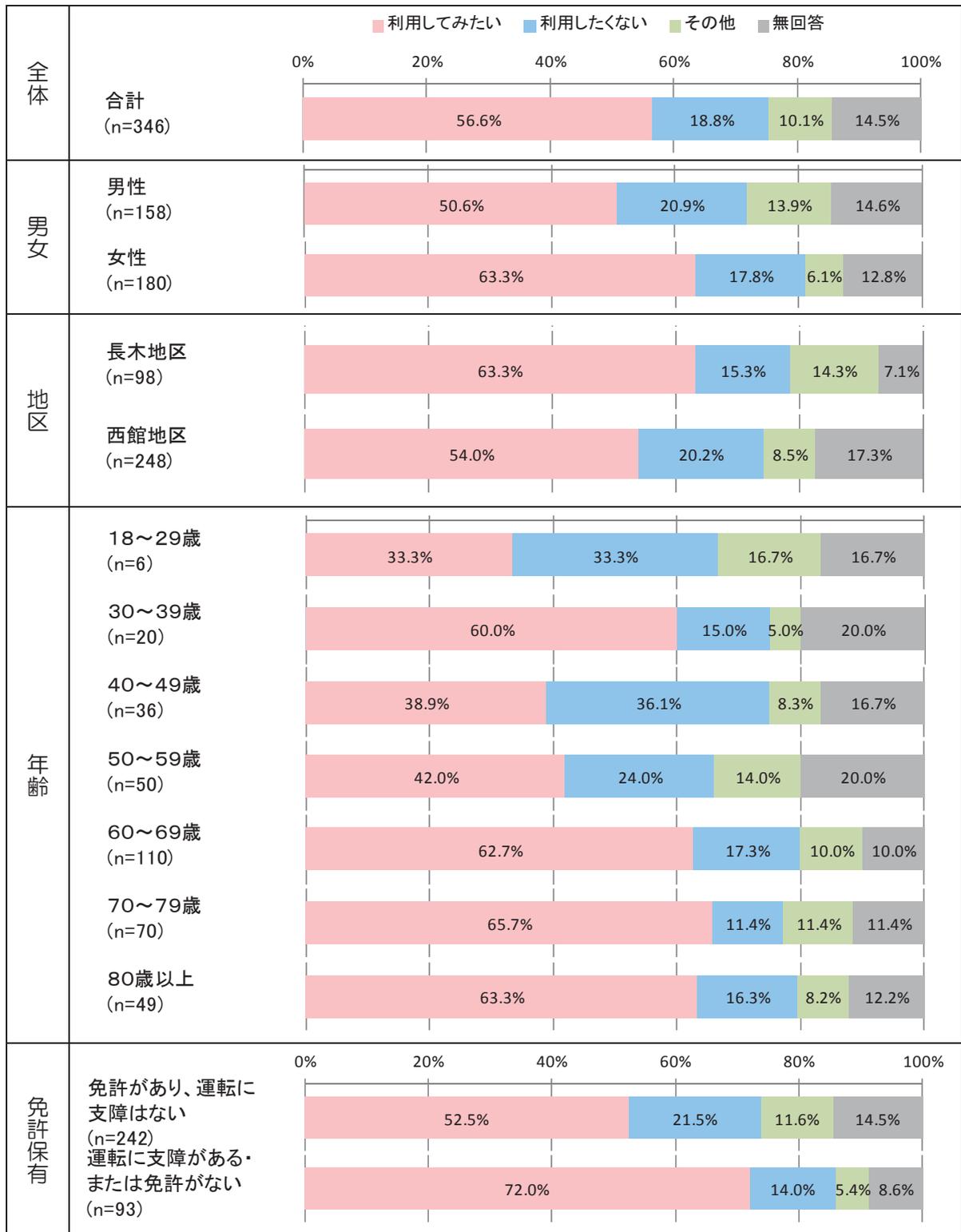
「利用したくない」との回答は18.8%です。

また、次ページに示すクロス集計結果より、男女別では女性、地区別では長木地区居住者、年齢別では30代及び60代以上、免許保有状況別では運転に支障があるまたは免許がない方がそれぞれ利用意向が高いことがわかりました。

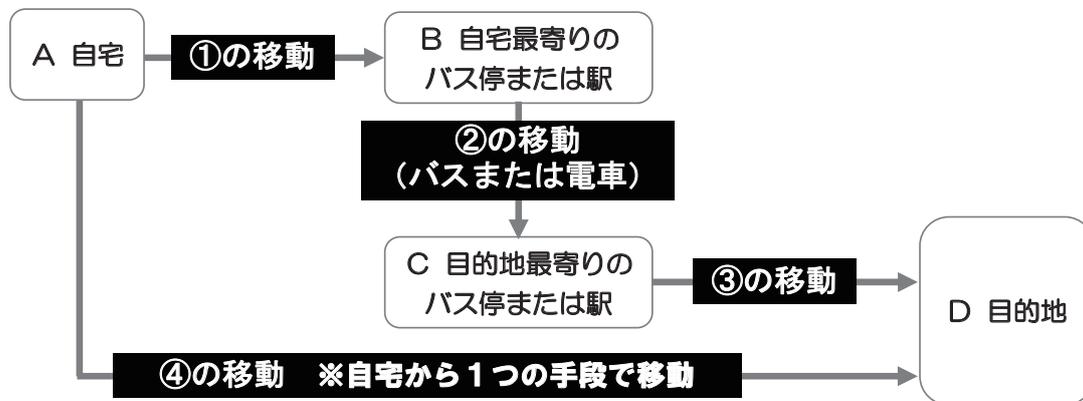


※単一回答 n=346

問18（乗合タクシーの利用意向）と属性のクロス集計

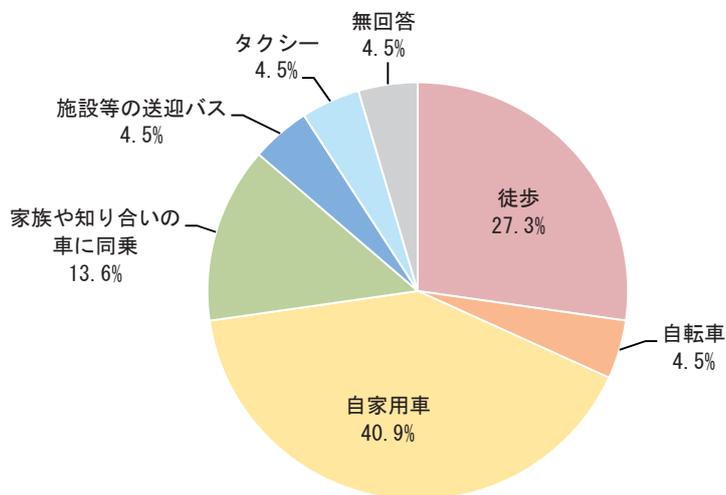


問19. 日ごろの移動手段についてお伺いします。下記の①～④の移動について、それぞれよく利用されている手段を教えてください。



①の移動 (A 自宅～B 最寄りのバス停・駅) は、主に何を利用していますか (〇はひとつ)。

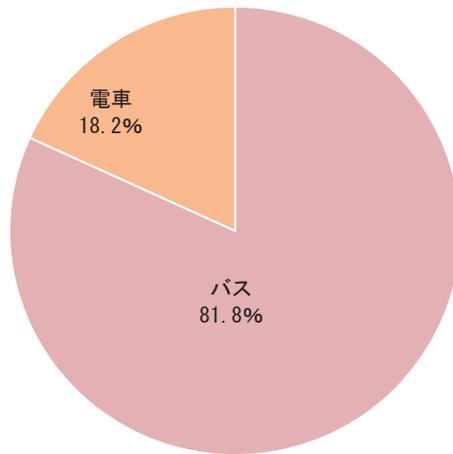
約4割の方が「自家用車」を利用し、約3割の方は「徒歩」で移動しています。  
「家族や知り合いの車に同乗」する方は13.6%です。



※単一回答 n=22

②の移動（B 最寄りのバス停・駅～C 目的地最寄りのバス停・駅）は、主に何を利用していますか（〇はひとつ）。

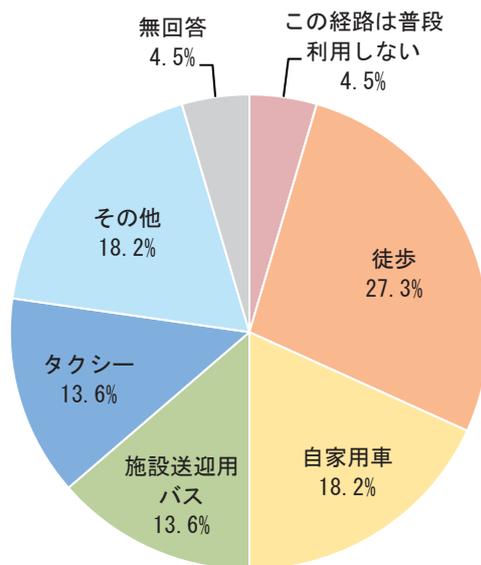
利用する公共交通は「バス」が81.8%、「電車」が18.2%であり、8割以上の方が「バス」を利用しています。



※単一回答 n=22

③の移動（C 目的地最寄りのバス停・駅～D 目的地）は、主に何を利用していますか（〇はひとつ）。

「徒歩」での移動が27.3%、その他の手段としては「自家用車」が18.2%、「施設送迎用バス」、「タクシー」が13.6%となっています。

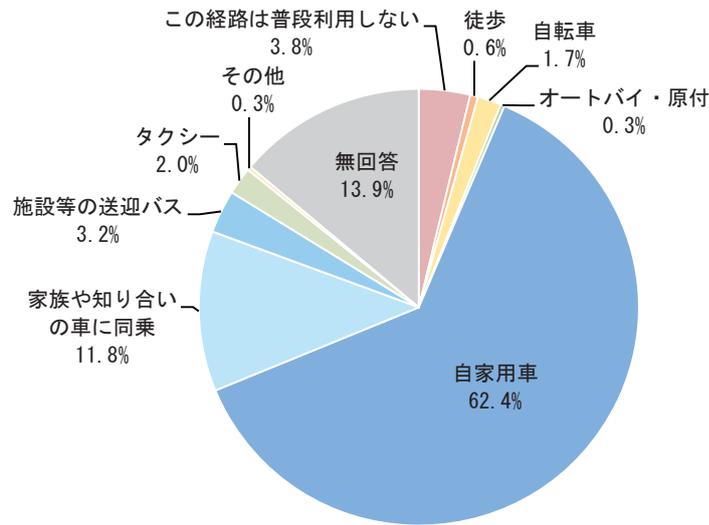


※単一回答 n=22

④の移動（A 自宅～D 目的地へ直接移動）は、主に何を利用していますか（〇はひとつ）。

自宅から目的地へ直接移動する時の交通手段は「自家用車」が最も多く、62.4%となっています。

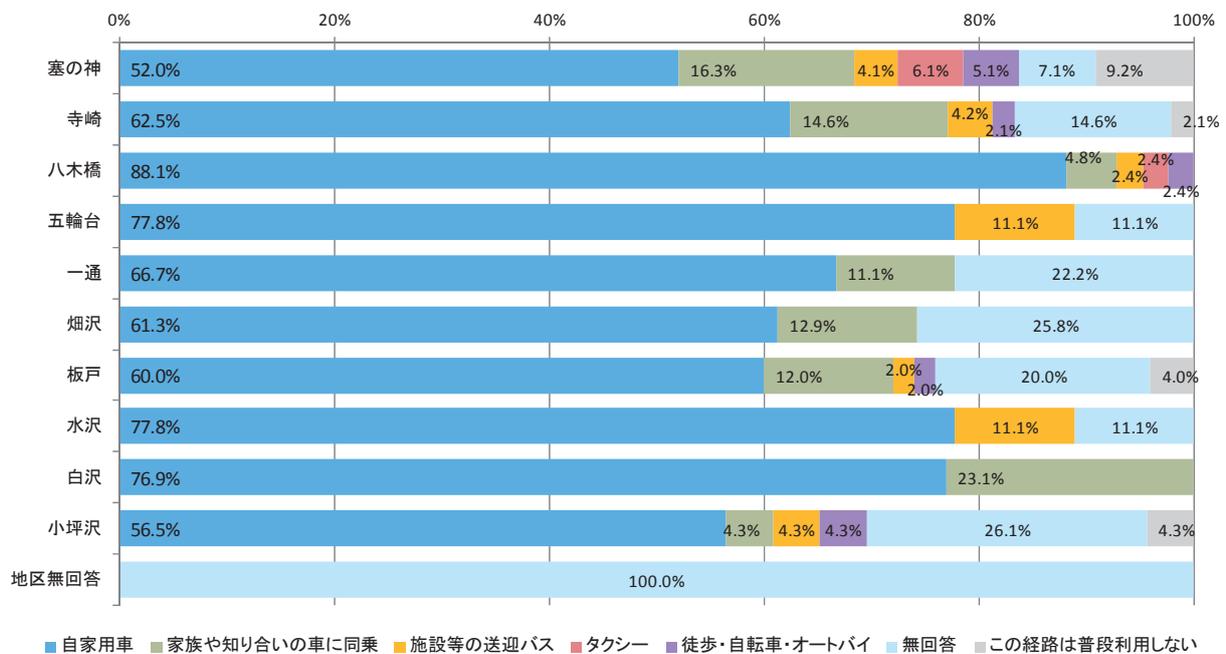
ついで多いのは「家族や知り合いの車に同乗」で11.8%となっています。



※単一回答 n=346

自宅から目的地へ直接移動する時の交通手段は、「自家用車」が最も多く、全ての地区で半数を超えています。

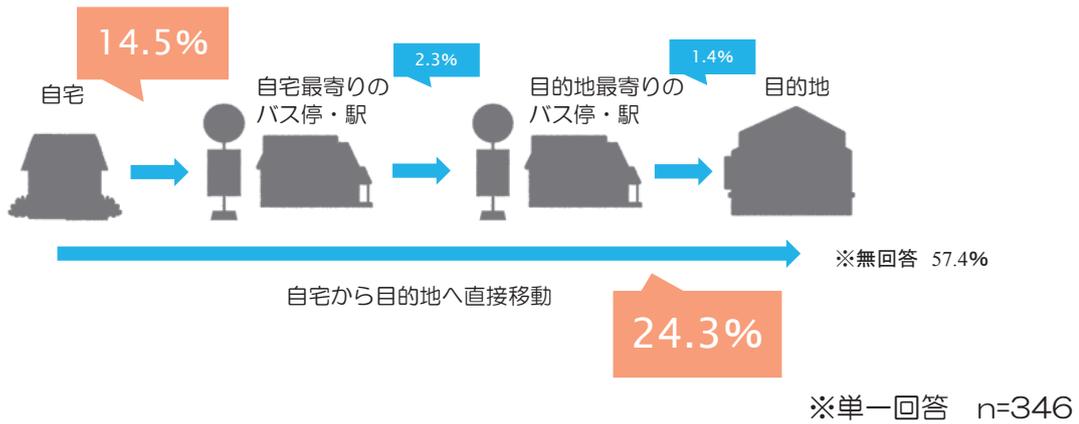
西館地区は、「タクシー」の利用がほとんど見られません。



※単一回答 n=346

問20. 問19の移動のうち、もっとも移動に困っている経路を教えてください  
(〇はひとつ)。

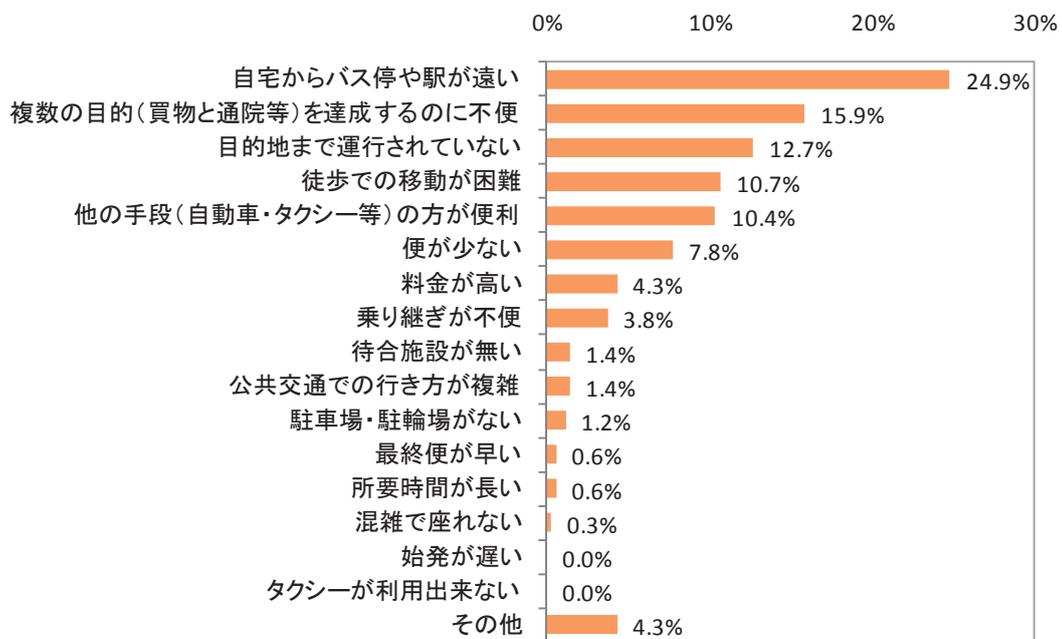
もっとも移動に困っている経路は、「自宅から目的地へ直接移動」で24.3%です。  
ついで「自宅から自宅最寄りのバス停・駅」が14.5%となっており、公共交通を利用するため最寄りのバス停・駅まで移動することが困難な方がいることがわかります。



問21. どのような理由で移動に困っていますか (特に困っている理由を3つまで〇)。

「自宅からバス停や駅が遠い」が24.9%で最も多くなっており、最寄りにバス停や駅がないことが一番困っている理由としてあげられています。

ついで「複数の目的(買物と通院等)を達成するのに不便」が15.9%、「目的地まで運行されていない」が12.7%とつづいています。



※単一回答 n=346

### 3 今後の公共交通のあり方についてご意見を伺います。

問22. 公共交通や日常の移動手段に関してのご意見・ご要望がありましたら、何でも結構ですのでご自由にお書きください。

#### 既にお困り方の声

- ・バスがこないのが買物や通院に困っている。
- ・服などの買物も楽しみたい。
- ・徒歩での移動が困難なので近くで乗降出来ないと利用できない。

#### 将来に対する不安の声

- ・今の所困っていませんが近いうち困る。
- ・高齢になると運転が出来なくなるのでバスが必要。
- ・運転出来なくなった時近くにバス停、駅がない。
- ・自家用車（免許）を返納した場合、移動ができる公共交通手段がない。
- ・朝昼夕とバスがあれば暮らしていけるのではないか。
- ・地域内にそれを頼める人がいたら良いと思う。それは有料でも仕方ない。
- ・核家族になっているので、頼める家族や知り合いも近くにいないければ、大変不便。
- ・年を取ってからどうするか、家族で話し合うことがある。

#### ご要望

- ・午前と午後1本ずつでもいいのでバスの運行を希望。
- ・乗合タクシー等を1日1往復程度来るようになれば良い。
- ・病院の送迎バスを増やしてほしい。
- ・予約制の乗合いタクシーは良いと思う。
- ・病院の車が来てほしい。
- ・誰でも使える割引券を出してほしい。
- ・週2~3回買物専用の乗物があればありがたい。
- ・本数が少なくても学校や病院等の時間の要所に合わせてバス（マイクロでも）があれば便利。
- ・乗合いで良いので、料金が安い手段の方が利用しやすい。
- ・地区経由のバス、家の近くまでくるバスが欲しい。
- ・地区経由の小型バスでもあれば良い。
- ・バスを小型化にして、病院などの時間にあわせて本数が多い方が良い。
- ・出来るだけ早くバス路線を開設してもらいたい。
- ・週に2,3回でもいいので乗り物が欲しい。
- ・スクールバスや病院のバスなどに誰でものれるようになれば良い。

## ② 一般市民アンケート

【依頼文】

平成29年9月14日
各位
大館市長 福原 淳嗣 (公印省略)
<b>快適に住み続けられる大館市の実現に向けたアンケート調査 ご協力をお願い</b>
<p>市民のみなさまには、日ごろから市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>わたしたちの暮らす大館市は、どんなまちだと思いますか？例えば、「自然豊かで美しいまち」、「人がやさしいまち」など、色々なイメージが浮かぶと思います。そんな大館市が、<u>10年後、20年後の未来には「どんなまちになっていたらいいな」と想像しますか？</u></p> <p>市では、少子高齢化や人口減少が進むなか、大館らしい暮らしを目指して、「都市計画マスタープラン」等の策定を予定しています。</p> <p>そこで、みなさんのご意見を広くお聞きするために、無作為に抽出した市内の2,000人を対象に、アンケート調査を実施することといたしました。調査結果をふまえて計画の策定を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>調査は無記名で、ご回答は統計的に処理しますので、ご協力いただきましたみなさまには、ご迷惑をおかけすることはありません。</p> <p>お忙しいところ誠にお手数とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。</p>
<p><b>★ 調査票の記入・返送方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. この調査票は、なるべく宛名のご本人さまがお答えください。</li> <li>2. お答えは、あてはまる番号を○で囲んでください。 なお、各問で「その他」にあてはまる場合は、お手数でも（ ）内に具体的に記入してください。</li> <li>3. この調査票は、同封の返信用封筒に入れて<u>平成29年10月1日（日）まで</u>に返送してください。切手は不要です。</li> </ol>
<p>★この調査に関するお問合せやご不明な点は、担当までお気軽にご連絡ください。</p>
<p><b>【担当】大館市 都市計画課 都市整備係 藤島・渡部</b> TEL：0186-43-7082 FAX：0186-55-1018</p>



**I あなたご自身のことについてお聞きします。**

問1. あなたのお住まいはどちらですか？前頁の「大館市地区区分図」を参考にお住まいの地区を教えてください（○はひとつ）。

(旧大館市)		(旧比内町)	(旧田代町)
1. 大館地区	2. 釈迦内地区	11. 扇田地区	15. 田代地区
3. 長木地区	4. 上川沿地区	12. 東館地区	
5. 下川沿地区	6. 真中地区	13. 西館地区	
7. 二井田地区	8. 十二所地区	14. 大葛地区	
9. 花岡地区	10. 矢立地区		

問2. あなたの性別を教えてください（○はひとつ）。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問3. あなたの年齢はおいくつですか（○はひとつ）。

1. 18～19歳	2. 20代	3. 30代	4. 40代
5. 50代	6. 60代	7. 70代	8. 80歳以上

問4. あなたの職業を教えてください（○はひとつ）。

1. 会社員・公務員	2. 農家
3. 自営業	4. パート・アルバイト
5. 家事専業	6. 学生
7. 無職・年金	8. その他（具体的に： _____）

問5. 世帯人数と、世帯の構成について教えてください（○はひとつ）。

世帯人数：（ _____ ）人 ※数字をご記入ください。	
1. ひとり住まい	2. 自分達夫婦のみ
3. 二世帯（自分達夫婦と子ども）	4. 二世帯（自分達夫婦と親）
5. 二世帯（自分と子ども）	6. 二世帯（自分と親）
7. 三世帯	8. 自分と兄弟姉妹
9. その他（具体的に： _____）	

問6. 大館市での居住年数と、居住経験を教えてください（○はひとつ）。

大館市での居住年数：（約 _____）年 ※数字をご記入ください。	
1. 生まれてからずっと大館市に住んでいる	} 2～4を選んだ方は、居住していた市町村名をご記入ください。 ( _____ )
2. 大館市の出身だが、市外での居住経験がある	
3. 県内の他の市町村出身である	
4. 県外の出身である	

問7. 大館市に住んでいる理由を教えてください（〇はいくつでも）。

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 1. 生家であるため          | 2. 職場に近い        |
| 3. 子供の学校に近い         | 4. 買い物の便が良い     |
| 5. バスや鉄道等の交通の便が良い   | 6. 家賃が安い        |
| 7. 上下水道等の生活基盤が整っている | 8. 子供を育てる環境が良い  |
| 9. 医療施設や福祉施設等の便が良い  | 10. 親類等の家の近くだから |
| 11. その他（            | ）               |

II あなたの生活・行動についてお聞きします。

問8. あなたの生活・行動について、主な行き先と交通手段をお聞かせください。

（選択肢から番号を1つ選んで記入し、不明・該当なしの場合は空欄としてください）

生活・行動の項目	①行き先 (番号1～29を記入)	②交通手段 (A～Hを記入)
(1) 通勤する地域		
(2) 通学する地域		
(3) 日用品の購入先		
(4) 外食へ出かける地域		
(5) 家電製品や家具、贈答品の購入先		
(6) 映画やコンサートなど、遊びに出かける地域		
(7) スポーツや屋外レクリエーションに出かける地域		
(8) 病院へ出かける地域		
(9) 福祉サービスを受けに行く地域		



選択肢①：行き先

- |        |          |                |          |                |          |
|--------|----------|----------------|----------|----------------|----------|
| (大館市内) | 1. 大館地区  | 2. 釈迦内地区       | 3. 長木地区  | 4. 上川沿地区       | 5. 下川沿地区 |
|        | 6. 真中地区  | 7. 二井田地区       | 8. 十二所地区 | 9. 花岡地区        | 10. 矢立地区 |
|        | 11. 扇田地区 | 12. 東館地区       | 13. 西館地区 | 14. 大葛地区       | 15. 田代地区 |
| (秋田県内) | 16. 鹿角市  | 17. 小坂町        | 18. 北秋田市 | 19. 能代市        | 20. 藤里町  |
|        | 21. 秋田市  | 22. その他県内市町村   |          |                |          |
| (他県内)  | 23. 青森市  | 24. 弘前市        | 25. 平川市  | 26. 青森県内その他市町村 |          |
|        | 27. 盛岡市  | 28. 岩手県内その他市町村 |          | 29. その他        |          |

選択肢②：交通手段

- |       |        |                |         |         |
|-------|--------|----------------|---------|---------|
| A. 徒歩 | B. 自転車 | C. 原動機付自転車・バイク | D. 自家用車 | E. タクシー |
| F. バス | G. 鉄道  | H. その他         |         |         |

## Ⅲ 大館市での暮らしについてお聞きします。

問9. 大館市の暮らしやすさについて、満足度を選択して下さい（あてはまる数字に○）。

暮らしやすさ・過ごしやすさの項目	満足度		
	1. 満足	2. どちらとも いえない	3. 不満
例) 道路交通の安全性	○ 1	2	3
1) 道路交通の安全性	1	2	3
2) 防犯・風紀のよさ	1	2	3
3) 火災に対する安全性	1	2	3
4) 地震・台風に対する安全性	1	2	3
5) 下水や雨水の排水	1	2	3
6) ごみの収集・処理状況	1	2	3
7) し尿の収集・処理状況	1	2	3
8) 河川のきれいさ・水質	1	2	3
9) 道路の広さや舗装	1	2	3
10) 除雪対策	1	2	3
11) 公園・子どもの遊び場	1	2	3
12) 緑の豊かさ	1	2	3
13) 公共交通の利用のしやすさ	1	2	3
14) 日常の買物のしやすさ	1	2	3
15) 医療施設の利便性	1	2	3
16) 公共施設の利便性	1	2	3
17) 地区の集会施設	1	2	3
18) 文化スポーツ施設	1	2	3
19) 祭りや地域の行事	1	2	3
20) 近所どうしの助け合い	1	2	3
21) 自然景観の保全	1	2	3
22) 街並みのよさ	1	2	3
23) 街のにぎわい	1	2	3
24) 余暇を楽しめる催しや機会	1	2	3
25) 子どもを育てる環境	1	2	3
26) 高齢者が暮らしやすい生活環境	1	2	3
27) 障害者が暮らしやすい生活環境	1	2	3

問10. 総合的な評価は？

1. 満足	2. どちらとも いえない	3. 不満
-------	------------------	-------

問11. あなたが重要視する暮らしやすさの項目は？（問9の1～27から3つ選択）

_____番	_____番	_____番
--------	--------	--------

3

問 1 2. 大館市にこれからも住み続けたいと思いますか？ (○はひとつ)

住み続けたい、転居を考えている理由についてもあわせてお聞かせください。

1. 住み続けたい

2. 将来、転居を考えている

3. どちらともいえない

1 を選んだ方へ：

住み続けたい理由 (いくつでも)

1. 自然環境にめぐまれている
2. 地域での人間関係がよい
3. 買い物や生活に便利
4. 交通の便がよい、通勤・通学に便利
5. 子育て・教育の環境がよい
6. 保健・福祉・医療が充実している
7. 行政サービスが充実している
8. 住宅事情がよい
9. 治安がよい
10. まちのイメージがよい
11. 親や親戚が市内に住んでいる
12. 長年住んでいて愛着がある
13. 特に転居したいところがない
14. その他 ( )

2 を選んだ方へ：

転居を考えている理由 (いくつでも)

1. 自然環境がよくない
2. 地域での人間関係がよくない
3. 買い物や生活に不便
4. 交通の便が悪い、通勤・通学に不便
5. 子育て・教育の環境がよくない
6. 保健・福祉・医療が充実していない
7. 行政サービスがよくない
8. 住宅事情がよくない
9. 治安がよくない
10. まちのイメージがよくない
11. 親や親戚が市外に住んでいる
12. 働く場がない
13. 仕事・学校・家庭の事情
14. その他 ( )

問 1 3. 大館市内で、住みやすそうだと感じる場所はどのような場所ですか？ (○はひとつ)

理由も合わせてお聞かせください。

1. 駅や公共施設が近いエリア

2. 閑静な住宅街エリア

3. 田畑が近くにある農村エリア

4. 現在住んでいるエリアが最も住みやすい

5. その他 ( )

(その理由)

問14. 自宅から徒歩で移動出来る範囲にあるとよいと感じる施設はどのような施設ですか？  
(〇はいくつでも)

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 食料品など日常的な買い物をする店舗 | 2. コンビニエンスストア           |
| 3. 大型ショッピングセンター      | 4. 電化製品・家具や趣味用品等の専門店    |
| 5. 薬局・ドラッグストア        | 6. 書店・レンタルビデオ店          |
| 7. 郵便局や銀行など金融施設      | 8. 飲食店                  |
| 9. 総合病院              | 10. 医院(クリニック)・診療所等の医療施設 |
| 11. デイサービスなどの高齢者福祉施設 | 12. 保育所や幼稚園などの子育て施設     |
| 13. 学校や塾などの教育施設      | 14. 公民館・自治会館・市民センターなど   |
| 15. 図書館              | 16. スポーツ施設や運動場          |
| 17. 公園や広場            | 18. 山や川などの自然            |
| 19. 避難所              | 20. 支所などの行政サービス施設       |
| 21. その他 ( )          |                         |

問15. 自宅から、公共交通機関を利用して行くことが出来る中心市街地にあればよいと感じる施設はどのような施設ですか？(〇はいくつでも)

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 食料品など日常的な買い物をする店舗 | 2. コンビニエンスストア           |
| 3. 大型ショッピングセンター      | 4. 電化製品・家具や趣味用品等の専門店    |
| 5. 薬局・ドラッグストア        | 6. 書店・レンタルビデオ店          |
| 7. 郵便局や銀行など金融施設      | 8. 飲食店                  |
| 9. 総合病院              | 10. 医院(クリニック)・診療所等の医療施設 |
| 11. デイサービスなどの高齢者福祉施設 | 12. 保育所や幼稚園などの子育て施設     |
| 13. 学校や塾などの教育施設      | 14. 公民館・自治会館・市民センターなど   |
| 15. 図書館              | 16. スポーツ施設や運動場          |
| 17. 公園や広場            | 18. 山や川などの自然            |
| 19. 避難所              | 20. 支所などの行政サービス施設       |
| 21. その他 ( )          |                         |

問 1 6. 人口減少や高齢化の進行により、どのような影響や不安を感じていますか？

(〇はいくつでも)

1. 居住環境の悪化 (空き家や空き地が増え、居住環境が悪くなる)
2. 人材が不足する (働き手の減少により、人材不足になる)
3. 公共施設の統廃合 (病院や小中学校、図書館等の公共施設が統廃合される)
4. 地元の交流の消滅 (自治会等の地域の交流が希薄になる)
5. 道路・橋梁等の維持 (道路、橋梁、公園、上下水道等の維持・更新への不安)
6. 買物する場所が無くなる (売上減少により、商業施設の撤退など)
7. 子育て等のサービスの低下 (利用者減少により、子育て施設の撤退など)
8. 高齢者福祉等のサービスの低下 (利用者減少により、福祉施設の撤退など)
9. 鉄道・バス等の運行本数や路線の減少 (運行本数や路線数が少なくなる)
10. その他 ( )

問 1 7. 施設や機能のあり方について、どんなまちを目指したいかお聞かせください (〇はひとつ)。

1. 例えば市役所周辺など、中心部に商業や文化施設が多く集まっており、そこに行けばさまざまな用事が済ませられるまち
2. 比内・田代をはじめ市内の各所に主要な施設があり、住んでいる地域のなかで、ある程度の用事が済ませられるまち
3. 近所の集会所などに、本の貸し借りコーナー・ミニ直売所・お茶飲みスペースなど複数の機能があり、近場でちょっとした用事が済ませられるまち

(その理由)



問 2 1. 現在自家用車を利用している方も、10 年後、20 年後には運転がむずかしくなっていくことが予想されます。今後、バスや鉄道といった公共交通へ求めることをお聞かせください（〇はいくつでも）。

1. 運行本数が多く、使いやすい公共交通であること
2. 生活に合った時間帯に運行し、早い始発便、遅い最終便であること
3. まち周辺部、郊外など、集落をきめ細かく運行すること
4. 目的地へ 1 本で行けること
5. バスと鉄道、バス同士の乗り継ぎが便利であること
6. 高額すぎない運賃設定であること

(その他、公共交通へ求めることを具体的にお聞かせください)

.....

.....

.....

.....

.....

## V 今後のまちづくりについてお聞きします。

問22. 大館市に期待する重点的な取り組みや、まちづくりに期待することを教えてください（〇はいくつでも）。

- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 生活環境が整ったまち               | 2. 自然が豊かで調和のとれたまち         |
| 3. 歴史・文化を大切にすまち             | 4. 遊戯施設など楽しめる場所があるまち      |
| 5. 働く場や仕事が充実したまち            | 6. 医療と福祉が充実したまち           |
| 7. 観光が盛んなまち                 | 8. 生涯学習と教育の盛んなまち          |
| 9. 買い物する場所が充実したまち           | 10. 防犯や交通安全等の生活安全が充実したまち  |
| 11. 災害に対する備えが充実したまち         | 12. バスや鉄道が使いやすく、移動がしやすいまち |
| 13. 産業が盛んで、新たな産業が生まれるまち     |                           |
| 14. 子育て環境が充実し、感情豊かな子どもを育むまち |                           |
| 15. 住民によるまちづくり活動が盛んなまち      |                           |
| 16. その他（                    | ）                         |

問23. 今後、大館市ではどのような就業の場の確保が望ましいと思いますか（〇はいくつでも）。

1. 6次産業化など、暮らしを支える農林業を推進する
2. 新技術、新商品開発を目指し、資源や技術を活かした商工業を推進する
3. 市内で働く人が増えるよう、地元就職の仕組みづくりを推進する
4. その他（

問24. まちづくりへの参加について、基本的な意向をお聞きします（〇はひとつ）。

1. 率先して参加したい
2. 都合が合えば参加したい
3. 参加したいとは思わない

問25. まちづくりについて、興味があることや関わってみたいと感じることをお聞かせください。（〇はいくつでも）

1. 問題や困ったことに関する日常的な情報提供
2. アンケート調査などを通じた意見の提供
3. 住民懇談会への参加などによる意見の提供
4. 行政が主催する美化活動等への参加協力
5. 住民主導によるまちづくりへの参画
6. 道路や公園等の公共施設の維持運営
7. その他（

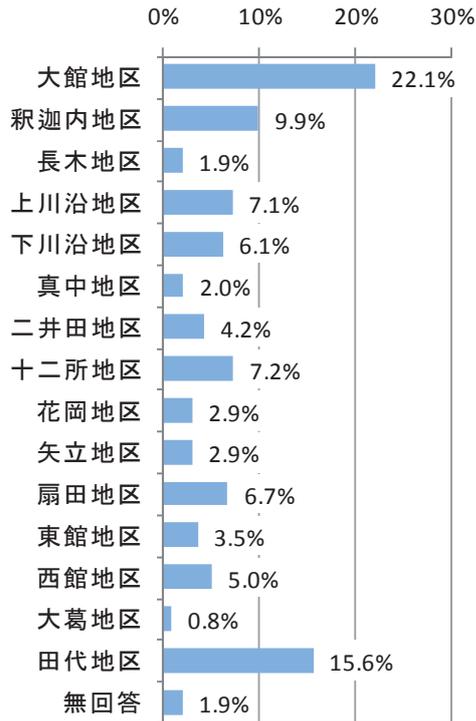


【調査結果】（公共交通に関連する設問を抜粋）

I あなたご自身のことについてお聞きします。

問1. あなたのお住まいはどちらですか？

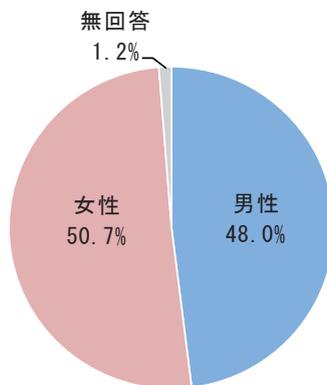
回答者のお住まいの地域は「大館地区」が22.1%と最も多く、ついで「田代地区」15.6%、「釈迦内地区」9.9%となっています。



※単一回答 n=883

問2. あなたの性別を教えてください（〇はひとつ）。

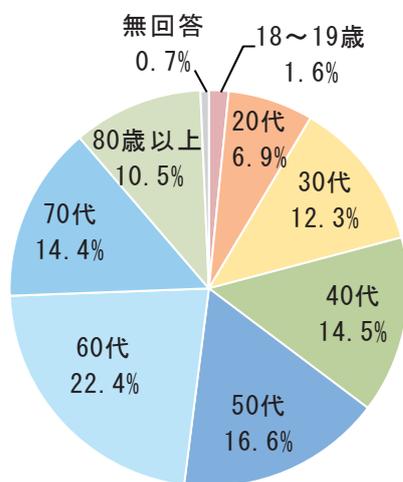
回答者の性別は「女性」のほうが若干多くなっています。



※単一回答 n=883

問3. あなたの年齢はおいくつですか (〇はひとつ)。

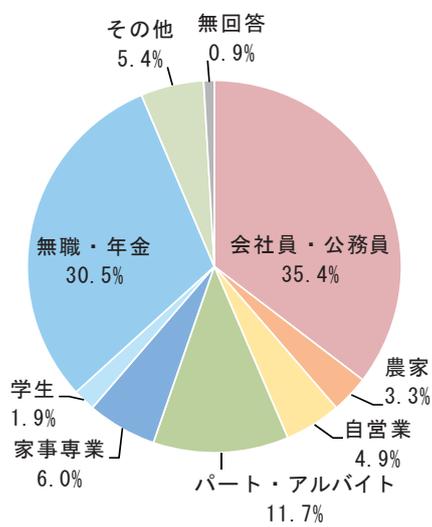
回答者の年齢は 47.3%が 60 歳以上となっています。



※単一回答 n=883

問4. あなたの職業を教えてください (〇はひとつ)。

職業で最も多いのは「会社員・公務員」で 35.4%となっています。ついで「無職・年金」が 30.5%、「パート・アルバイト」が 11.7%とつづいています。

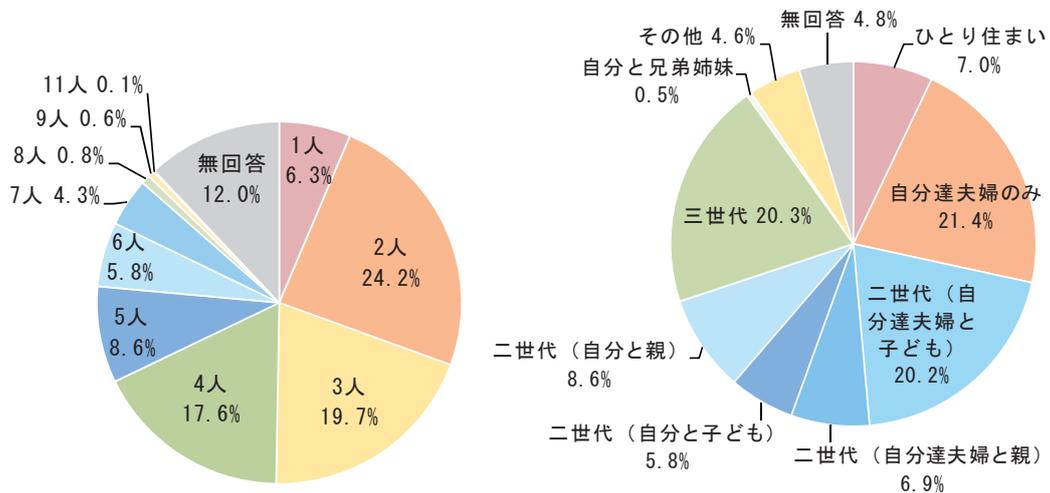


※単一回答 n=883

問 5. 世帯人数と、世帯の構成について教えてください（〇はひとつ）。

世帯人数は「1人」が6.3%、「2人」が24.2%、「3人」が19.7%、「4人」が17.6%となっています。

世帯の構成をみると「自分達夫婦のみ」が21.4%で最も多くなっています。約4割の世帯の構成が「二世帯」です。

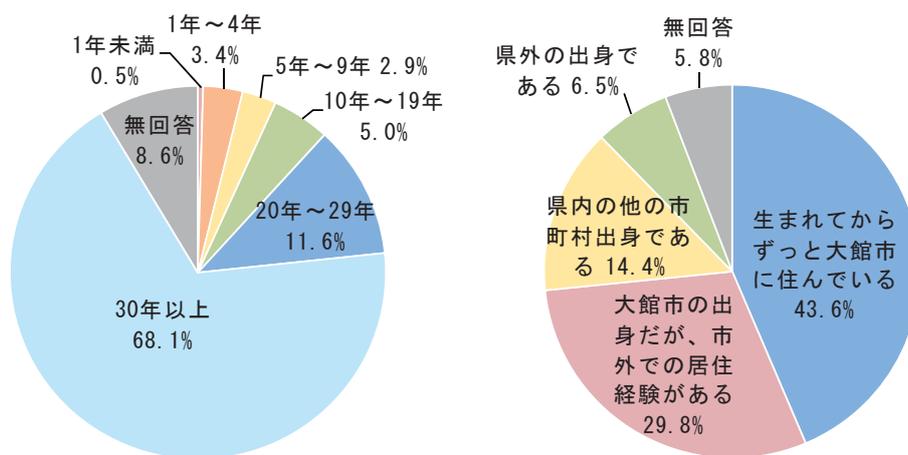


※単一回答 n=883

問 6. 大館市での居住年数と、居住経験を教えてください（〇はひとつ）。

大館市での居住年数は「30年以上」が68.1%となっています。

大館市での居住経験は「生まれてからずっと大館市に住んでいる」が43.6%、「大館市の出身だが、市外での居住経験がある」が29.8%となっています。

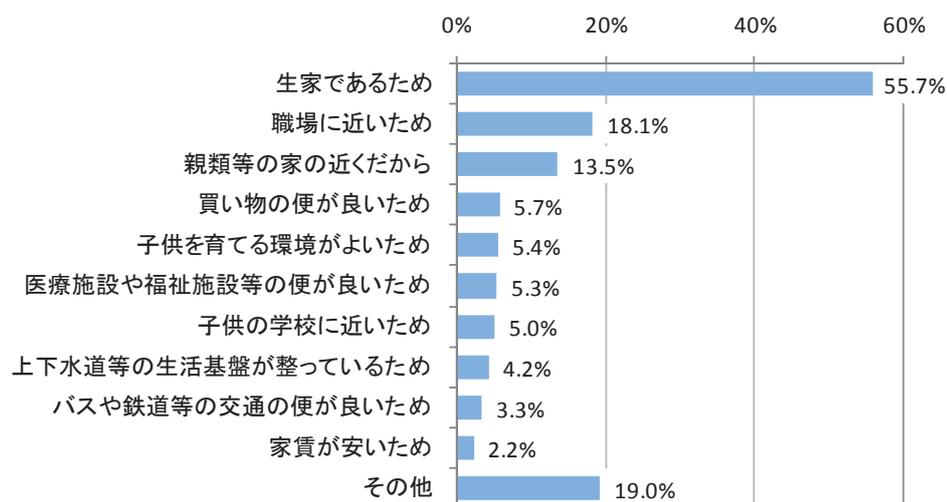


※単一回答 n=883

問7. 大館市に住んでいる理由を教えてください（〇はいくつでも）。

大館市に住んでいる理由は「生家であるため」が55.7%となっており、生まれた場所であることが最も多い理由となっています。

その他には「職場に近いため」が18.1%、「親類等の家の近くだから」が13.5%となっており、職場や親類等の家の近くであることが理由としてあげられています。



※複数回答 n=883

## Ⅱ あなたの生活・行動についてお聞きします。

### 問 8. あなたの生活・行動について、主な行き先と交通手段をお聞かせください。

ほとんどの生活・行動の項目で、最も多い行き先は「大館地区」となっており、「日用品の購入先」「外食へ出かける地域」「家電製品や家具、贈答品の購入先」「病院へ出かける地域」では 8 割以上を占めています。

「映画やコンサートなど、遊びに出かける地域」では「弘前市」が 56.9%と最も多い行き先になっています。

生活・行動の項目	回答数	最も多い行き先		2番目に多い行き先	
通勤する地域	(474)	大館地区	46.8%	二井田地区	9.3%
通学する地域	(66)	大館地区	50.0%	扇田地区	9.1%
日用品の購入先	(676)	大館地区	84.0%	扇田地区	5.3%
外食へ出かける地域	(586)	大館地区	89.6%	弘前市	6.1%
家電製品や家具、贈答品の購入先	(620)	大館地区	88.7%	弘前市	4.5%
映画やコンサートなど、遊びに出かける地域	(490)	弘前市	56.9%	大館地区	17.6%
スポーツや屋外レクリエーションに出かける地域	(333)	大館地区	45.6%	秋田市	6.9%
病院へ出かける地域	(675)	大館地区	86.4%	扇田地区	6.4%
福祉サービスを受けに行く地域	(153)	大館地区	78.4%	十二所地区	5.2%

※単一回答

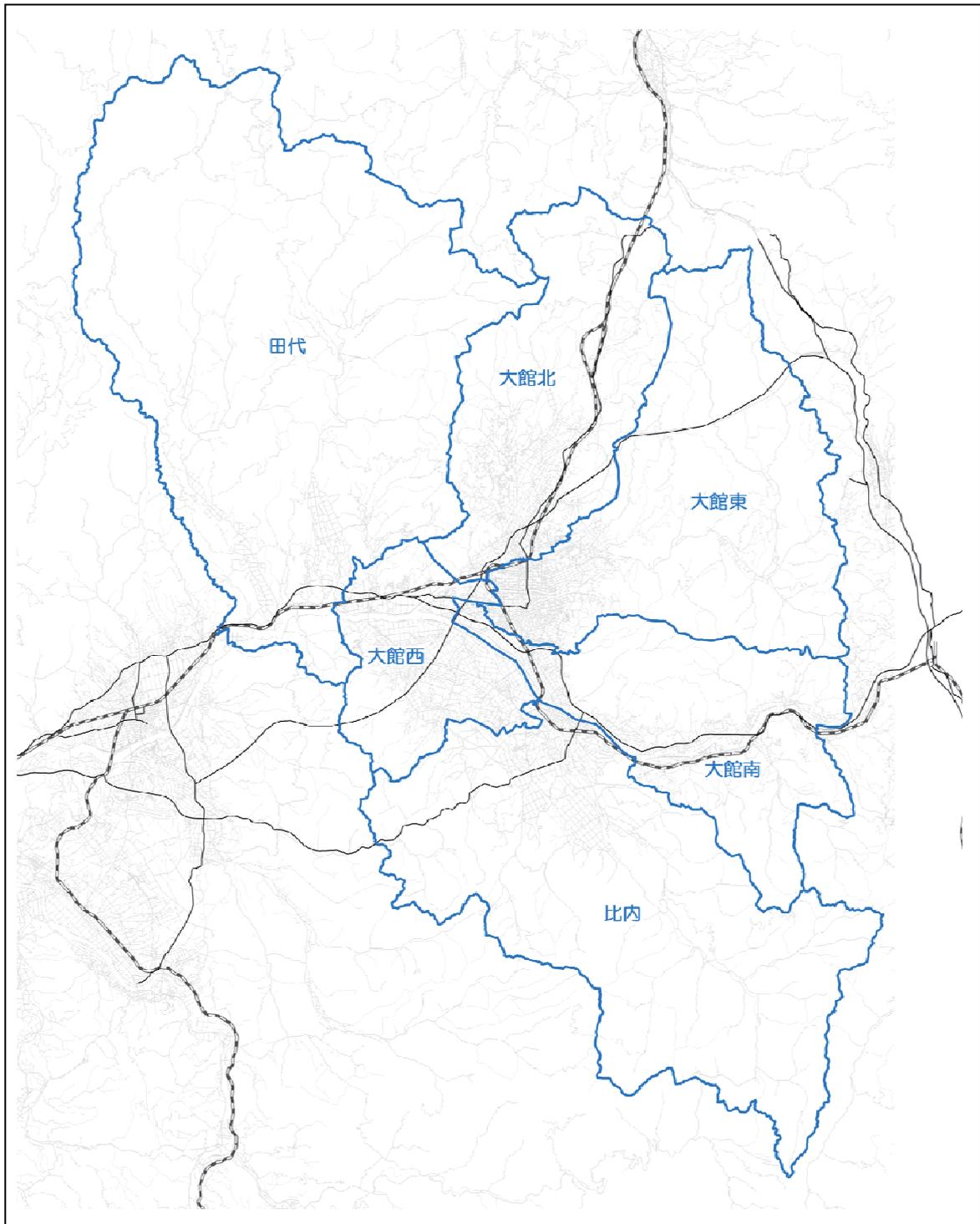
最もよく使われる交通手段は、すべての項目で「自家用車」となっており、「通学する地域」以外の項目で 8 割以上となっています。

2 番目に多い交通手段では、6 つの生活・行動の項目で「自転車」が選択されています。

生活・行動の項目	回答数	最も多い交通手段		2番目に多い交通手段	
通勤する地域	(474)	自家用車	88.0%	自転車	4.6%
通学する地域	(66)	自家用車	36.4%	徒歩	28.8%
日用品の購入先	(676)	自家用車	89.6%	自転車	4.6%
外食へ出かける地域	(586)	自家用車	93.9%	自転車	2.9%
家電製品や家具、贈答品の購入先	(620)	自家用車	93.9%	自転車	3.2%
映画やコンサートなど、遊びに出かける地域	(490)	自家用車	92.0%	自転車	3.3%
スポーツや屋外レクリエーションに出かける地域	(333)	自家用車	92.8%	自転車	4.2%
病院へ出かける地域	(675)	自家用車	88.7%	バス	3.4%
福祉サービスを受けに行く地域	(153)	自家用車	81.0%	その他	9.8%

※単一回答

【流動分析地域区分】

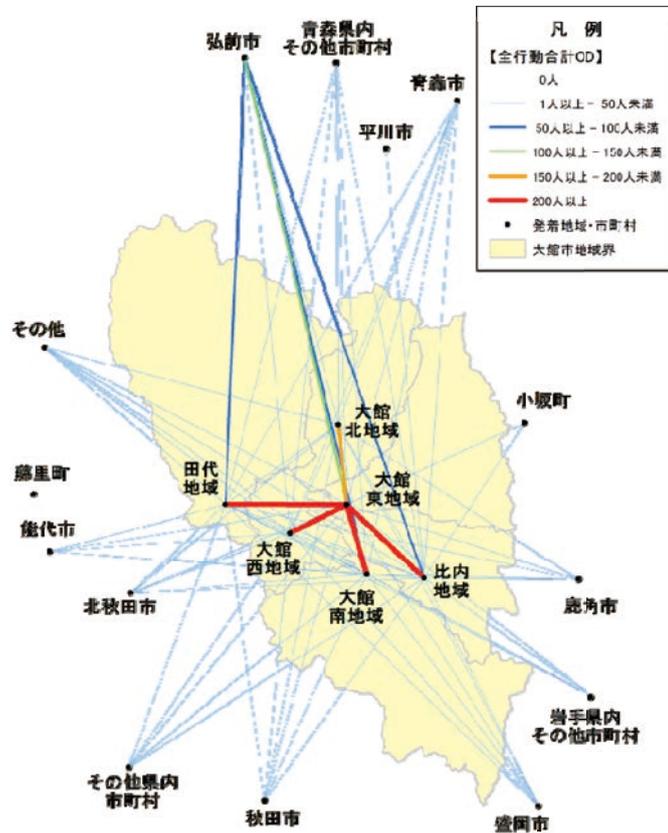


＜全目的の流動＞

全ての目的の流動は、大館東への流動が最も多く、全ての地域で約6割以上となっています。一方、大館東への流動割合が最も低い比内は、地域内流動が約16.4%と高い傾向にあります。

市外・県外への流動では、全ての地域で弘前市への流動が1割前後となっています。

		行動先																		
		大館東地域	大館西地域	大館南地域	大館北地域	比内地域	田代地域	県内					青森県			岩手県		その他		
								鹿角市	小坂町	北秋田市	能代市	秋田市	その他	青森市	弘前市	平川市	その他		盛岡市	その他
居住地	大館東地域	77.1%	0.7%	2.3%	0.5%	0.6%	0.7%	0.8%	0.3%	1.1%	0.3%	1.6%	0.6%	0.4%	10.8%	0.0%	0.9%	0.8%	0.1%	0.7%
	大館西地域	74.7%	6.6%	2.7%	0.0%	0.8%	0.6%	0.0%	0.0%	1.2%	0.2%	2.7%	0.4%	0.2%	8.2%	0.0%	0.6%	0.2%	0.4%	0.6%
	大館南地域	68.5%	1.4%	9.5%	0.1%	2.6%	0.2%	1.0%	0.1%	0.9%	0.3%	1.6%	0.4%	0.1%	8.5%	0.1%	1.9%	1.4%	0.1%	1.3%
	大館北地域	75.0%	1.6%	1.2%	3.3%	0.4%	0.0%	1.2%	0.0%	1.2%	0.0%	1.2%	0.0%	0.4%	11.9%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	0.8%
	比内地域	61.6%	1.5%	2.1%	0.2%	16.4%	0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.2%	2.4%	0.6%	0.9%	8.1%	0.0%	0.6%	1.4%	0.3%	2.0%
	田代地域	66.5%	1.9%	1.4%	0.6%	0.9%	4.9%	0.2%	0.0%	6.6%	0.5%	4.0%	1.1%	0.3%	9.0%	0.0%	0.9%	0.3%	0.2%	0.6%
	合計	70.5%	2.0%	3.8%	0.5%	3.7%	1.1%	0.6%	0.1%	1.9%	0.3%	2.2%	0.6%	0.4%	9.3%	0.0%	1.0%	0.9%	0.2%	1.0%



※無回答を除いた割合※単一回答

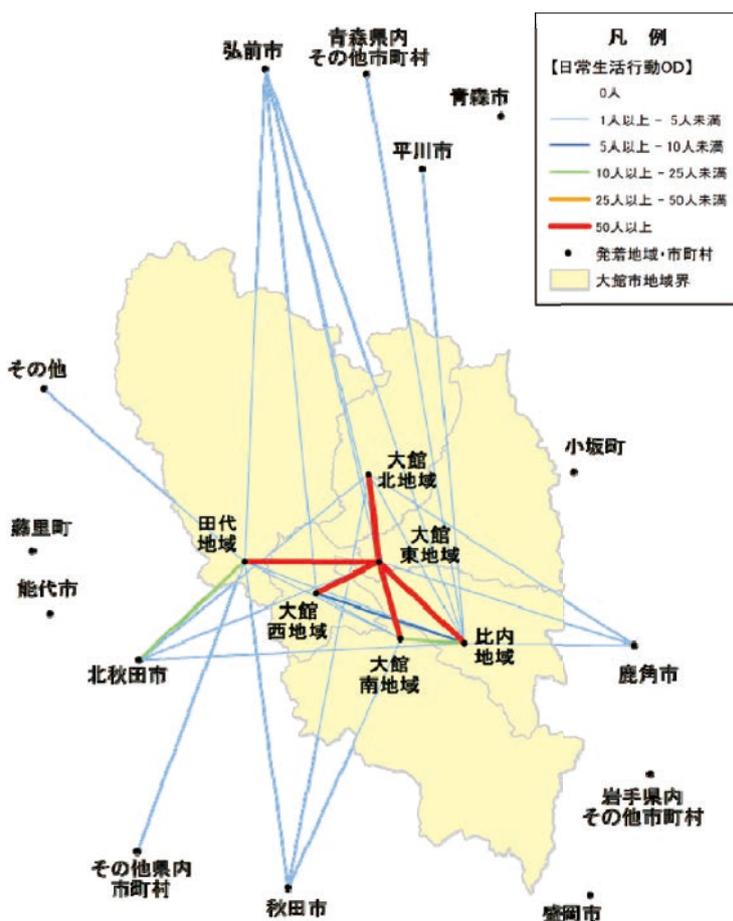
### <通勤・通学の流動>

全ての地域で大館東への流動が多い傾向にあります。地域内流動も一定程度見られず。

大館東への流動が他地域と比べ低い比内の地域内の流動が約 34.3%、田代の地域内の流動が約 20.2%と高い傾向にあります。ただし、田代は、隣接している北秋田市への流動も約 11.2%となっています。

市外・県外への流動は、田代から北秋田市への流動以外は、10%未満となっています。

		行動先																						
		大館東地域	大館西地域	大館南地域	大館北地域	比内地域	田代地域	県内					青森県				岩手県		その他					
								鹿角市	小坂町	北秋田市	能代市	秋田市	その他	青森市	弘前市	平川市	その他	盛岡市		その他				
居住地	大館東地域	66.9%	5.3%	9.8%	3.8%	1.5%	3.8%	3.8%	1.5%	2.3%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	大館西地域	45.9%	34.4%	6.6%	0.0%	3.3%	3.3%	0.0%	0.0%	6.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	大館南地域	48.4%	10.5%	23.4%	0.8%	6.5%	0.8%	4.8%	0.8%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	
	大館北地域	50.0%	14.3%	3.6%	17.9%	3.6%	0.0%	7.1%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	比内地域	39.4%	10.1%	4.0%	1.0%	34.3%	2.0%	2.0%	0.0%	2.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
	田代地域	36.0%	13.5%	7.9%	4.5%	3.4%	20.2%	1.1%	0.0%	11.2%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	49.1%	12.5%	10.9%	3.0%	9.4%	5.2%	3.0%	0.6%	4.1%	0.7%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	



※無回答を除いた割合※単一回答

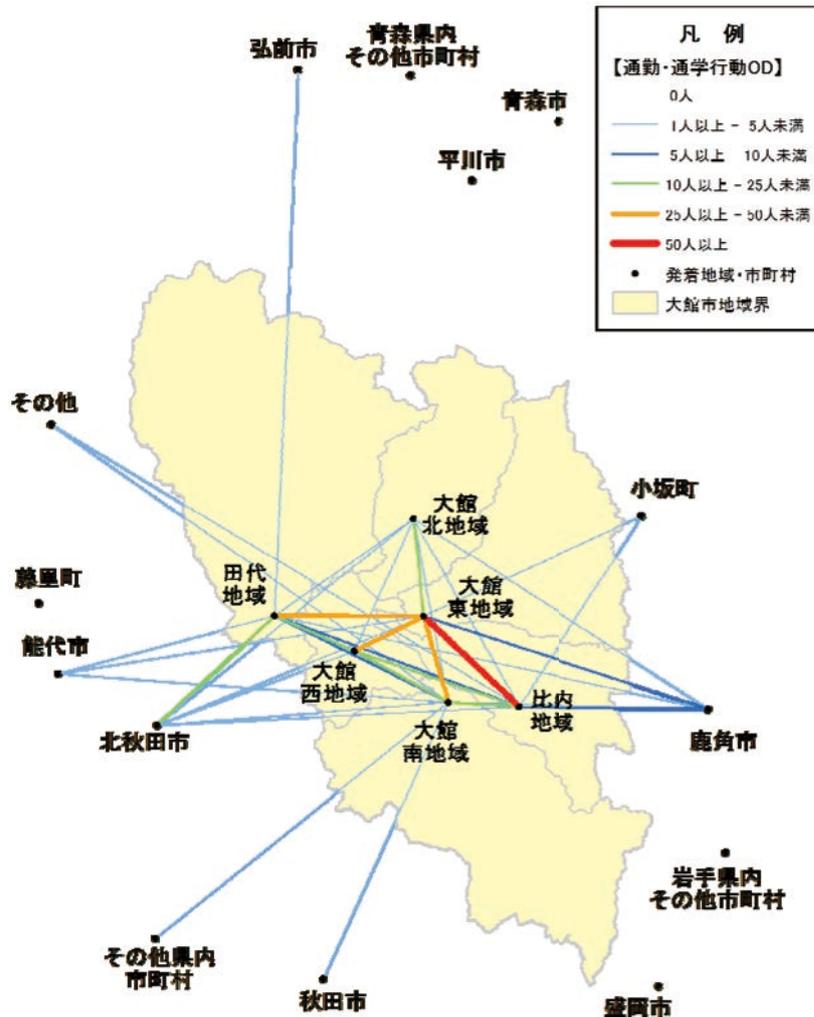
＜日常生活の流動＞

全ての地域で大館東への流動が高い傾向にあり、比内以外の地域は、大館東に依存している状況です。

大館東への流動が他地域と比べ低い傾向である大館南の地域内流動が13.1%、比内の地域内流動が約29.6%となっています。

市外・県外への流動は、田代から北秋田市への流動以外では、1.1%以下となっています。

		行動先																						
		大館東地域	大館西地域	大館南地域	大館北地域	比内地域	田代地域	県内					青森県				岩手県		その他					
								鹿角市	小坂町	北秋田市	能代市	秋田市	その他	青森市	弘前市	平川市	その他	盛岡市		その他				
居住地	大館東地域	96.7%	0.0%	1.5%	0.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	大館西地域	89.8%	4.6%	3.6%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	大館南地域	80.9%	0.0%	13.1%	0.0%	3.7%	0.3%	0.6%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	大館北地域	92.4%	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.1%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	比内地域	65.0%	0.0%	3.1%	0.0%	29.6%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	田代地域	83.5%	0.0%	0.9%	0.0%	1.3%	2.2%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
合計	84.9%	0.6%	4.7%	0.1%	5.8%	0.5%	0.3%	0.0%	1.8%	0.0%	0.3%	0.1%	0.0%	0.7%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	



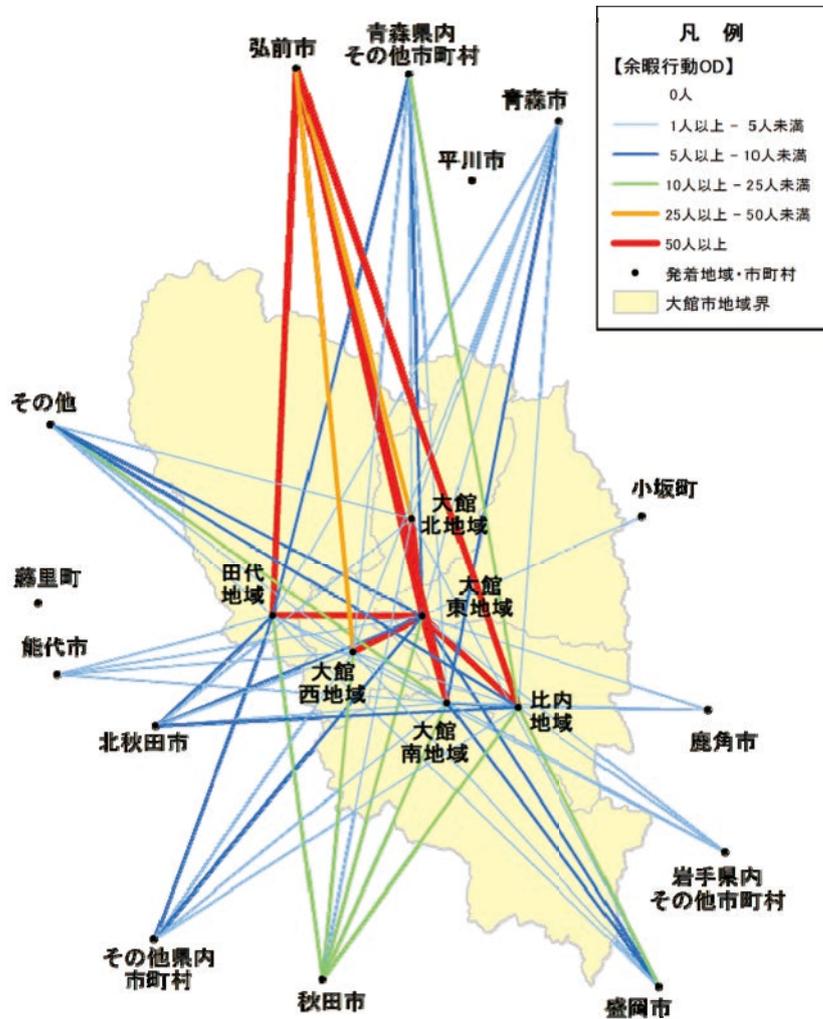
※無回答を除いた割合※単一回答

＜余暇の流動＞

全ての地域で大館東への流動が高い傾向にあります。他の目的流動と比べ弘前市への流動が2割前後と高くなっています。

大館東以外の地域では、地域内流動は4%未満となっており、余暇の流動は、大館東や秋田市、弘前市が高くなっています。

		行動先																		
		大館東地域	大館西地域	大館南地域	大館北地域	比内地域	田代地域	県内					青森県				岩手県		その他	
								鹿角市	小坂町	北秋田市	能代市	秋田市	その他	青森市	弘前市	平川市	その他	盛岡市		その他
居住地	大館東地域	65.1%	0.0%	1.0%	0.0%	0.6%	0.4%	0.4%	0.2%	1.3%	0.2%	3.2%	1.1%	0.8%	21.0%	0.0%	1.7%	1.5%	0.2%	1.3%
	大館西地域	69.9%	1.6%	1.2%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.8%	0.4%	5.5%	0.8%	0.4%	15.6%	0.0%	1.2%	0.4%	0.8%	1.2%
	大館南地域	64.5%	0.0%	3.1%	0.0%	0.7%	0.0%	0.2%	0.0%	1.1%	0.7%	3.3%	0.9%	0.2%	17.0%	0.0%	3.5%	2.8%	0.2%	2.0%
	大館北地域	67.7%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	1.6%	0.0%	0.8%	23.4%	0.0%	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%
	比内地域	66.0%	0.0%	0.9%	0.0%	2.1%	0.0%	0.3%	0.0%	0.9%	0.0%	3.9%	0.9%	1.8%	15.4%	0.0%	1.2%	2.7%	0.6%	3.3%
	田代地域	62.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	2.9%	0.6%	7.7%	1.9%	0.6%	17.3%	0.0%	1.9%	0.6%	0.3%	1.0%
	合計	65.5%	0.2%	1.2%	0.0%	0.6%	0.5%	0.2%	0.0%	1.3%	0.3%	4.2%	1.0%	0.7%	18.0%	0.0%	2.0%	1.7%	0.3%	1.7%



※無回答を除いた割合※単一回答

### Ⅲ 大館市での暮らしについてお聞きします。

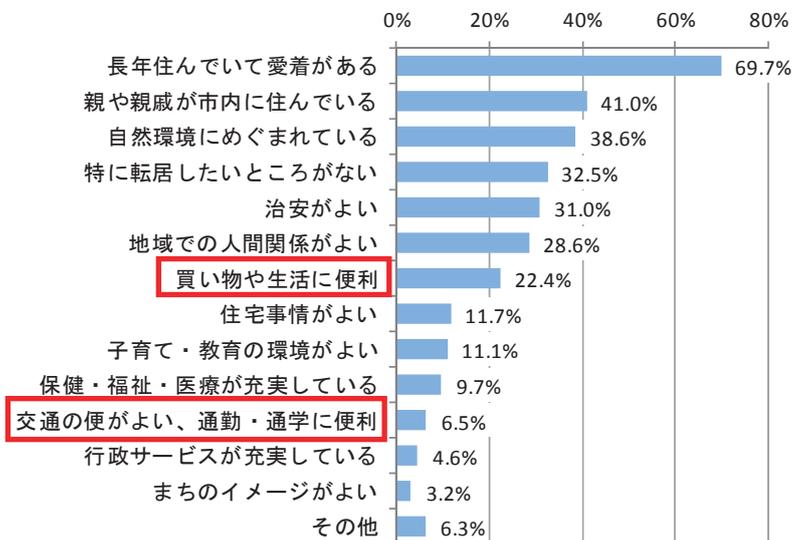
#### 問12. 大館市にこれからも住み続けたいと思いますか？（○はひとつ）

住み続けたい、転居を考えている理由についてもあわせてお聞かせください。

住み続けたい理由として、「交通の便がよい、通勤・通学に便利」が約1割、「買い物や生活に便利」が約2割と、生活の利便性に関する評価は低くなっています。

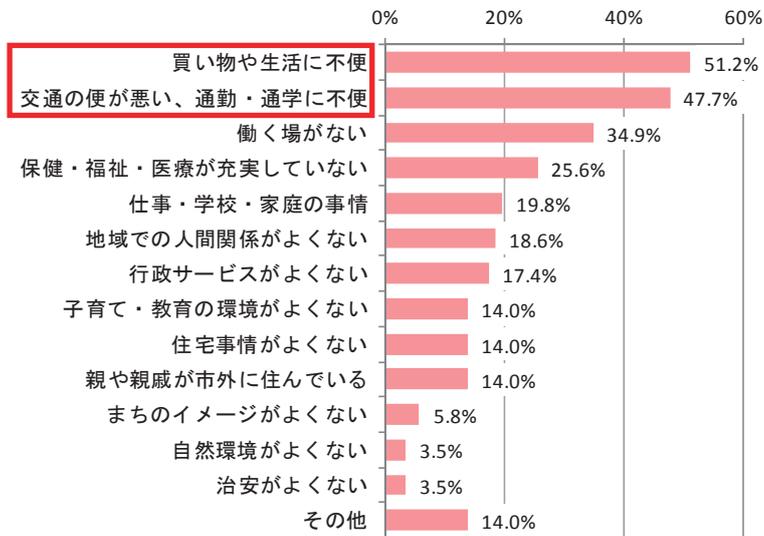
一方、転居を考えている理由としては、「買い物や生活に便利」「交通の便が悪い、通勤・通学に不便」がどちらも約5割と、生活の利便性が低いことがあげられています。

#### ■住み続けたい理由（いくつでも）



※複数回答 n=588

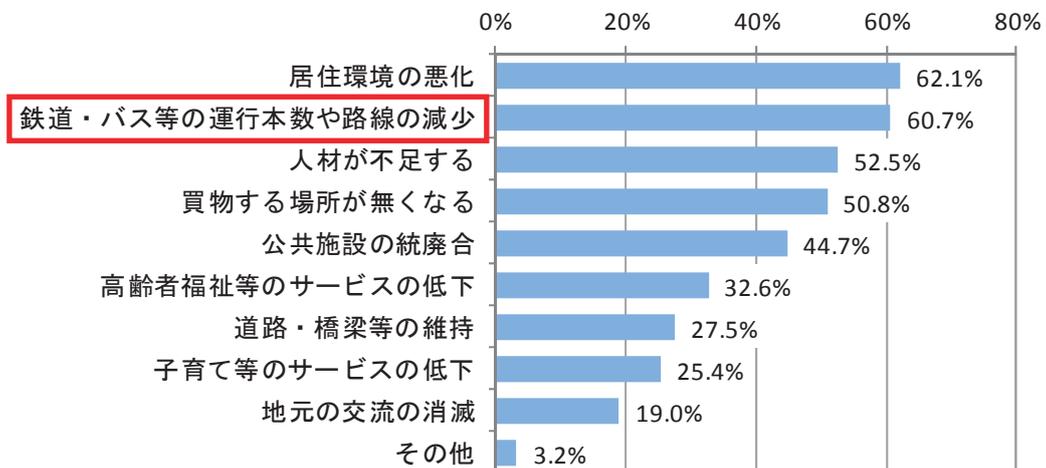
■転居を考えている理由（いくつでも）



※複数回答 n=86

問16. 人口減少や高齢化の進行により、どのような影響や不安を感じていますか？  
（〇はいくつでも）

「鉄道・バス等の運行本数や路線の減少」が約6割と、半数以上の方が公共交通に対する影響や不安を感じていることがうかがえます。



※複数回答 n=883

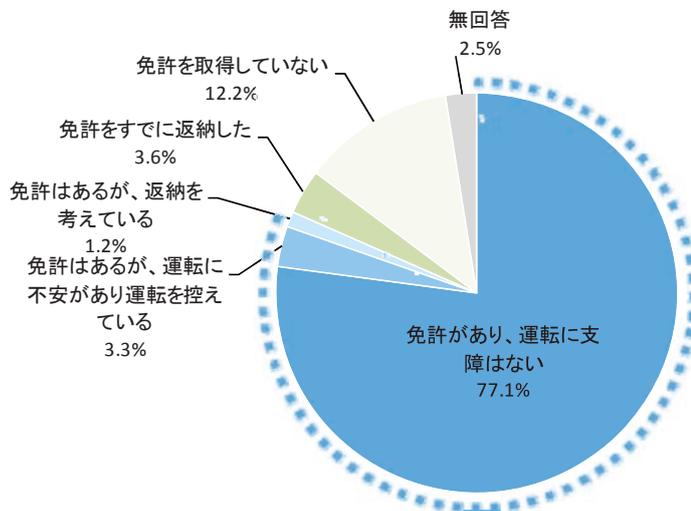
IV 移動のしやすさ・公共交通についてお聞きします。

問 18. あなたは、自動車免許を持っていますか（〇はひとつ）。

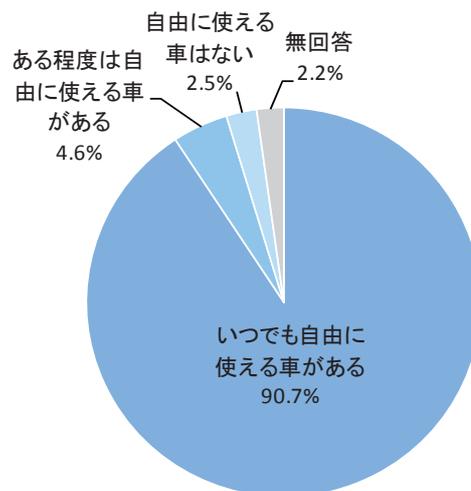
問 18 で、1～3を選んだ方にお聞きします。あなたは、自動車を持っていますか（〇はひとつ）。

「自動車免許がある」と回答した方は 81.6%で、77.1%の方が「運転に支障はない」と回答しています。

自動車免許を保有している方のうち、「いつでも」、あるいは「ある程度」は「自由に使える車がある」と回答した方は 95.3%です。



※単一回答 n=883



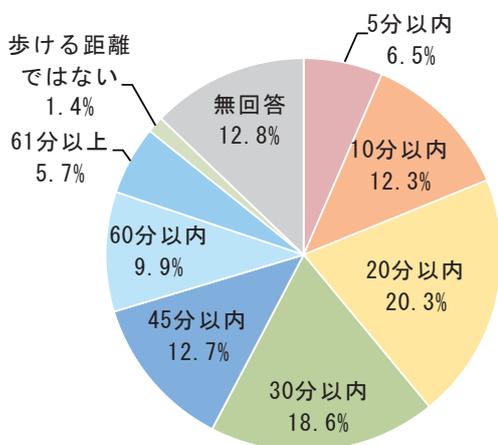
※単一回答 n=721

問 19. 最寄りの駅・バス停まで、徒歩によるおおまかな所要時間を教えてください。

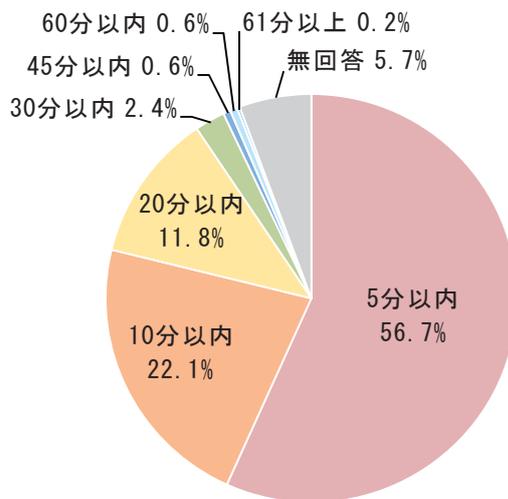
最寄りの駅まで徒歩でかかる時間は「20 分以内」が 20.3%で最も多くなっています。一方、駅まで 20 分超えの方が 46.9%、「歩ける距離ではない」と回答した方が 1.4%います。

バス停は「5 分以内」と回答した方が 56.7%となっており、全体の約 8 割の方はバス停まで 10 分あれば徒歩で到着できると回答しています。

◆ 駅



◆ バス停



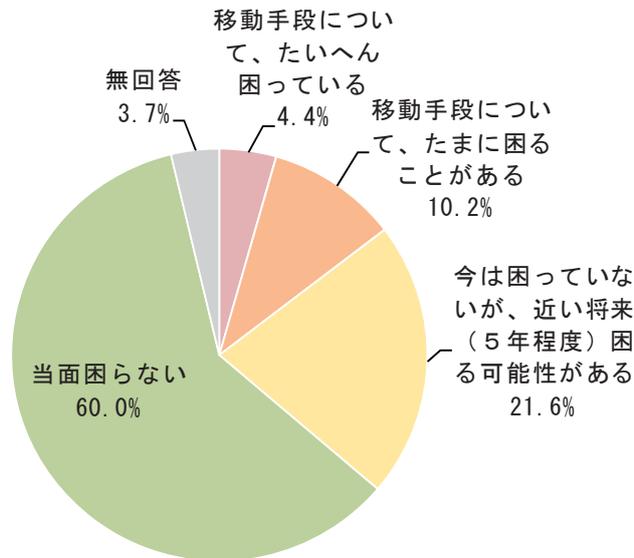
※単一回答 n=883

問 20. 外出時の移動手段について、困っていると感じることはありますか(〇はひとつ)。

また、その理由について教えてください。

「たいへん困っている」「たまに困ることがある」を合わせて 14.6%の方が、現在移動手段で困っている状況です。

当面困らないと回答した方は 60.0%となっています。

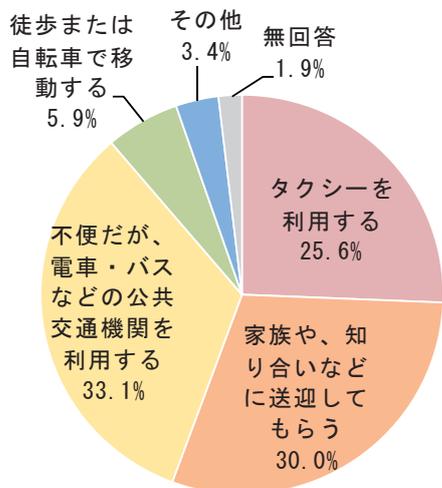


※単一回答 n=883

困った時の対処法は、「不便だが、電車・バスなどの公共交通機関を利用する」が 33.1%、「家族や知り合いなどに送迎してもらう」が 30.0%となっています。

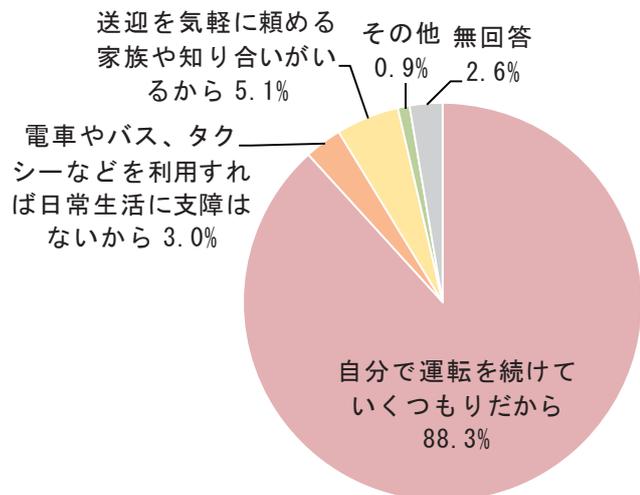
当面困らない理由は、「自分で運転を続けていくつもりだから」が 88.3%で最も多い回答になっており、9割近い方は当面自分で自動車の運転が可能の方となっています。

◆困った時の対処法



※単一回答 n=320

◆当面困らない理由

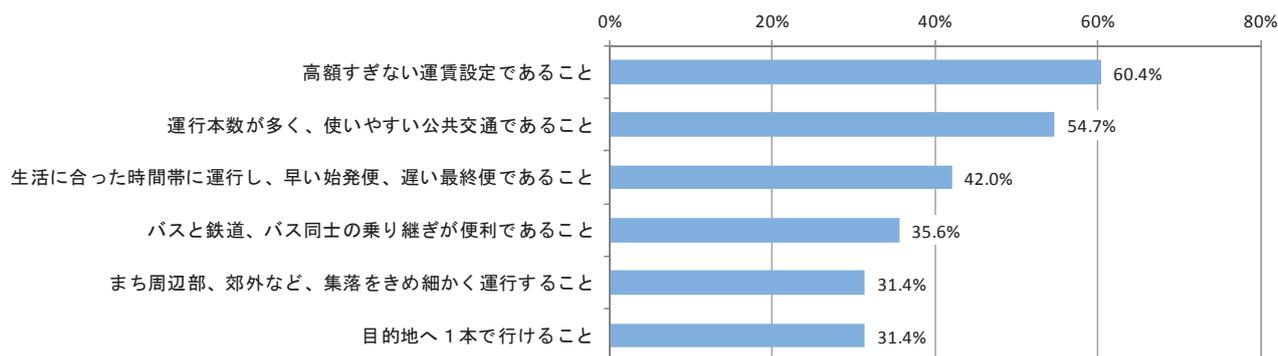


※単一回答 n=530

問21. 現在自家用車を利用している方も、10年後、20年後には運転がむずかしくなっていくことが予想されます。今後、バスや鉄道といった公共交通へ求めることをお聞かせください（〇はいくつでも）。

今後の公共交通に求めることは、「高額すぎない運賃設定であること」が最も多く、60.4%となっています。

ついで「運行本数が多く、使いやすい公共交通であること」が54.7%、「生活に合った時間帯に運行し、早い始発便、遅い最終便であること」が42.0%となっています。



※複数回答 n=883

## V 今後のまちづくりについてお聞きします。

問26. 今後の暮らし方やまちづくりについて、ご意見・ご要望がありましたら、何でも結構ですのでご自由にお書きください。

公共交通に関連する意見を以下に抜粋して示します。

### 【公共交通全般について】

- 中心市街地大館駅前を活性化し、公共交通機関の利便性を高くして車がなくても生活しやすい街を目指してほしい。大館の玄関口（であるはず）の駅前があのままでは寂しすぎる。電車、バスの時間までヒマをつぶす場所すらない。
- 郊外から市街への買い物、通院、通学、通勤の為公共交通機関の充実、今現在バスを利用している。高齢者の方たちは、不便を感じています。高齢者が市街に多く出かけるようになれば大館市の活性化にもなると思います。
- 今後車の運転ができなくなれば買い物も出来ない。病院へ行くことも出来ない。公共交通が必要になるけど10年後、20年後このままでは無理と思う。新しい形の交通の乗り物が必要でしょう。
- 公共交通機関を見直していただき、使いやすく、また利用したいと思えるようにしてもらいたいと思います。
- 郊外から市街への買い物、通院、通学、通勤の為公共交通機関の充実、今現在バスを利用している。高齢者の方たちは、不便を感じています。高齢者が市街に多く出かけるようになれば大館市の活性化にもなると思います。

○今は車の運転も出来ますが15年20年たった時がとても不安です。店も無い村で買い物弱者です本当にどうしたら良いのでしょうか、市で移動スーパーカーをだしてくれたらなー。バス停まで歩き30分2km有り病院まで10km以上有ります。市で送迎バスが出れば良いですが。

○今はバスを利用した事はありませんが将来自家車の運転ができなくなったら買い物難民になりそうで不安です。

#### 【路線バスについて】

○ハチ公バスの運行が、わかりづらい。それ以上に、路線バスがわかりづらい。県南地区は、ラジオ番組と契約して毎週情報が流れます…県北、大館たまに。

○便利のいい場所だけではなく、奥地にも目を向けてほしい。公共交通機関がなく、市の病院行きのバスを利用している人達が多くいます。便を増やしてほしい。利用する人は、無料でなくても少し金額をはらってもよいと思う。

○今は運転していますが4、5年も運転出来ないと思うのでバスなど1日に多めにきてもらいたいと思っています。

○高齢者、特に移動手段をバスだけに頼っている人にとって、市立病院を乗り継ぎ場所にして、別な路線に乗りかえて出かけていますが、大変不便です。膝を痛めてからは、(自転車もやめた)バスのステップも気を使います。日祝のダイヤも少ないので結果的にはタクシーとなり、年金者には出費がこたえます。中央公民館、男女参画センター、有浦の交流センター、ししが森老人いこいの家、青少年ホーム、女性センター等まわる「バス」が運行されると障害者や老人弱者の住み良い街になるのでは。

○10年後には車の運転をしてないと思うと、花岡から病院、買物に行くのに不便であると思う。小型のバスでも安く安心していけたらいいと思う。

○子どもをバス通学させたいのですが最寄りのバス停の時刻が高校にあわず、冬の道路が不安です。

○運動するように言われているが 主要な用事はすべて車で行かなければならない現状です。せめて買い物できる所があれば歩いて行って運動になるのですが…。なにかの時にバスやJRをつかいたいののですが夜おそい便がありません。

○老人が温泉施設に行く時、バスが少なくて困る。もっと、バス停を増やしてほしい。

○子ども園のある場所や、学校のある場所にはできるだけ近い場所へのバス停や使いやすい時間帯のバスがあると良いな、と思います。

○花岡地区に住んでいるのですな、なんとかバスの本数を増やしてもらいたい!!ミニバス(マイクロバスでもいいので)

○バスの本数をふやしてほしいです。

○買い物がとても不便で、交通費のかかる街です。行きはバス、帰りは荷物でバスの乗り降りで大変(ひざの痛みなど年寄りにはつらい)。帰りはタクシーになります。

○車を運転できない人のために使える交通手段を考えてほしい。数年後、子どもが、中学、高校へと進学した時に、バスが何本かでも通っていれば、送り迎えの心配をすることがなくなると思う。

○市街地のバスが不便（本数が少ない）

○車を持っていればいいが、学生や高齢者など電車、バスをよくつかうので、本数を増やしてあげたほうがいい。

○ハチ公バス代160円ではなく100円にならないか 盛岡のでんでん虫は100円です。おとくなバスカードもつくってほしい。カード5,500円分を5,000円で買えるカードです。

○バス利用の場合、環状線に乗り、最終的にはいつものバス停につくが料金の高いのにびっくり、これも本数の少ないためとあきらめ半分の現状です。

#### 【高速バスについて】

○東京方面へいくときバスで盛岡にむかうことが多いのですが、中山バス停の位置が不便です。できればみちのく号バスを扇田町内経由とか、また中山バス停を中山ファミマのところに変更するとおくりむかえの車ののりおりも危険が少ないと考えます。

○仙台行きバスをもう1本増やしてほしい（午後）。料金は高くしてもけっこう便利です。仙台行午後1本、大館行午前1本お願いします。

#### 【その他のアイデアなど】

○病院までの送迎バスがあるので大館もこう言うのがあれば大変いいと思います。

○何年前か前、ワンコインバスで市の名所を回るといので友達と午前、午後と2回利用してみました。観光客が利用し易いような観光タクシー等含め検討してみたらどうでしょうか？

○他のまちに行って交通の便でいいと思ったことは、タクシーやバス、電車だけではありません。最近レンタル自転車も用意されており、助かりました。大館市もマネしてみたいかどうでしょうか？

○日常生活を楽しく又健康に過ごすためには市内に買物に行ったり、通院に行ったりするため相乗りバス等があると良いです。毎日必要なことはないのですが、回数もはっきりなしということではないですが考えていただきたい。

○夫の免許（自動車）がもし無くなれば、市や町に用事をたすことが困難になります。現在はバスが運行していますが、あまり乗車していないようでこの先どうなるかわかりません。今からそれに変わる方法を研究して下さい。

○今の所は、自家用車を利用してますがバスの回数がとても少ないとかで、何か利用しやすいワゴン車とか各地区に配置してもらいたい。たとえば、病院行きとか買物がきき出来ればいいと思ってます。タクシー利用は年金生活にはこたえます。

### (3) 公共交通不便地域実証実験の詳細

#### ① 配布資料

【お知らせ 1 枚目】

## タクシー割引券を活用した実証実験のご案内

公共交通が不便な地区にお住まいの方へ、お出かけの機会を支援します。

市では、公共交通の維持確保等に関する「大館市地域公共交通網形成計画」の策定を進めております。

この計画策定にあたり、鉄道駅やバス停から離れた距離にお住まいの方の移動の実態を把握し、新たな移動手段の検討に役立てるため、タクシーの割引券を活用した実証実験を実施することとなりました。

つきましては、本封筒に1枚あたりタクシー利用料金が300円割引となる『得とくタクシー券（4枚つづり）』を同封致しましたので、お出かけの際に是非ご利用ください。

また、同封のアンケートへ、実証実験に対するご意見、『得とくタクシー券』を利用された感想など、皆様の声をお聞かせください。

実証実験の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしく申し上げます。

#### 実証実験対象の方

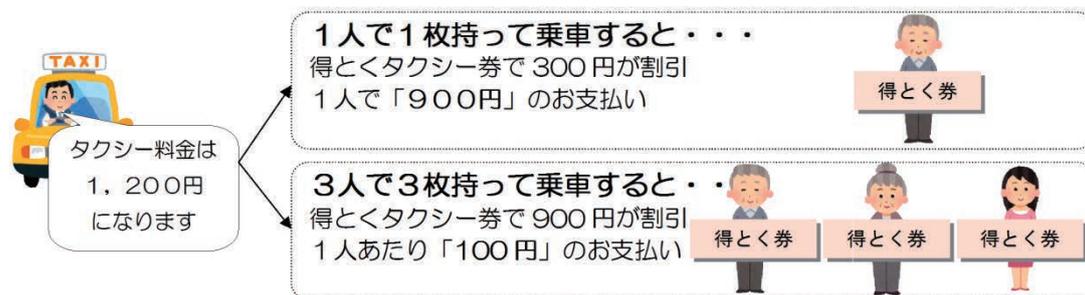
町内会長より、本お知らせを受け取られた、以下の町内会にお住まいの方が対象となります。

○長木地区：塞の神

○西館地区：寺崎、八木橋、五輪台、一通、畑沢、板戸、水沢、白沢、小坪沢

※1世帯につき『得とくタクシー券（1枚300円相当）4枚つづり』を交付します。

#### 実証実験のイメージ



ご家族やご近所の方と  
一緒に利用されるとお得です。



## 【お知らせ 2 枚目】

### 利用可能期間・時間・区間

- 平成29年12月20日(水)～平成30年1月19日(金)の午前7時から午後5時まで  
なお、予約状況により、ご希望の時間に添えない場合がございますので、予めご了承下さい。
- 利用区間は大館市内発着に限ります。

### ご利用にあたって

- 利用日の前日の午後5時までに、タクシー会社へ電話予約をお願いします。  
ご予約の際は『得とくタクシー券を利用します』と添えてください。
- 『得とくタクシー券』は、配布された世帯の方に限り有効です。他人への譲渡はできません。
- 『得とくタクシー券』を持参頂けない場合は、割引を受けることが出来ません。
- 『得とくタクシー券』をお持ちの方同士で相乗りした場合は、合算して利用できます。
  - 1名で乗車し1枚使用の場合⇒メーター料金より『300円割引』
  - 2名で乗車し2枚使用の場合⇒メーター料金より『600円割引』
  - 3名で乗車し3枚使用の場合⇒メーター料金より『900円割引』
- 『得とくタクシー券』は、他のタクシー補助券と併用できません。
- メーター料金が『得とくタクシー券』の額面を下回った場合でも、お釣りの支払いはありません。
- 『得とくタクシー券』は、金券ではありませんので換金はできません。
- 『得とくタクシー券』ご利用後、同封のアンケートにご協力をお願いします。
- ご回答いただきましたアンケート票は、お手数ですが同封の返信用封筒にて、切手を貼らずに郵便局や郵便ポストに投函またはご持参願います。  
また、今回は『得とくタクシー券』を利用されなかった方も「利用しなかった理由など」についてご意見をお寄せください。アンケート回答期限は平成30年1月31日(水)です。

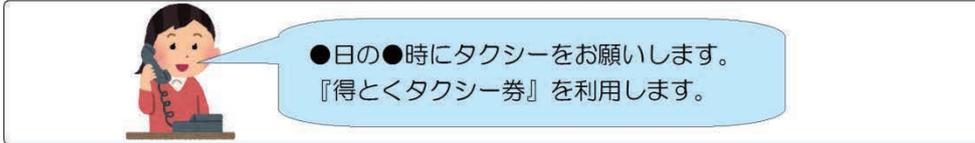
### 得とくタクシー券が利用できるタクシー会社

	タクシー会社名	予約電話番号	住所
1	かつらタクシー	42-1777	幸町13-16
2	花岡タクシー	43-1515	幸町13-16
3	さくら観光	48-2332	釈迦内字山神台15-1
4	秋北タクシー	42-5454	有浦三丁目4-18
5	新花矢タクシー	49-1919	常盤木町12-22
6	比内タクシー	55-0135	比内町扇田字下扇田45
7	(株)ユニオン交通大館タクシー	42-3411	字新町23-3
8	富士タクシー	42-1001	字大町12

【お知らせ 3枚目】

**得とくタクシー券のご利用方法**

- ①ご利用前日の午後5時までにタクシー会社へ予約を入れてください。  
必ず『得とくタクシー券』を利用します』と伝えてください。



- ②『得とくタクシー券』をミシン目に沿って切りはなし、乗車前に『ご利用者様記入欄』へ必要事項を記入します。



**ご利用者様記入例（青文字）**

平成29年度 大館市		<b>得とくタクシー券</b>		No. 001-1
有効期間	平成29年12月20日から平成30年1月19日までのうち 午前7時～午後5時まで			タクシー <b>300円券</b>
<b>&lt;ご利用者様記入欄&gt; ※ご乗車前に数字または○印をご記入ください</b>				
あなたの ご年齢	<b>63</b> 歳	乗車 人数	<b>2</b> 人	今回の 乗車場所
あなたの 町内会	<b>1. 塞の神</b> 2. 寺崎	3. 八木橋	4. 五輪台	5. 一 通 6. 畑 沢
今日の 移動目的	<b>1. 通勤</b> 2. 通学 <b>3. 買物</b>	<b>4. 通院</b> 5. 趣味や習い事・交遊等 <b>6. 手続き</b> （銀行郵便局・官公署等）	7. 福祉サービス（デイサービスなど）	8. その他（具体的に： 3. その他（ 9. 白沢 10. 小坪沢

切りはなしてご利用ください

※裏面は運転手さんが記入しますので、記入不要です。

- ③精算時に『得とくタクシー券』を運転手さんへ渡し、割引後の料金をお支払いします。



**【ご利用方法などに関するお問合せ】**

大館市 都市計画課 都市整備係 藤島・渡部

TEL : 0186-43-7082 FAX : 0186-55-1018

【得とくタクシー券】

表面

平成29年度 大館市 **得とくタクシー券** No. 001-1  
 有効期間 平成29年12月20日から平成30年1月19日までのうち  
 午前7時～午後5時まで **タクシー 300円券**

<ご利用者様記入欄> ※ご乗車前に数字または○印をご記入ください

あなたの ご年齢	歳	乗車 人数	人	今回の 乗車場所	1. 自宅周辺から 2. 目的地から	3. その他( )
あなたの 町内会	1. 塞の神 2. 寺崎	3. 八木橋 4. 五輪台	5. 一 通	6. 畑 沢	7. 板戸 8. 水沢	9. 白沢 10. 小坪沢
今日の 移動目的	1. 通勤 2. 通学 3. 買物	4. 通院 5. 趣味や習い事・交遊等 6. 手続き(銀行郵便局・官公署等)	7. 福祉サービス(デイサービスなど) 8. その他(具体的に: )			

切りはなしてご利用ください

裏面

**運転手さんへお願い**  
 ○メーター料金から得とくタクシー券1枚につき300円を差し引いた額を受け取ってください。  
 (得とくタクシー券1枚につき300円を大館市から会社に支払うことになっています)  
 ○得とくタクシー券は1回の乗車につき1人1枚使用可能です(2人以上の場合は乗車人数分使用可)。  
 ○他のタクシー補助券と合わせて利用が可能です。お釣りの支払いはありません。  
 ○ごめんでも乗車日時や区間・メーターの料金・利用区間等をご記入ください。

<運転手さん記入欄>

乗車日時	月 日 時頃	乗車人員	人	メーター料金	円
得とくタクシー券使用枚数	枚	他の割引券等併用状況	1. 無 2. 有(券名 )		
乗車地(住所や店名等)	1. 自宅周辺 2. その他( )				
降車地(住所や店名等)	1. 自宅周辺 2. その他( )				
タクシー会社名				運転手名・または印	

【調査票】

## 地域交通手段を検討するための市民アンケート調査 ご協力をお願い

- この調査票は、地域交通手段を検討する際の貴重な資料とするため、『得とくタクシー券』を利用された方が優先してお答えください。『得とくタクシー券』を利用されなかった場合でも、「利用しなかった理由・利用できなかった理由」などについてお答えください。
- お答えは、あてはまる番号を○で囲んでください。なお、各問で「その他」にあてはまる場合は、お手数でも（ ）内に具体的に記入してください。
- この調査票は、同封の返信用封筒に入れて平成30年1月31日（水曜日）までに返送してください。切手は不要です。
- 調査票は2枚封入しています。調査票があまった場合には、記入済みの調査票と合わせて返信用封筒に入れてください。

### 1 あなたについてお聞きします。

問1. あなたのお住まいの町内会を教えてください（○はひとつ）。

- |        |        |       |       |         |
|--------|--------|-------|-------|---------|
| 1. 塞の神 | 3. 八木橋 | 5. 一通 | 7. 板戸 | 9. 白沢   |
| 2. 寺崎  | 4. 五輪台 | 6. 畑沢 | 8. 水沢 | 10. 小坪沢 |

問2. あなたの性別を教えてください（○はひとつ）。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3. あなたの年齢はおいくつですか（○はひとつ）。

- |           |        |        |        |          |
|-----------|--------|--------|--------|----------|
| 0. 18歳未満  | 2. 20代 | 4. 40代 | 6. 60代 | 8. 80歳以上 |
| 1. 18～19歳 | 3. 30代 | 5. 50代 | 7. 70代 |          |

問4. あなたの職業を教えてください（○はひとつ）。

- |            |              |                |
|------------|--------------|----------------|
| 1. 会社員・公務員 | 4. パート・アルバイト | 7. 無職・年金       |
| 2. 農家      | 5. 家事専業      | 8. その他（具体的に： ） |
| 3. 自営業     | 6. 学生        |                |

問5. 自動車運転免許の有無について教えてください（○はひとつ）。

- |          |               |               |
|----------|---------------|---------------|
| 1. 免許がある | 2. 免許をすでに返納した | 3. 免許を取得していない |
|----------|---------------|---------------|

→次は問6へ

問6. 普段どのような交通手段を利用して移動していますか（〇はひとつ）。

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 1. 徒歩       | 5. 家族や知り合いの車に同乗     |
| 2. 自転車      | 6. 施設等の送迎バス         |
| 3. オートバイ・原付 | 7. タクシー             |
| 4. 自家用車     | 8. その他（具体的に： _____） |

→次は問7へ

## 2 『得とくタクシー券』の利用状況についてお伺いします。

問7. 今回『得とくタクシー券』は利用しましたか（〇はひとつ）。

- |                         |
|-------------------------|
| 1. 利用した⇒問9へ             |
| 2. 利用しなかった・利用できなかった⇒問8へ |



問8. 利用しなかった・利用できなかった理由を教えてください（〇はいくつでも）。

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. 自家用車があるから                  |
| 2. 家族や知り合いが送迎してくれるから          |
| 3. 他の交通手段の方が便利だから             |
| 4. 予約するのが手間だから                |
| 5. 利用方法がわかりづらいから              |
| 6. 予約の際、混雑のため断られたから           |
| 7. 予約の際、混雑のため希望の時間に利用出来なかったから |
| 8. 自己負担額が大きいから                |
| 9. 降りるまで料金がわからないから            |
| 10. 利用開始時間帯が遅いから              |
| 11. 利用終了時間帯が早いから              |
| 12. 車両がバリアフリー対応していないから        |
| 13. 相乗りしたかったが、相手がみつからないから     |
| 14. その他（ _____）               |

→次は問14へ

問9. 『得とくタクシー券』を利用してどなたかと乗車されましたか（〇はいくつでも）。

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 1人で乗車    | 3. 近所の方や友人と同乗  |
| 2. 家族や親戚と同乗 | 4. その他（ _____） |

→次は問10へ





② 実証実験の概要

概要1. 調査対象エリア

昨年度に座談会を開催し、今年度に「公共交通不便地域アンケート」を実施した下記の2地区を対象とした。

長木地区：塞の神  
 西館地区：寺崎、八木橋、五輪台、一通、畑沢、板戸、水沢、白沢、小坪沢

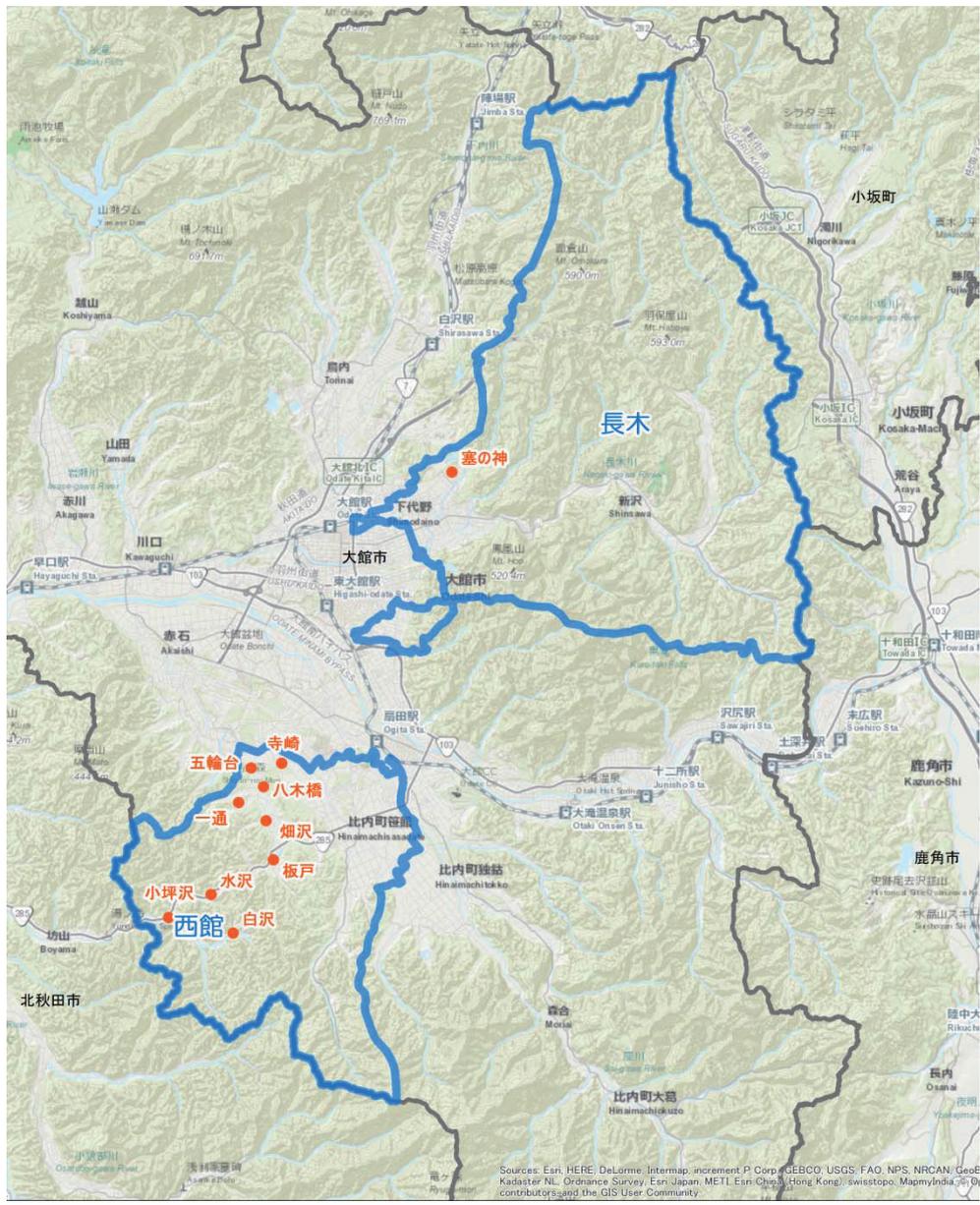


図 調査対象地区・町内会

## 概要2. 調査方法

配布物：お知らせ・『得とくタクシー券』4枚・実証実験に関するアンケート2部  
・返信用封筒1部を封入

配布時期：平成29（2017）年12月13日～19日

配布方法：市より各行政区長へ配布、区長から各世帯へ手渡しにて配布

調査時期：平成29（2017）年12月20日（水）

～平成30（2018）年1月19日（金）の1ヶ月間

回収方法：『得とくタクシー券』は、各タクシー会社さんより郵送回収

実証実験に関するアンケートは、住民の方より郵送回収

## 概要3. 『得とくタクシー券』利用状況

（1世帯あたり4枚配布）

	配布枚数	利用枚数	利用率
長木地区	240	41	17.1%
西館地区	656	24	3.7%
合計	896	65	7.3%

## 概要4. 実証実験に関するアンケート回収状況

（1世帯あたり2枚配布。普段から移動に困られている方優先で回答）

	配布枚数	回収枚数	回収率
長木地区	120	27	22.5%
西館地区	328	65	19.5%
合計	448	92	20.5%

## 概要5. 調査項目

### 『得とくタクシー券』

- ・お住まいの町内会
- ・利用者の年齢
- ・乗車人数
- ・主な移動目的
- ・『得とくタクシー券』の利用枚数
- ・メーター料金

### 実証実験に関するアンケート

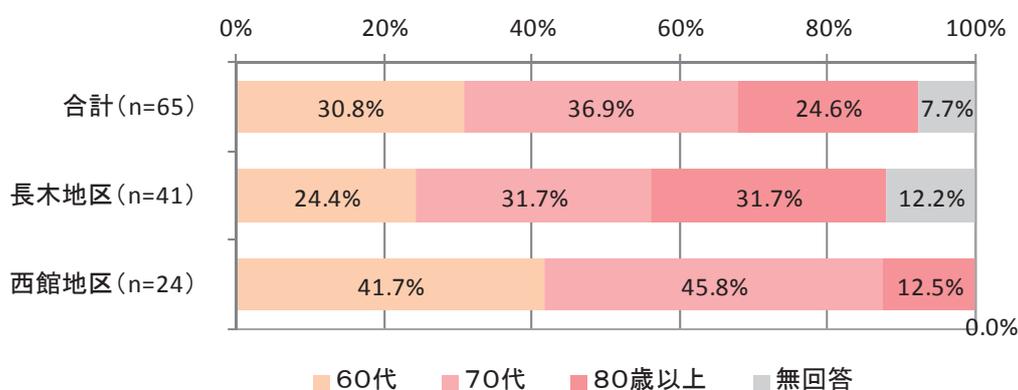
- ・お住まいの町内会
- ・回答者の性別・年齢・職業・自動車運転免許の有無・普段の交通手段
- ・『得とくタクシー券』の利用状況
- ・『得とくタクシー券』を利用しなかった・利用できなかった理由  
(利用していない方のみ)
- ・同乗者の有無について(利用した方のみ)
- ・自己負担額・及び価格に関する感想(利用した方のみ)
- ・『得とくタクシー券』を利用して良かった点(利用した方のみ)
- ・『得とくタクシー券』を利用して不満に感じた点(利用した方のみ)
- ・『得とくタクシー券』をまた利用したいと思うか(利用した方のみ)
- ・あれば便利だと思う制度や仕組み・日常生活を維持するためのその利用回数

③ 『得とくタクシー券』の利用状況

※数値は、タクシー1台あたり（移動回数）ではなく、『得とくタクシー券』の利用数（移動した方の数）で集計

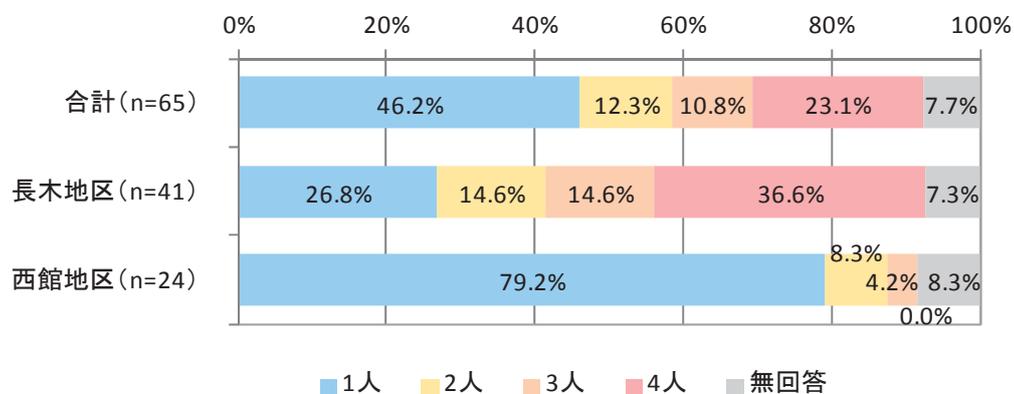
利用状況1. 利用者の年代

- ・利用者を限定していないが、利用者は60代以上のみである。
- ・長木地区では、80歳以上の利用が約3割となっている。



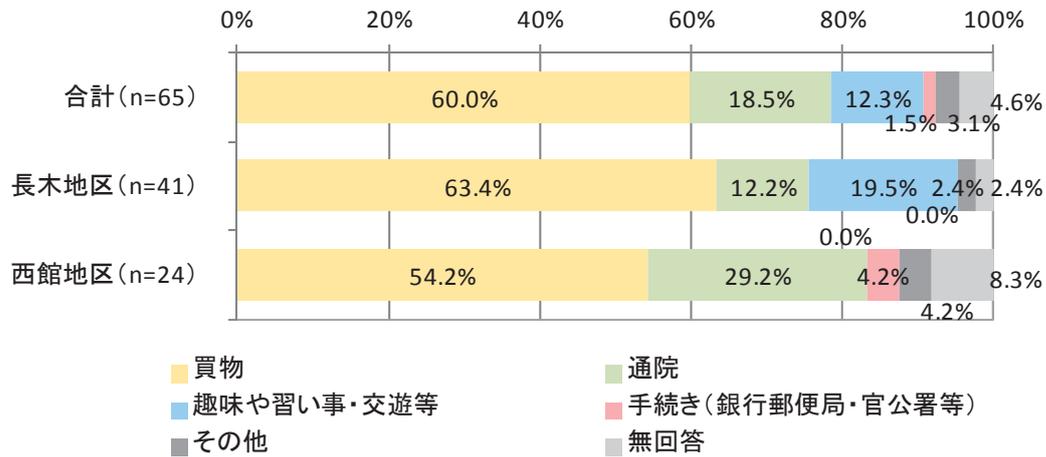
利用状況2. 乗車人数について

- ・長木地区では、4人利用が約4割となっている。
- ・西館地区では、1人利用が約8割となっている。



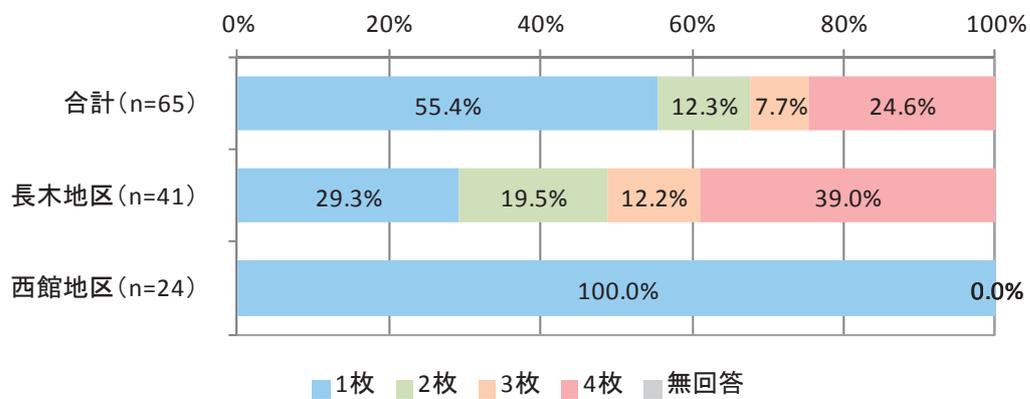
### 利用状況3. 利用目的について

- ・主な利用目的は、「買物」や「通院」など、日常生活としての移動となっている。
- ・長木地区では、「趣味や習い事・交遊等」の利用もみられる。



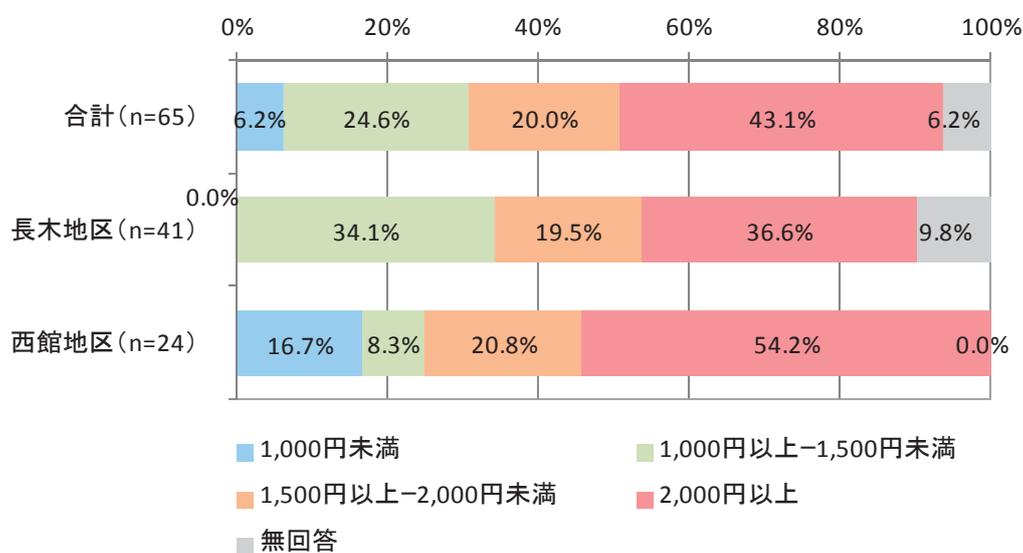
### 利用状況4. 『得とくタクシー券』の同時(『得とくタクシー券』所有者との同乗)利用について

- ・長木地区では、同時利用(『得とくタクシー券』所有者との同乗)がみられる。
- ・西館地区では、同時利用はみられない。



## 利用状況5. タクシーの利用料金について（自己負担分を含む）

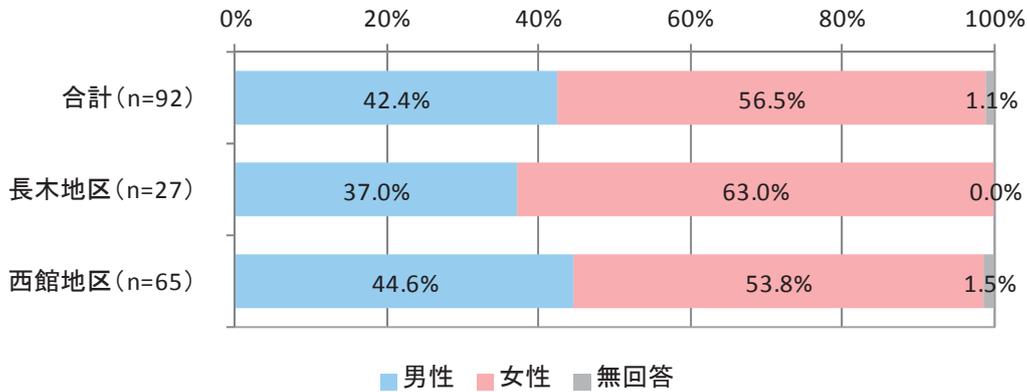
- ・全地区の合計では、2,000円以上の区間を利用している方が約4割みられる。
- ・長木地区では2,000円以上の区間が約36.6%ともっとも多いが、1,000円以上-1,500円未満の近距離利用も約34.1%みられる。
- ・西館地区の1,000円未満の利用は、病院とスーパー間などの施設間利用である。自宅からの交通手段をみると病院バスを利用しており、自宅から病院までは病院バスを利用し、診療後に買物をするためのタクシー利用となっている。



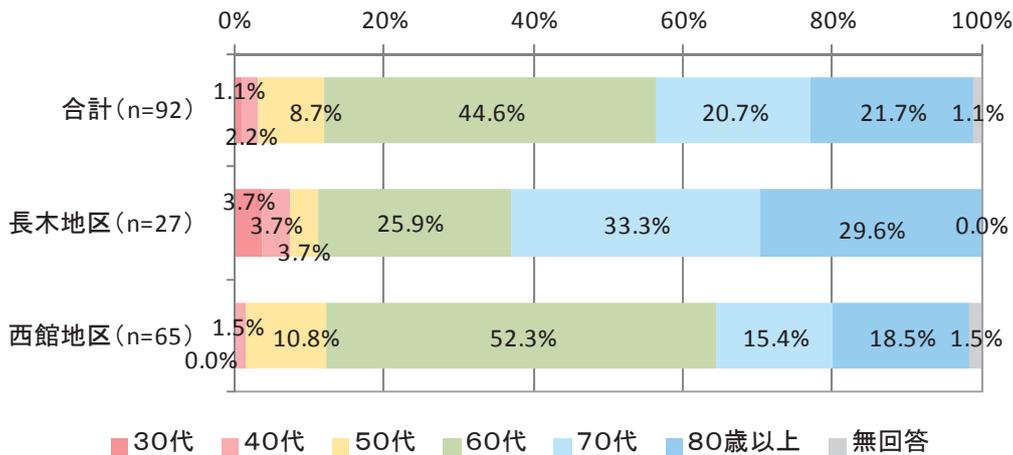
④ 実証実験に対するアンケート結果

アンケート結果1. 回答者の属性

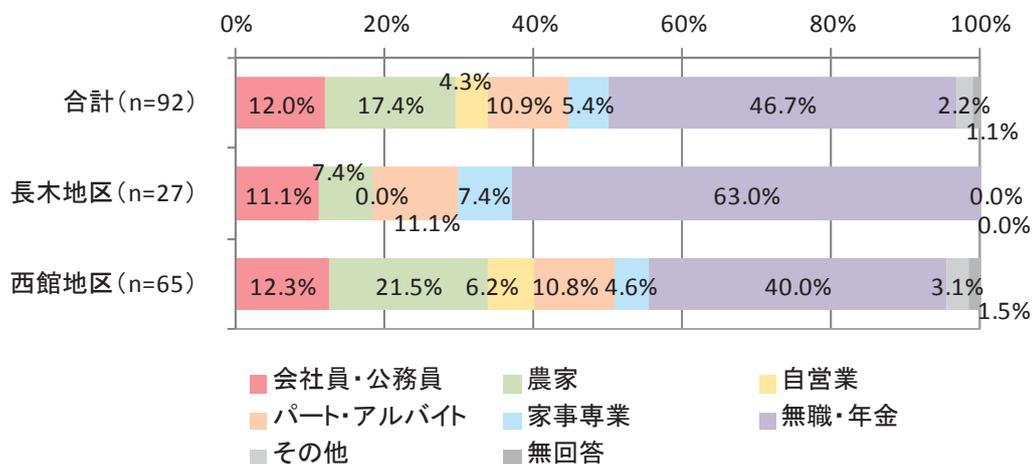
性別



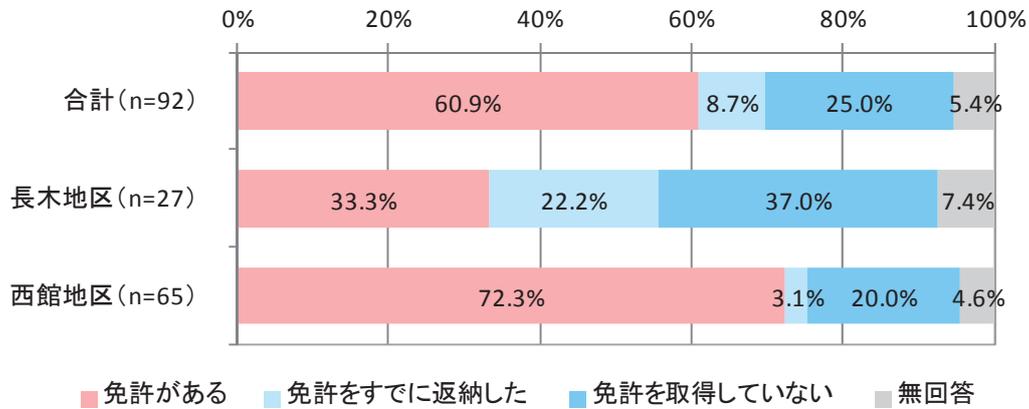
年齢



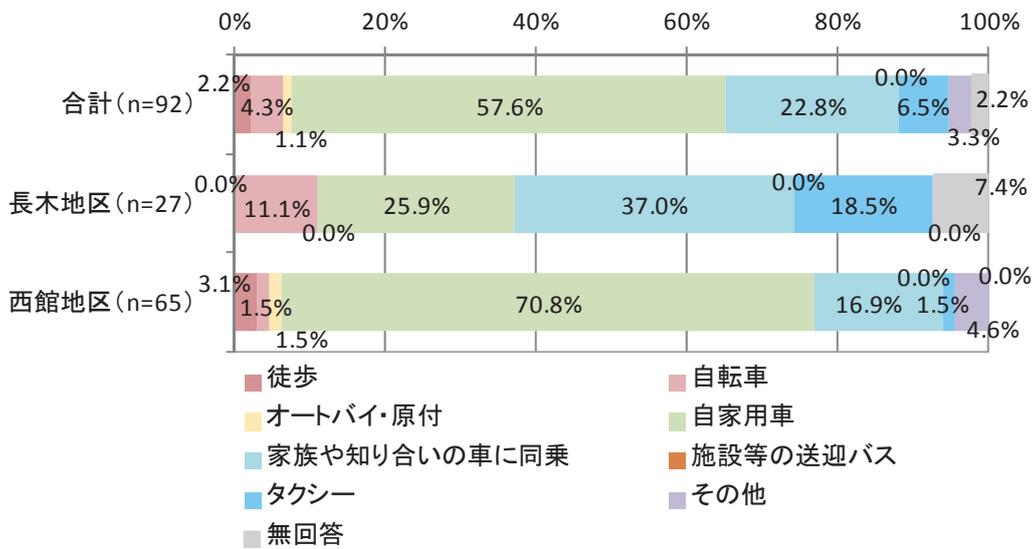
職業



### 免許の所有状況

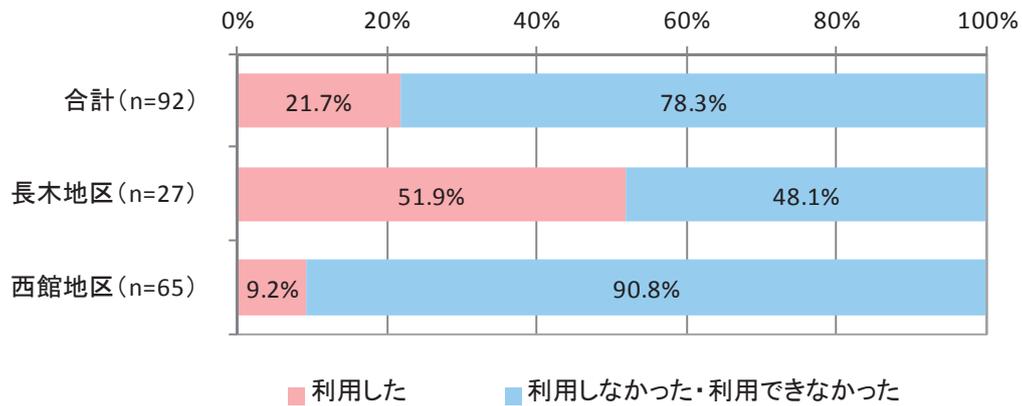


### 普段利用している移動手段



## アンケート結果2. 『得とくタクシー券』 利用状況

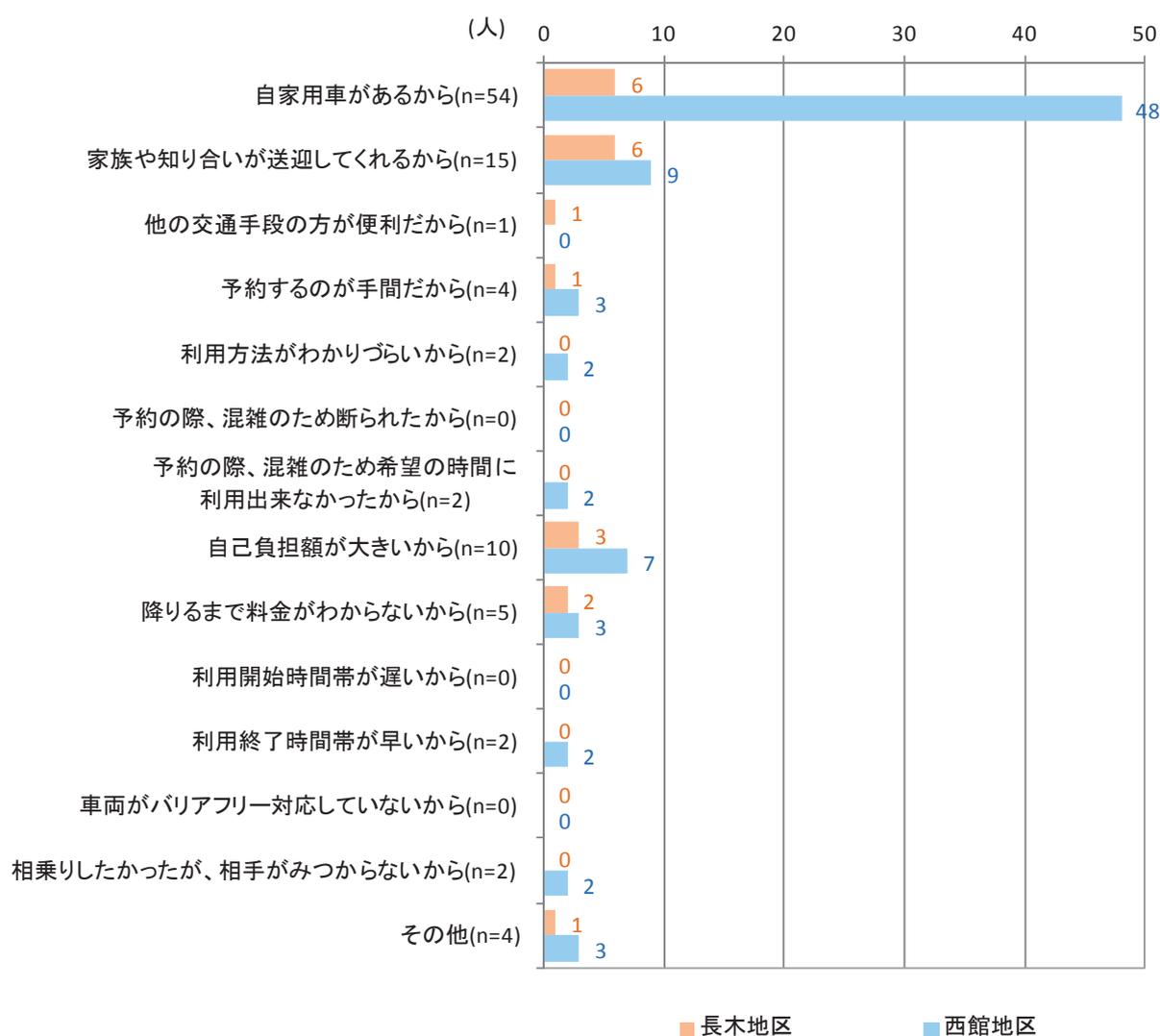
- ・長木地区では、利用した方が約半数である。
- ・西館地区では、利用した方は約1割である。「タクシー料金が2,600円を超えるため、年金暮らしでは利用は難しい」との意見がみられる。



アンケート結果3. 『得とくタクシー券』を利用しなかった・利用できなかった理由  
 (『得とくタクシー券』を「利用しなかった・利用できなかった」と回答した方のみ)

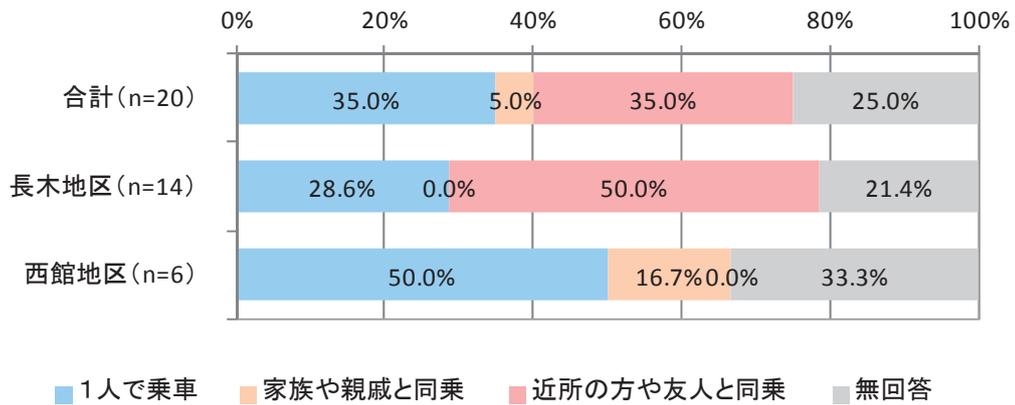
- ・「自家用車があるから」がもっとも多くなっている。
- ・お知らせにより、家族や近所の方との乗合いについて案内を行ったが、「自己負担額が大きいから利用できなかった」「一緒にくる人がいない」という意見がみられる。
- ・その他では、「天気次第」「前日の予約は不可能」「診察が何時に終わるかわからない」「タクシーは料金が高額だから300円の券ではどうにもならない」との意見がみられる。

※複数回答 n=101



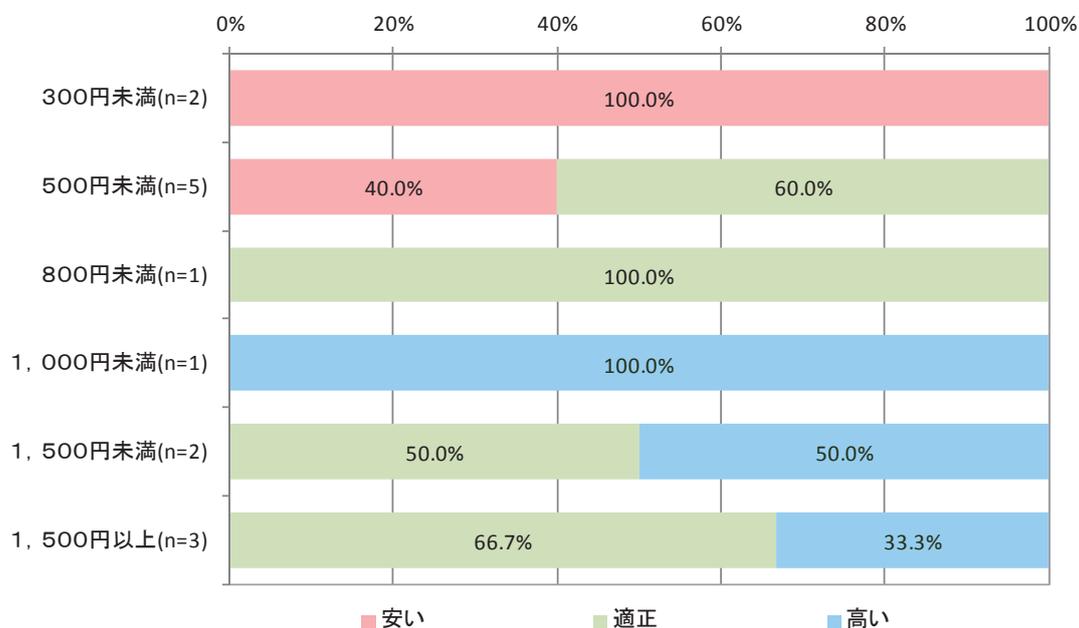
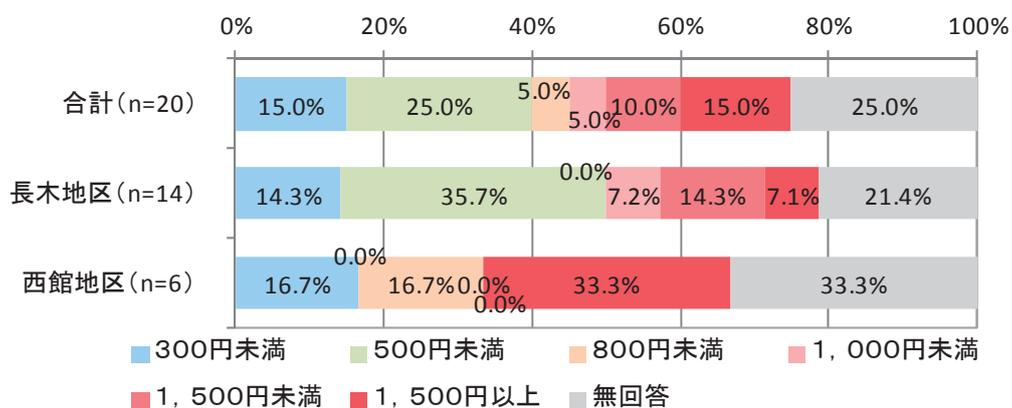
アンケート結果4. 『得とくタクシー券』を利用した際の乗車状況  
 (『得とくタクシー券』を「利用した」と回答した方のみ)

- ・長木地区では、「同乗」が約半数みられる。
- ・西館地区では、「1人で乗車」が半数となっている。同乗の場合でも「家族や親戚」となっており、「近所の方や友人と同乗」はみられない。



アンケート結果5. 『得とくタクシー券』を利用した際の自己負担額  
 (『得とくタクシー券』を「利用した」と回答した方のみ)

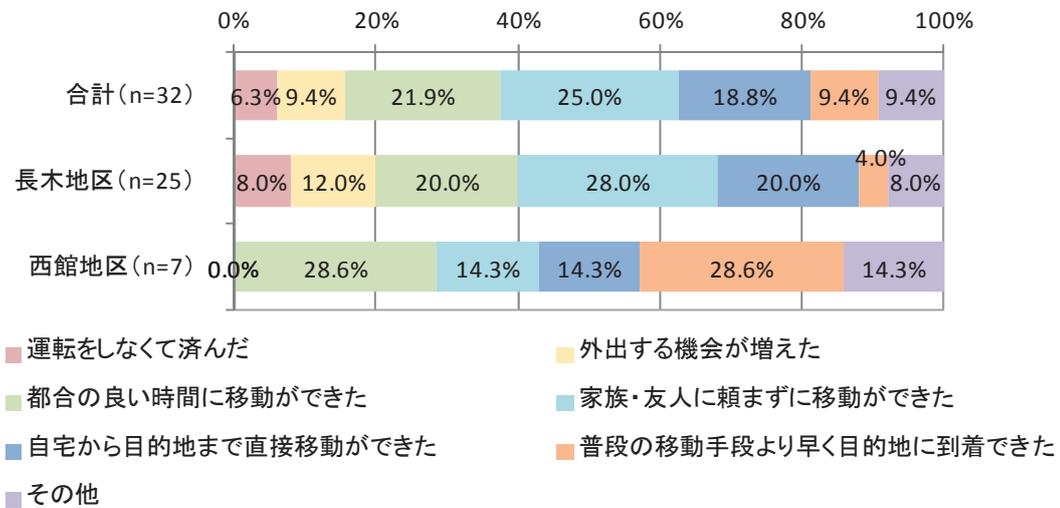
- ・長木地区では、「500円未満」の方が約半数となっている。
- ・西館地区では、「1,500円以上」の方が約3割となっている。
- ・金額別の感想では、「800円未満まで」は「高い」との声はなかったが、「800円を超える」と「高い」という声がみられる。



※自己負担額・金額に対する感想が無回答の5件を除く

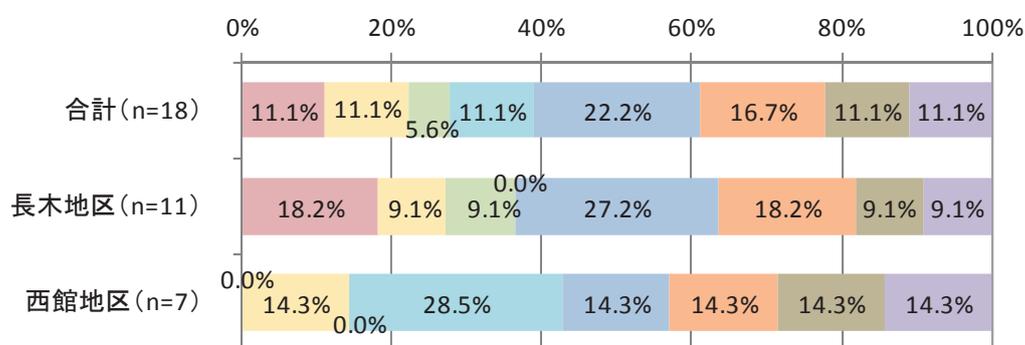
アンケート結果6. 『得とくタクシー券』を利用して満足した点  
 (『得とくタクシー券』を「利用した」と回答した方のみ)

- ・長木地区では、「家族・友人に頼まずに移動ができた」が約3割となっている。
- ・西館地区では、「都合の良い時間に移動ができた」・「普段の移動手段より早く目的地到着できた」が約3割となっている。
- ・移動手段の確保により、高齢者の外出率の向上につながると考えられる。



アンケート結果7. 『得とくタクシー券』を利用して不満に感じた点  
 (『得とくタクシー券』を「利用した」と回答した方のみ)

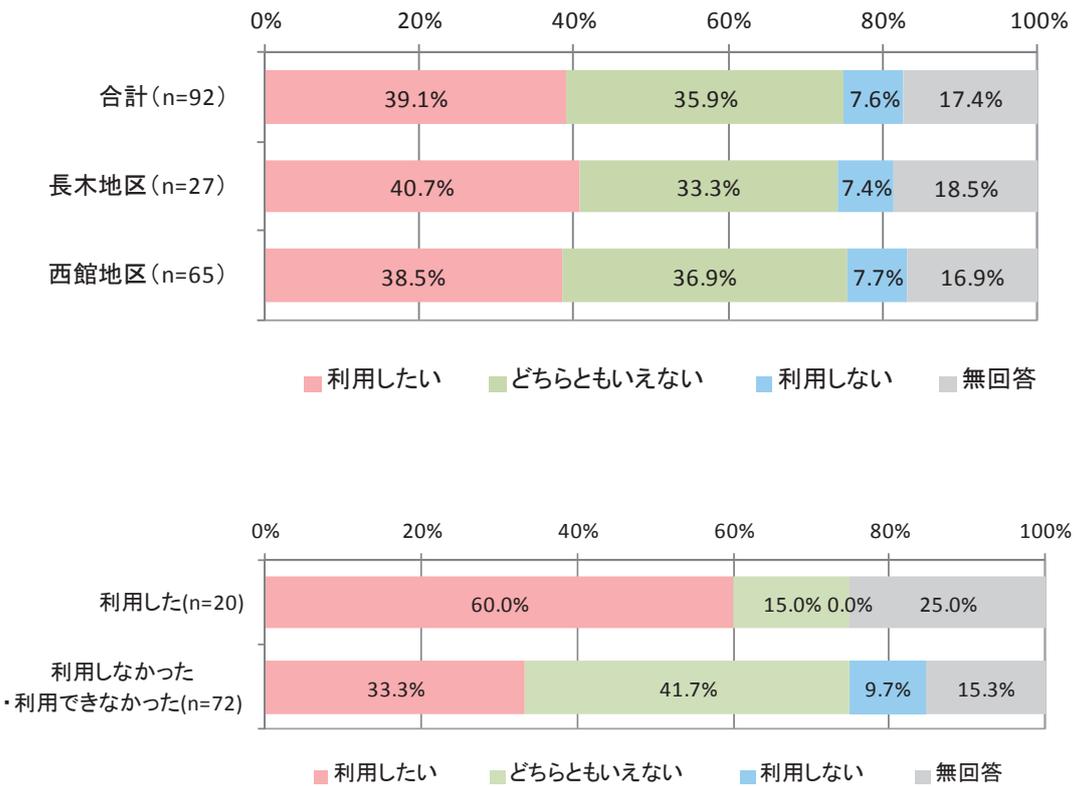
- ・合計で見ると、「降りるまで料金がわからない」が約2割と最も多く、次いで「利用終了時間帯が早い」との声がみられる。
- ・長木地区では、「予約するのが手間」との声が約2割となっている。西館地区に比べ、近距離利用が多いため、予め時間を決める必要のある「予約制」へ不満の声もみられる。
- ・その他、「利用終了時間帯は小坂行バス最終時を希望」との意見がみられる。



- 予約するのが手間
- 予約の際、混雑のため希望の時間に利用出来なかった
- 降りるまで料金がわからない
- 車両がバリアフリー対応していない
- その他
- 利用方法がわかりづらい
- 自己負担額が大きい
- 利用終了時間帯が早い
- 乗合いしたいが、相手がみつからない

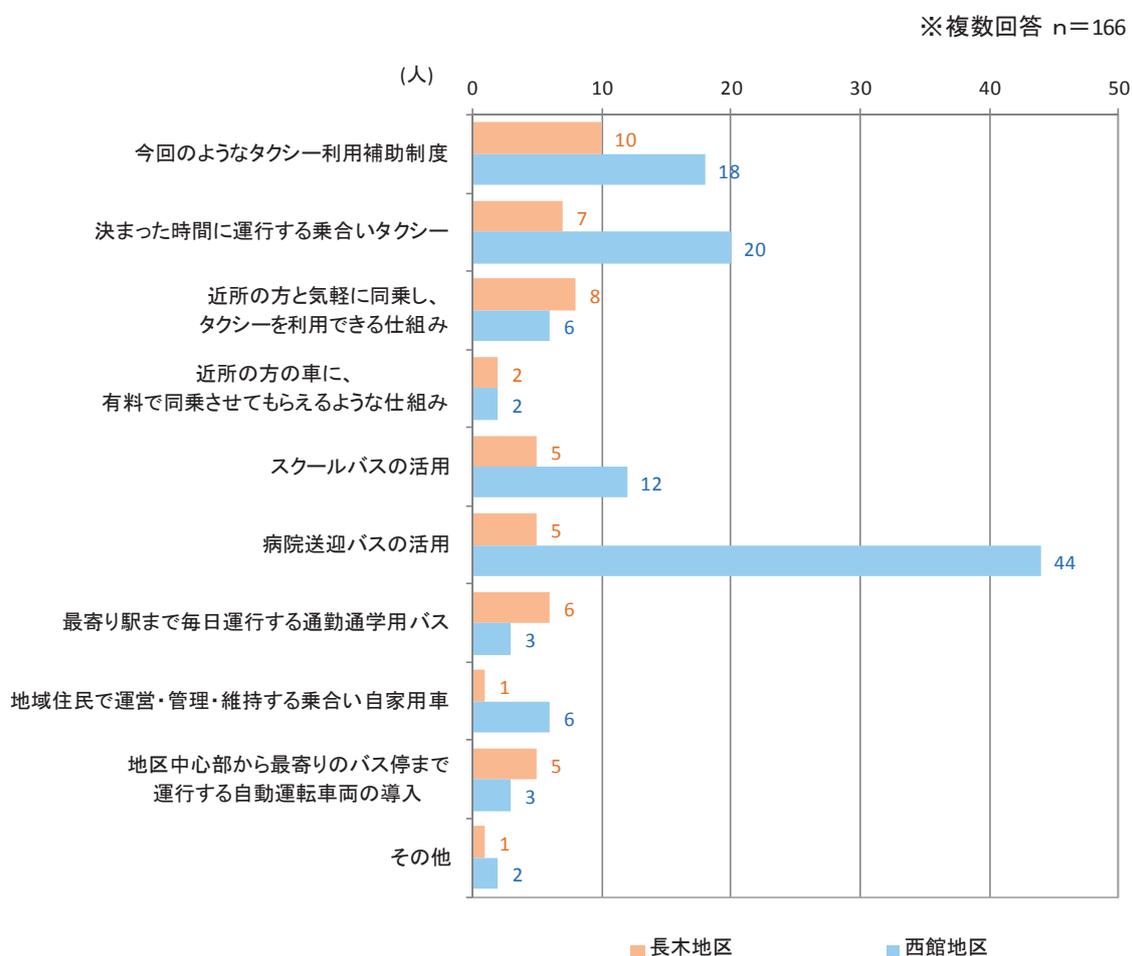
アンケート結果8. 『得とくタクシー券』のような補助制度が導入された場合、利用してみたいか(『得とくタクシー券』を「利用した」と回答した方のみ)

- ・それぞれの地区で約4割の方が「利用したい」との意向である。
- ・今回「利用しなかった・利用できなかった」と回答した方のうち、約3割の方も「利用したい」との回答である。



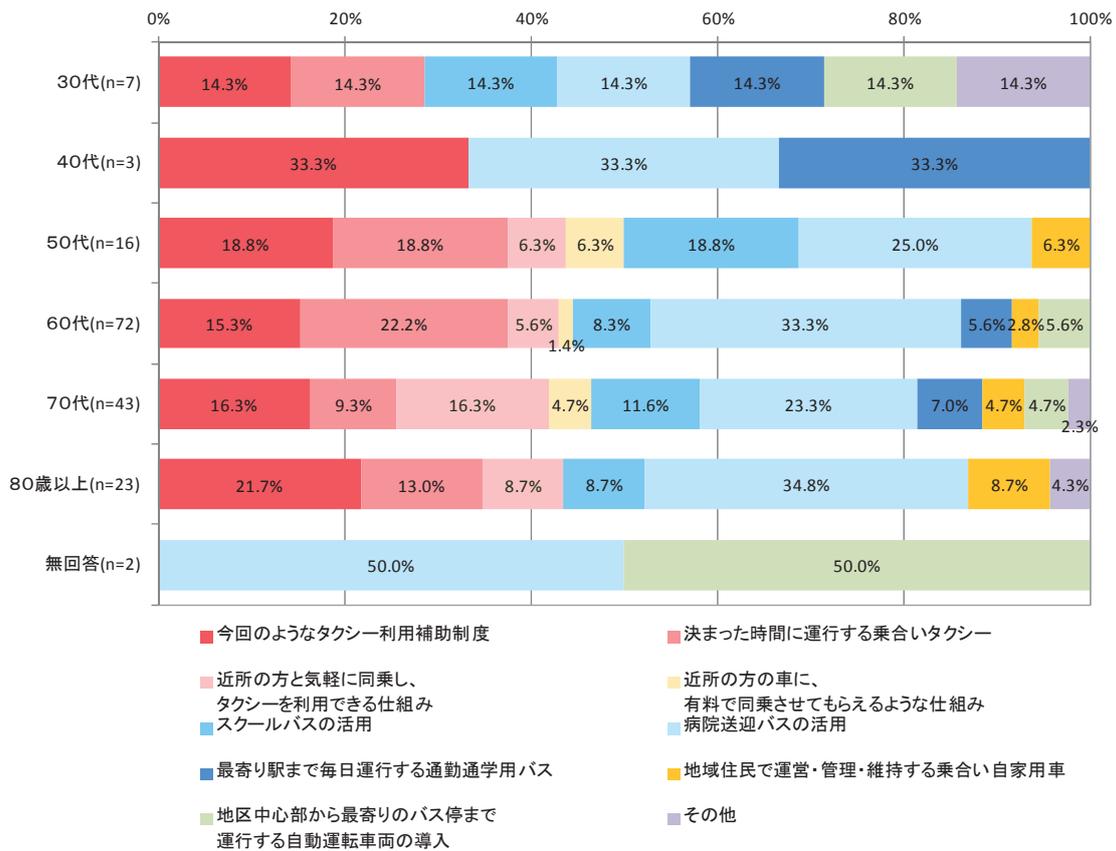
## アンケート結果9. あれば便利だと思う制度や仕組み

- ・長木地区では、「今回のようなタクシー利用補助制度」がもっとも多く、次いで「近所の方と気軽に同乗し、タクシーを利用できる仕組み」となっており、バスの活用と比較し、気軽に移動できる制度や仕組みを求める意見が多くなっている
- ・西館地区では、病院送迎バスの活用がもっとも多い。また、スクールバスの活用を求める意見も12件となっており、「用途が限定されているバス」を「誰でも利用できるバス」への転用が期待されている。
- ・その他では、「ハチ公号の延長運行」「定時に運行されるコミュニティバスがあれば良い」との意見がみられる。



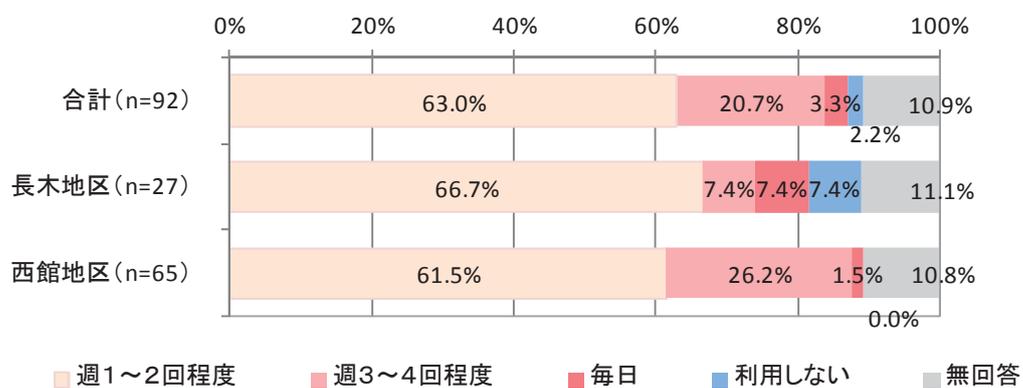
アンケート結果 10. あれば便利だと思う制度や仕組み（年代別）

- ・ 50代以上では「地域住民で運営・管理・維持する乗合い自家用車」をあげる方がみられる。
- ・ 「スクールバスの活用」と「病院送迎バスの活用」を合わせると、全年代で約3割～4割となっており、もっとも多くなっている。



## アンケート結果 11. 週にどのくらい運行されれば、あなたの日常生活を維持出来るか

- ・ 約 6 割の方が「週 1～2 回程度」運行されれば、日常生活が維持出来ると回答。
- ・ 西館地区では、「週 3～4 回」と回答した方が約 26.2%と多くみられる。



## アンケート結果 12. 地区の交通手段確保についてご意見やご要望

## 実証実験に全般に関すること

- タクシー代割引券が本当に有りがたいです。でもバスを走らせて下されば本当に有りがたいと思います。
- タクシー代割引券本当に有りがたいです。でも1日朝夕2回走らせて下されば有りがたいです。
- 高齢者や障害者のいる家庭にはもう少し枚数を増やしてほしい（通院が多い）。割引の増額。タクシー券の横幅をあと2cm位小さくしてもらえると（1万円札と同じ）サイフの中へ保管しやすい。
- 得とくタクシー券をいただきましたが、うちの方だとタクシーで帰ると2,600円ぐらいかかります。年金で1人ぐらしなのでその差額が大きいので大変です。
- 自家用車の運転が出来なくなった時に利用したい。
- もし家族がいなくなった時の事を考えるとすごく不安です。どうか私達のバスの来ない所を何とか集合タクシーでも、バスでもこれからよろしくお願いします。

## 予約に関すること

- 天気が良くて買い物にいきたいとおもっても前日からの予約でないとだめでは思うようにいかない事もあります。
- 当日の急患、天候、降雪の状況その他の理由や目的地からの前日タクシーの予約設定がむずかしかった。
- 年末年始、忘年会や新年会でタクシーを利用しましたが前日の予約が必要な「得々タクシー券」を活用することはできませんでした。
- 前もって予約となると病院が何時に終わるかわからないので不便です。

## 免許返納に関すること

- 免許証を返した後、今回のタクシー利用補助制度が一番良いと思う。
- 免許返納の後病院送迎のバスに乗せてもらいたい。

## スクールバス・病院送迎バスに関すること

- スクールバス等の活用があればとても助かるのですが残念です。
- 週に2回来る病院送迎バスを利用した方がお金がかからないので助かります。

### スクールバス・病院送迎バスに関すること（続き）

- タクシー券といっても一緒に来る人がいない。病院のバスは途中で乗車、下車できない。五輪台は5軒しか家がないので我々が年を取ったときすごく不便になると思いますが今は年寄りをサポートしていきたいと思っています。
- 病院送迎バスを福祉バスにして利用した方が良い。車も電気自動車にする。人工知能の無人バス化にする。
- 前に病院のバスは扇田に用事でいまない人は乗ってはいけないといわれたそうで、買い物袋につめこんで来てました。そうでなく、買い物、用事のある人も週、2回くるバス→(ワゴン)に乗れるようにしてくれば、タクシー券はいらないと思います。タクシーは高額なので急用でないかぎり利用しません。

### その他アイデア

- 部落の会長、役員の方や時間的に余裕のある方が送り迎えが出来るといいと思う。そしてその手当として市がいくらかでも出してやる。交通事故対策としては保険で見えあげられるようにする。助け合いの精神でやることを希望。
- 今回タクシー券をもらってありがとうございます。合わせて出かけるようにするから、出来れば週に決まった時間にきてもらえればいいと思いました。
- 現状の秋北バスでは市に負担がかかりすぎる（財政面）。秋北バスは長距離だけにして大館市内は小型化したコミュニティバスを導入したら良い。
- 「ハチ公号」の延長運行を希望。

### その他

- 板戸から若松ガソリンスタンドまで歩こうも歩道が雪積もりで歩けません。バスもなければ乗り場もなく困ります。大変不便であります。
- 年老いて身体力衰えて、バス、タクシーをどう乗降りするか。タクシー券について、いつでも自由に使える方が良い。
- 今は行きは病院のバス、帰りはタクシーと言う状態で生活していますが、これからどうなる事が心配です。
- 自家用車利用に近い方法を考えてほしい。

## (4) 用語集

か行	
介護タクシー	介護支援専門員（ケアマネージャー）が作成する介護サービス計画（ケアプラン）または市町村が行う介護給付費支給決定の内容に基づき、資格を有する訪問介護員等が訪問介護サービス等と連続または一体として要介護者等の輸送を行う福祉タクシーのこと。
公共交通利用圏	鉄道やバスなどの公共交通を徒歩で利用することが可能なエリアのこと。 本計画においては「都市構造の評価に関するハンドブック」（国土交通省）より、鉄道駅から半径 800m、バス停から半径 300m を利用圏とした。 なお、上記の利用圏カバー率が低いまたはカバー人口が少ない地域を「公共交通不便地域」と位置づけている。
交通結節点	人や物の輸送において、複数の同種あるいは異種の交通手段の接続が行われる場所のこと。 また、交通機関の乗り継ぎ・乗り換えとしての機能を持つほか、地域の中心的エリアを形成する拠点形成などの機能も有する。
交通弱者	自動車やバイクなど、自ら保有する移動手段を持たない人。 一般的に学生や高齢者などを指す。
コミュニティバス	地域内の交通不便者の足の確保と利便性向上等のために、市町村等が主体となって、車両仕様、運賃、ダイヤ、バス停の位置等を工夫した運行サービスのこと。 狭義には、乗合バスによる運行を意味するが、広義には、自家用車による市町村運営有償運送まで含める場合もある。
た行	
地域間幹線バス系統	一般的には地域間（複数市町村間）にまたがるバス系統などのことを指すが、狭義では「地域公共交通確保維持改善事業」の対象となる幹線バスネットワークを示す。 「地域公共交通確保維持改善事業」の中では、計画運行回数や輸送量が一定量を上回り、かつ、経営赤字が見込まれることなどの要件が定められている。

た行（続き）	
地域内フィーダー系統	<p>一般的には幹線（地域間幹線バス系統や鉄道など）と接続し、地域内の移動を支える支線の役割を担うバス・乗合タクシーなどを指すが、狭義では「地域公共交通確保維持改善事業」の対象となる地域内のバス・デマンド交通等を示す。</p> <p>「地域公共交通確保維持改善事業」の中では、補助対象となる幹線バス交通ネットワークを補完するものであることや、幹線バスの交通ネットワーク等へのアクセス機能を有するものであることなどの要件が定められている。</p>
デマンド交通	<p>「デマンド」とは要望のことで、乗合から事前に連絡（予約）を受けて、基本となる路線以外の停留所に立ち寄ったり、運行を開始したりするなど、乗客の要望を運行に反映できる運行形態をいう。</p>
な行	
乗合タクシー	<p>9人以下の旅客を運ぶ営業自動車を利用した乗合自動車のこと。タクシーは一組の利用者が乗務員と貸切契約を結んで利用する形態が基本となっているが、乗合タクシーは複数の乗客が利用する。</p>
わ行	
ワークショップ	<p>参加者が自主的に活動し、討議や実習や実践を通して体験学習をする研修会など。</p>
P	
PDCA サイクル	<p>事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。</p> <p>Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する仕組み。</p>